奇跡の格闘大連立!! 来年の計は大晦日にあり!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTL

「オレだってやれますよ!!」天国でそう叫んでるはずです!!

enterbrain MOOK

2008
118
880yen

"黒の事件"から一年ぶりに日本復帰!
戦慄的に『やれんのか!』登場!!
秋山成勲

『やれんのか!』、『Dynamite!!』、UFC!!
大晦日格闘技ウォーズを徹底大特集!!

さまよえるPRIDEの象徴が
天下分け目のJ.Z.カルバン戦へ!
青木真也

格闘大連立、大成功!!
よっ、サダハルンバ!
谷川貞治 FEG代表

海の向こうでもやれんのか!?
"ミスターPRIDE"がUFC再上陸!!
ヴァンダレイ・シウバ

『戦極』対談が"公明正大"に実現!!
吉田秀彦×菊田早苗

世間にいざ討ち入り!
『大みそかハッスル祭り』ど直前!!
プロレスは『ハッスル』に任せろ!

新生ハッスル軍のエースが語る
愛と涙の我が人生!!
坂田亘

大晦日、なんでもやりまっせ!!
"長い一日"に戦闘準備完了!
髙田延彦 やれんのか!統括本部長

"有田総統"が『ハッスル』を大絶賛!!
有田哲平 くりぃむしちゅー

井上義啓一周忌追善企画
I編集長 底なしの写真館

"黒"の大晦日!!

魔王が"誇り"を塗りつぶす!?
PRIDEファンよ、お祭りムードはそこまでだ!

うわ〜ん、うわ〜ん! ヒョードルが帰ってくるよ〜!!

今年のHERO'S ミドル級王者のJ・Z・カルバンをはじめ、
HERO'S 2006年ライトヘビー級王者の秋山、
2003年K-1WORLD MAXチャンピオンの魔裟斗、
不動の人気を誇る桜庭や
シンデレラボーイ所など強力なラインナップで登場!!

K-1 PREMIUM Dynamite!! フィギュアコレクション

全9種+α(アルファ)

K-1 F-toys confect.

こちらの商品は1BOX=12個入りです。

魔裟斗　桜庭和志　J.Z.カルバン　秋山成勲　所英男　須藤元気　大山峻護　宮田和幸　レミギウス・モリカビュチス

Dynamite!! フィギュアコレクション

1BOX (12個入り)

商品番号:107015　**4,416円**(税込)

■商品素材:PVC　■商品本体約7cm前後(キャラクターによる)

※中身はどのキャラクターかは選べません.またランダムに入っております。

全国のコンビニエンスストア　サークルK・サンクスで12月18日発売(予定)

※一部お取扱いのない店舗がございます。

※通販でご購入のお客様へのお届けは発売日以降を予定しております。

◆商品名◆

"Tetsuo Hara×K-1" Tシャツ-Color Ver.-

4,725円(税込)

サイズ	商品番号
S	107007
M	107008
L	107009
XL	107010

◆商品名◆

"Tetsuo Hara×K-1" Tシャツ-Mono Ver.-

4,410円(税込)

サイズ	商品番号
S	107011
M	107012
L	107013
XL	107014

◆商品名◆

"Tetsuo Hara×K-1" ポスター

1,050円(税込)

サイズB2

商品番号:10700

JUST YOU WAIT

"Tetsuo Hara × K-1"

『北斗の拳』『花の慶次〜雲のかなたに〜』『蒼天の拳』

原哲夫氏"描き下ろし"

『北斗の拳』『花の慶次〜雲のかなたに〜』『蒼天の拳』ほか数々のヒット作で知られる原哲夫氏が描き下ろした壮大な作品をポスターとTシャツになって登場!!。ジェロム・レ・バンナ、チェ・ホンマン、セーム・シュルト、グラウベ・フェイトーザ、バダ・ハリ、レミー・ボンヤスキー、ピーター・アーツ、澤屋敷純一、8人の勇者。

RING SIDE

ご注文の際のご注意

- **配送料について**　表示価格は商品のみの税込み価格です。配送料が別途発生いたします。配送料金は全国一律315円(税込)。これは、ご購入金額・商品数の多少にかかわらず一律です。
- **代金の支払方法について**　すべての商品は代金前払いとなっております。「お電話」、「携帯電話サイト」からのご注文は、代金引換払い(配達時に現金でお支払い)のみとさせていただきます。「パソコンサイト」からのご注文は、クレジットカード、コンビニエンスストアからのお支払い、代金引換え払いからお選びいただけます。代金引換払いの場合は送料の他、315円(税込)が必要となります。
- **ご注文受付から、商品到着までの期間について**　お支払方法により異なります。
  カード払い・代金引換払いの場合…ご注文確定より3〜7日コンビニエンスストア支払いの場合…お支払いただいてから3〜7日
  ※在庫切れの場合は別途ご連絡いたします。※お取り寄せ商品については、お時間をいただくことがございます。
- **ご返品に対する対応について**　不良品の返品について…弊社送料負担
  お客様のご都合による返品は原則としてお受けして　おりませんが、商品到着後8日以内で未開封のものに限り、お問合せ先へのメールまたはときめきモールカスタマーセンターまでご連絡をいただいた上、返品をお受けいたします。(送料はお客様負担)<お問合せ>・メール　inquiry@toki-meki.com までお問合せください。
  ・電話　ときめきモールカスタマーセンターTEL0120-215-621までお問合せください。(受付時間　10:00〜17:00　月〜金(祭日除く))※詳細につきましては、弊社ホームページ(http://tokimekimall.jp)の「ご利用ガイド」をご参照ください。

[RING SIDE] 運営会社:ときめきドットコム株式会社　〒130-0004　東京都墨田区本所1-4-18　ときめきドットコム(株)は、(株)サークルKサンクスの関連会社です。

<個人情報の取り扱いに関する事項>(1) ときめきドットコム株式会社(以下「当社」といいます)は、掲載商品の発送及び不具合処理発生時の処置のために必要な個人情報のみを収集します。正確な情報提供がない場合は、収集目的を達成できない場合があります。(2) 個人情報の第三者提供はありません。(商品発送及び不具合処理を除きます) (3) 当社が保持している個人情報の管理は、個人情報責任者が行います。(4) 当社が保持している本人の個人情報の管理/開示/訂正/削除についての問合せは、ときめきモールカスタマーセンターへお願いします。 (5) 以上の内容についてご了解のうえ、ご注文をお願いします。

ご注文は、下記要領で

パソコンサイト以外からのご注文は、代金引換払いのみとなります。

お電話からは　FreeDial **0120-215-621**　受付時間10:00〜17:00 月〜金(祭日除く)　IP電話等からは03-5637-0239へ

パソコン・ケータイからは　**http://ringside.jp**

FAXからは　**03-5637-0238**　お手持ちの白紙に、住所・氏名・年齢・性別・職業・電話番号・FAX番号・Eメールアドレスと、ご注文の商品名・商品番号・数量をご記入頂き、上記のFAXまでお送りください。ご注文は24時間受け付けております。

【RINGSIDE】au公式サイトに殴りこみ!!
auTOP→ショッピング→スポーツ→【RING SIDE】

ご安心してお買い物をお楽しみ下さい。　JADMA

♪もういくつ寝ると～、大晦日!!
やっちゃやっていいんだね!?

DREAM TAG

SENGOKU

kamipro Special

うわ～ん、うわ～ん! ヒョードルが帰ってくるよ～!!

寒い……。

©みのもけんじ

UFC

TV GUIDE

HUSTLE

Columns

2008 No.118 CONTENTS
kamipro

表紙写真/FEG

を懸けた格闘大連立

大晦日!!

髙田延彦の歴史的敗戦という途方もない絶望から出発したPRIDEは、いつも全力で見届けることで、とてつもない〝何か〟を全身で味わえるイベントだった。

例を挙げだしたらきりはない。圧倒的現実へ挑み続けた桜庭和志の姿から見えた、PRIDEの残酷さ。愛と憎しみの真剣勝負、髙田延彦vs田村潔司の衝撃的なクライマックス。〝超人〟ミルコ・クロコップの栄光と挫折。64秒で散った小川直也の強くて弱い人間劇場。

感じたPRIDEは人それぞれで、人それぞれのPRIDEがあるだろう。勝って泣くか、負けて泣くか——。それはどちらに転ぼうが、そこにはいつ何時でも、無我夢中でのめり込めるリングであることは確かだった。

2007年、大晦日。我々はひさしぶりに全力で見届けなければならない、運命の一日を迎えようとしている。

いったい大晦日に何が起ころうとしているのか。

ここ一ヵ月のあいだに、マット界ではとても信じられない奇跡が立て続けに舞い降りている。旧PRIDEスタッフの手による『やれんのか！大晦日！2007』の開催は、もはや〝けじめのイベント〟という枠には収まらない大きなスケール感を醸し出している。

そして、同日に『Dynamite!!』を主催するFEGが恩讐を越えて『やれんのか！』と手を組んだ。驚くことに『やれんのか！』の主催としても名を連ねた。

12月13日現時点でその結論は下されていないが、FEGは『やれんのか！』と『Dynamite!!』の大晦日二元中継をTBSに強く働きかけているという。

いったい何が起きているのか。

旧PRIDEスタッフを解雇したアメリカ資本のPRIDE FC WOLD WIDE側は、ここまでの大きな動きが展開されるとは、まさか予想

マット界の運命を懸

全力の

もしてなかったことだろう。ダナ・ホワイトなら「クレイジー・ジャパニーズ!!」と吐き捨てかねないこのスピード感は、『やれんのか！』にしろ、FEGにしろ、この先のマット界に大きな危機感を抱いての全力疾走だ。

いったい何が彼らを駆り立てるのか。

大げさにいえば、来年の今頃、総合格闘技という文化はキレイさっぱり失なわれていてもおかしくない。いや、決して脅しているわけではない。膨張し続けるアメリカMMAバブルの大津波が誘発する、日本マット界を揺るがす大地震。

それらの災害によっていまやジャンル自体が壊滅一歩寸前なのである。だからこそ、あらゆる常識を覆し、奇跡を起こそうと死にもの狂いなのだ。いや、実際に奇跡は起きている――。

大晦日、そしてその向こう側にはいったい何が待ちかまえているのか。

さまよえるPRIDEの象徴だった青木真也は、呪われた2007年を清算するかのように大晦日の決戦の舞台へと向かう。

その不気味さはまるで〝黒のエスペランサー〟か。あの秋山成勲がPRIDEの聖地を黒く塗りつぶしにやってくる。

桜庭和志と船木誠勝が刻んできた〝年輪〟や、川尻達也や石田光洋の強いられた〝沈黙〟は、いったいどんなドラマを演出してくれるのか。そして、髙田延彦の12月31日は、誰よりも長くて熱い一日となる。勝って泣くか、負けて泣くか――。

人生を懸けた人それぞれの大晦日がそこにはある。

2007年、大晦日。ファイター、そしてイベンターたちが全力で臨む一日。我々も全力で受けとめなければならないだろう。未来の運命を懸けた一日は、これまでの常識で計ることができない。この日だけでも、つまらない冷静をいったん捨てて全力で見届けなければならない。

そして見えてくるものは何か――？

黒魔王降臨！究極の日サロ対決
三崎和雄 vs 秋山成勲

黒魔王・秋山成勲が『やれんのか！』に降臨!! デニス・カーンを完全KOし、不気味なまでの強さと底知れなさを漂わせ始めた魔王が、さいたまに侵略してきた！ 迎え撃つは（肌の）黒さでは一歩も引かない、PRIDEウェルター級GP王者の三崎和雄。はたして魔王はPRIDE王者をも飲み込むのか、はたまた三崎が"悪"を退治するのか。そして魔王降臨後は、どんな世界が待っているのか！

最強vs最大！格闘技版ハンセンvsアンドレが実現!!
エメリヤーエンコ・ヒョードル vs チェ・ホンマン

世界最強が世界最大と激突！ PRIDE王者の相手がMMAわずか１戦のホンマンでは、ミスマッチとの声もあるが、ホンマンはシュルトと互角に闘い、もともとは韓国相撲の横綱。スタンドに強くテイクダウンも難しいとなれば、皇帝といえども簡単な相手ではないだろう。体格差を利したヒザ蹴りなどで、ヒョードル出血負けの危険性もある。何が起こるかわからない、ド迫力の闘いに期待！

クラッシャーがシュートボクセと殴り合い！
川尻達也 vs ルイス・アゼレード

昨年大晦日にメレンデスと壮絶な殴り合いの末、僅差の判定に泣いた川尻。その後、春以降、PRIDE開催のメドが立たない中、ひたすら愚直に鍛錬を積み重ねてきた男が、その１年ぶんの思いをぶちまける！ その相手は、ライバル五味と名勝負を繰り広げたアゼレード。『やれんのか！』最大の凄まじい打撃戦になることは必至だ！

アクセル全開のスタミナ王決定戦
石田光洋 vs ギルバート・メレンデス

１年前、五味隆典に生涯初となる壮絶ＫＯ負けを喫し、いまだ2007年が明けない状況の石田光洋に、１年ぶんの思いをぶつけるにふさわしい相手が立ち上がった。同じく１年前に兄貴分・川尻を下したメレンデスだ。世界でも指折りのスタミナを誇る両者だけに、試合開始から最後までアクセル全開の髪の毛が逆立つような激闘になるだろう。

野生のカリスマがDEEP王者と対決！
桜井"マッハ"速人 vs 長谷川秀彦

夏頃にはUFC参戦も取りざたされたマッハが、ダナ・ホワイトのラブコールを蹴って『やれんのか！』参戦！ 90年代の修斗を牽引した真の総合格闘技のパイオニアと、中小大会でコツコツと実績を積み上げた叩き上げDEEP王者がその生き様をぶつけ合う。格闘家人生最大のチャンスに燃える長谷川をマッハがどう迎え撃つのか、注目の日本人対決だ。

やれんのか！大晦日！2007
Supported by M-1 GLOBAL

ミスター・やれんのか！と『HERO'S』王者が激突！
青木真也 vs J.Z.カルバン

ズバリ、今年の大晦日を象徴するスーパーカード。"ミスター・やれんのか！"青木が、『HERO'S』で絶対的強さを見せるカルバンとガチンコ勝負に挑む！ 打撃ではシャオリンをKOし、魔裟斗ともK-1ルールで渡り合い、寝技ではアブダビ王者ヤヒーラから一本を奪うこの男を、バカサバイバーはどうチェストするのか！ まさに青木真也、おまえ、やれんのか!!

主要カード見どころガイド
オールスター戦!!

見てみぃ、この驚愕のラインナップ！ 旧PRIDEスタッフとFEGや『M-1グローバル』との奇跡の"大連立"によって、夢のカードが続出。まさに東西に分かれて格闘技のオールスター戦の様相を呈してきた今年の大晦日。しかし、それだけでは終わらない。『Dynamite!!』、『やれんのか！』とも、さらなるビッグな追加カードも用意されているというのだから、もう辛抱たまらんのだ。ここではまず12月13日現在発表されているカードの見どころを解説。大晦日に向けて"心の煽りV"を用意せよ！

壮観! 12.31『Dynamite!!』&『やれんのか!』主要カ

格闘大連立オー

K-1 PREMIUM 2007 Dynamite!!

PRIDEの殴り者が猛獣狩りに挑む!

メルヴィン・マヌーフ vs 西島洋介

ボクシングからPRIDEに転向、現在は高田道場で汗を流す西島が、『Dynamite!!』に殴り込み！　これまでPRIDEでは結果が出なかった西島だが、今回はMMAきっての強打を誇るマヌーフが相手だけに、ハント戦以来の本領を発揮しそう。西島は猛獣マヌーフの荒々しいパンチをかいくぐり、カウンターを打ち抜くことができるか？

二つの伝説が38年目に遭遇!

桜庭和志 vs 船木誠勝

同じ69年生まれの格闘技界のレジェンド同士ながら、全盛期が異なったために出会うことのなかった二人が、ここで激突。U系のスーパースター対決であるが、そういったフィルター抜きにして、38歳の桜庭と船木がそれぞれどんな思いでこの闘いに挑むのか。おのおののストーリーに注目したい。また、船木がどんな入場、闘い方をするのか、興味はつきない！

神の子とアブダビ王者が激突!

山本"KID"徳郁 vs ハニ・ヤヒーラ

レスリングからMMAへ完全復帰をはたしたKID。9月の『HERO'S』復帰戦では、柔術世界王者ビビアーノに苦戦を強いられ、柔術家との相性の悪さが指摘されたが、今回はなんとビビアーノ以上の寝技の達人、アブダビ王者のヤヒーラと対戦が決定した。苦手といわれるタイプとあえて闘うKIDのこの心意気と自信。ひさびさに"ヤバい"KIDが観られる予感大だ！

屁のつっぱりはいらんですよ!

ミノワマン vs ズール

超人ミノワマンの前に、またしても化け物が立ちはだかった！その化け物は、魔人ズール。かねてからFEG向きを指摘され、PRIDEに参戦しながら谷川モンスター軍扱いされていたズールが待望の『Dynamite!!』参戦だ。ミノワマンとの体重差は約100キロ。『キン肉マン』でたとえれば、キング・ザ・100tもしくは、初期に登場した怪獣アブドーラ的なこの化け物をミノワマンは退治することができるか？

カリスマvs韓国の英雄ついに実現!

魔裟斗 vs チョ・ヨンス

今年のK-1 WORLD MAXで最強王者ブアカーオを破り、あらためて格闘技ファン、そして一般視聴者の尊敬を集めた魔裟斗。大晦日は3年連続で元ボクサーとの対戦となったが、ヨンスは元WBA世界フェザー級王者であり、K-1も2戦2戦と、過去の二人と元ボクサーとは比べものにならない強敵であることは間違いない。日韓の英雄対決はコアファンも一般視聴者も惹きつける闘いになるだろう！

谷川校長のさわやかK-1甲子園

HIROYA vs 藤門嶂裟 vs 久保賢司 vs 雄大

ハンカチ王子、ハニカミ王子、アブダビ王子と、世間の"王子ブーム"に乗って（便乗して？）登場した"K-1王子"HIROYA。そんな彼が同年代のライバルたちとしのぎを削る"K-1甲子園"の開催が決定した。注目はズバリ、1回戦のHIROYAvs若きキック王者、藤門嶂裟。次代を担う若者たちの必死な闘いは、一般視聴者の注目を集めそうだ。

『HERO`S』の成長株が処刑人狩り

宮田和幸 vs ヨアキム・ハンセン

試合をするたびに急成長ぶりを見せつけ、末恐ろしい才能を感じさせる宮田にビッグチャンス到来！これまでKID、元気、シャオリンなど、大物との対戦では結果が出ていないが、このところ敗れてもなお強しの印象を残している宮田だけに、五味、宇野、ルミナに勝っている大物ハンセンを倒す可能性も充分。大器がここでついに花開くか？

This is Dynamite!!

ボブ・サップ vs ボビー・オロゴン

これぞ『Dynamite!!』！　これぞFEG！　これぞサダハルンバ！　そう叫びたくなる、じつに『Dynamite!!』らしいカードが実現した。高田モンスター軍入りしたサップが、『ハッスル祭り』ではなく『Dynamite!!』に出場。一昨年、サップの宿命のライバルである曙を下したボビーとの対戦が決定した。ひさびさのMMA出場となるサップは、はたしてかつての野獣性を取り戻せるのか？　それとも素人相手でもバンデージをしたまま逃走してしまうのか？

魔王
聖地降臨

悪よりも重く、悪よりも深く、悪よりも強い“黒”の来襲——
PRIDEファンよ、お祭りムードはそこまでだ!

約束の地に〝魔王〟がやってくる!! あの秋山成勲が『やれんのか! 大晦日! 2007』に参戦することになった。

この意味合いはとてつもなく大きい。いまや〝みそぎ〟の鎖からも解き放たれ、デニス・カーンの血肉を供物に〝黒の魔王〟として生まれ変わった秋山の〝黒き物語〟は、『やれんのか!』という〝聖戦〟の意義とは決して並び立たぬものであるからだ。

いうまでもなく秋山の〝黒き道〟は、昨年の大晦日から始まっている。かつてPRIDEの象徴的存在であった桜庭和志を無惨に叩きのめし、新たな英雄として名乗りを挙げたはずの秋山は、自らの罪によってその座を追われることとなった。すべてのMMAファンは、この事件を永遠に忘れないだろう。

同じ大晦日に〝PRIDEの続き〟となる舞台で試合をする以上、秋山はあの惨劇をすぐそばに置いたまま闘うことになる。そこに被せられる負のイメージは、おそらく復帰戦の比ではない。

ならば一夜限りの夢祭りである『やれんのか!』は、秋山のもたらす〝負の因子〟を消化しきれるのだろうか?

「あの素晴らしかったPRIDEを、最後にもう一度だけ」というファンの想いを背景とし、義をもって立ち上がったこの美しきイベントは、〝黒き戦士〟の活躍をはたして必要としているのであろうか?

その答えは、PRIDE10年の歴史の中にある。

髙田延彦vsヒクソン・グレイシーという世紀の一戦によって産声を上げ、その後も「強い」と噂される選手を次々と迎え入れることによって世界最高峰の闘いを演出し続けたPRIDEは、言うまでもなく〝怪物の襲来〟に寛容なリングであった。そこに善玉や悪玉といった区別はなくとも〝PRIDE vs外敵〟の構図は常に存在していたはずで、さらにはその敵をも呑み込み、サーガの一部として成立させることによって求心力を高めてきたのがPRIDEの歴史だ。その例は〝K—1の刺客〟ミルコ・クロコップや〝桜庭和志の仇役〟ヴァンダレイ・シウバなど、枚挙にいとまがないほどである。

ならば〝外敵の襲来〟とそれに伴なうシリアスな勝敗こそがPRIDEの本質の一つであった、と解釈することもできるだろう。すなわち誰の目にも明らかな〝外敵〟として『やれんのか!』に参戦する秋山の存在は、ややもするとウェットに染まりがちな夢祭りを〝最後のPRIDE〟として成立させる画竜点睛になりうる可能性を秘めているのだ。

この原稿を書いている12月12日現在、秋山の『やれんのか!』参戦はまだ決定していない。したがって対戦相手ももちろん未定だが、噂では三崎和雄や瀧本誠といった中量級の雄から、超大物エメリヤーエンコ・ヒョードルといった名前までもがささやかれている状況である(13日の記者会見で三崎和雄戦が発表された)。しかし誰と闘うにせよ、そこには必ずPRIDE戦士vs外敵の構図が成立するだろう。そのはざまに生じる緊迫感こそがPRIDEの焦点であるとするならば、ファンは秋山を拒絶するべきではない。秋山という〝最強最後の外敵〟により、PRIDEはPRIDEのまま終わることができるのである。

また、このような〝超アウェー〟といえるかたちで国内復帰する秋山のモチベーションにも着目したい。いまの秋山にとっては韓国以外すべてアウェーのようなものだが、それにしたって『やれんのか!』のリングは分が悪すぎるのである。ファンのPRIDEに対する純粋な思い入れは、そのままダーティファイター秋山への嫌悪につながってくるからだ。

しかし、その程度の向かい風で〝黒き魔王〟の進撃が弱まるはずもない。あらゆる批判を腕一本でねじふせ、力技でMMA界の第一線へと舞い戻ってきた秋山は、もはやファンの支持など必要としていないであろう。それでこそPRIDE最後の外敵たりうるのであり、そのような秋山だからこそ〝魔王〟なのだ。あるいは今後、秋山が往くべき〝魔王〟の開始点においては、このようなアウェー状態こそがふさわしいと言えるかもしれない。

秋山の『やれんのか!』参戦により、かつてPRIDEが放っていた緊迫感は再び大晦日にもたらされるであろう。あらゆるものを踏みにじり、利用できるものはすべて利用し尽くしてきた〝格闘マキャベリスト〟秋山成勲は、いままさにPRIDEという〝最後の聖域〟すらも踏み台にせんと身構えている。比類なき〝痛み〟と〝凄味〟を伴なう秋山の残虐ファイトは、美しき想い出祭りであるところの『やれんのか!』をも塗りつぶしてしまうほどに黒いのか?

あるいは『やれんのか!』が秋山という〝最強最後の外敵〟を消化しつくし、〝最後のPRIDE〟としての責務をまっとうするのか?

〝魔王〟と〝PRIDE〟の邂逅に、俄然注目である。

(田中太陽)

“黒の事件”から
1年ぶりに
日本復帰

すべてはここから
始まった……

魔王転生物語

あの男が、帰ってくる!! 昨年の大晦日から丸一年、“黒魔王”と化した秋山成勲が、ついに日本のファンの前に姿を現わすことになった! 純白の柔道着に身を包み、元旦のスポーツ紙の一面を飾った英雄は、その後どのように“黒の道”を歩んできたのか。そのドラマを振り返ってみたい。

撮影／乾晋也　構成／上杉公文書偽造

【1・1】
〝ヌルヌル〟一夜明け会見で〝真っ白〟な勝利を主張!

『Dynamite!!』の一夜明け会見で、マスコミから秋山に対し、桜庭の「すべるよ!」発言について追求の質問が集中。秋山は表情を変えずに「抗議されても答えようがない。いま考えれば、途中で調べてもらえばよかった」と珠玉のコメント。やはり、ただ者ではない!?

【1・11】
白黒反転! しかし過失を主張!!
「桜庭さんの目を見て謝りたい」

〝オイル疑惑〟をかけられていた秋山だが、〝クリーム〟を全身に塗っていたという事実が発覚! 秋山は大晦日に入場をともにした140人の柔道の子どもたちに謝罪の意を表わすとともに、「多汗症のぶん、普段は乾燥するため、違反ではないと思いクリームを塗った」と、あくまでも悪意がなかったことを主張! 「しっかりと桜庭さんの目を見て謝りたい」と述べたが、その後、二人の顔合わせはいまだ実現していないようだ……。

裁定会見では、秋山が堂々と謝罪。一方、会見には出てこなかった桜庭は「謝れば済む問題ではないけど、謝ってほしい」と、関係者を通じて、怒りの伝わるコメントを発表したが、それよりも衝撃を残したのは、「私もそのクリームを買ってきて塗ってみました」と自ら、ヌルヌル度を検証したことを明かしたサダハルンバだった!

【1・22】
「負けたら五厘刈りでもいい」
田村が秋山討伐に名乗り!

大晦日前に「桜庭が負けたら、坊主になってもいい」と語っていた田村が、ヌルヌル事件を受けて、あいかわらずの見事な嗅覚を発揮! すかさず〝秋山討伐〟に名乗り出た。これが谷川代表のアンテナに引っかかり、その後7・16『HERO'S』横浜大会出場をはたすことになるが……。

【3・2】
SHIHOとの熱愛が発覚!
ファッション誌の表紙にも!!

無期限謹慎処分中の秋山が、ファッションモデル・SHIHOのマンションに通う姿が『FRIDAY』に掲載! 記事の中で秋山は「1月の中旬からお付き合いさせていただいております。彼女は自分を癒してくれる素晴らしい女性です」と、事件後も〝プライベートはサイコー〟な状況を告白。なお秋山本人も、男の肉体美を扱う韓国のファッション雑誌で表紙を飾ってみせた。撮影は大晦日前だったかもしれないが、謹慎中にずいぶんとアグレッシブな行動ではある。

【4・14】
復帰戦ムード高まる!
DEEP後楽園大会に来場!!

秋山が4・14DEEP後楽園大会に仲間の応援のため来場。2・17ケージ・レージ鳥取大会ではセコンドとして〝極秘来場〟していたものの、1月17日の謝罪会見以来、3ヵ月ぶりに公の場で姿を見せることになった。報道陣の取材に応じた秋山は「いつでも出られるよう、少しずつ練習しています」と復帰ムードを漂わせた。

【5・8】
Uインターイズム爆発!
金ちゃんが秋山戦を志願!!

3・18パンクラス後楽園大会の川村亮戦後、〝あと1試合で引退〟を表明していた金ちゃんが、最後のターゲットとして秋山を指名! 「プロレス界の敵は俺たちが倒す」とUインターイズムが爆発! 前田SVに話を通したが、この試合が実現に向けて動いたという形跡はない。

【7・3】
7月復帰戦には調整不足
前田SVはお笑い界を批判!

目安とされていた半年間の出場停止期間が過ぎたものの、テレビ局やスポンサー関係などとの調整が間に合わなかったため、秋山の7・16『HERO'S』横浜大会出場は消滅! 谷川代表は会見で「秋山を出場させて、ライトヘビー級トーナメントを開催したかった」と打ち明けた。また、いまだ止まらない秋山への〝抗議〟を〝イジメ〟という日本社会全体の問題だと判断した前田SVは「ダウンタウンが若手芸人をいじめている。とんねるずもやっていたでしょ? 唯一やっていないのはウッチャンナンチャンぐらい」と、なぜかお笑い界にまで批判の矛先を向けたのだった。

【7・16】
田村、すっごいすべる!!
『HERO'S』初参戦で敗北!

〝秋山成敗〟をおおいに期待させた田村が『HERO'S』に電撃参戦! 〝前哨戦〟として金泰永と対戦したが、なんと……、痛恨の判定負け!! 高まっていた秋山戦の機運が大きくそがれてしまうことに。これにより秋山問題は、ますますさまようことになるのであった。

【7・20】
賛成353票、反対273票 あとは、タイミングの問題？

ファンの声を判断材料にするべく、秋山の復帰に対して、7・16『HERO'S』で設けられた〝目安箱〟が開票！　大会当日の会場前で〝アンケート協力〟を願うはずの有志たちが「秋山成勲『HERO'S』復帰を願う」というボードを掲げるという、ズンドゴぶりを露呈しつつも、無事（？）賛成票が上回る結果となった。谷川代表は「結論はまだ。FEGやTBS、スポンサーといった『HERO'S』実行委員会で調整する」と言葉を濁すが、その一方で「あとはどのタイミングで、どう出すか、という問題」と本音もチラリ。

【9・3】
秋山の直筆文が公開！「リングの上で反省を表わしたい」

ＩＧＦの手紙ブームに便乗!?　ヌルヌル事件から8ヵ月、谷川代表が秋山直筆の手紙を公開！　ファン、関係者、スポンサー、柔道の子どもたち、桜庭と全方位への謝罪で始まった手紙には、「自分の甘さについて、反省する日々を送ってきました。率直に『HERO'S』の舞台で、お詫びと反省を表わし、そして新たに出発するチャンスをいただきたい」という心境が書かれていた。

【9・19】
FEG韓国現地法人が秋山に出場オファー！

直筆謝罪文公開後、復帰に向けて慎重な姿勢を示しつつも、時おり「早く復帰させたい」と本音をチラチラのぞかせていた谷川代表だが、ここに新たな動きが勃発！　韓国内で秋山への復帰論が持ち上がっていることを背景に、FEG韓国が出場をオファーしてきたというのだ。FEGは「今回の韓国サイドからの要望に対して、関係各所と協議を重ねたいと思っております」と声明文を発表。

【10・1】
10・28『HERO'S』ソウル大会で、ついに復活へ！

復帰第一戦は、〝絶対的英雄〟として、第二の故郷・韓国に凱旋することに決定！　国内での復帰の前に、まずはワンクッション置くかたちとなった。約9ヵ月ぶりに報道陣の前に姿を現わした秋山は「リングに復帰できるようになったのは韓国ファンの声援があったから」とファンの後押しに感謝。日本のファンの立場っていったい……。さすが魔王である。

【10・16】
100点満点!?　復帰戦の相手はデニス・カーンに！

谷川代表曰く「ファビオ・シウバといった強い選手から、勝てそうな相手まで5人ほどリストアップしていた」中から、秋山が復帰戦に選んだ相手は、PRIDEウェルター級GP準優勝者、デニス・カーン！　会見で秋山は「人気も実力も自分よりはるかに上。自分に課せられた試練だと思います」とコメント。サダハルンバは「とりあえずの復帰ではなく、イバラの道を歩んだ。ボクの中では、100点満点の選択をしたと思います」と大絶賛！

【10・25】
バッシング経験者として秋山が亀田大毅にエール！

「ボクシングを嫌いになってほしくない」！　秋山がバッシングに揺れる亀田大毅にアドバイスを送っていた！　スポーツ紙の報道によると、秋山はソウルでの大会直前会見後、大毅について「大変ですよ。彼はまだ18歳。乗り越えていくことは並大抵じゃないです」と発言。同時に「僕も総合格闘技を嫌いになったことはなかった。ボクシングが好きならば、どんなことにも耐えられるはず」とエールを贈ってみせた。

【10・27】
「普段使っています」!?　秋山がクリーム使用発言!!

試合前日、秋山がなんと！　〝あのクリーム〟について「私生活では普段、風呂上がりに使っています。昨日も使いました」と大胆発言!!　なぜ、このタイミングで、天然なのか？　それとも愉快犯なのか？　真意はわからないが、やはり、黒魔王は常人にはわからない感覚を持っているようだ。「もちろん試合当日はダメなことなんで」と付け加えた秋山だが、〝ヌルヌル事件〟を受けて、グローブやテーピングなどのチェックが厳しくなったことについても、「細かく確実にチェックしてくれるので、選手側としても凄く安心して（試合が）できます」と平然と答えてみせるのだからさすがだ！

【10・28】
カーンをまさかの失神KO！　汚れた英雄から黒き魔王へ!!

強すぎる！　ついに復帰戦を迎えた秋山だが、10ヵ月のブランク、また相手がPRIDEウェルター級GP準優勝者であることを忘れさせるような一方的な展開に。カーンのアゴを右アッパーで打ち抜き、ファン、関係者のド肝を抜いてみせた。マイクを握った秋山は韓国語で「我が大韓民国サイコーッ！」と絶叫。リング上で大はしゃぎする姿から、これまでの〝反省の気持ち〟はまったく感じられないという声も飛び交ったが、〝汚れた英雄〟から一転〝最強に最も近い男〟と化した秋山に、谷川代表は〝大晦日出場〟を宣言したのだった。

〝黒魔王〟秋山『やれんのか！』参戦をファンはどう見る？『kami-pro Hand』緊急アンケート実施！

Q秋山の『やれんのか！』参戦についての意見と、闘ってほしい対戦相手は？

- ●リスクのある相手とやり続けたら認める。まずは三崎。
- ●処分が甘い。パウロ・フィリオかダンヘンとやってほしいが無理そうなので、三崎と。
- ●どんな理由でも『やれんのか！』には出ないでほしい！
- ●あっちで中途半端なエースでいるより、『やれんのか！』で最強ヒールとして戦うべき。相手は金原！
- ●秋山参戦に賛成！　PRIDEファンの最大級のブーイングの中で試合をして、みそぎになる。
- ●どんなに罵声を浴びても、いつもどおり、ケロっと出てくると思う。田村さんの意地を見たいです。
- ●またヌルヌルして、キャラを強化してほしい。
- ●参戦しないでほしい。秋山が出るなら観に行かない。
- ●ヒョードルにボコボコにしてもらいたい！
- ●出てほしくないが、出るのであれば、アローナと対戦して、桜庭をボコボコにした4点膝で痛めつけられてほしい。
- ●小川と闘ってほしい！　小川は出てきただけで勝ち！
- ●こんなおいしい素材はない。相手は三崎か田村。勝って制裁完了でもいいし、来年のテーマが「ストップ・ザ・秋山」でもOK。
- ●佐藤大輔さんの煽りVが楽しみ。
- ●ハリトーノフとの対戦が見たい。
- ●フィリオに勝ったら本物だと認めざるをえない。つーか、PRIDEファイターはいろんなところで負けすぎなので、なんとかしてくれ。
- ●強いのは認めるけど、格闘家としては尊敬できない。
- ●参戦は大歓迎！　TBSでは秋山を扱いきれない気がする。
- ●とくに不満なし。ムリーロ・ブスタマンチと。
- ●自分はまだ秋山選手に対して許してないです。カーン選手は確かに強いですが、調整不足だったと思います。本当に強い選手とやってほしい。
- ●秋山は嫌いだけど、べつに出てもいいと思う。三崎和雄か近藤有己かな。あくまでも対日本人で！

告白

“魔王”、日本降臨直前――

チーム黒船・船長

山田武士トレーナーが語る“再会”の心境

昨年まで“魔王”秋山成勲のトレーナーとしてともに強さを追い求めていた山田トレーナー。しかし、ヌルヌル事件勃発後、山田氏は「秋山と一緒にやっていくつもりはない!」と強く言い放ち、その言葉どおりこの1年、秋山とは接触していなかった。しかし、川尻達也、石田光洋のトレーナーでもある山田氏は『やれんのか!』の会場で否応なく秋山と再会をはたすことになる。ここでは、その胸の内を語ってもらった。

取材・構成／高崎計三

ソウルでのデニス・カーン戦を観て思ったのは、やっぱり素質の塊だな、と。教えてどうこうじゃない舞台にいるから。『ｋａｍｉｐｒｏ』なんかでも、田村潔司さんとかが彼のことを言ってたりするけど、もう黙ってたほうがいいんじゃない？　と。ほかにも秋山のことをいろいろ言ってる連中もいるけど、そういう人とはもう実力的に雲泥の差なんだから、名前出しちゃいけないんじゃないの？　と。

もともと凄いなとは思ってたけど、一連の騒動があったあとにあんな勝ち方をして、精神的にも凄いということを証明したよね。普通は潰れますよ。やっぱりミスター天然。彼は言葉とかもの凄く丁寧じゃないですか。でも心は開かないというか、人見知りなんですよ。よほど仲良くならないと心は開かない。でも、もんの凄い自信があるんですよ。あふれ出るものがある。

オレはもともと、カーンには勝てると思ってた。さすがに、あんな見事にぶっ倒すとまでは思ってなかったけどね。打撃は「引き出し」だってよく言うんだけど、カーンは開始から2分で引き出し全部開いちゃってたからね。どうしていいかわからなくなってた。秋山は、絶対最初に相手の引き出しを出させるんだよ。桜庭戦のときもそうだった。それがうまいんだよね。

正直、練習は見たかったよ。いままでも見たい。だけど9月から（森川ジョージ氏が会長を務める）「ＪＢスポーツ」ジムが移転して自分が代表になることになっているのに、オレの首が飛んじゃうと、困るボクサーもいっぱいいるんだよね。あと、こういうジムを作ってくれた会長にも申し訳ない。い

秋山と一緒に入場することで、ケツを拭いたことになるんじゃないかな

ま、練習を見られないというのはそういう状況のことが一番だね。春先にはライセンスが止められてもいたしね。その理由は完全にあの一件なんだよ。5～6月に口頭注意だけで済んで発行されて……大毅クンとは違うからさ（笑）。……すぐ見ちゃおうかなっていうのもあったんだけど、ちょうどその頃にジムの代表になるっていう話が持ち上がって、ほかのジムに挨拶に行くでしょ。そしたら、「オマエは秋山の……」ってなるんだよ。その状態で、秋山の練習を見れるかっていったら、やっぱりできない。ボクシング界では「ヌルヌルやったヤツがジムの代表になっていいのか」って言う人もいるんだけど、関係ねえだろって感じだよね。

ライセンスのことでも、ハッキリした理由の説明は何もない。オレは去年の頭、石澤常光戦のときからついてるんだよ。それで永田克彦戦、ライトヘビー級トーナメントと、全部ついてる。テレビにも映ってるし、練習の成果は如実に出た。「打撃に開眼した」って言われた。調子いいときは、ボクシング業界もなんにも言わないんだよね。だから、オマエらその頃から知ってたじゃん！　って。考え方が狭すぎるんだよね、みんな。

秋山に迷惑をかけられたとかムカついたとか、そういう気持ちは毛頭ない。怒りはまったくないんだよね。それはなんで？　って言われても、オレはセコンドだったでしょ。オレがもっと箔のあるセコンドだったり、もっと男を磨いていれば起こらなかったことだから。彼が塗ったことうんぬんより、そういうふうにさせちゃった自分の力のなさなんだよ。だから怒りはないんだ。

自分の立場として難しいというのはあるけど、トレーナーの欲としては見たいよ。やっぱり、あんな人いないもの。あふれんばかりの才能をまき散らすようなヤツを、一から作り上げるのは無理だから。本人の自覚的な生き方と、精神的なモノと、肉体的なアドバンテージ。それは作れない。そんな逸材を見れないのは、残念としか言いようがないね。

もちろん、桜庭戦に勝てばもう日本でやり残したことはないと思ってた。あとは世界しかない、と。07年はどうなっちゃうんだろう、と。相手いないだろうなと思ってたからね。

それで、『やれんのか！』でしょ。PRIDE王者との対戦も噂として聞いたけど、本人はそんなに関心ないんじゃないかなあ。だってチャンピオンっていっても、PRIDEはもうないじゃん。そういう発想なんだよ。本人は『Dynamite!!』世代というか、大晦日はやっぱりお祭り的なビッグカードじゃないと、っていうのがあるんだよね。

PRIDEファンの人にとっては待ちに待ったイベントだし、チケットも凄い売れ行きなんでしょ？　そこでPRIDEの強豪と秋山がやればビッグカードになるだろうけど、それは秋山には関係ないしね。その温度差というのを、『やれんのか！』の実行委員会はわかってんのかなあ。まあ『Dynamite!!』でも、相手はいないんだよね。ドリームカードとして桜庭vs船木を実現させる大会で、秋山がやるとなったらそれこそヒクソンぐらいしかいない。

ただね、秋山が『やれんのか！』に本当に出るとなったら、自分の立場とか全部すっ飛ばしてでも、オレは練習を見たい。ハッキリ言って格闘技のバブルはすっかりはじけちゃって、もしかしたらその張本人かもしれないけど（笑）、その格闘技界が秋山の参戦で盛り上がるんだったら、その手伝いはしたいよね。それはただ、秋山が決めることだけど。「いや、ええですわ。自分一人でやりますわ」って言う可能性も高いしね。実際、オレがいなくてもカーンをぶっ飛ばしてるわけだし。

いま見るとしたら？　とにかく持ってるものが凄いんで、キラキラしてるから、それをいじらずに磨くのを手伝いたいね。彼の長所を伸ばして、よく話し合って仕上げていきたい。PRIDEファンは、PRIDEファイターに秋山が“制裁”されるところを見たいだろうけど、それは無理なんじゃないかなあ。強いから。

三崎選手が秋山に対して怒ってるの？　ヌルヌル事件で？　ふーん……。でも、雑誌とかで何か言われて「なんだこの野郎！　やってやる！」ってなるタイプじゃないんだよね、秋山は。逆に怒って、やらなくなっちゃう。だからどうなんだろうなあ。

でも、実現したらビッグカードだよね。三崎選手は心が強いし。心が強いっていうのは、秋山とやるときに一番持ってなきゃいけないところ。カーンは弱みを見せちゃったから。いかにポーカーフェイスでいられるかっていうのを日本人でできるのは、三崎選手ぐらいだろうね。そこは秋山には厄介だろうね。

ヒョードル？　それはないでしょ（笑）。それは逆に、『Dynamite!!』のカードだよ。そんな体重差のあるカードは、『やれんのか！』ではやっちゃいけないカードだと思う。オレも友人として、「やめなさい」って言うよ。まあ本人はわかんないけどね、どう思うか。バンナともやってる人だからね。ま、あのときはまだ何にもわからない状態のときだったけど。いくらなんでも周りが止めるでしょ？

正直な話、オレにとっては秋山がさいたまに出ないほうがいいんですよ。川尻と石田に集中できるから。だけどヌルヌルの件からすべてが始まっていて、オレは責任の取り方について凄く悩んだんだよね。秋山がさいたまに出れば凄いブーイングを浴びると思う。それを秋山一人でさせていいのかなって。セコンドにつかなくても、横で自分もそれを浴びることで、ケツを拭くことになるんじゃないのかな、と。秋山本人は、カーン戦でもうケツは拭いたんですよ、格闘家としては。塗ったことに関しては、ずっと反省していかなきゃならないし、十字架として背負わなきゃいけないけどね。だから一緒に入場することでケツを拭くことになるんじゃないかな。ただ繰り返すけど、それを決めるのは秋山の一存だけどね。

去年、川尻と石田のセコンドについてやれなかったから、今年は彼らと「一緒に忘れ物を取りに行こうぜ」って言ってたわけ。そこに秋山も出るかもしれないと聞いて、「えええーっっっ！！！」っていうのが正直なところだった。そこでオレもいたら、「またあの二人か！」とファンは思うかもしれない。それで川尻や石田にまでとばっちりが行ったら、それは申し訳ないと思うんだよね。

結局、さいたまに出るのか大阪に出るのか、それともどこにも出ないのか。それは、最後は秋山本人が決めることだと思うんですよ。そして、この考えの中にオレが入っていなければ、もうオレは秋山についてしゃべることもないと思うんだよね。ただ、さいたまに出るかもって聞いて、ムズムズしてきちゃった。なんでムズムズするんだろうね？

【07年12月8日／都内・JBスポーツにて収録】

やまだ・たけし■1973年2月7日、埼玉県出身。9月から「JBスポーツ」の代表に就任。同ジムで「チーム黒船」の船長として川尻達也、石田光洋らの練習を見ている。昨年の大晦日まで秋山成勲にもついていたが、一連のヌルヌル騒動で、その後距離を置く。『やれんのか！』では、秋山と一年ぶりの再会をはたすことになる。

いざ大注目のJ.Z.カルバン戦！
『やれんのか！』の心のメインイベンターが今月も大放談!!

「大晦日はPRIDEファンに待ってよかったと思わせます！」

青木真也

さまよえるPRIDEの象徴、青木真也が大晦日に大一番!!
相手は"沈黙の7ヵ月"のすべてをぶつけるにふさわしい『HERO'S』王者のJ.Zカルバン。
『やれんのか！』が"PRIDE最終イベント"という位置づけならば、このカードが事実上のメインイベントであることに異論はないはず。
ファンの思いを背負って、バカサバイバーよ、♪生き残れ、これ!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／タイコウクニヨシ　書／富永泰弘

――念願の試合！　舞台は大晦日！　相手はあのJZカルバン!!　青木さん、こりゃ凄いことになってきましたね。

青木　そんなことないです。反響は全然ないですっ！（なぜか自信満々で）。

――そうなんですか!?（笑）。

青木　ええ。悲しいことですよねえ。クククク。

――じゃあ、『カミスペ』の表紙を飾ったフンドシ姿の反響もないと？　それは残念だなあ。

青木　……あ！　あのフンドシはヤバイですね。もうモテモテになるんじゃないかって……（遠い目で）。

――それはなによりです（冷たく）。それはともかく、じつはこうしてインタビューするのって、『やれんのか！』正式開催発表後初なんですよ。全然そんな気はしないんですけど（笑）。

青木　ああ、"大晦日やるみたいですけど"インタビューは2回やりましたけど、どっちも発表前でしたね。

――だから、あらためて"開催決定"の感想を聞かせてください。

青木　も～～う、『やれんのか！』、ヤバいですね！　前から言ってきましたけど、ボクにとってのPRIDEは、イベントの名前じゃなくて、いまの『やれんのか！』スタッフが作りあげる空間なんです。

――つまり、旧PRIDEスタッフこそがPRIDEの世界観を持っているという解釈ですね。

青木　その"PRIDE"の再開をずっと待っていたかいがありますし、それに相手が相手じゃないですか。ヤバイですねえ、これは！

――JZカルバンは『HERO'S』ミドル級王者！　このカルバン戦のオファー

やりますよ!!

8時だョ!全員集合

はもちろん快諾されたんですよね？
青木　それはもう！　「やるしかない！」的な感じはありましたよね。でも、まさかカルバンと『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』じゃないリングでやるとは思わなかったですねえ……。
――確かに今回の『やれんのか！』とＦＥＧの〝格闘大連立〟にはかなり驚かれたんじゃないですか。
青木　格闘技界のためには凄く良いことなんですけど、いままでは敵というか、商売敵みたいな感があったじゃないですか。だから「敵だ！」って言われていたのに、急に「味方だ！」って言われると、世の中って怖いなって思いますけどね～。
――青木さん、この業界はそんな話ばっかりですよ（笑）。一寸先はハプニング。誰がどうなるかわからない。
青木　だからこれからは敵を作らずに生きていこうと思いました！　ワオ木真也、大人になった24の夜でした。
――記者会見ではこれまで〝商売敵〟だった谷川さんと会われましたが、サダハルンバの第一印象はどうでした？
青木　谷川さんって身体大きくないですか？（笑）。
――んあ～！　谷川さんは大学でアメリカンフットボールをやってたんですよ（笑）。何かお話しされましたか？
青木　谷川さんからは満面の笑みで握手を求められました。ボクは満面の偽善の笑みで返しましたっ！
――ダハハハハ！　大事な席で何をしてるんですか！（笑）。
青木　あの偽善の笑みはバレてると思いますね。ククク！
――大丈夫です。谷川さんもおそらく偽善ですから（笑）。その谷川さんからの刺客、ＪＺカルバンはかなりの強敵ですよね。
青木　彼はこの階級では世界最強だと思いますよ（キッパリ）。
――世界最強！　ずいぶん聞きなれた言葉ですけど、青木さんが口にするとまた重みが違いますね。
青木　で、ボクは世界最強のバカですよ！
――まさにバカサバイバー！
青木　ククク。一応カルバンとは同じ24歳なんですけどね。
――それは末恐ろしい話というか。
青木　ボクらの同級生は凄いですよ。水垣（偉弥）でしょ、日置（発）、で、カルバン。……結論としては俺が一番、モテるなっ！
――ダハハハハハハ！
青木　あれれ～？　笑ってますけど、べつにボクはおもしろいことは言ってないですよ。一番モテるという真実を述べただけで。
――はい。青木さんはモテます。
青木　ホントですよ。ボクが一番、モテる！　ただ、それだけですよ。
――だからモテないなんて一言も言ってないですよ（笑）。
青木　なんか悪意を感じるなあ……。
――大晦日という舞台で勝ったら、さらにモテますね。
青木　大晦日で勝ったら、結婚しよっかな！
――これからさらにモテるというのに。結婚したい人でもいるんですか？

木真也

ヒョードルやチェ・ホンマン、秋山成勲という大物たちが登場する『やれんのか！』だが、ファンの期待という〝熱量〟では青木がズバ抜けている。大晦日はいつもハイテンションで入場する青木と一緒に『バカサバイバー』を熱唱だ！

青木　しなしさとこさんと！
――人妻じゃあないですか（笑）。
青木　まあ、カルバンとボクを比較するならば、こっちはロハスな24歳で、彼はバリバリの現代っ子ですかね？
――でも、『ＧＯＮＫＡＫＵ』で現代っ子扱いされていたのは青木さんのほうじゃないですか。
青木　あれは性格的なものを勝手に診断されただけですよ！　カルバンこそ真の現代っ子。大晦日はロハスな力を見せてやるっ！
――でも、カルバンの強さは認めてるんですよね？
青木　はい！　彼は強いですよ。間違いなく強いです。うん。
――いままで青木さんが闘ってきたファイターと比べてもみても。
青木　間違いなく一番強いです。けど、まあ、なあ！
――けど、まあ、なんですか？
青木　勝てる自信はもちろんあるし、勝つためにずっと練習してきたんで。大晦日はさいたまスーパーアリーナ中をひっくり返らせますよ。うん！
――ＰＲＩＤＥの再開を待っていたファ

携帯サイト『kamipro Hand』緊急アンケート!!
12.31『やれんのか!』で対戦する青木vsカルバン戦の勝者は!?

青木の一本勝ちorKO勝ち	329人
カルバンの一本勝ちorKO勝ち	47人
青木の判定勝ち	6人
カルバンの判定勝ち	9人

ファンは圧倒的に青木勝利を支持!!　青木の実力もさることながら、PRIDEへの思いを青木に投影しているという理由もあるのだろう。この大きな期待にワオ木さんは応えることができんのか!?

ンは、青木さんにもの凄く期待してますよ。沈黙の象徴だったファイターが、『HERO'S』のチャンピオンと闘うわけですから。

青木　やっぱりファンや関係者の方って、もの凄く不安やストレスが溜まっていたと思うんですよ。ボクがカルバンに勝つことでそれを全部吹き飛ばしたいですよね。そのためにボクも全力で闘いますから、全力で応援してほしいです。ついでに全力でチケットを買ってほしい!!

──全力で購入って（笑）。ちなみにチケットはメチャクチャ売れてるみたいですよ。２００７年のプロレス＆格闘技イベントでは間違いなくナンバーワンの売れ行きだとか。

青木　完売するみたいですね。こうなったらやるしかないですよね。来ていただいたお客さんにはバッチリ魅せますよ。大晦日はしっかり勝って、来年の日本格闘技界はボク中心に動かしてやろうかなと思います！

──これまで節目の試合はあったと思うんですけど、それらと比べて今回の試合は大きな意味があるということですね。

青木　比べものにならないですよ。だって、去年の大晦日は出してもらえるだけで嬉しかったのに。今年は間違いなく格闘技界のセンターに立ってるじゃないですか。２年前に修斗でチャンピオンになったとき、名古屋レインボーホールで初めて『PRIDE武士道』に出たとき、大晦日にヨアキム・ハンセンに勝ったときは「俺ってスゲエ！」って興奮しましたけど、今回が一番ですよねぇ……（しみじみと）。

──このカルバン戦って、大げさな言い方をしちゃうと、青木さんの格闘技人生を左右するような試合でもありますもんね。もっと言えば、結果次第では日本格闘技界の今後を左右しかねない。

青木　これから毎年、左右させていきますよ。青木真也を中心に右往左往してほしいですね。だって、いまのところ「青木にハズレなし！」じゃないですか。

──青木にハズレなし！　ご自分で言われるところにもハズレなし！（笑）。

青木　これ、いいなあ。いい言葉ですねえ。知性を感じますよねえ。「青木にハズレなし!!」って。

──ところで、『やれんのか！』以降の予定はまだ未定なんですよね。ファンからすれば〝もっとやれんのか！〟という感じなんですけど。

青木　予定はないですねえ。希望としては、３月には試合をしたいですけどね。まだ何も決まってないです。

──次の大晦日まで〝やるやる詐欺〟を続けるっていうのもおもしろいですけどね（笑）。

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。対戦相手を破壊する切れ味鋭いサブミッションを持つ、日本屈指のグラップラー。PRIDEライト級では4連続一本勝ち。現・修斗世界ミドル級チャンピオン。180cm、72.6kg。

青木　佐藤大輔さんからも同じようなことを言われましたけど、それはキツイなあ……。いまはとにかく試合がしたいですから。１ヵ月で４試合とかやってみたいし、海外を回って今日はオランダ、明日はフランスとかって。

──舞台でいえば、『戦極』という新しいイベントも発足しましたけど。

青木　『戦極』はよく存じておりません。でも、いいんじゃないですか、チャンスがあれば。ただ、青木真也、少々お高くなっておりますっ！（ひときわ大声で）。

──ダハハハハ！　いまの青木真也は高くつきますか！

青木　ククク。それでも食べるものは富士そばなんですけどね。まあ、今回の『やれんのか！』はお金だけの問題じゃないし、待ちに待ったわけですから。ボクらは待ったぶんだけのエネルギーを大晦日にぶつけるし、多くのファンに待ってよかったと思わせる試合をやります！

──暗い一年でしたから、ファンはいい大晦日をすごしたいはずですよ。

青木　ボクもいい元旦を迎えたいなあ……、行きつけの富士そばで！

──ダハハハハハハハ！　２年連続、富士そばでお正月（笑）。

青木　勝っても負けても富士そばで打ち上げだ！　そして二次会は朝マック!!

──そういえば、去年の大晦日は試合後にマンガ喫茶へ行かれたんでしたっけ？

青木　はい。新宿のマン喫でたいへんステキな時間をすごさせていただきました！

──確か『ろくでなしBLUES』を読まれていたんですよね。

青木　そうです。太尊が葛西とケンカしてたんですよ。

──池袋正道会館の葛西と（笑）。

青木　あと読んだのは、和美と勝嗣が○○○○○した話かな。スゲエ興奮して！

──ダハハハハ！　ヨアキム・ハンセンに勝って泣いたあとに、『ろくでなしBLUES』を読んで興奮して、富士そばで締めた、と（笑）。青木さん、この調子で大晦日も来年も期待してます！

青木　大晦日やりますよ。そして１月１日は富士そばに集合！

──いったいどこの富士そばですか（笑）。

青木　裏メニューに「チーズカツ丼」がある店です。

──ちょっと待ってください。富士そばにチーズカツ丼なんてあるんですか!?

青木　あるんです。富士そば、バンザ〜イ!!

【07年12月4日／都内某所にて収録】

『HERO'S』絶対王者が〝お祭り〟に殴り込み!!

青木の“楽勝宣言”にも余裕シャクシャク!

「どうやったらオレに勝てるのか教えてほしいものだね」

J.Z.カルバン

『HERO'S』ミドル級トーナメント2連覇を達成し、愛する家族とバケーションを過ごすため、アメリカからブラジルに帰国していたJ.Z.カルバン。しかし“格闘大連立”を受け、急転直下、12.31『やれんのか！』への出場が決定！　これまで、ことあるごとにカルバンを挑発していた青木真也を相手に、ライト級最強の座、そして団体の威信を懸けて闘うこととなった。大晦日に向けて、そのままブラジルに残り、所属するアメリカン・トップチームと交流のあるブラジリアン・トップチームで猛練習に励むカルバンを直撃した！

聞き手&撮影／Eduardo Ferreira　撮影／上杉公文書偽造

アオキが俺に関節技を仕掛けるチャンスはないよ。ボコボコにしてやるさ

——BTTでの練習はいかがですか？

JZ （ご機嫌な様子で）エクセレント！　先週からここでトレーニングを始めたんだ。ムリーロ（・ブスタマンチ）もベベオ（・デュアルチ）もよくしてくれて感謝しているよ。最初にMMAを始めたルタ・リーブリの道場でも練習しているけど、ここBTTにはミルトン・ヴィエイラやルイス・ブスカペら昔からの友だちがいるから、居心地がいいんだ。

——大一番に向けて練習環境は整っている、と。

JZ そうさ。それにミルトンはアオキとタイプが似ている。身体の柔らかさや足の使い方とかね。おまけに身長もほぼ同じだからね。

——仮想・青木のスパーリング・パートナーまでいるわけですか。で、改めて聞くと、『HERO'Sミドル級トーナメント』で優勝したあと、青木選手や五味隆典といった元PRIDEトップファイターとの対戦を希望されていて、それが本当に実現したわけですが、どんなお気持ちですか？

JZ ワクワクしているよ。アオキは間違いなく世界のトップ10に入る選手だからね。

——青木選手には、どういった印象があります？

JZ 日本で最高のグラップラーだと思ってるよ。フィジカル面でも優れているしね。常にコンディションもいい。

——ああ見えても、トレーニングはハードに欠かさずちゃんとやっているらしいですからね。

JZ でも、テクニックでは（ビトー・）"シャオリン"・ヒベイロのほうが上だと思うね（ニヤリ）。

——あ、そうですか。この前、カルバンさんが勝ったシャオリンなら、青木選手に勝つということですか？

JZ そうだね。ただ、アオキはほかのグラップラーとはタイプが違う。彼は頭がよく、自分の身体の柔らかさをうまく使うことができるんだ。つまり普通の選手なら攻撃できないポジションから技を繰り出すってこと。だから、その点にだけ気をつけていれば、シャオリンはアオキに負けないだろうね。

——では、強引に単純な三段論法で言えば、シャオリンに勝っているカルバンさんは青木選手には負けない、ということですか。ちなみに、青木選手は本誌のインタビューで「カルバンなんか余裕！」と発言していますけど、それについてはどう思いますか？

JZ アッハッハッハ！　人はそれぞれ独自の視点を持っているよ。でもアオキには、どうしてそう思うのか？　どうやったら俺に簡単に勝てるのか？　ちゃんと教えてほしいものだね。

——青木選手には、フットチョークとか、トリッキーな技がありますけど、そういった技から逃れる自信はあります？

JZ 確かに、さっきも言ったように、アオキのゲームは独特。ディフェンスやカウンターアタックの練習をするのさえ難しいサブミッションを持っている。でも、ハッキリ言って、アオキが俺にサブミッションを仕掛けるチャンスはないよ。

——つまり、グラウンドでは勝負しないということですか。

JZ そう。ボクにとってベストなのは、アオキの寝技を避けること。もしグラウンドの展開になっても、彼の間合いにはさせない。グラウンド・アンド・パウンドでアグレッシブに闘ってボコボコにしてやるさ。

——この試合は、トップファイター同士の対決といった一面に加えて、『HERO'S』代表として団体の看板を背負って闘うことになるわけですが、それについてはどう思います？

JZ このシチュエーションは興奮するよ。対立構造があって、それぞれにファンがついているというシチュエーションはね。俺はいつもこういった状況で闘ってきたんだ。家族やATTを代表したり、母国・ブラジルを代表したり、そして神の声を代表したりね。

——神の声まで代表して闘っていましたか！（笑）。

JZ うん。そして、こういった何かを代表して闘うときは、モチベーションが上がるんだ。また、こういう機会を通じて、俺は強くなってきたと思っている。だから今回、こうやって、『HERO'S』を代表して闘えることは本当に嬉しいんだ。

——なるほど。日本では、今回の『やれんのか！』のチケットの売れ行きが凄いことになっているのですが、ブラジルでもファンや選手の注目度は高いんですか？

JZ もちろん！　みんな、この話題でもちきりだよ。なんたって、これまで想像もできなかったようなカードが生まれるわけだからね！　それにこれは、世界のMMAマーケットを揺るがす出来事になると思うんだ。UFCはもう少しで、このマーケットを独占するところだった。でも、それはこのスポーツにとってよくないだろう。もし、一社だけ力を持つことになったカンパニーがダメになったら、このシーン全体がダメになってしまうだろう。

——このビジネス全体が成長するためには、競合は必要ですからね。

JZ だから、この試合で俺がやろうとしていることは、FEGと『やれんのか！』、そして『M―1グローバル』までもが手を携えることのできる、素晴らしい日本のMMAシーンを盛り上げること。かつ、その上で『HERO'S』が世界ナンバーワンのイベントだということを示すことなんだ。

——UFCに対抗する上で、日本2大メジャートップ対決以上の意味合いがあるわけですね。

JZ そういうこと。FEGのスタッフや日本のファンは俺に期待を込めて、いつも、よくサポートしてくれている。その期待に応えたいし、この素晴らしい団体のチャンピオンとして、恥じない闘いをしたいね。

——大晦日、楽しみにしてます！

【07年12月6日／ブラジル リオ・デ・ジャネイロ、BTTにて収録】

航空券の問題でアメリカに戻れなくなったカルバンだが、BTTではミルトン・ヴィエイラ（左）やホジマー・トキーニョ・パルハレス（右）らと練習。試合に向けて不安はない。

J.Z.CALVAN■1983年7月6日、ブラジル出身。02年、ルタ・リーブリをバックボーンに総合デビュー。ヒカルド・リボーリオにその才能を見いだされ、渡米、ATT所属となる。06年と07年の『HERO'Sミドル級トーナメント』を圧倒的な強さで2連覇。「I love my family」が口癖。173cm、70kg。

やれんのか! やられんのか!?

解説陣も"大連立"!

青木vsカルバン戦 徹底解剖!!

『やれんのか!』解説者
髙阪剛

『HERO'S』解説者
中井祐樹

今年の大晦日のカードの中でも、一際、注目度が高いのがJ.Z.カルバンと青木真也の一戦だ。
『HERO'S』王者と、後期PRIDEでブレイクした修斗王者という、まさに"大連立"な、この一戦を
青木の師匠にして『HERO'S』の解説者も務める中井祐樹と、『やれんのか!』解説者の
髙阪剛の二人が徹底解剖。青木はやれんのか!　それとも、やられんのか!?

構成／阿修羅チョロ　試合写真／乾晋也

――今回は『やれんのか！』で実現する『HERO'S』ミドル級王者のJZカルバンと修斗世界ミドル級王者の青木真也の注目の一戦の見どころをPRIDEの解説者を務めていた高阪剛さんと、青木選手の師匠でもあり、『HERO'S』の解説者でもある中井祐樹さんに語ってもらおうと思っています。

高阪＆中井　よろしくお願いします！

――企画的には解説陣も〝大連立〟という感じでセッティングしたわけなんですが、高阪さんは『やれんのか！』のスカパー！中継での解説が決まったみたいですね。

高阪　そうです。

――高阪さんもそうなんですが、中井さんも『HERO'S』の解説ぶりが非常に好評ですけども。

中井　ありがとうございます。でも、じつは大晦日はさいたまに行くことになったんですよ。青木のセコンドにつかなきゃいけないんで。

――まあ、大一番ですからね。では今回は『Dynamite!!』の解説は辞退された、と？

中井　そうなんです。そこは、すいませんということで（苦笑）。だから、てっきり高阪さんに回るのかと思ったんですけど、そしたら『やれんのか！』のほうだったみたいで。

――早速なんですが、青木vsカルバンについて語っていただきたいんですけれども。マッチメイク的には旧PRIDE vs『HERO'S』の中量級のトップ対決ということで注目されているわけですが。

高阪　自分の周りとかで格闘技が好きな連中とかも「この一試合だけでいい」って言ってますから（笑）。ほかはいらないっていうぐらいホントに観たい試合をよく組んでくれたな、と。まあ本人たちは大変ですけど、観る側は関係ないですからね。

――観る側は勝手ですからね（笑）。実際、青木さんの師匠の中井さんから見て、青木vsカルバン戦はいかがですか？　グラップラーvsストライカーと見られがちですけれども。

高阪　いや～、カルバンは寝技もかなり強いですよ。

中井　ホント、強いッスよね（苦笑）。

高阪　一般の人にはカルバンは打撃でバーンっていくイメージになってるけど、寝技が強いから寝技にならないって技術も持ってるんですよ。

中井　寝技までいかないで処理できますもんね。

高阪　それは本人が一番わかってると思うんでね。だからたぶん考えてるんじゃないですかね。いいところにどうやってもっていくか、いくつかのパターンってあると思うんですけど。

中井　う～ん、どうしたらいいんですかね、高阪さん？（笑）。

――いきなり相談モードですか（笑）。

高阪　もし自分だったらハッタリをバンバンかましますけどね。俺は寝技ができないぐらいのハッタリで、今日は立ち技だけしかやんないぞ、ぐらいの感じで。自分からはテイクダウンいかないで、なんかのタイミングでグジャグジャにもつれるところまで我慢する。そこからのワンチャンスに賭ける（笑）。

――一方の青木さんはグラップラーのイメージが強いですけど、本人も「打撃の試合もしたい」って言うぐらいに、打撃の自信もついてきてるみたいですね。

中井　打撃もしっかりやってますからね。まんべんなくっていったらおかしいですけど、得意技は得意技でもちろんありますけど、格闘技は何をやっても練習になるんで、全部プラスの方向で考えてやっていきたいと思うんで。まあ、自分はどこまでいけるか楽しみなんですけどね。ただ、もしこうなったらどうしようって悪いことを考えるのが僕の役目なんで。青木にはいいイメージを持っていけるようにしつつ、自分では最悪のことがあったらどうしようって2、3個ずつ全パターンを考えてますけどね。

高阪　まあ、セコンドって指導する立場上難しいところなんですよね。本人にはもちろん言わないんだけれども、最悪のパターンになったらどうするかっていうのは一応こっちで考えなきゃいけないんで。

中井　そうですよね。

高阪　本人が普段動いている中で、たとえば寝技から立ち上がるときに、本人しか持っていない動きというかクセってあるじゃないですか。そういうのって試合になったら凄く自信になるんですよね。試合中に「あのときのあの動き」とか言ってあげて、そ

今年の『Dynamite!!』で山本KIDとの対戦が決まっているアブダビ王者ハニ・ヤヒーラと昨年10月に対戦したカルバン。ゴングと同時に一方的に攻め込んだカルバンは何もさせず、得意のギロチンで秒殺！

総合ルールは4月の『PRIDE.34』でのローアンユー戦以来となる青木。この試合ではヒザ蹴りを食らうシーンもあった青木だが、すぐさま立て直し、寝技に持ち込むと得意の腕十字をズバッと極め秒殺勝ち！

06年&07年『HERO'S』ミドル級王者
J.Z.カルバン 総合全戦績　11勝1敗

04.2.27『AFC.7』
○ vsジャスティン・ウィスニエフスキー
1R 0分53秒 ギロチンチョーク

04.3.27『HOOKn SHOOT』
○vsモー・モーラー
1R 1分32秒 ヒールホールド

04.7.16 修斗
×vsヨアキム・ハンセン
3R終了 判定0-2

04.9.4 修斗スイス大会
○ vsセバスチャン・コルスキルゲン
1R 1分32秒 アームロック

05.12.3『Cage Rage.14』
○ vs小見川道大
1R 0分49秒 KO

06.5.3『HERO'Sミドル級トーナメント一回戦』
○ vs門馬秀貴
1R 2分8秒 TKO

06.8.5『HERO'Sミドル級トーナメント準々決勝』
○ vs高谷裕之
1R 0分30秒 KO

06.10.9『HERO'Sミドル級トーナメント準決勝』
○ vsハニ・ヤヒーラ
1R 0分39秒 フロントチョーク

06.10.9『HERO'Sミドル級トーナメント決勝』
○ vs宇野薫
2R終了 判定3-0

07.6.2『Dynamite!! USA』
○ vsナム・ファン
1R 0分26秒 TKO

07.9.17『HERO'Sミドル級トーナメント準決勝』
○ vsビトー・"シャオリン"・ヒベイロ
1R 0分35秒 TKO

07.9.17『HERO'Sミドル級トーナメント決勝』
○vsアンドレ・ジダ
1R 4分48秒 腕ひしぎ十字固め

第8代修斗世界ミドル級王者
青木真也 総合全戦績　14勝2敗

03.11.24『club DEEP 82kg以下級トーナメント一回戦』
○ vs沖村大
1R 3分14秒 腕ひしぎ十字固め

03.11.24『club DEEP 82kg以下級トーナメント準決勝』
○ vs龍保利
1R 0分51秒 腕ひしぎ十字固め

03.11.24『club DEEP 82kg以下級トーナメント決勝』
○ vs佐藤隆平
不戦勝

04.7.3『DEEP.15 ウェルター級トーナメント一回戦』
○ vs池本誠知
2R 0分52秒 腕ひしぎ十字固め

04.10.30『DEEP.16 ウェルター級トーナメント準決勝』
×vs中尾受太郎
1R 4分29秒 KO

05.1.29 修斗
○ vsキース・ウィスニエフスキー
1R 2分22秒 腕ひしぎ脇固め

05.7.30 修斗
○ vs岩瀬茂俊
1R 0分35秒 反則

05.8.20 修斗
×vs桜井"マッハ"速人
3R終了 判定0-3

05.11.6 修斗
○ vs弘中邦佳
1R 2分10秒 TKO

06.2.17 修斗世界ミドル級タイトルマッチ
○ vs 菊地昭
3R終了 判定3-0

06.8.26『PRIDE武士道-其の十二-』
○ vsジェイソン・ブラック
1R 1分58秒 トライアングルチョーク

06.10.14 修斗
○ vsジョージ・ソテロポロス
2R 0分5秒 反則

06.11.5『PRIDE武士道-其の十三-』
○ vsクレイ・フレンチ
1R 3分57秒 トライアングルアームバー

06.12.31『PRIDE男祭り』
○ vsヨアキム・ハンセン
1R 2分4秒 フットチョーク

07.2.17 修斗世界ミドル級タイトルマッチ
○ vs菊地昭
3R終了 判定2-1

07.4.8『PRIDE.34』
○vsブライアン・ローアンユー
1R 1分33秒 腕ひしぎ十字固め

れがパッてできると焦りがなくなっていくんですよ。でも、それを普通にやるんじゃなくて、やばいなっていうときにやらせるとうまくいったりするんです。でも、練習のときには「おまえ、最悪のときはこれ使えよ」というふうには言えない。乗せてあげなければいけないんで。

中井　それはわかりますね。

――選手によっても違うと思うんですけど、青木選手はセコンドの指示はしっかり聞くタイプなんですか？

中井　青木は、わりと練習の中でしっかりしたイメージを作っていって、試合でも、そのイメージを自分から動いていって作っていくんですね。確かにPRIDEでもいくつか計算違いになってしまう局面もあったんですけど、すぐにリカバーできていたんで、そこは最終的なイメージがたぶんできているんで、いい結果が出せてるんじゃないかなと思うんですけど。……それにしてもカルバンは強いですよね（苦笑）。

――確かに強いと思います。

髙阪　青木君がブライアン・ローアンユーとやったときに、ヒザをもらって、パンチももらったんだけど、そこから慌てないで相手に乗っかるようなかたちでグラウンドに持っていったっていう、ああいうところですよね。でも、あれは自分からバンバンやっちゃうとばれちゃうし、逆にリスクも高いから、そのへんのところって本人が持ってる感覚的な部分なんですよね。それを試合中に意識してどこまで使えるかとか、あとは感覚だけでどこまで動きされるかっていうところになってくるんですけど。

いくら強いカルバンが相手でも、青木ならなんかやってくれるんじゃないかって期待感は凄くある（髙阪）

青木と同じくグラップラータイプの実力者シャオリンと今年9月の『HERO'S』ミドル級トーナメント準決勝で対戦したカルバン。事実上の決勝戦と言われたこの試合だったが、カルバンは、わずか35秒、パウンドでTKO勝利を収めた。強すぎる！

カルバンが総合ルールで唯一黒星をつけられているのがヨアキム・ハンセン。このヨアキムと06年の『男祭り』で対戦した青木は戦前の予想を覆すどころか、ヨアキムにほとんど何もさせず、最後は華麗なフットチョークで秒殺勝利。ワォワォ！

中井　下馬評は青木はどうなんですかね？　僕は相当不利だと思われてるんじゃないかと思うんですけど。

――まあ、カルバン選手は『HERO'S』で2回チャンピオンになってますし、体重的にも試合当日は80キロ近くあるっていいますからね。

髙阪　まあでも、いくら強いカルバンが相手でも青木ならなんかやってくれるんじゃないのっていうところはあると思うんですよね。自分が外から青木くんの試合を観ていて思うのは、いままでは寝技っていうのはけっこう、守りのイメージが強かったと思うんですけど、それを打撃のイメージで見せられるっていうところはありますよね。あとは相手を誘い込んで自分で巻き込んでいくところとか、本来、寝技って凄くわかりにくいところなんですけど。

中井　打撃と違って、よ～いドン！じゃないですからね。

髙阪　そうですね。寝技を一般の人にもテレビとかで画面を通じて凄くわかりやすく伝えてるっていう功績は凄くありますよね。

中井　ただ、PRIDEでの青木の試合は残念ながら地上波では流れてないんですよね（笑）。

髙阪　タイミング的に悪かったですよね（笑）。

――まあ、フットチョークとかは寝技を知らない一般の人にも凄さは伝わりますからね。

ン戦、徹底解剖!!

髙阪　そうそう。でも、驚くのはそういう技術を道場単位で見てきたことは数多くあるんですけど、それをリングの上で、しかも、ヨアキム・ハンセンとか強豪相手ですからね。あのレベルの相手に自分の中のセオリーどおり仕掛けて、一本取るというのが地上波じゃないにせよ（笑）、画面で放送されたっていうのが凄いなって思いますね。練習でいくらうまくいっても、試合ではたいがい失敗しますからね。

中井　そうですよね（笑）。

髙阪　自分はヨアキム戦のときに「こいつはサブミッションストライカーです」っていうことを言ったんですけど、それぐらい一発の衝撃的なものは持ってるんですよね。練習でそういうことをできるヤツっていっぱいいるんですけど、凄い大勢の人が観てる前で、それもカメラの前でやってしまうっていうのは想像を絶するぐらい難しいことですから。それを続けてやってこれていることに対する自信もあるでしょうし、しかも一本取れたってことが凄い経験と自信になるんですよね。試合の数こそ少ないですけど、やっている密度っていうのはかなり濃いのを積み重ねているんで、単純な試合数では測れないものは得ていると思うんですよ。

中井　髙阪さんにそう言ってもらえれば本人も喜ぶと思います（笑）。

髙阪　まあ、自分が師匠だったら、そうは言わないですけどね（笑）。

――そこはまた違う、と。中井さん的にはいかがですか？

中井　青木はPRIDEでは全部1ラウンドで終わってるんですけど、カルバンも3ラウンド目は観たことないんですよね。宇野戦も2ラウンドだったし。だから、長くなったらどうなるかっていうのも出てはいないですよね。

――ほとんどの試合が1ラウンドの早い時間で勝ってますからね。

中井　そうなんですよ。まあ、修斗の頃は一回見てますけどね。

――カルバンは2004年の7月に修斗に出ていて、ヨアキム・ハンセン相手に3ラウンド闘って判定負けしてるんですよね。それが、総合で唯一の負けなんですが。

中井　ただ、あの頃とは別人だと考えたほうがいいと思うんで。

――青木さんともタイプは違うんでしょうけども、カルバンは寝技でトップと言われているシャオリンにもあっさり勝ってますよね。

中井　あの試合を観て非常に身体が強いなと思いましたね。で、立ってよし、寝てよしなんで、寝技だけの相手にはとても自信を持っていると思うんで。青木も寝技だけとまでは言えないと思うんですけど、彼から

青木vsカルバン!

今回の試合は他団体のチャンピオンに胸を借りるようなイメージですが、セコンドとして精一杯頑張ります（中井）

すれば寝技だけですからね、自信満々でくると思いますね。

高阪　カルバンはシャオリンをスタンド状態から一気にドンって倒しましたけど、あれなんかは体幹が強くないとできないですからね。自分らやってる側も「あれ、なんなの？　どうやってんの？」って何回も観ましたからね。

中井　あのとき、カメラに足の部分が映ってなかったんで、あとで雑誌の写真で足をかけて倒したのがわかったんで「凄い」って思いましたね。

高阪　どっちにしてもあれは、体幹が強くてバランスのいい身体をしていないとできないですよ。それにシャオリンなんか寝技が強いのがわかってるわけじゃないですか。それをテイクダウンでとりあえず倒そうっていう意識が動いたってことは寝技にいっても全然自信があるっていうことなんですよ。

中井　そういうことですよね。

高阪　打撃も寝技も両方持っているから、カルバンは自分の中に穴はないって絶対に思ってるはずですよ。どっちでもこいやっていう感じで。だから、試合が始まるとそういうところの駆け引きとか、穴の探し合いが大事になってくるんで。まあでも、ワンチャンス、いやツーチャンスぐらいはあると思うんで（笑）。

——そのチャンスを活かすしかない、と。

中井　まあでも、カルバンはシャオリンも宇野薫選手も倒しているし、この二人を倒しているんでアメリカのメジャーマットには上がってないんですけど、間違いなくトップ選手の一人だと思うんで、今回の試合は他団体のチャンピオンに敬意を表するという意味では胸を借りるようなイメージがありますね。

高阪　でも、青木君ならやってくれるんじゃないかっていう期待感はホントありますね。

——それこそ『やれんのか！』って感じですよね（笑）。ちなみに、現段階では『Dynamite!!』に出るか『やれんのか！』に出るのかも決まっていませんが、秋山成勲選手についてもお二人に話を聞かせてもらえればと思うんですが。

中井　やはり、選手として凄くポテンシャルが高いですね。あとは非常にケンカ強いところを感じますね。強いんだけど、競技として強いんであって、ケンカはあまり強くないみたいな人も多いと思うんですけど、あの大舞台で評価がある選手と打ち合えるっていう、その気持ちが凄いなって思います。これは想像ですけど、秋山選手は身体で負けてないから負けない、みたいに思えるところがあるんじゃないですかね。

高阪　やっぱり、自信があるんでしょうね。自分が思う自信っていうのは、気持ちの部分もそうなんですけど、身体と頭がうまくくっついてくれていないと、自信っていうかたちにはならないし、自分の身体の強さとか自分のことをよく知らないと自信にはならないですから。それとバッシングも含めて、何があっても上からかぶせてポジティブに考えられるような気持ちの強さがないと、とくに総合格闘技では勝てないんで。そういう意味では、このあいだデニス・カーンに勝って結果を出したっていうのは単純に強いと思いますよ。

中井　あの試合は凄かったですね。

高阪　ただ、パウロ・フィリオみたいにテイクダウンがメチャメチャ強いヤツとか、そこからの寝技が異常に固かったり、普通に強いヤツとかっていっぱいいるんで、そうなったときにどうなるのかを観てみたいっていうのはありますよね。

中井　総合で寝技の展開にあまりなってないので、寝技の技術はちょっとわからないですけど、寝技の選手と言われる選手が挑んでいっても、寝技にならないだけの技量はもう持ってると思うし、身体能力は東洋人離れした力を持ってるので、憎たらしいぐらい強い選手になっていけるんじゃないですか。ああいう事件があったんで、許し難いって思ってる人も多いと思うけど、そういうものを背負いながらも凄い試合を見せていける選手なんじゃないかなと思い直すようになりましたね。

高阪　さっき中井さんも言ってたように、ケンカ強いというか、そこらへんっていうのは持って生まれたものだと思うし、育つ過程でそういうものを培っていくものだと思うんですよ。だから、自分がよく引き合いに出すのに「侍ジャイアンツ」のお父さんがクジラの腹の中に飛び込んでいって、割いて出てきたっていうね（笑）。ああいうことができるタイプだと思うんですよね。

中井　そんな感じですよね（笑）。

——では、大晦日は高阪さんは解説席で、中井さんはセコンドとして頑張ってください！

中井　はい、セコンドとして精一杯頑張ります（笑）。

高阪　カルバンvs青木っていうだけで「おお！」ってなるってことは、それを観たいっていう芽は確実にあると思うんですよ。ただ、何を観ていいかわからないっていう人も多いと思うんで、そこはもったいないって思うので、できるだけロマンを残しつつ、わかりやすく解説してあげたいですね。自分はPRIDEの頃から地上波で青木君の試合を放送して、そのときに「これはこうだからこうなったんだよ」って観てる人に言ってあげたいっていうのが、ちょっとした夢なんですよ（笑）。

——それは素敵な夢ですね（笑）。

高阪　そういう日が来るように青木君には頑張ってもらいたいです！

【07年12月7日／都内・新宿にて収録】

なかい・ゆうき■1970年８月18日、北海道出身。高校ではレスリング、大学では柔道を学んだのち、修斗をやるために上京。95年の「バーリ・トゥード・ジャパンオープン」でのヒクソン・グレイシー戦を最後に総合は引退し、ブラジリアン柔術に転向。現在はパラエストラ東京を主宰しながら、『HERO'S』の解説者としても活躍中。

こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。93年リングスに入門、94年8月、鶴巻伸洋戦でプロデビュー。その後はリングスはもちろん、UFCやパンクラス、DEEPでも活躍。06年5月、PRIDEでのマーク・ハント戦を最後に現役引退。現在は後進の指導に力を入れつつ、その話術を活かし、解説者としても活躍中。

川尻を破った元〝PRIDEライト級ガイジンエース〟が12・31『やれんのか!』で石田光洋と激突!!

「大晦日のイベントに出られて最高だ! KO勝ちで気持ちよく新年を迎えるよ」

ギルバート・メレンデス

聞き手／石井史彦　撮影／乾晋也　構成／堀江ガンツ

昨年大晦日の『男祭り』で川尻達也を壮絶なド突き合いの末に判定で破り、『PRIDEライト級GP』が開催されていれば、優勝候補の一角と目されていたメレンデス。まさに旧PRIDEの〝ライト級ガイジンエース〟と呼べる存在であるこの男が、『やれんのか!』に参戦。石田光洋との対戦が決定した。

PRIDEが開催されなかったこの1年間、彼はどんな思いですごしてきたのか。『やれんのか!』開催が発表される前の11月中旬に収録したぶんと、石田戦発表後の二部構成でお届けしよう!

——拳のケガの状況はどうですか?

メレンデス　けっこう回復してきたよ。9月のカトー（加藤鉄史）との試合でおもいきり殴りすぎちゃってね（笑）。でも、もうジムでのトレーニングを開始してるんだ。

——じゃあ、次の試合の予定は決まっているんですか?

メレンデス　3月のストライク・フォースで、ジョシュ・トムソンと対戦する予定だけど、その前に、じつは大晦日に日本で試合をすることになりそうなんだ。

——それは旧PRIDEスタッフが開催するというイベントですか?

メレンデス　そうだね。相手はまだちょっとわからないけど、ひさしぶりに日本で試合ができるんで、凄く楽しみだよ!

——今年、PRIDEが事実上〝消滅〟してしまったことについては、どう思いますか?

メレンデス　その件についてはハートが壊れそうになるぐらい悲しかったよ……。俺の夢が突然、目の前から消えてしまったんだ。「これまでやってきたことはなんだったんだ……」って、一時は考えたこともあったよ。俺は今年、本当に燃えていたんだ。『PRIDEライト級GP』を制覇して、世界一のチャンピオンになるんだってね。俺がゴミ（五味隆典）やサクライ（桜井〝マッハ〟速人）を倒すために、どれだけハードなトレーニングをしてきたか……。

——『ライト級GP』は開幕直前に中止になってしまいましたよね。

メレンデス　あのときは目の前が真っ暗になった。プロモーター間のポリティックスはもうゴメンだよ! 本当に悲しかった。ああいったバカげたビジネスせいで、ファイターが苦しむのは、もうたくさんだ!

——1年を半ば棒に振ってしまったようなかたちになってしまったわけで

PRIDEの“消滅”はハートが壊れそうなほど悲しかった。俺の夢が消えかけたんだからね

すもんね。

メレンデス　『ライト級GP』に出場予定だったファイターはみんな被害者だよ。優秀な選手が試合もできずに腐ってしまうなんてことが、あってはならないんだ。いまはもう、大晦日、そして来年に向けて気持ちが前向きになっているけどね。

――闘いたい選手はいますか？

メレンデス　たくさんいるね。この階級（ライト級）は人材の宝庫なんだ。UFCならショーン・シャーク、BJ・ペン。『HERO'S』ならJZ（カルバン）、ビトー“シャオリン”ヒベイロ。元PRIDEファイターなら、アオキ。あと、もちろんこの階級のトップ、ゴミ（五味隆典）とも闘いたい。彼はたぶん、昔ほど強くはないと思うけど、ぜひ闘ってみたいよ。

――『HERO'S』のチャンピオン、JZカルバンについては、どういう印象を持っていますか？

メレンデス　最近の試合を観てもわかるとおり、彼はタフな相手だね。じつは、ちょっと前に会って話したことがあるんだけど、いいヤツだったよ。尊敬できる人間だね。もし闘うことになったら、エキサイティングな試合になることは間違いないよ。

――カルバンと、青木真也がもし闘ったら、どうなると思います？

メレンデス　それはわからないな。もしかしたら、JZが一方的に殴り倒すかもしれないし、アオキのファンキーなサブミッションが一瞬で極まるかもしれない。こればっかりは、やってみないとわからないね。でも、JZはグラウンドでも強いよ。

――いずれにしても、凄い試合になりそうですね。

メレンデス　うん。それだけは間違いないね。アオキvsJZ以外にも、この階級のトップファイター同士の対戦は、実現していない好カードがまだまだある。俺も大晦日は誰と試合が組まれようと、最高の試合を見せるから、期待していてくれ！

【07年11月16日／米国カリフォルニア州サンノゼ、AKAにて収録】

昨年の大晦日に川尻達也を死闘の末下したメレンデスの『やれんのか！』での相手は、川尻と同門の石田光洋。1年前に五味に秒殺KOされた石田が、どのように這い上がり、メレンデスに向かって行くかも注目だ。

このように11月中旬の時点で、大晦日に向けてやる気に満ちあふれていたメレンデス。そして、このインタビューから3週間後、ついに『やれんのか！』での石田光洋戦が正式決定！　さっそくメレンデスに国際電話で追加取材を試み、石田戦に向けての意気込みを聞かせてもらった。

――大晦日の『やれんのか！』参戦および、石田光洋選手との試合が決まりましたけど、いまの気持ちを聞かせてください。

メレンデス　日本でのニューイヤーズイブのイベントに参加できることになって、とても興奮してるよ！　PRIDEが事実上なくなってからも年末の試合の噂はいろいろと聞いていたけど、本当に実現してくれた旧PRIDEのスタッフや関係者に大感謝だよ、ありがとう！

――ホントに嬉しそうですね（笑）。

メレンデス　そりゃそうさ！　ニューイヤーズイブのイベントはPRIDEファイターにとって、特別なものなんだ。去年はイシダのチームメイトであるカワジリ（川尻達也）と闘ってKOできなかったから、今年はキッチリと勝ってよい新年を迎えたいよ。来年3月に予定されているストライク・フォースでのジョシュ・トムソン戦に勢いもつけたいしね。

――対戦相手の石田選手の印象を聞かせてください。どのように評価していますか？

メレンデス　この階級で世界のトップ10に入るタフなレスラー。身体能力に優れていて、常に動き続けてしかもガス欠しない。俺もスタミナには自信があるから、もの凄い試合になるよ！

――でも、五味選手との対戦を希望していたあなたにとって、五味選手に秒殺された石田選手が相手というのは、不服じゃないですか？

メレンデス　全然、不服じゃないよ！　確かに一番闘いたい相手はゴミやサクライだけど、とにかく日本での試合に出られることが嬉しいし、今回、イシダをKOして、来年はゴミ、サクライ、アオキらと闘いたいね。

――では、石田選手の注意すべき点はどこですか？

メレンデス　とくにレスリング、グラウンドでのテクニックが危険だね。彼のペースで試合をコントロールされないように注意しなければならない。

――ズバリ、KOできそうですか？

メレンデス　気持ちよく新年を迎えるためにもKOしたいし、KOするのはいつでも自分の試合のゴール。テクニック的には同等としても、打撃の破壊力や相手にダメージを与えたり、フィニッシュできる力は自分のほうが絶対に上回っているので、KOするチャンスは充分にあると思う。お互いに動きが早く、目が離せないおもしろい試合展開になると思うから、楽しみにしていてほしいね。

――では最後に、日本のファンにメッセージをお願いします。

メレンデス　もしかしたら、もうジャパニーズファンには会えないかと思っていた。だから、再び日本に戻ることになれて嬉しいよ。日本はボクのキャリアが本当の意味で、始まった場所でもあるからね。年末は素晴らしい試合をするから期待してくれ！

【07年12月6日／国際電話にて収録】

GILBERT MELENDEZ■1982年4月12日、米国カリフォルニア州出身。ライト級屈指のハードパンチャー。修斗で佐藤ルミナ、高谷裕之、植松直哉を圧倒し、PRIDEでも帯谷信弘、川尻達也を連破。現ストライク・フォース世界ライト級王者。175cm、73kg。

「ハッキリ言ってモノが違う！目指すのは優勝だけ！」（加藤会長）

リアル“魔娑斗2世”が『K-1甲子園』を震撼させる!!

藤門曄裟（ふじつかさ）を知っているか？

with “魔娑斗を育てた男” 加藤会長（藤ジム）

『K-1甲子園』の主役はズバリ、この男たち!?
優勝候補とされるHIROYAと1回戦で対峙する
現役中学生キックボクサー・藤門曄裟。最年少・最軽量ながら
“魔娑斗を育てた男”加藤会長も大絶賛する脅威の才能に迫る！

聞き手／松澤チョロ（35歳） 撮影／丸山剛史

君は藤門曄裟を知っているか？ あの谷川プロデューサーが「シリアスでさわやかな大会をやりたいなぁ～」というコンセプトのもと『Dynamite!!』で開催する18歳以下のトーナメント、『K－1甲子園』の一回戦でHIROYAと対戦する、現役中学生キックボクサーだ。「HIROYAが主役のトーナメントでしょ？」と捉えられがちかもしれないが、この藤門曄裟は“魔娑斗2世”と呼ばれる天才児である。

さらに上の写真に、藤門曄裟と写っている小柄なオジさん（失礼！）にも注目してほしいのだが、この人こそ極真会館を創設した故・大山倍達総裁の高弟であり、あの松井章圭氏（極真会館松井派館長）、そして若き魔娑斗を育てあげた名伯楽・加藤重夫会長！ この会長も「魔娑斗を超える10年に一人の逸材！」と太鼓判を押す才能なのだ。

藤門曄裟はなんと14歳という史上最年少でキックボクシング『天空』のリングでプロとしてデビュー。しかもデビュー戦から25歳で8戦目の相手にいきなりKO勝利！ そのあともプロのリングで連勝の山を築いている“恐るべき子ども”ぶりを発揮。

今回の大一番を前にその実力のほどを本人、加藤会長同席のもとで直撃！ 加藤会長の極真仕込みの過剰なまでの練習ぶり、そして会長が自信満々に吠えまくった！

——初めまして！ 我々は『kamipro』という雑誌なんですが、中学生の門曄裟くんはご存知ですか？

門曄裟 すみません。こういう雑誌

は見ないんで……。

──あっ、雑誌は見ない？　失礼しました（笑）。で、キックはそもそもどんなきっかけで始めたんですか？

鬥嘩裟　幼稚園の頃、テレビでK─1を観て「カッコイイな」と思ったことです（と淡々とした口調で）。

──幼稚園からK─1！　新世代だなぁ（笑）。ジムに来るようになったのは小学3年生からだそうですね。

鬥嘩裟　その頃からプロ志望だったんで。**「いいジムないかな？」**と探していたんです。

──小3でプロ志望⁉　会長は初めて鬥嘩裟くんに会ったときの印象は？

会長　あのね、自分はもう子どもを教えるのはイヤだったんです！　極真会館にいた時代は少年部や女子部をぜ～んぶ自分が教えていたからね。

──子どもはもうコリゴリ（笑）。

会長　ただ、一方で「いつか凄い選手を作ってみたい」という思いもあった。それで鬥嘩裟を初めて見たときに**「この子はちょっと違うな？」**と思ったんですよ。

──そこは直感ですか？

会長　直感だねぇ。松井（章圭）館長のときもそう。母親が小5ぐらいの松井館長を自分の道場に連れてきたときにも、自分は松井館長を見て**「この子は将来、極真会館を背負って立つ男になる！」**と言いましたからね！

──松井館長の素質も見抜かれてましたか⁉

会長　そう！　じつは松井館長がまだ14歳のときに大山（倍達）総裁に「松井という男は絶対に将来の極真会館で名を成す男だから、いずれ本部のほうにお願いしようと思います」と手紙を書いたんです。のちに大山総裁も**「おまえの手紙は取っておいたよ」**って言ってくれましたから。

──凄い鑑識眼ですねぇ。

会長　魔裟斗もそうですよ！　17歳でウチに来たけど、当時の魔裟斗は不良っぽいところがあったから、お母さんが様子を見に来て「キックなんかやって成功しますか？」って言ったけど、「チャンピオンになりますよ。この子が本気でやったら一年もいらない！」と言いましたから。

──そこも直感ですか。

会長　そういう第一印象を自分は大事にしてます。ただし！　これは誰にでも言うわけじゃありません。だって現実的にこの鬥嘩裟が小3で入ったときはウチの練習生は50人もいた。でもみ～んなサヨナラしちゃった。だって鬥嘩裟は**小学生で連続100本蹴りをやったんですよ！**それでみんなビックリしたんだよね！

──小学生の頃から100本蹴り⁉

会長　いまのキック界で連続100本蹴れるヤツってそういないよ。じゃあ、いま15歳の時点でどのぐらい蹴ってるか？　**毎日800発は蹴ってますよォオ！**

──800発も⁉

会長　そう！　しかも練習がぜ～んぶ終わったあと。それにね、いま**一日平均60ラウンド**やる選手がどこの世界にいます？

──一日60ラウンドも⁉

会長　しかもノンストップですよ？　それが全部終わったときには左右の連続蹴り800発ずつはやってますよ。約4時間の練習が終わったあと休みなしですよ⁉　そういう練習を甘く見ちゃダメなんです。だから『Dynamite‼』みたいな大舞台でも問題ない。誰だって**前蹴り一発でふっ飛ばしちゃう！**（と興奮して）。

──得意技はその前蹴りですか。

会長　前蹴りってのは理想の技なんですよ。ただ極真の大会なんかを観ればわかるけど、現実に前蹴りってそうそう当たらない。ところが鬥嘩裟の場合、前蹴りが来るのはわかってるのに、**ふっ飛ばされちゃう！**

──わかっちゃいるけど、ふっ飛ばされる！

会長　しかも前蹴りを顔面にもらったら、その恐怖ってのは凄いよぉ～。どんなにデカいヤツでも関係ない！（キッパリ）。

──デカくったって関係ねぇ！　と。

会長　自分の極真の現役時は46キロしかなかったけど150キロのヤツにジャンプして前蹴りしたら、鼻にズバッと当たるんです。それで鼻血出したら、相手だってもうやりませんよォ！（とさらに興奮して）。

──その会長の必殺の前蹴りを直伝されていますか。

会長　そう。しかも俺のスタイルはムエタイでもキックでもない、**あくまで大山空手がベースだから。**

──極真魂を叩きこんでいる、と。

実際、インタビューのあとに撮影用に軽めの練習をお願いしたのだが、二人は余裕の表情でミット打ちのスパーを開始。剣道の防具のような頑丈なプロテクターを着けた加藤会長のドテっ腹にドーン！　ドーン！　と鬥嘩裟の前蹴りが炸裂。小柄な会長はその蹴りが入るたびに強烈な反動でドーン！　ドーン！　と身体が浮かび上がる。会長もひるむことなく「もっと来いッ！」と激しく呼応！　鬥嘩裟はさらに容赦なく激しいキックを連射していった。

──会長は鬥嘩裟くんにも"何か"を感じたんですね。

会長　じゃなかったら14歳でプロのリングに上げません！　だいいち、「おまえ、やるか？」って言われて14歳の子がプロのキックのリングに上がりますか？

──まず、やらないでしょうね。

会長　でしょ？　14歳のガキがね、いきなりデビュー戦で相手は25歳、8戦目のファイターとやるんです。しかも勝ち進んでチャンピオンになっちゃうんだから。俺のことを「14歳でリングに上げるなんて」と叩いた連中もいたけどさぁ。

──そういう声も入ってくる？

会長　入ってきますよォオ！「何を考えてるんだ？」とかね。くだらない選手しか作ったことがないヤツがグダグダ俺の悪口言ったりね。**そういうのはやっぱり許せないッ！**

──より負けられませんね。

会長　そのかわりに俺だってね。負けたら終わりだな、と。だから**教わるほうも教えるほうも命懸け**でやったら、相当なところに行くんですよ！（と大興奮して）。

──鬥嘩裟くん的には「やるか？」と言われてどうだったんですか？

鬥嘩裟　「お願いします」と言っただけです（と淡々と）。

──じゃあ、かなり自信もあったわけですよね？

鬥嘩裟　会長との練習はしっかりや

"魔裟斗を育てた男"
加藤重夫会長とは？

あの松井章圭氏（極真会館松井派館長）、魔裟斗を育てあげた名伯楽として知られる男、それが加藤重夫会長だ！　現在65歳の加藤会長は1958年に大山道場に入門。故・大山倍達総裁の高弟として極真会館創草期を支えた伝説の空手家であり、大山総裁の著書では道場破りの外国人を手刀で返り討ちにする弟子のモデルとして登場。68年に"海外指導員第一号"としてオーストラリアに派遣。帰国後は千葉県北支部にて指導し、06年に天空キックボクシング協会を設立、現在はキックボクシングジム・藤ジムの会長として活躍する日本格闘界のレジェンドなのだ。

ってたんで、自信はありました。

——8戦目の相手でも怖くはなかったんですか？

門嘩裟　怖くないです（とクールに）。

——緊張もしないんですか？

門嘩裟　しないです（といたってクールに）。

——まさにプロ向きの性格ですねぇ！

会長　あのね。スターになる人の条件は大きな舞台に出せば出すほど、「よーし！　やってやる！」と燃えるタイプ。これは魔裟斗と共通してる部分で「コノヤロー！」と反骨心があるヤツがスターになるんですよ。

——なるほど。あと「魔裟斗が17歳でやっていた練習を14歳でやった」と聞いています。

会長　やってます。しかも同時期を比べるとスタミナと蹴る力は門嘩裟のほうがある。だから、ハッキリ言うけど**ウチのジムで門嘩裟が最高の選手ですよ！**

——15歳が最高の選手！

会長　門嘩裟の身体を見てください。手足が長いでしょ。しかも脚の太さはこの時点でライト級かウェルター級近くまで発達してるんです。

——身体自体がズバ抜けている、と。

会長　それに自分も何十年ぶりのことだったんだけど、タイ人が門嘩裟の試合のあとにやってきて（親指を突き出して）「こいつはモノになるよ」ってポーズをしたんだよね。これは凄いことだよ。ムエタイのジムなんか行ったら、基本的に日本人なんか相手にしない。**たとえ魔裟斗だってムエタイはミット持ってくれない。**それぐらいハードルが高い。だってムエタイの選手は小学生からずっとやっているんですから！

——ムエタイはそれがあたりまえ。

会長　**あったりまえですよォ！**（と大声で）。

——ダハハハ！

会長　でも日本人だってできる。その条件は門嘩裟のように**小学生ぐらいからやらないとダメ！**

——『K−1甲子園』の記者会見でも一人だけ落ち着き払ってましたよね。相手のHIROYAについてはどうですか？　試合はご覧になってると思うんですけど。

練習で平均60ラウンドやる選手がどの世界にいます？ 誰だって前蹴り一発でふっ飛ばしちゃうよ！（加藤会長）

ふじ・つかさ■1992年9月18日生まれ。埼玉県富士見市出身。小学校３年生より藤ジムでキックボクシングを始める。03年にキックボクシング大会『天空』で史上最年少の14歳でプロデビュー、25歳の鈴木朝春にKO勝利。今年11月にはJ-NETWORKのフライ級トーナメントで優勝。史上最年少チャンピオンの快挙をはたす。173 cm、53kg。

藤門嘩裟　全成績 8戦7勝1敗

06.9.24 キックボクシング『天空』～希望～
◯ vs **鈴木朝春** 2R 2分12秒 KO 膝蹴り

07.1.14 キックボクシング『天空』～星雲～
◯ vs **ジョムホーツ・ソー・パラーンチャイ** 5R終了 判定3-0

07.4.15 キックボクシング『天空』～東西南北～
◯ vs **森山進介** 5R終了 判定3-0

07.6.3 J-NETWORK『TEAM DORAGON QUEST 1』
◯ vs **山野寛之** 3R終了 判定3-0

07.7.22 キックボクシング『天空』～四季～
◯ vs **クレイジー・ヒル** 2R 1分14秒 TKO 左ヒジ打ちでまぶたカット

07.9.16 J-NETWORK『Championship Tour of J 2nd』
× vs **ノッパチャイ・ラッタナウォン** 2R 2分50秒 TKO ヒジ打ちで額カット

07.11.9 J-NETWORK『Championship Tour of J Final』
[フライ級王座決定ワンデイ・トーナメント 1回戦]
◯ vs **三好純** 3R終了 判定3-0

07.11.9 J-NETWORK『Championship Tour of J Final』
[フライ級王座決定ワンデイ・トーナメント 決勝]
◯ vs **薩摩サザ波** 3R終了 判定3-0

門嘩裟　**ないです（キッパリ）。**

——え！　試合を観たことがない？

門嘩裟　ないです。自分の練習で忙しいんで。

会長　コイツはねぇ、**他人の試合なんかな～んにも観ないっ！**　そんなもん観なくてもいいんだよォ！

——でも試合を観なくて、相手への怖さはないんですか？

門嘩裟　ないです（キッパリ）。

——凄いなぁ。選手として最終的な目標はどのあたりなんですか？

門嘩裟　僕の名前をどんどん知ってもらえる選手になりたいですね。

——あ、「有名になりたい」という気持ちはある？

門嘩裟　僕の名前をみんなに知ってもらえるのは、ありがたいんで。

——「お金を稼ぎたい」とか、「いい車やいい家に住みたい」とかは？

門嘩裟　ないですね（アッサリと）。

——ホントにストイックだなぁ。

会長　でもねぇ。**俺なんて65歳ですよ!?**　なんで俺はこんな若いヤツ相手に毎日やってるんだって？　ホントは楽な生活してさ、◯◯みたいにテレビに映るときだけちょろっとミット持って、練習生に「コノヤロー！」とやったっていいんだから。

——ダハハハ！　パフォーマンスだけならラクチンでしょうね。

会長　でもね、強い選手を作るには現場にいないとダメなんです。現場で叩き上げないとホンモノにならない。だから門嘩裟にはよく言ってるんです。**「つらければ、やめていいよ」って。**普通の学校に行って東大入って立派な人生を送ってくれ、と。

HIROYAがヤバい！『K-1甲子園』は12.31『Dynamite!!』で堂々開幕！

う～ん、ダイナマイッ！　今年の『Dynamite!!』の目玉はこの少年たちでキマリ!?　18歳以下の4選手による『K-1甲子園 U-18日本一決定トーナメント』が開幕する。話題の高校生ファイター・HIROYA（16歳）と本誌大注目の現役中学生王者・藤門嘩裟（15歳）が激突！　ともに“魔裟斗2世”といわれる両者の試合はまさにSADAME？　加藤会長の熱血セコンドぶりも要注目だ。

もう一方のブロックの久保賢司（16歳）は二つのキック王座を持つ現役高校生王者。その相手の雄大（16歳）はアマチュア大会で優勝21回を誇り、小学生時代のHIROYAに勝利。いずれ劣らぬ実力者揃いだが“恐るべき子ども”ぶりを発揮し、初代U-18日本王者に輝くのは誰だ？

［K-1甲子園 U-18日本一決定トーナメント］
（K-1ルール 60キロ契約）

雄大（治政館／16歳）
久保憲司（立川KBA／18歳）
藤門嘩裟（藤ジム／15歳）
HIROYA（フリー／15歳）

ま、東大にもいろんな東大があるけどさ（笑）。

——確かにいろいろありますね（笑）。

会長　「やめろ」って何度も言いましたよ。でもコイツは「イヤです」と言うんだよ。「じゃあ、練習で弱音を吐くな」と言ってるんです。昔、大山道場で自分が大山総裁から言われたのは**「つらい、苦しい、痛いは言うな！」と。**だからコイツは弱音を言わないもんね。

——ただ「なんでそんなに若いのにそこまでストイックにやれるんだ」という疑問もあると思うんですよ。

円曄裟　やっぱり自分の夢だから、自分のことですから……。

——「もっと遊びたい」とかは？

円曄裟　ないです（キッパリ）。

会長　**あったらダメだァアア〜！**

——ダハハハ！　そういう人はダメ！

会長　ダーメ。キックの世界なんて、なんもないもん。ファイトマネーだって安いし。チャンピオンなんて言ったって一般の人なんか誰も知らないしね。それなのにコイツは「やる」っていうんだから（しみじみと）。

——ちなみに普段の生活はどういうスケジュールですか？

円曄裟　毎朝7時に起きて、中学校に行って帰ってきたらすぐ練習に行って、家に帰ったらやることやってすぐに寝ます。

——最近はテレビにも露出してるから、同級生から話しかけられます？

円曄裟　あ、前よりは話しかけられるようになりましたね（ちょっと照れながら）。

——そういうのは嬉しい？

円曄裟　嬉しいって思うこともありますね（とさらに照れながら）。

——でも、同級生とかと話が合わないでしょうね？

円曄裟　あんまり合いませんね（と真顔で）。

——彼女とかほしいとも思わない？

円曄裟　思いません（キッパリ）。

——ＨＩＲＯＹＡくんは初めて女の子と付き合ったのが小6だそうですけど（笑）本当に正反対だなぁ。ＨＩＲＯＹＡ戦に向けた練習は？

会長　もちろんしてますよ。自分が練習相手になるときはヘッドギアも使ってるし、口の中もズタズタだけど。それくらいやんなかったらダメ。だからハッキリ言うけど、**1回戦と2回戦はＫＯ！　ＫＯ！　で行きますから（キッパリ）**。

——4人トーナメントですから2回勝ったら優勝です（笑）。

会長　うん。ＫＯ！　ＫＯ！　で行く。**最初っから優勝するつもりで出してますから！**

——ただＨＩＲＯＹＡくんとは約8キロの体重差がありますよね。

会長　いや、契約体重の60キロまで体重は持っていけます。いままでは何食か抜いて減量してたくらいだしね。それにこういう大舞台だけど、円曄裟はアガらない。だって試合でラウンドが終わってコーナーに戻ってくると、毎回「会長、次のラウンドは何で行きますか？」って聞いてくるんだよ。普通、リングに上がったら選手の頭はパーッとなっちゃう。だから、円曄裟は14歳でチャンピオンになっちゃったんですよ。

——試合中でも動じないんですか？

円曄裟　はい（キッパリ）。

——ゆくゆくはＫ—1 ＭＡＸにも参戦みたいな気持ちはありますか？

円曄裟　いや、そこは僕が決めることじゃないんで。

——そこも会長と話し合いながら、と。今後もＫ—1から話があったらどうします？

会長　自分は選手が「やりたくない」と言ったら出さない方針です。でもＫ—1側は「今後ともよろしくお願いします」って言ってたけど。まぁ、何度も言うけど、今回は**絶対に優勝できる**と思います。

——円曄裟くんも自信はある？

円曄裟　あります。一生懸命練習してベストを尽くして、優勝を狙いたいと思います。

——得意技はやはり前蹴りですか？

円曄裟　前蹴りもありますが、ホントの得意技はハイキックです。

会長　ハイキックを解禁しますよ！　今回は同年代で相手がみんな小さいから。首を狙わせてね。**ハイキックってのは首が一番、怖いんですよ。**フフフ（と不敵な笑顔で）。

——僕も大晦日は『Ｄｙｎａｍｉｔｅ‼』に行きますので楽しみにしてます。なんか興奮してきたなぁ。

会長　……ところでさぁ、俺たち大阪に行けんのかなぁ？（とマネージャーに向かって）。

——ハハハハ。ちゃんとチケットを取ってもらわないと（笑）。

会長　まだ、なんも連絡が来てないからなぁ〜（と不安そうな表情で）。

——さすがにそれは大丈夫だと思いますが（笑）。無事に大晦日にお会いできることと、円曄裟くんの活躍を期待しています！

円曄裟　はい。頑張ります（と最後まで淡々と）。

【07年12月1日／埼玉・藤ジムにて収録】

今回は相手が同年代で小さいから、ハイキックも解禁！ ハイキックで首を狙わせます。フフフ（加藤会長）

髙田延彦

『やれんのか！』実行委員会統括本部長

『やれんのか！ 大晦日！ 2007』では暴れ太鼓披露

突っ走れ!!

『ハッスル祭り2007』は"観戦"、そして『やれん

大晦日まで

『やれんのか!』統括本部長・髙田延彦が人生で最も長い一日に挑む! PRIDE統括本部長として、大晦日には毎年『男祭り』でフンドシ&暴れ太鼓を披露してきたが、今年もついに出撃宣言! さらに『ハッスル・マニア2007』大成功の勢いに乗って、大晦日に開催される『ハッスル祭り』も髙田総統の友人として、"観戦"することになる。大晦日、髙田延彦がさいたまスーパーアリーナで狂い咲く!

聞き手/坂井ノブ　撮影/梅木麗子　スタイリング/水口卓磨

―本誌前号のインタビューでは、本部長という肩書きがなくなったお話でスタートさせていただいたんですけども、このたび『やれんのか!』の統括本部長に就任されましたね。おめでとうございます。

髙田　あだ名みたいなもんだ。一応呼んどこう、みたいな。

―何をおっしゃいますか! 役職じゃないですか。『やれんのか!』のことはのちほどうかがうとして、今日はまず『ハッスル』の話からうかがいたいと思います。11月25日の『ハッスル・マニア2007』は観戦に行かれてたんですよね?

髙田　行ってたよ。リングサイドではないが、ある場所で観てた。会場でライブを味わったよ。

―まずは率直なご感想からうかがいたいんですが。

髙田　うん、おもしろかったよ。もうずいぶん過去のことのように感じるけどね。

―約1週間前のことですが(注/取材日は12月3日)。

髙田　その日と翌日ぐらいだね。もう一度イメージの中で『マニア』を振り返るっていう作業自体は終わったよ。ただ、すでにより真価を問われるイベントである『ハッスル祭り』に向かって走り出してるからね。もう1ヵ月もないよ。いつまでも余韻に浸ってる暇はない。

―凄いスピードで走ってますね。

髙田　出役、スタッフ、『マニア』のMVPとも言える(坂田)亘にしたって、もう大晦日しか見ていないよ。みんなでまたいいイベントを作ろうって大晦日に向けて走っているよ。『マニア』を観ておもしろいと思ってくれた人が、次に観て落胆すればすべてが水の泡。より多くの人に観てもらう環境ができたってことは当然リスクがあるからね。そこに課せられたイベントの責任っていうのも大きい。だから謙虚に喜んで、すぐまた前を見て進んでいかなきゃダメなんだよ。

―なるほど。ただ、少しでもかまわないので振り返っていただきたいんですが。

髙田　どんなことを聞きたいの?

―まず、最初は"モンスターK"川田利明のオープニングでした。

髙田　Kのジャンボリーね。

―試合がなくて歌と踊りだけでした。

撮影/平工幸雄

髙田　まあ、適材適所だよ。個々がその都度与えられた仕事をベストの状態でやり抜くということがそのままイベントの力になる。『ハッスル』は与えられたチャンスでいかに自分が結果を出すかで、その出役のポジションが決まってくる舞台なんだよ。これからは、もっと競争が激しくなってくる。モンスターKはそのお手本というか見本のような存在じゃないかな。「四の五の言わないで俺を観ろ! 楽しいだろ? じゃあいいじゃないか」という彼の姿勢につきるね。あれで「Kの試合はないの?」って文句言う人はいないと思うよ。だってそれが『ハッスル』だろ。試合があって歌がないと「試合はいいから歌やってくれ」となるかもしれない。そういう逆転現象も『ハッスル』の中では生まれ始めているよ。それが『ハッスル』におけるモンスターKの価値だよ。あの日、Kの試合がなかったことに気づいた観客の数を勘定してみればいいよ。

―イベントの最初って非常に重要な意味を持ってますよね。

髙田　総合格闘技でも、しょっぱなには元気なものを持ってくるよ。

―暴れ太鼓とか。

髙田　私は試合の話をしてるんだよ(怒)。

―し、失礼しました!

髙田　とにかく、まず一発目で観客の心をつかむことが何より大事だよ。一気に温度を上げるエネルギーがないと一発目の役目をはたしたことにはならないよ。『ハッスル』に話を戻すと、観る側の期待感がKにはある。その期待に応えるようにパフォーマンスもいつも以上のものを観せてくれたね。『東京スポーツ』のプロレス大賞の技能賞をモンスターKのパフォーマンスが獲ったらおもしろいよね。

―おもしろいですねぇ(注/12月10日に関本大介が受賞決定)。モンスターK同様、島田二等兵も非常に評価が高いですね。もちろん海川ひとみも相当頑張ってましたけど。

髙田　あのパフォーマンスには脱帽です。海川は小柄でキュートで、壊れそうな存在だろ。そんなヒロインを理不尽にいたぶる島田の強烈なキャラクターは、PRI

DEの会場でブーイングを浴び続けて培われたんじゃないのかな。

──PRIDEの会場でひそかにモンスターが作られていましたか！（笑）。

髙田　あの役をほかのプロレスラーで誰ができるかなって考えたけど、無理だよね。人生41年かけて培ってきた素の島田が随所に出てるよね。そこに引っぱり込まれるんだよ。島田そのものがあそこに解き放たれてるっていうか。潜在的に我慢してる部分もあそこで一気に爆発してる。それをあの大舞台でキッチリ表現できる島田は男だよ。いわば島田の中の島田だ。金を取れるパフォーマンスだね。

──「男の中の男」じゃなくて、「島田の中の島田！　出てこいやぁ！」ですか（笑）。

髙田　観客が「島田、コンノヤロォ！」って乗れるよ。観客をヒートさせるスパイスを島田は持ってるよね。

──観客の心をとらえるうまさという点ではインリン様も抜群ですね。コスチュームの妖艶さはどんどんアップしてるし、試合のたびに新しい技が飛び出してます。

髙田　間違いなく内なる競争だよね。もちろん土台として個々の資質はあるけど、伸びしろの部分っていうのは完全に内なる競争によって磨かれている。それは今年最も台頭したRGの存在も大きいと思う。そういう出役たちの集まりだから、一つのイベントのクオリティも多少の波は想定内として、いつも及第点をオーバーするようなレベルに仕上がってる。各々が自分のポジションを確保するために常に意識を高めてパフォーマンスに臨んでる賜物だと思うね。『ハッスル』は従来のプロレスから、エンターテインメント側に大きく舵を切ってスタートさせた。旗揚げからわずか4年のあいだに、多くの奇跡が生まれたけど、奇跡が生まれなければ『ハッスル』なんて跡形もないよ。RGなんかリストラの一歩手前……、というか崖からほぼ落ちてた人間だよ。それがいまや起爆剤になってるんだから！

──今年は何度もメインを張ってますね。

髙田　旗揚げ当初を振り返ると、亘があのポジションにいるなんてことは想像すらできなかった。あのポジションは気持ちや努力だけではたどり着かないし、務まらないものだから。いろんな要素が必要なんだよ。亘しか持ち合わせていない独特の香りがおもしろかったから期待はしてたけど、まあ、よくぞ本当にはい上がってきたんだから凄いよ。

──しかも、エスペランサーにまで勝っちゃいましたからね。

髙田　そうだよ。そして、ふと気づけば亘が『ハッスル』の中心にいた。まあ、そんなの挙げたらキリがないけど、いろんな奇跡が折り重なっていまの『ハッスル』が成り立ってるんだと思うよ。

──いま名前が挙がった坂田さんは大きな期待を背負って、そのプレッシャーの中でまた素晴らしい試合をしました。エスペランサーというのは非常に難しい対戦相手だったと思うんですよ。あの試合はどのようにご覧になりました？

髙田　亘自身の言葉にもあったけど、「これだけプレッシャーを感じてリングに上がったことはいままでなかった」と。私はその言葉に重さを感じた。それだけの覚悟でエスペランサー戦に臨んだ。そして、見事にエスペランサーに勝った。そのあとのマイクで話した亘のメッセージは、まるで亘の魂が話してるように感じたね。

──「みんなの期待を感じるたびに苦しくなってました」「この年齢になって、人間は一人じゃ何もできないということを知りました」と涙ながらに語りましたよね。

髙田　あそこまでのことをあの状況の中で言えたのは、いままで『ハッスル』に携わってきた人たちすべて見渡してみても亘しかいない。もっと言うと、あの瞬間の亘しかいない。100点満点に近い結果を亘は出してくれた……、チャンスをガチッとつかんで自分のもの、『ハッスル』のものにしたっていう結果を出したよ。

──そうですね。

髙田　亘のいまの貪欲さ、『ハッスル』に対する熱い思い、それがみんなに伝染して、「みんなでやろう！」って思いが一つにまとまった。亘の今回の一連のパフォーマンスは、『ハッスル』がこれから走り出す一つの大きな推進力になったし、大晦日に向けてグッと勢いをつけたと思う。

──試合も凄かったですが、妖精さんとの絡みも素晴らしかったですよね。入籍した二人が観客を思わず泣かせるぐらいの素晴らしい劇場をやってのけた。試合とは違ったしんどさがありますよね。

髙田　うん、それは当人たちにしかわからない。亘や栄子ちゃんにしかわからない苦悩もあったと思う。彼らが抱えてる葛藤は大晦日をガチッと乗りきっていい結果出して、来年上昇気流に乗ってしまえば薄まっていくよ。むしろ、葛藤は誇りや達成感に変わっていくだろうね。

──髙田さんご自身も、総統の活躍には達成感を感じてるんですか？

髙田　まあ、総統の友人としては、彼が活躍している姿を観るのは嬉しいよ。毎回驚かされるし、今回エスペランサーが負けた試合も少なからず驚かされた。

──本部長も驚きましたか！

髙田　でも、そのあとに総統がすぐ出てきたからね。私としても、ひと安心だ。

──総統から「私自身が闘ってやってもいい」と注目発言も飛び出しました。

髙田　総統は何をするつもりなのか……、私にもわからない。

──わかりませんか!?（笑）。

髙田　そりゃそうだろう。何がおかしい？　私は総統の友人であって、総統自身ではないんだよ。まあ、総統のことだから、あっと驚くことを仕掛けてくるはずだ。期待して待ちたいね。

──ちなみにご自身のブログで1ヵ月間断酒を宣言されていますね。

髙田　まあ、『ハッスル祭り』が成功するようにという願掛けみたいなものだね。ここで『ハッスル』がコケたら、いままで積み上げてきたキャリアがまったく無意味になってしまう。大晦日に『ハッスル』をピ

田延彦

撮影／山口比佐夫

11.25『ハッスル・マニア2007』でザ・エスペランサーが爆破されて姿を消した後、髙田総統が降臨した。「大晦日に私自身と闘うか!?」と坂田を挑発。総統として初の試合出場か!?

ークに持っていき、奇跡的な作品を作らなければいけないんだよ。私ごときの断酒じゃどうにもならないだろうけど、ちょっとした気持ちの張りを保ちたいんだよね。

――通常、『ハッスル』を観戦する場合、精神的にはどんな状態なんですか？　前の日に眠れなかったりとか？

高田　そういうことはまったくないね。きわめて日常的なテンポと変わらない。ただやっぱり、今回の『マニア』のように、イベントが近づくにつれて、その期待感が伝わってくるような、「ちょっと今回は風の吹き方が違うぞ」というときは自然と、緊張感というか高揚感があるね。力がみなぎってくるというか。ただ観戦するだけの立場だけどね（笑）。

――観るだけなのに気合いが入る、と。

高田　観る側も気合いがいるよ。うまくいってくれと願ってる。みんな知らない顔じゃないからね。私はエスペも知ってるけど、亘も知ってるからね。どっちも頑張れ、だよ。せっかくいい風が吹き始めてるから、すべてがいい方向になってくれという祈りみたいなものはあるよ。

――そして、もう一つの大晦日が決まりましたね。『やれんのか！』実行委員会の統括本部長を務めるにあたって、かなり葛藤があったということは記者会見でおっしゃってました。やはり一番の決め手は、PRIDEを一緒に作ってきた仲間と最後にけじめをつけるっていうことになるんでしょうか？

高田　そうじゃない。私の気持ちもやっぱりスムーズに収まることがなかなかできなくて。まあ、宙をさまよってるような、しっくりこない状態が続いてたんだ。10月に日本事務所が閉鎖されてから自分の気持ちを無理やり押し込めたんだけど、逆にあの瞬間から、さらに自分自身以外の、いままで観続けてきた最高のサポーターたちの行き場のない思いみたいなものがいままで以上に私のもとへ届くようになってきた。そんな状況の中で、実行委員会が水面下で動きだしたんだよ。私が大晦日のイベントの話を聞いた瞬間は一度収めた気持ちを、鍵を開ければ扉をぶち破って飛び出してくるその気持ちを、みんなで大晦日のさいたまの空間にブチ込んで、みんなの力で火をつけて爆発させてやろうと思った。ただし、絶対にくすぶってる思いを完全燃焼させるようなイベントでなければならない。その作業をする責任があるんだよ、私には。

かつての世界最高峰の舞台を超えるものにならなければ、〝けじめ〟がつけられない!!

髙田延

11.21『やれんのか!』記者会見に出席した髙田本部長はFEG谷川貞治プロデューサーとガッチリ握手。格闘技をわかりやすく伝えさせたら日本ではこの二人が間違いなく双璧だろう。

――髙田さん以外の人では、『やれんのか！』の顔にはなりえないですからね。

高田　ただ、イベントをやるだけなら、このまま気持ちを収めたままでいいと思ったのは事実だよ。私の思いは無意味だからね。いままで作ってきた、観てきた世界最高峰の舞台を凌駕するようなものにしなければ意味がないと思った。大晦日のさいたまスーパーアリーナでできあがった作品は、かつての世界最高峰の舞台を超えるようなものにならなければ、けじめがつかないし、完全燃焼もできない。まずその材料が揃うかどうか？　揃うんだったらやらなきゃいけない。やらなければならないことだと思った。

――髙田さんが「やる」と決断した瞬間、頭にあったのはどんなことですか？

高田　まず演出面は100パーセント心配ないよ。あの舞台でさまざまな非日常的な空気感や世界観を演出してきたスタッフが、そのまま参加するんだからね。さらにやり場のない思いだけを携えたファンが、全国からさいたまに集まってくる。さいたまを観ているすべての人間が完全燃焼するためにもっとも必要かつ重要なのは試合に出場するファイターだよね。最初に発表されたのは、エメリヤーエンコ・ヒョードル選手、青木選手、マッハ選手、石田選手、川尻選手、長谷川選手……、つまりPRIDE武士道の中心になったメンバーとPRIDEの頂点に立った60億分の1の王者だ。私は自問自答して、やれると確信したね。

――さらにFEGからもJZカルバンが出てくるということで、また夢の扉がさらにひとつ開いたという感じですね。髙田さんの中で想像はされてました？

高田　想定外だったね。FEGは大晦日に場所は違えど大きなイベントがある。タイミングと我々が打ち出したイベントのコンセプトが実現に導いてくれたのかな。

――ひさびさの谷川さんはいかがでした？

高田　変わってなくて安心したよ。立場が変わっても、人間の本質はそうそう変わるもんじゃない。

――「また二人で実況席に座りたい」と谷川さんからラブコールがありましたね。

高田　社交辞令か、いつものリップサービス、そんなところじゃないのかな（笑）。

――さすがに大晦日は別々の場所で大会を行なってますから無理でしょうけど。

高田　我々が実況席で並ぶために大連立をしたわけではないんだよ（笑）。大事なのはその先にどんなMMAの未来があるかということだからね。PRIDEという誰もが世界最高峰の総合格闘技団体だと認めていたブランドが、たった数カ月でこういう状態になった。国内の総合格闘技を見ても、どこも得してないんだよね。あきらかに大きな地盤沈下が起きている。これから先を見ても、ハッキリ明確に言葉で表現できる明るい材料っていうのは見当たらない。強い危機感を肌で察知したクレバーな谷川さんはようやく動きだしたんだよ。彼もこの業界をこよなく愛してるからね。

――谷川さんは「日本の格闘技の火を消してはいけない」と強調してました。

高田　PRIDEがこうなったことで、総

髙田延彦

合格闘技そのものに背を向けかけてた人もいるかもしれない。確かにリングの外で起きるゴタゴタも非常に多かった。この状況で谷川さんと我々が背を向け合って、足を引っぱり合うことは決してなんのプラスにもならないということはわかっている。ただ、正面を向き合ったタイミングが奇しくもこういう状況だっていうのが残念だけどね。でも、いまなら何かをすれば間に合うかもしれないし、何かが生まれるかもしれないという期待感があるのかもしれないよ。我々はこれで終わるけど、谷川さんは続けていかなければならないんだからね。

――髙田さんは日本の総合格闘技に対して、「気がついたら自分はそのサークルの中にいなかった」と前回のインタビューでおっしゃってました。大晦日にもう一度気持ちを奮い立たせて、気持ちを解き放つことはできそうですか？

髙田　そこは自分でもよく見えない。自分の中でさいたまのイベントは〝やりたいこと〟じゃなくて、〝やらなければならないこと〟だと解釈してるから。使命感だよ。

――それは髙田さんの中に、葛藤する部分が残ってるということですか？

髙田　これは大晦日に限った話ではないんだけど、人生とは〝やらなければならないこと〟と〝やりたいこと〟が常に葛藤し続けるものだと私は思う。これだけ熱い気持ちを携えてる人が大勢いるのに、私だけ気持ちに蓋をすることはできない。

――仕事って、そういうものですよね。

髙田　そのやらなければいけないことを、気持ちよく、ファンの後押しをもらって、いいかたちでいい作品を仕上げることができれば、宙をさまよい続けた気持ちにピリオドを打てるはずだよ。「大晦日を大成功させて、第二弾、第三弾やってください」っていう声が非常に多いんだけど、これを読んでる人たちに、しっかり覚悟を持って解釈してもらわなければいけないのは、間違いなく大晦日のさいたまスーパーアリーナで終わるということ。

――来年に関しては、今回ピリオドを打ってみて、自分自身の気持ちと向き合いながら決めるということになりますか？

髙田　まったくの白紙だね。真っ白だよ！

たかだ・のぶひこ■1962年4月12日、神奈川県出身。新日本プロレスでデビュー後、UWF、UWFインターナショナルを経て『PRIDE.1』でヒクソン・グレイシーと対戦。日本の総合格闘技界の礎となる。02年に現役引退してからはテレビの解説などで活躍。最近ではさまざまなバラエティ番組に出演するだけでなく、08年放送のＮＨＫの朝の連続テレビ小説『瞳』にも出演が決まり幅広く活躍中。『ハッスル』髙田総統とは友人関係。

――来年以降は真っ白だとすると、大晦日までは真っ黒というか、スケジュールがびっちりで大変じゃないですか？　とくに大晦日は『ハッスル』と『やれんのか！』で非常に長い一日になりそうです。

髙田　どうして？　一つは観てればいいだけだよ。

――まあ、そうですね……。でも、もう一つは、例年のように髙田さんがオープニングを盛り上げるんですよね？

髙田　モンスターKみたいだな（笑）。まあ、全身全霊で観客を一気に引っぱり込まなきゃね。

――いままで屋根に登ったり、タップダンスを踊ったり、暴れ太鼓を叩いたり、ピアノを弾いたりといろいろありましたけど。

髙田　今年も太鼓をやりますよ。

――おおっ！　太鼓を！

髙田　ここのスタッフの連中は、毎年12月に言うんだよ。

――時間的な余裕がまったくないですね。

髙田　私は正式な辞令が下りてから準備を始めるんだ。

――「今年も何か来るぞ」っていう予感はある程度、感じたりしないですか？

髙田　遠くのほうで話してるのは漏れて聞こえてくるよ。

――それでは動きださないんですか？

髙田　ダメなんだ、性格的に。正式に決まらないとね。私が身体を作るといっても大層なものじゃないよ。でも、フンドシは露出が多いから。

――まったく隠せないですね。

髙田　だから今年はタキシードで太鼓やろうかなと思ってるよ（笑）。

――斬新ですねぇ（笑）。

髙田　最後だから正装して暴れ太鼓もいいんじゃないか？　それとも私の友人の総統に叩いてもらおうか？

――それは非常におもしろいですね！

髙田　でも、帽子が落ちてしまうね。きっと嫌がるだろうな。

――じゃあ、エスペランサーに叩いてもらいましょう！

髙田　……だんだん質問が『ｋａｍｉｐｒｏ』らしくなってきたなぁ。

――すみません（笑）。そんなところでインタビューを終わらせていただきたいと思います。大晦日、期待しています！

【07年12月3日／都内、ホテル・ラフォーレ東京にて収録】

髙田統括本部長の進化する大晦日!!

2003

さいたまスーパーアリーナの屋根に登った髙田本部長はビジョンを通じて男の中の男たちに「出てこいやっ！」と呼びかけた。偉大なる大晦日シリーズの礎となる第一歩だ。

2004

これぞ髙田本部長の真骨頂！　フンドシ一丁で暴れ太鼓を披露したのはこれが最初だ。PRIDEのテーマに合わせて「ドン！　ドン！　ドドン！」と巨大な太鼓を力強く叩いた。

2005

真っ白なタキシードで登場するとタップダンスで激しく床を踏み鳴らす！　この後、フンドシ＆暴れ太鼓で再び登場して、さらに観客の度肝を抜いた。

2006

reggae disco rockersのメインボーカル有坂美香の歌とともにピアノで髙田本部長が登場！　このあとフンドシ＆暴れ太鼓で再登場。もはや完全に定着したと言える。

集結セヨ。

「PRIDEに関わったヤツみんな来い！」

12.31 さいたまスーパーアリーナ

『やれんのか！』煽りトーク

“60億分の1の煽りVアーティスト”が、
『やれんのか！』を煽りまくる！

佐藤大輔

DAISUKE SATO

いよいよ大晦日の『やれんのか！』まであとわずか。ファンのボルテージは高まる一方だろうが、そんな気持ちをさらに盛り上げるべく、おなじみ佐藤大輔ディレクターが、ここでは映像ではなくトークで煽る！　青木、マッハ、川尻らの純な思い。さらに、この時点では参戦が決定していない魔王・秋山成勲の“黒い魅力”について、おおいに語ってくれた！

聞き手／堀江ガンツ

――さて、大輔さん。今回もまた『やれんのか！』について、たっぷりと語っていただきたいと思います！

佐藤　あの～、インタビューの前に、ちょっとこの曲聴いてもらえますか？（と言って、Macから曲を流す）。

――なんですか、この曲は？

佐藤　秋山成勲選手の煽り映像で使う曲です（笑）。

――秋山の煽りVで使う曲がもう用意してありますか！

佐藤　どうですか、この曲に秋山選手の映像が乗るわけですよ。

――いやあ、これはゾクゾクしますね。で、煽りV用の曲をもう用意してるということは、秋山選手の『やれんのか！』参戦が決まったってことですか？

佐藤　いや、現時点（12月9日現在）では全然決まってないですけど、出るという噂もあるんで、スタンバイだけはしとかないとね（笑）。

――そういえば、大晦日の『男祭り』では毎回そんな感じでしたもんね。噂だけが先行して、カードがちっとも決まらない、みたいな。

佐藤　そうそう。毎年のように桜庭vs田村戦用の曲とか打ち出しのコピーを用意して、03年なんてほとんど桜庭vs田村のVTRができあがってましたからね（笑）。だから、こういう〝大ネタ〟は、空振りする可能性があっても、先にやっとかないと。

――なるほど。では、この「『やれんのか！』に秋山成勲が出るかもしれない」という状況は、旧PRIDEとFEGによるまさかの〝大連立〟の賜物なわけですけど、大輔さんはこの状況をどう感じていますか？

佐藤　政治的なところはよくわかりませんけど、「まあ、どっちでもいいや」って感じですね。ボクらはボクらで〝散開〟するだけですから。ただ、今回の〝格闘大連立〟っていうのは、あくまで与党連立じゃなくて野党連立ですよね。

――確かに、いまの格闘技界の〝最大与党〟は、UFCですよね。

佐藤　だから自民と民主というより、新党さきがけと新進党がくっついたみたいな感じですよね。

――どっちも解党してますよ（笑）。

佐藤　ま、社民党でもどこでもいいんだけどさ（笑）。いずれにしてもレジスタンス連合ですよね。

――だからか、『やれんのか！』って大晦日のビッグイベントなのに、どこかゲリライベント的なムードがありますもんね。

佐藤　そうでしょ？（笑）。やっちまおうぜ！みたいなね。だから、メチャクチャやるしかないでしょう、今回は。

――でも、かつて『Dynamite!!』に対して、記者会見という場で「格闘技とは名ばかりのむなしい茶番劇」とか「ジャンルが違う」といった、素晴らしい発言の数々を残している佐藤大輔的には、FEGとの連立は「あり」なんですか？

佐藤　まあ、あの当時はですね、Kさんという統括プロデューサーから、けしかけられた部分があるんですよ！

――あ、人のせいにしますか？（笑）。

佐藤　いやいや、ホントにそうだから（笑）。要するに「記者会見でなんか攻撃的なことを言って話題になれ」と。ボクはそれに乗っかって言ったはいいけど、そのあとFEGからクレームが来たら、ハシゴを外された、みたいな。

――ガハハハ！　見事に外されちゃいましたか。

佐藤　そういうことなんですよ！　ただ、ボク自身もそう言ったほうがおもしろいとは思ってましたけどね。FEGが憎いわけでもなんでもないけど、世の中って相対的なものですから。「こう観たらおもしろい」というのを後押ししてあげるっていうのが、〝煽り〟ですからね。

――では、あれは〝煽りV〟ならぬ、〝煽り会見〟だった、と。

佐藤　そういうことです！　だから今回の〝大連立〟はさいたま的には盛り上がるんじゃないでしょうか。

――まあ、あれだけやり合った旧PRIDEとFEGに協力関係ができたことで、もの凄く刺激的なカードが組めるようになりましたしね。

佐藤　まあ、「どっちでもいいや」ですけど、ホントに谷川さんが言うような、さいたまと大阪の二元中継が実現して、それに向けたカードがズラッと並んだら、ずっと待ってたファンへのいいプレゼントにはなるかな、と。ただ、FEGと協力関係を結んだことに、複雑な思いの人もいるんじゃないですかね？

――今回の〝大連立〟に拒絶反応を示す、PRIDE原理主義的なファンですか。

佐藤　そう。あんまりいないのかな？

――それは思ったより少ないみたいですけどね。もっと「谷川と手を組むなんて」っていう人がいてもおかしくないと思ってたんですけど、おおむね好評というか。逆に「谷川っていいヤツだったんだ」みたいな（笑）。

佐藤　突然、評価がガラリと変わっちゃって（笑）。

――まあ、対抗戦みたいなのが一番燃えますからね、ハッキリ言って。

佐藤　でもね、今回の闘いを「対抗戦」と捉えるのは、オッサン臭いし、昭和っぽいし、○○っぽいから、やめようと思ってるんですよ。青木vsJZカルバンは、確かに青木vs『HERO'S』のチャンピオンですけど、かといって、JZが『HERO'S』のシンボルかって言ったら違うわけじゃないですか。青木もしかりだし。

――そうですね。

佐藤　それ以外の選手でも、たとえば秋山選手が『やれんのか！』のリングに上がるとして、「『HERO'S』の秋山が来た！」とはなりませんよね。『HERO'S』の」なんて安っぽい枕詞はいらないし、そもそも秋山成勲という存在は、もうボクらの〝大好物〟ですよ！「おまえ、なんで〝こっち〟じゃないの？」ぐらいな。

――確かに、あの〝魔王〟っぷりは、『HERO'S』というお茶の間向けソフトの許容範囲を完全に超えてますもんね（笑）。

佐藤　超えまくりでしょう。生身の〝魔王〟っぷりを地上波で流そうとしたら、本来ならモザイクかけなきゃいけない（笑）。

――存在自体が〝R指定〟というか。じゃあ、11月の復帰戦の放送が深夜だったっていうのも正解だったかもしれないですね。

佐藤　子どもが観たら、夢に出てきますよ！　だから今回、秋山選手のVTRで使おうと思ってる曲は、さっき聴いてもらったタランティーノの映画『デス・プルーフ』の曲なんですよ。

――さっきの曲は、タランティーノの映画のサントラでしたか。

佐藤　この映画は、凄く気持ちの悪い世界を描きながら、それでいてカッコいい、そしてちょっと笑える、みたいなね。いわゆる70年代から80年代のB級アクション映画を現代によみがえらせたような映画なんですけど、同時上映の『プラネット・テラー』っていうのに、ヒザから下がマシンガンになってる女の人が出てきたりするんですよ。そういう〝異形感〟が秋山成勲には合うんじゃないか、と思ってね。

――なるほど。人間なのに人間じゃないというか。ボクらの想像できる〝宇宙〟の外にいる感じはありますよね。

佐藤　見た目は同じ人間なのに、理解できない怖さですよね。しかも、単純に格闘家としての実力だけでも、デビューして2～3年であそこまで強くなるって、これは恐ろしいこと

今回は〝対抗戦〟だとは思ってません
秋山もJ.Z.も俺たちの〝大好物〟でしょ！

でしょう。

——いまや誰も「弱い」と言える人はいませんもんね。

佐藤　競技の進化を2〜3年で飛び越えてるわけですからね。しかも、ファンからしたら、一番飛び越えられたくない人に。

——打撃の習得に苦しんだりしたら、ちょっとはかわいげも出てくるんでしょうけど、誰よりも打撃がうまかったりしますからね（笑）。

佐藤　柔道家なんだから、パンチを怖がってほしいのに、全然怖がらない。それは才能もちろんあるんでしょうけど、相当な練習もしてますよね。だからある種、求道者的な面もあるんだけど、そういう求道者には日焼けサロンに行ってほしくないんですよね、ファンは。

——ガハハハハ！

佐藤　元来ね、求道者には純であってほしいわけですよ。それなのに日焼けサロンには行く、ローションは塗る、〇〇〇〇と……でしょ？

——最後のやつはともかく（笑）。言ったら秋山の行動は全部〝反則〟ですよね。あのテーマ曲から、入場時のお辞儀から、全部反則でしょう。

佐藤　全部〝なし〟だよね（笑）。でも、だからこそおもしろいんですよ。

——乗れない要素の固まりだからこそ、逆に乗りたくなる、というか（笑）。

佐藤　やっぱり今後の日本の格闘技界を考えると、かつてのPRIDEのテーマだった「60億分の1の男を決める」とか、そういったことがなかなかできなくなると思うんですよ。だったら秋山成勲という〝異形の人〟と闘うということで燃えられなきゃ、しょうがないと思うんですよね。

存在自体が"R指定"な秋山成勲をモザイクなしで観られるんですよ!

格闘技界のエイリアン、魔王・秋山成勲。12月12日現在、まだ出場は発表されていないが、この"異形の人"が『やれんのか！』に登場したとき、どんな空気が生まれるのか？　この観たいけど観たくない刺激もまたPRIDE的なのだ。

——実際にいまはチャンピオンベルトより、「秋山の首」のほうが、ある意味価値があったりしますからね。

佐藤　ある側面においてはそうですよね。彼が登場したら、凄い熱を生むんじゃないかな。でも、そこで秋山成勲にマックシェイクを投げつけるようなのは、PRIDEファンのメンタルじゃないような気がするな。「秋山なんて見るのも嫌」って全否定することは簡単だけど……ホラー映画って観たくなるでしょう?

——ええ。怖いもの見たさですよね。

佐藤　秋山選手をモザイクなしで観られるんだから（笑）。その不安に駆られるような居心地の悪さを楽しんでほしいですよね。だから映像にも畏怖の念を込めたいんですよ。そういうかたちで秋山選手が出てきたら、見る目も変わるんじゃないかな。

——秋山選手って、さっき言ってた「ヒザから下がマシンガン」じゃないですけど、手首を取ったらそこが短刀になってて、その短刀でピュッと相手の首を簡単に斬っちゃいそうな怖さがありますよね。あくまでイメージですけど（笑）。

佐藤　ありますねぇ。『シルミド』のような、「そこまでやるか」というようなことをやってきそうな感じがしますもんね。何度も言いますけど、その違和感と恐怖感を楽しんでほしいですね。

——現時点では対戦相手は決まってませんけど、そんな秋山成勲と闘うのは、誰がいいと思いますか?

佐藤　ある意味、誰でもいいと思いますけどね。瀧本（誠）選手も因縁があっておもしろいし、一部で名前が挙がっていた三崎（和雄）選手なんかもいいと思うし。

——それが実現したら、やっと三崎に乗れる瞬間が訪れるというか（笑）。

佐藤　またそういうことを言う（笑）。でも、そろそろ三崎和雄の解析というのはしたほうがいいですよね。郷野聡寛を語る言語はできたんだから、次は三崎和雄ですよ。

——でも、三崎選手が突き抜けないのは、何が原因なんでしょうね。実力はあるし、身体もいいし、ルックスもいいのに。

佐藤　やっぱり「劇的なKO勝ち」みたいな〝映像〟を残せていないのが、ちょっと痛い部分ではありますよね。繰り返し使われるようなインパクトをまだ残してませんから。

——三崎選手で一番印象に残ってることと言えば、パウロ・フィリォに「試合では負けましたけど喧嘩に勝ちました！」って言ったことかですからね。

佐藤　それは『kamipro』だけでしょ（笑）。でも、秋山成勲みたいなのを相手にしたとき、三崎和雄っていう選手がまったく違う見え方をする可能性は充分ありますよね。

——こういうときって、誰が化けるかわからないですからね。

佐藤　確かにそうですね。カオスのときって、ミルコ・クロコップが猪木軍vsK−1で突如として怪物化していったようなことが、起こりえるんですよね。

——そして今回、一番化けてほしい人といえば青木真也ですよね。

佐藤　化けてほしいですねえ。

——すでに、この大晦日の主役は青木真也という流れにはなってきてますけどね。

佐藤　ただ、それってどのぐらいのマーケットなんでしょうか。

——う～ん、ハッキリ言って、一般視聴者にはまだほとんど知られてませんよね。

佐藤　非常に残念だけど、そうなんですよ。だからこそ、この大晦日で大化けしてほしい！

——一般視聴者はともかく、当日、さいたまスーパーアリーナに来る人のほとんどは、青木に乗ってるわけですからね。

佐藤　やっぱり青木真也は、なんかかわいいじゃないですか。そして非常に頭がいいし、調子乗りだけど空気が読める。

——かわい憎たらしいというか。

佐藤　そうそう。でも試合には凄味があって。インタビューで軽口叩きまくるけど、直しはいっぱい入れる、みたいなさ。俺に似てるよね。

——ガハハハハ！　そんな話ですか。え～、読者の皆さんにお知らせします。佐藤大輔インタビューは、毎回、原稿に直しが入って内容がかなりマイルドになっております。本当はこのテープそのままの〝無修正版〟をお届けしたいのですが、何とぞご了承ください（笑）。

佐藤　ボクはこのままでもいいんですよ。でも、笹原（圭一）さんが「ダメ」って言うんです。

——また人のせいにして（笑）。そんなことはともかく、青木真也vsＪＺカルバンですよ。どんな打ち出しで煽りますか？

佐藤　ボクはもう、さいたまに来る２万人のお客さんと、ＰＰＶ視聴者に向けてしか作りませんから、煽り方としては明確ですよね。気持ちよく乗ってもらいますよ。で、今回はおもしろいかたちでインタビューが取れましたね。インタビューって周りに誰かがいたりすると、なかなか本音で話せないものじゃないですか。

——そうですね。「インタビュー用」の言葉になってしまったり。

佐藤　じゃあ、どこが本音で話せるかなと考えて、バイクの上かなと思って、青木選手のバイクに二ケツしながらカメラ回して録ったんですよ。

「駆け抜ける青春、絡みつく純情。アイ・アム・ミスターやれんのか！」

ビッグスクーターに二ケツして、都内を疾走しながら収録された青木の煽りＶ用のインタビュー。バイクの上で1対1で語った本音トークとは、どんなものなのか？
PRIDEの試合映像が使えないだけに、独創的な新しい煽りＶに期待だ！

——それもまた破天荒なインタビューですね。

佐藤　バイクにＣＣＤカメラをいくつかつけながらね。〝疾走する青春〟な感じは出てるんじゃないかな。おもしろいですよ。

——走らずにはいられない、若者の衝動というか（笑）。

佐藤　そうそう。「駆け抜ける青春、絡みつく純情。アイ・アム・ミスターやれんのか！」みたいな！

——でも、青木選手自身、ホントに自分を「ミスターやれんのか！」だと思ってるフシがありますよね。その勘違いが素晴らしいというか。

佐藤　そうなんだよ！　青木の勘違いが気持ちいいんだよ！

——その気になって突っ走る人に、ボクらも乗っていきたいですしね。青木選手ってなんか、お祭りでふんどし一丁の子どもが神輿の上に乗って「行け～！」って叫んでるようなイメージないですか？

佐藤　ああ、そういう感じあるわ！「俺の祭りだ」って思っちゃってる子ども（笑）。その無邪気さのエネルギーと可能性が青木真也にはありますよね。

——では、青木選手の煽りＶは、おもいっきり乗れるものになる、と。

佐藤　そうですね。しかもちょっと半泣きで乗れるんじゃないかな。青木真也って、そうは言ってもリアルに苦労してますからね。この大会が決まるまでホントに不安だっただろうし。「人生の選択」すら振り返ったはずだし。そういうところもちょっと見せられたらいいですね。

——この大会を待ってるときの不安な気持ちを、ある意味、ファンと共有してたわけですからね。

佐藤　だから青木選手が言ってましたよ。「俺も待ってたけど、ファンはもっと待ってたんじゃないの？　ファンにおめでとうって言いたい」と。

——ガハハハハ！　ヤクルトの若松元監督じゃないんだから（笑）。

佐藤　「おまえ、なんのつもりだよ」ってね（笑）。あと、川尻達也がホントにいいですよ。

——ほう、川尻選手がいいですか。

佐藤　取材してみてね、ここ数カ月、一番キツい練習をしてたのが川尻選手だったんだと思いましたよ。彼ほど無骨で実直で一生懸命やる男はいなくて、その姿勢がいいなって。あとで映像見てください。けっこう泣けますから。

——それは楽しみですねぇ。石田選手はどうですか？

佐藤　石田選手はお母さんがおもしろかった！

——石田選手のお母さんが登場しちゃいますか。

佐藤　典型的な明るい茨城県民っていうかね、非常にかわいらしいんですよ！　あとで見てくださいよ、ホント。いやぁ、石田くんのお母さんいいわ！　そして石田選手本人は、去年の大晦日の巨大なる敗戦でしばらく引きこもってたんですけどね。ようやく彼に２００７年の正月が訪れるという……。

——茨城の二人は良さそうですね。

佐藤　もちろんマッハの取材も良かったですよ。五味選手と同時代感があるＰＲＩＤＥファンよりちょっと上

最後なんだから大阪に出る選手もエンディングだけでも来てほしい！

の世代というか、90年代から修斗を観ていたような格闘技ファンって、みんなマッハが好きでしょ？

——思い入れという部分では別格ですよね。

佐藤　その感覚を今回は呼び起こさせたいなって思ってるんですよ。そして、こういった格闘技界の状況において、マッハ自身もあの人なりに、やたら広い視野で見てるんですよね。「日本の格闘技をなんとかしなきゃいけない」って言ってましたから。

——あのマッハが！

佐藤　「残していかなきゃいけないよね」的なことをね。でも、そんなこと言ってる人が、この2年間に「携帯は合計10個なくしました」とか、マヌケな被害を被ってたりするんですよ（笑）。

——さすがですねえ（笑）。

佐藤　今年2月のPRIDEラスベガス大会では、吉田秀彦選手と一緒にカジノでバカラやって、200万円負けてね。そのあとは、ライト級グランプリがあると踏んで、しかも自分が優勝するもんだと思って、1300万円のベンツを買ったんですよ。そしたらベンツがオカマ掘られて廃車になっちゃった。

——ガハハハ！

佐藤　で、マッハはいま免停ですわ（笑）。そういう人が、いまどんな生活してるかというと、『SRS』で5年前に取材したときと変わらないような生活をしてるんです。巣鴨の道場と茨城の道場を行き来して、道場の事務所にある二段ベッドで寝泊まりしてる。それで「マッハさん、やってること5年前と変わらないですね」って言ったら「ハハハハ！　そういやそうだなあ」だって。

——ガハハハ！　自分が贅沢できる立場になったことに、気づきもしない（笑）。

佐藤　マッハおもしろかったなあ。そのマッハにいいことあるかなと思って、せっかく巣鴨まで来たからとげぬき地蔵に行ったんですよ。そこからがいい！　……これは試合当日を楽しみにしてください。

——マッハらしさ溢れる煽りVになりそうですね。

佐藤　対戦相手の長谷川秀彦選手もじつはいいキャラクターしてるんですよね。彼って〝遅れてきたサンボマスター〟でしょ？

——これまで時代にズレてきた男というか（笑）。

佐藤　時代遅れのサンボマスターというか、ハッキリ言って、時代が彼をスルーしてきたんでしょうね。強くていいキャラもしてるんだけど、たまたま時代に乗ってこれなかったっていうか。その長谷川選手が、このタイミングでマッハとやるっていうのは、まさに『やれんのか！』ならではだし、おもしろいカードですよね。最初の『やれんのか！』の記者会見のとき、長谷川選手がどこにいたか知ってます？

——なんか偶然、会見があったさいたまスーパーアリーナにいたらしいですね。

佐藤　いたんですよ。呼ばれてないのに。ちょうど、さいたまスーパーアリーナの施設内にあるゴールドジムで、サンボを教えてたんだって。

——ガハハハハ！　出場予定選手なのに会見に出ずにサンボを教えてましたか。

佐藤　話によると「今日、会見あるんですか？」なんて言って、資料を見せたら出場予定選手欄に自分の名前が入ってて、ビックリしてるんですよ。本人までまだ連絡が行ってなかったんですよね。それなのに、ちょうどさいたまにいるんだから、おもしろい男ですよ。ま、選手に関して言えることは、現時点では、これぐらいですかね。

——あと、みんなが期待してるのは、どんなオープニング映像になるか、ですよ。

佐藤　それはネタばれになっちゃうんで、多くは言いません。でも、絶対に盛り上がりますよ。泣けて笑えて興奮できてっていうものにしますから。今回は、ある意味ファンの皆さんが主役ですからね。とにかく一緒に盛り上がりたいです。じつはボク、会場でPRIDEを観たことってほとんどないんですよ。

——そうなんですか⁉

佐藤　ええ。いつも中継車の中にいて、カメラのスイッチングの指示をしたり、放送席に指示を出したりしてるんで。だから、会場でボクのVTRが流れて、客席がワーッてなってるのも、ほとんど聴いたことがないんですよ。

——それは意外ですねぇ。じつは佐藤大輔自身は、あのPRIDEの空気感の中にいたことがない、という（笑）。

佐藤　そうなんです。でも、今回は最後なんで、中継車には乗らないことにしました。ほかのディレクターにそれは任せて、ボクはビデオカメラ片手に、客席を撮りますから。

——「あなたの席に私が行きます！」と。

佐藤　カメラを持って行きます！　2階のA席に行きます！　その映像をどこで使うかはお楽しみに（笑）。あと、イベントのエンドロールには、これまでPRIDEに関わってくれたスタッフの名前を全部入れますよ。いまは袂を分かつことになったテレビ局のスタッフの名前も全部入れますから。

——なんでですか？

佐藤　だって、その人たちみんながあのリングを作ったわけだから。「スペシャルサンクス」というかたちだったら、問題ないでしょ。『やれんのか！』のエンディングっていうのは、グランドフィナーレの空気を出したいんですよ。だから以前、PRIDEに出場してた選手もみんな来てほしい。それこそ、同じ日に京セラドーム大阪に出る人にも、エンディングだけでいいから来てほしいですよ。

——少年漫画でも、最終回は全員集合がお約束ですからね（笑）。

佐藤　そうですよ！　「えぇ～⁉　そっちでいいの？」ってことですから。みんなが待ってるんだから。来る手段なんて、いくらでもあると思うんですよね。最後ぐらいみんな集まりましょうよ。そして、最高のPRIDE〝散開〟にしたいですね。

——では、『やれんのか！』の煽りVおおいに期待してます！

佐藤　皆さん、さいたまスーパーアリーナでお会いしましょう！

【07年12月9日／港区青山・佐藤映像にて収録】

さとう・だいすけ■1974年、東京都出身。慶応義塾大学卒業後、97年にフジテレビ入社。スポーツ局でPRIDEシリーズ、『SRS』、『ジャンクスポーツ』、『F1GP』などの番組を手がける。PRIDEの選手紹介の煽りVのクオリティはファンから“神”と呼ばれるほど。昨年10月31日付でフジテレビを退社し、独立。現在は株式会社佐藤映像代表。

アントン&ドラゴン愛憎劇の〝破片〟が歴史を越えて復活!

「やれんのか!」とは何か?

本誌独占企画!!

協力/ユリオカ超特Q

「じゃあ、力でやれよ、力で」

すべてが

一夜限りの大晦日イベント『やれのか!』の開催が発表されて早1ヵ月。いまとなっては、「やれんのか!」という言葉が業界ないしはファンのあいだで日常茶飯事のように使われているが――、そもそも「やれんのか!」とは、いったいどんな由来があるのだろうか。

『やれんのか!』開催発表記者会見で実行委員会の笹原氏も説明していたが、最近の読者に向けて改めて解説すると、じつはこの名言、マット界の歴史に残る一大事件「飛龍革命」におけるアントニオ猪木の言葉なのである!

我らがドラゴンこと藤波辰巳(当時)がアントンに反旗を翻したことで知られる飛龍革命だが、事が起こったのは1988年4月22日、沖縄・奥武山体育館で行なわれた、アントニオ猪木&藤波辰巳vsビッグバン・ベイダー&マサ斎藤戦後の控室でのこと。この日、ベイダーの反則負けという結末で猪木&藤波組は勝ちを拾ったのだが、ひさびさの黄金タッグとは思えぬ押されっぷりに、リング上はまるで二人が惨敗したかのような空気に満ちていた。そして、その試合後、リング上で何もできなかった不甲斐なさから、ドラゴンがアントンに深々と頭を下げると

「じゃ、やらせてくださいよ。いいですか!? やりますよ!」

ここから
始まった!?

ころから、控室のシーンはスタートする。

藤波 ありがとうございました(と言って、頭を下げる)。

猪木 ……(じっとドラゴンを見る)。

藤波 ベイダーとやらせてください!

猪木 え!?

藤波 ベイダーとシングルでやらせてください!! 今日、ボク何もやってないです!

猪木 ……(再び、ドラゴンをじっと見る)。

藤波 もういいかげん許してください!(※意訳すると、アントン天下の新日本プロレスの現状から解放してください、の意だと思われる)。もう自分の思うことやります、まっすぐ! お願いします。ハッキリ言ってください。猪木さん、東京と大阪と2連戦、(いまの猪木さんでは)ムリですよ(※近日に控えた4・27大阪大会と5・7有明大会の猪木vsベイダーの2連戦のこと)。ハッキリ言って、オレ、自分が今日(負けて)言える立場じゃないけど、オレらはなんなんすか? オレらは!?

[沈黙の時間が8秒間]

猪木 本気かい? えー?

藤波 ほ、ほ、本気です!(うなずきながら)。

猪木 命懸けられるか、命を……。勝負だぜ、おまえ!?

藤波 (※アントンがトップを取り続けている状態が)もう何年続いてる、何年これが!!(手を広げてアピール)。

猪木 だったらブチ破れよ。なんでオレにやらせんだ、おまえ。

藤波 じゃ、やらせてくださいよ、いいですか!? やりますよ! オレ、大阪で!!

猪木 あ〜? オレは前から言ってる、遠慮なんかすることねえって。リングの上は闘いなんだからよ。先輩も後輩もない! 遠慮されたら困るんだ。なんで遠慮すんだ、おまえ?

藤波 遠慮してんじゃないすよ。これが流れじゃないですか! これが新日本プロレスの!! えー、そうじゃないですか?

猪木 じゃ、力でやれよ、力で。

藤波 (即答して)やりますよ!

猪木 ああ!? やれんのか! ホントにおまえ! えー!?(と、ここで突然立ち上がり、ドラゴンにビンタ!)。

藤波 (すかさず強烈なビンタをアントンにお返し!! そして……)★※△■◎☆※▼★※△!!(と、何を言っているかはわからないが、とにかくアントンに何かを必死に訴える!)。

猪木 (ビンタを受け、若干ふらつくアントン)。いけるか!? ええっ!?(と言って、ドラゴンの首元を左手でつかむ)。

藤波 (アントンの手を振り払い、何を思ったか、救急箱の中からハサミを取り出す)やりますよ、やりますよ(と言いながら、なんと自分の前髪をチョキチョキとカット!)。

猪木 待て待て待て(ドラゴンの暴走髪切りに慌てふためくアントン)。

藤波 ……(アントンを通り過ぎて振り返り)こんなのやってもお客さん喜びますか!?(こんなの)お客さんちっとも喜ばないすよ。これ、オレ負けても平気ですよ。負けても本望ですよ。これでやるんだったら!

猪木 (ドラゴンの暴走髪切りに困惑しながら)やれや、そんなら。

藤波 やります!

猪木 ああ。

藤波 見てください!

猪木 オーケイ。オレはなんも言わんぞ。もう、やれ。その代わり……。

藤波 やります。

以上が、歴史的な控室でのやりとりの全貌である。

ピリッと張りつめた空気が文字からも伝わってきそうな会話だが、ここにある、アントンのビンタ発車3秒前に言い放った「やれんのか!」こそ、今年の大晦日に旧PRIDEスタッフが一大決起して開催を実現させた『やれんのか! 大晦日! 2007』の由来だったのだ!

こうしたアントンとドラゴンの愛憎劇が歴史を越えてよみがえるという輪廻——。大晦日に復活した「やれんのか!」という言葉は、アントン&ドラゴンがビンタを張り合う情熱、また無造作に髪を切ってアントンを慌てさせるほどの決意がなければ、決して使えない〝魂の言葉〟だったのだ!(適当)。というわけで、読者の皆さんも何か決意を表わすときは、前髪を申し訳程度に切りましょう!! やれんのか!

大連立の立役者！

サダハルンバ

おまえ、男だ！

絶賛"ベビーターン"中のFEG代表

谷川貞治

マット界大同団結、ついに実現〜ッ！"器の大きさ無限大"であるサダハルンバの心意気により、旧PRIDEスタッフをはじめ他団体との大連立がかない、今年の大晦日は"夢の交流戦"が、さいたま、大阪両方で行なわれることに！　凄いぞ、サダハルンバ!!　そして、来年以降のマット界についてもちょっとだけうかがってみたのだが——。"男の中の男"サダハルンバの脳内に潜む大晦日、そして今後の構想とは!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／平工幸雄

11月29日の『やれんのか！』カード発表記者会見で髙田統括本部長とガッチリ握手したサダハルンバ。ご挨拶代わりに「（谷川さんの）いまの熱いプロポーズが口先だけじゃないことを願ってます」と、髙田に冗談を言われたのが嬉しかったのか、「自分は髙田に好かれている」と、サダハルンバはすっかり信じ込み、ウキウキしているのであった。

『Dynamite!!』をさいたまで開催する可能性もあったからさあ

――谷川将軍様！ PRIDE吸収、おめでとうございます!! ついに念願の日本統一ですねぇ。

谷川 （あわてて）んあ～!! ちょ、ちょっと待ってよ！ 吸収じゃない、吸収じゃな～～い！（汗）。

――何をおっしゃいますやら（しらじらしく）。ロレンゾ・フェティータがあれだけ大金を投じてもどうにもできなかったPRIDEの世界観を、今回の大連立で将軍様が手中に収めたというのに（笑）。

谷川 カンベンしてよぉ～！ 今回の話はそんなんじゃないんだからっ。それにボクはいま『ハッスル』用語でいうところの、いわゆる〝ベビーターン〟の最中なんだよ。だから、そういう不適切な発言はホントに困るんだよなあ！

――ダハハハハハハハハ！ 〝ベビーターン〟って、自分で言いますか！

谷川 だって、ファンのあいだでボクの株は急上昇中なんでしょ？

――はい。見事に〝ナベ底不況〟から抜け出しております（笑）。

谷川 だからへんなことを言わないで、もう、へんな噂が立ったらせっかくのコマーシャル出演依頼も来なくなるんだから！

――そういえば、またコマーシャルに登場してましたね。

谷川 凄いでしょ！（得意げに）。

――前回の「これは驚きだ！」に続いて、今回も谷川さんの名演技っぷりに本当に感服しましたよ。

谷川 ウフフフフ。それは嬉しいなあ。でもさあ、これだけはどーしても悔しいんだけど、じつはボクより武蔵選手のほうが演技がうまいって評判なんだよねぇ（複雑な表情で）。

――確かに武蔵選手といえば、深夜の通販番組で演技がうまいと評価されていたらしいですね。

谷川 そう！ うまいんですよ、武蔵選手は。だってボク、完成したコマーシャル観て「チクショー!!」と思ったもん！

――役者魂が燃え上がりましたか（笑）。ま、そんな話はともかく大晦日です！ 以前から谷川さんは（佐藤）大輔さんを含む旧PRIDEスタッフのイベント制作能力を高く評価してましたよね。

谷川 うん。スタッフはかなり優秀だと思うし、何より情熱が凄いですよ。それは彼らがPRIDEをやってるときからずっと思ってました。

――でも、大連立したとはいえ、大晦日に向けてまだまだクリアしないといけないこともたくさんあるとか。

谷川 いっぱいある！ だって、前田（日明『HERO'S』スーパーバイザー）さんともちゃんと話はしてないし。

――んあ～!? 大連立の件について前田さんに連絡はされてないんですか？

谷川 いや、ちゃんとメールは送ったんだよ！ まあ、大連立のことは前から話してはいたんですけどね。「そういう方向に向かっておりますので、くれぐれも発言にはお気をつけくださいませ」って。

――「PRIDE？ ざまあみろだね！」が二回続きましたからねえ。まあ、三度目の正直と言いますし（笑）。

谷川 んあ～！ 大丈夫かなあ。

――で、PRIDEの日本事務所が閉鎖されたのは10月上旬ですよね。それ以前に旧PRIDEスタッフと「一緒に何かをやろう！」というお話をされてたんですか？

谷川 それはまったくないですね。最初にアプローチしたのはPRIDEの日本事務所閉鎖後、彼らが押さえていた大晦日のさいたまスーパーアリーナを使えるかどうかって聞いたことなんです。空いてるんだったら『Dynamite!!』をやる可能性もあったので。

――でも実際は、今年も京セラドーム大阪での開催になりましたね。

谷川 そう。京セラドームさんに自分たちの都合で返事を待ってもらうのも申し訳ないし、「早めに答えをください」ということを言われてましたから。だから、結果的には旧PRIDEスタッフからの返事が間に合わなかったということになりましたね。

――ところがそれがきっかけで今回の大連立にまで発展した、と。

谷川 うん。旧PRIDEスタッフから「一夜限りのイベントをやりたい」という話をあとからされて。いろいろ話をしているうちに、FEGも主催に加わって選手を出して、TBSさんでの二元中継も含めてチャレンジしてみようということになった

ボクらが手を緩めたら日本から総合格闘技はなくなると思います

んだよね。
——この格闘大連立にGOサインが出たのはいつぐらいなんですか？
谷川　えーっと、決まったのはわりと早かったなあ。ただ、お互いに周りを調整するのに時間がかかったという感じですか。
——ズバリ見切り発車！　だったと。
谷川　いまだに見切り発車だよお。話を聞いて驚いた関係者も多かったと思いますし、FEG視点で言えば、本当にTBSさんやスポンサーさんも驚いてましたよね。あと旧PRIDEスタッフの人たちは「K—1、ブッ潰す！」という教育をされてきたと思うんで、戸惑ったんじゃないかなあ。
——ちなみに、谷川さんはFEGで「PRIDEなんか、ブッ潰しちゃえ〜〜〜！」という教育はされてきたんでしょうか？（笑）。
谷川　ボクはそんなこと言ったことないよお！　物騒だなあ、もう。
——でも、FEGにも複雑な思いをしている人はいますよね？
谷川　まあ、ゼロではないと思いますけど、やっぱりいろんなことを考えたらメリットのほうが高いんですよ。このままどこの団体もバラバラでやっていると、総合格闘技もプロレスやキックボクシングや極真空手みたいに団体が細分化して、最終的にはチャンピオンの権威や価値が薄らいじゃうような感じになっちゃったり、どの団体にもテレビがつかないということが起こる可能性が高いわけじゃないですか。そういう意味では、テレビとスポンサーがちゃんとつく総合格闘技をどこかがやらなくちゃいけないんで、いまこそ力を結集しないといけないなって。
——いがみ合ってる場合じゃないですよ、と。
谷川　犠牲になるのは、いつもファンと選手ですからね。プロレスのイザコザを見てもそうでしょ。ホントにプロレス団体って学習能力がないですから！（キッパリ）。
——ホントそうなんですよね（笑）。一方でFEGはK—1やK—1 MAXも主催してますよね。それと比べて『HERO'S』の運営は難しい現状はあったりしますか？
谷川　金銭的には無理してますね。第一、スポンサーが総合には凄くつきにくいですから。そこはK—1と全然違う。
——それなのに、選手のギャラは総合のほうがはるかに高いんですからね。
谷川　それはコンペティターがたくさんあるからしょうがないんだけど。たとえばテレビの話にしても、K—1がいま世界135カ国で放送されていて、じつは来年から約170カ国で放送されることになりそうなんですよ。でも一方で、総合はなかなか放送してくれないんだよねえ。
——それは何が原因なんですか？
谷川　やっぱり総合はいまだにバイオレンスだと思われてる部分があるからでしょうね。まあ、アメリカはその中でも凄く理解がある国なんですけど、あそこはUFCが独占してて入り込む隙間がないし。だからアメリカの場合は、最初は自分たちで放送枠を買わないとダメですからね。『Dynamite!! USA』もこっちがお金を払って放送枠を買いましたから。で、PPVで元を取ろうというシステムで。
——そこまでして谷川さんがMMAイベントを続けているというのは、何かしら将来性を見据えてのことなんですよね。
谷川　それもありますけど、総合格闘技ってボク自身もやっぱり好きなんですよ。だって、ジャンルとしておもしろいじゃない。それにここでボクらが多少なりとも『HERO'S』に対して手を緩めたりしたら、日本から総合格闘技はなくなると思いますよ（キッパリ）。少なくとも、お金を使ってまで運営する団体はなくなる。
——競技としては細々と残るんでしょうけど、文化はまったく途絶えるでしょうね。それはゾッとしますねえ……。
谷川　そんなの寂しいでしょ！　サクちゃんとか、KIDくんとか、トップファイターですら引退したあとにぜんぜん食えないってことになりかねない。ファイトマネー30万円の世界チャンピオンだって平気で出てきますよ。
——実際、ほかのジャンルはそういう状況のところもありますし。
谷川　だから、そうしないための大連立だし、さいたまで〝店じまいのイベント〟をやるんだったら、できる限り夢のあるマッチメイクができるようにボクも協力したいと思ってるんですよ。
——今回の連立って、谷川さんの中では、二元中継という大仕掛けが実現できることもあっての行動なんですか？
谷川　えーっと、二元中継が実現できるからというか、できると信じて動いてます。ボクらとしてみれば、『やれんのか！』からギャラがもらえるわけじゃないんですから、なんとかやっていただきたいんだけどなあ。
——どうにかして還元しないといけない。その最大の方法である二元中継が実現しなかったら、『Dynamite!!』の同日の格闘技イベントに協力している場合かっていう話で、も凄くリスキーですよね。ボクは谷川さんがここまでやるからには、じつはもう二元中継は内定していると思ってたんですけど。
谷川　これはね、本当に内定してないです（12月12日時点）。京セラドームで『やれんのか！』が観られるのは確定してますけどね。
——それは会場のビジョンで映像を流すということですか？
谷川　そうそう。だから、『Dyna

FEGとの対抗戦が実現するのは『やれんのか！』だけではない！　12月11日の『Dynamite!!』カード発表記者会見では、旧PRIDEファイターから、ハンセン、西島洋介、さらにはあのズールの出撃も決定！

今回、衝撃の『Dynamite!!』デビューをはたすことになるズールだが、昨年、曙さんを見事アームロックで下したジャイアント・シルバ同様、『Dynamite!!』出場になんの違和感もないから素晴らしい。しかし、ミノワマンvsズールの煽りVを佐藤大輔氏が手がけられないことだけは、じつに心残りである。

mite!!』の試合があるかたわら、青木vsJZカルバンも観られますよ〜。『やれんのか！』の会場で『Dynamite!!』が観られるかどうかは旧PRIDEスタッフの判断次第なんですけどね。

——じゃあ、谷川さんとしては、あとは二元中継を是が非でも実現させるのみですね

谷川　これはね、もう突っ走るしかない!!（鼻息荒く）。

——大博打ですねえ。

谷川　ホントだよお！　ギリギリまでTBSさんと交渉して、ファンのためにもなんとか放送してもらえるようには努力します。ああ、なんとかしなくちゃなあ〜。

——期待してます！　それで話は変わりますが、先日のカード発表記者会見ではひさびさに髙田（延彦）本部長とご一緒されましたよね。

谷川　うん。髙田さん、ボクのこと好きだよね！（目をランランと輝かせながら）。

——ダハハハハ！　そうなんですか？（笑）。

谷川　明らかに好きだよお！　ボクも髙田さんのこと好きだけどね。なんか波長が合うんだよなあ。

——谷川さんは誰とでも波長を合わせられるような気がしますけど（笑）。ひさしぶりにお会いして、どうでした？

谷川　じつは会話はあんまりしてないんですよね。控室で「髙田さん、テレビたくさん出てますねえ！」って話したくらいで。

——なんか、ファンみたいですよ、谷川さん（笑）。その髙田本部長も含めて、もし二元中継が実現した場合って実況と解説はいったいどうなるんでしょう？

谷川　それは別々でしょうね。さいたまはさいたまで映像は佐藤大輔プロデューサーが考えるだろうし、TBSはTBSで『Dynamite!!』のプロデュースをするでしょうし。

——谷川さんは大阪ーさいたま間を移動したりはしないんですか？　『Dynamite!!』は15時開始で『やれんのか！』は20時開始だから、ギリギリ間に合いそうですよね。

谷川　それ、やりたいんだよなあ〜！　調べたらね、ヘリを使えば40分で着くらしいんですよ。

——だったら絶対にやるべきです！　谷川さんには『やれんのか！』の花道をさっそうと歩いてほしいですよ！

谷川　だよねえ！（身を乗り出して）。もう、サクちゃんも一緒に連れて行こうかなあと思ってるんだけどさ!!

——それはおもしろいなあ。「ただいま、桜庭選手と谷川さんがヘリでさいたまに向かっております！」とか実況しながら。

谷川　そういえば、サクちゃんで思い出したけど、この大連立がもっと早い時期に決定していたら、ボクね、榊原元代表が最後に言ってた桜庭vs田村の試合をやりたかったんだよね。

——ああ、まさにうってつけの舞台ではありますよね。

谷川　でも、まさかこんなことになると思ってないし、PRIDEが再開できないということを聞いたときから、大晦日は桜庭選手と船木選手をやろうと決めちゃったんですよね。それに二人とも闘う気持ちになってたしね。

——ホントに急な話でしたから。大晦日興行を一緒にやるうえで、旧PRIDEスタッフとの連携に支障はないんですか？

谷川　あんまり説明がいらなくていいですね。やっぱり、この仕事のことをよくわかってるから。

——一緒に仕事をするのは03年の春くらい以来だから、本当にひさしぶりですよね。

谷川　うん。でも、ホントに意思疎通が簡単だし、「え？　こういう考え方をするの」って驚くこともあんまりないんですよ。

——FEGにはFEGの色があって、DSEにもDSEの色があって、それはまったく相反するもののように見られることもあったと思うんですけど、根本的な思考回路は変わらないということですか。

谷川　そうですね。この業界にいても、言葉が通じない人って多いんですけど、彼らと話をしてもあんまり違和感がないんですよね。きっと向こうも同じ気持ちだと思いますよ。

——ただ、今回の大晦日に関しては、コアなファンからすると、『Dynamite!!』ではなくどうしても一夜限りの夢舞台となる『やれんのか！』に注目しがちになると思うんですけど、主催者としてそのあたりにジレンマみたいなのはないですか？

谷川　それは何も思ってないですよ。だって交流戦が実現することは全然いいことだと思うし。それに大阪だっていいカード組みますからね。旧PRIDE勢から凄い選手が来ますから。ウフフフ。

——あ、谷川さん好みのモンスターが出るみたいですね（笑）。

谷川　ズールが出ますよ！

調べたら、ヘリで40分らしいんですよ だから、サクちゃん連れて行こうかなあって

02年12月31日『猪木祭り』にて、「オレはスネている。スネたついでにスネ相撲はどうだ」と名調子で"有志"を誘い出すアントン。このときリングに上がったのが、現・宮崎県知事・東国原氏だったのだ！　ついでに言うと、このとき浅草キッド、サスケ、そしてサダハルンバの天敵である島田裕二も登場していた。

榊原体制最後のPRIDEとなった『PRIDE.34』では、"器量の大きさ無限大"であるサダハルンバの心意気もあって、桜庭和志がリングに登場！　残念ながら、今回の『やれんのか！』が"夢実現の舞台"とはならなかったが……、それならば少なくとも桜庭にはサダハルンバとともにヘリで大移動してきてほしい！

――んあ〜！（笑）。カルバンが『やれんのか！』に出るのは違和感なかったんですけど、ズールも『Dynamite!!』に違和感ないですよね。しかし、世の中、うまいことできてますね（笑）。

谷川　できてる、できてる！（興奮して）。

――谷川さん好みといえば、曙さんの動向も気になりますが……、噂されているとおり、曙さんは『ハッスル祭り』ですか？

谷川　ちょっと『ハッスル』のことはわからないんだけど、横綱は総合格闘技に対するモチベーションは、ボクが見る限りゼロですね！（キッパリ）。

――ホントに『ハッスル』にのめり込んでるんですよ。『Dynamite!!』にムリヤリ出したら、グレかねない（笑）。

谷川　へえ〜、そうなんだ。ただ、『ハッスル』だけは数字（視聴率）が読めないんだよなあ。他局はどれもおもしろそうだし、なんとなく数字も読めるんだけど。……あ、でも今年の紅白はダメですね！

――ダメですか（笑）。その大晦日ももちろん楽しみなんですが、来年以降、旧PRIDEスタッフたちと何か一緒にやっていくという考えってあるんですか？　大連立したいまだったら、来年はいろんなことが実現するんじゃないかって思うんですけど。

谷川　実際、凄いことがいろいろ実現すると思いますよ！

――しますか！

谷川　UFCはともかく、『やれんのか！』と『M−1グローバル』の関係とか、ボクらとエリートXCの関係とか、そういうの含めていろんなことができると思いますね。でも、UFCとの関係も悪くないなとボクは勝手に思ってるんですけど。

――じゃあ、UFCとも手を組んで何かをやりたいくらいなんですね。

谷川　ええ。ちなみに、ボクがUFCでほしい唯一の人材はダナ・ホワイトだけですけどね。

――ほしいのはダナ・ホワイトだけ！

さすが谷川さん！（笑）。

谷川　一番ほしい！　ランディなんとかというチャンピオンはまったくいらないんだけどさぁ。

――ランディ・クートゥアーです（笑）。

谷川　来年以降を妄想すると、ボクはとにかく総合格闘技のファン、いわゆるPRIDEファンがおもしろがれるものを作ることがまず基盤です。やっぱり彼らには熱がありますから、そういう意味では『HERO'S』も含めて大改革してもいいと思うんですよ。

――たとえば、新しいイベントを立ち上げてもおかしくないと？

谷川　それくらいの覚悟はあるということですね。とにかく新しいものをもう一回作って、いまの財産を受け継ぎながらパワーのあるイベントを作っていきたいなって。PRIDEがなくなってよく言われたのは、『HERO'S』の天下ですね」ってことなんだけど、ボクは全然そうだとは思えなかったですし、格闘技が衰退するだけですからね。

――雑誌の世界でも同じなんですよね。ライバル雑誌がなくなっても、その購読者がそのままそっくり移るわけじゃないですし。

谷川　だから、やっぱりいまあるものとは別に、新しいうねりを作らないといけないですよ。

――ただ、心配なのが谷川さんと島田（裕二）さんの険悪な関係なんですけど……（笑）。

谷川　あ、それはまだしこりがあります!!（キッパリ）。

――ダハハハハ！　まだありますか!?（笑）。

谷川　最近も偶然会ってさあ。一度、プロ野球のトライアウトの視察に行ったんですけど、そこになぜか島田がいましたね。『ハッスル』も選手をスカウトするのかなんなのかわからないですけど。知らんぷりしてたら、向こうから突然「よう！　元気ぃ？」みたいな感じで声かけてきやがって！

――挨拶してきやがりましたか（笑）。

谷川　そう！　だから「キミとは和解はできない！」ってハッキリ言ってやりましたよぉ！　でも、そしたら「そんなちっちゃいこと言ったらダメだよ〜」とかなんとか言われてさあ。それでまた「ムカッ！」っときたんだよね〜!!（怒）。

――ダハハハハ！　じゃあ、大連立は実現しても、島田さんと手を取り合うことは、まだまだ遠い未来の話なんですね。

谷川　遠い、遠い！　もお、アイツとの和解だけは絶対に実現不可能なんだから!!

――ちなみになんでそんなに仲が悪いんですか？

谷川　もう細かいことの積み重ね!!

――ダハハハハ！　それで連立が崩れても困りますけどね。谷川さんにはやってもらいたいことがたくさんありますから。

谷川　そうなんだよねえ。島田なんて放っておいていろやんなきゃ！　このままだと総合格闘技がなくなっちゃうよ〜!!

――なんか、東国原知事みたいになってきましたね。「どげんかせんといかんですよ！」って（笑）。

谷川　ホント、どげんかせんといかんですよ！　あ、そういえばさあ、東国原知事って02年の『猪木祭り』に出てるんだよね？　ボク、全然知らなかったんだけど。

――それって、もしかしていまや伝説になっているアントンのスネ相撲じゃないですかね。

谷川　たぶん、そうだった。浅草キッド&東国原知事vsアントニオ猪木でスネ相撲してましたよ。それ聞いて、『Dynamite!!』にも来てくれないかなあって思ったんだよねえ。ねえ、誰か宮崎県出身の選手、知らない？

――知りませんけど、なぜですか？

谷川　宮崎県出身の選手を出せばさ、"東国原知事からの刺客"として売り出して、本人が応援に来るかもしれないじゃない!!　これは話題になるぞぉ！

――大連立時代になっても谷川さんは変わらないなあ（笑）。よっ、サダハルンバ！

【東国原知事の紅白審査員出場が発表される一日前の07年12月9日／都内・某ホテルにて収録】

たにかわ・さだはる■1961年9月27日、愛知県出身。格闘技専門誌『格闘技通信』『SRS・DX』などの編集長を務めたのち、K-1イベントプロデューサーに。このたび旧PRIDEスタッフが開催を発表した『やれんのか！』には主催として携わり、格闘大連立を実現！　いま最も"株を急上昇"させている、ナスダックも見逃せない大注目人物である。

UFCでほしい唯一の人材はダナ・ホワイトだけですけどね

米国版サダハルンバ改め佐伯繁!?
“大連立”のキーパーソンが語る世界戦略

モンテ・コックス

MONTE COX M-1GLOBAL CEO

「今回の“大連立”は世界規模のUFC包囲網になるよ!」

“人類最強の男”エメリヤーエンコ・ヒョードルを派遣し、大晦日の『やれんのか!』への全面協力を表明した、新団体『M−1グローバル』。今回の“大連立”に加わった背景には、どんなプランがあるのか? 『M−1グローバル』代表で、アイスクリーム大好きなモンテ・コックスCEOに“大連立”の狙いを聞いてみた。

聞き手/堀江ガンツ

——先日はモンテさんを取材で捕まえるために、何度も電話して、すみませんでした（笑）。

モンテ　ハハハハ、クレイジーだったよ、あのときは。インタビューは受けたかったけど、スケジュールがタイトでなかなか時間が作れなくてね。そしたら、ガンガン電話がかかってくるんだから（笑）。

——やはりモンテさんおよび、『M−1グローバル』の動向は、いまの格闘技界の中でもとくに注目されてますからね。なんとしても捕まえたかったんですよ。

モンテ　まあ、なんとかインタビューに答えることができてよかったよ。でも次は、ちゃんと食事でも用意して、余裕のあるインタビューをセッティングしてくれよ（笑）。というか、私が代表になったからには、取材に関してそういうトレンドを作っていきたいね（笑）。

——次からはそうさせていただきます（笑）。で、今回は、まず大晦日の『やれんのか!』に協力することになったきっかけを教えていただけますか?

モンテ　OK。いろんな理由があるけれど、一番はヒョードル自身の希望だよ。彼のほうから、「どうしても、もう一度、日本で闘いたい」という申し出があった。しかし、『M−1グローバル』としては、当初はこの大会にヒョードルを出すべきかどうか決めかねていたんだ。やはり、ヒョードルの最初の試合は、来春アメリカで開催する『M−1グローバル』のオープニングイベントでやるべきだ、という気持ちが強かったからね。

——そりゃそうですよね。せっかく大金使って獲得したヒョードルを、なぜ旗揚げ前にほかのイベントに貸さなきゃいけないんだって話ですからね（笑）。

モンテ　だろ?（笑）。でも、最終的にはヒョードル自身の強い希望があったこと、それから今回のイベントは、たくさんの団体が一緒になって協力して作るイベントだと聞いたので、それならばぜひ、『M−1グローバル』としても参加したいと思ったんだ。

——それは、来年以降も『M−1グローバル』がほかのイベントと協力しながらやっていきたいからですか?

モンテ　そのとおり。私たちは、今回の『やれんのか!』のようなイベントをアメリカでやりたいと考えていたんだ。自分たちだけでやるのではなく、ほかの団体と協力して、より素晴らしいイベントを作り上げる。それは協力者が多ければ多いほど、いいものになる可能性があるからね。

——それは逆に言えば、UFCという大きな団体に対抗するには、ほかの団体と力を合わせるしかない、ということでもありますか?

モンテ　まさにそのとおりだね。UFCは確かに強大で、この業界の“一人勝ち”と言ってもいい存在だけど、力を合わせればUFCに対抗できるんじゃないかと考えている。そもそもUFC以外の団体はみな、この業界をより発展させるために、力を合わせようとしているんだ。ところがUFCだけは、ほかを潰して“独占市場”にしようとしている。MMAというのはいまや世界中に広まりつつあり、一企業が独占できるようなジャンルではないというのにね。

——では、今回の“大連立”はUFC包囲網でもある、と。

モンテ　そうとも言えるね。これをきっかけに協力の輪をもっと世界規模に広げていきたいよ。

——ところで、今回晴れてヒョードルの『やれんのか!』参戦と『M−1グローバル』の協力が正式に発表されたわけですけど、その前はロシアの『M−1ミックスファイト』公式サイトでヒョードルの大晦日出場が発表され、アメリカの『M−1グローバル』側がそのウワサを否定するような“騒動”が続いていましたよね。どうしてそのようなすれ違いが生じてしまったのですか?

モンテ　私たちの組織は、立ち上げてからまだ8週間しか経っていないんだ。それゆえに、まだコミュニケーションが不足している部分があって、結論を出すのに時間がかかってしまった。だから、今回の件についても、何度かアイデアが変わることがあったし、それは今後改善していかないといけないことだね。

――『M―1グローバル』の中にはトップがたくさんいて、しかも国が離れているわけですからね。

モンテ　確かに言葉の違いは大きいね。全員が英語を話せるわけではないし、全員がロシア語を話せるわけでもない。ただ、私たちはいま、こういった言葉の壁を乗り越えようとしている。確かに、私たちの中には、このビジネスで経験を積んで、成功を治めた人がたくさんいるけれど、この『M―1グローバル』のオーナーが私を代表として選んでくれた以上、私が導いていくわけだし、これからはもっと私が管理していくようにしたいと思っているよ。

――では、今後もたぶん重要な局面で、いろんな意見の相違というのが出てくると思うのですが、それをトップとしてどうやって解決していきますか？

日本でのテレビ放映に影響力を持った人物と有意義なミーティングができたよ

モンテ　意見の相違というのは、コミュニケーションで解決できる問題だよ。それに、優秀な人間がいろんな国から集まれば、そこで議論が起こったり、ときには意見の対立があるのはあたりまえのことさ。そういった議論の中から、正しい道というものは導き出されるのだと思うしね。だけど、一つ注意しなければいけないのは、そういった議論を公の場に持ち込まないことだね（笑）。

――ホームページで突然発表したりしないことが重要だ、と（笑）。

モンテ　ロシアのM―1サイトには、このところ驚かされっぱなしだからね（笑）。

――ダハハハ！　では、『M―1グローバル』は旗揚げ戦の日程もまだ決まってませんが、それも意見の相違があったりしますか？

モンテ　そんなことはないよ。当初は、ヒョードルの試合間隔があまり空いてしまってもいけないから、2月に大会を計画していたけれど、大晦日のイベントが決まったことで、それほど急ぐ必要がなくなったんだ。だから、いまはテレビの契約を結ぶために頑張っていて、その契約が決まり次第、旗揚げ戦の日時を発表できると思う。おそらく、3月ぐらいにやることになるんじゃないかな。

――そのアメリカでの旗揚げイベントでは、日本の『やれんのか！』スタッフにも協力を要請しますか？

モンテ　まだわからないけど、その可能性は低いね。旗揚げ戦はアメリカで開催するわけだから、我々が今回ほしいのは、アメリカで知られたファイター。だから、そういったファイターを抱えているアメリカの団体に協力してもらおうと思っている。

――現地では、現地の協力者が必要だ、と。では、日本のスタッフとの関係は、来年、『M―1グローバル』が日本で予定しているイベントに協力してもらうというものになるのでしょうか？

モンテ　いまの段階では、それはまだ時期尚早だけど、日本では来年、2大会の開催を予定しているので、それに協力してもらえればと考えているよ。まだ具体的な話はしていないけどね。

――2大会ということですけど、その時期はいつになりますか？

モンテ　夏頃にはやりたいと考えていたんだけど、来年の夏は北京オリンピックという世界的に大きなイベントがあるので、その時期は避けたいと思って、いま検討しているところなんだ。年末までにはぜひ、日本で『M―1グローバル』の大会を開きたいね。

――その際は、日本の各団体から選手派遣を要請するわけですか？

モンテ　もちろん、お願いしたいと思っているよ。日本でイベントを行なうには、日本人のスター選手が不可欠だからね。まずは今日の会見で一緒に座っていた人たちに協力をお願いすることになるね。

――ヒョードル選手は、『M―1グローバル』をPRIDEの後継団体にしたいと言っていたんですが、モンテさんも日本のPRIDE人気を『M―1グローバル』が引き継ぎたいと考えていますか？

モンテ　そうだね。MMAビジネスにとって日本は大切なマーケットだからね。私もマネージャーとして、何度も日本に来ているから、そのあたりの事情はわかっている。日本でイベントを開きたいと思うのは、至極当然なことだと思うよ。

――日本で大会を開催するということは、日本でのテレビ放送も考えている、と？

モンテ　もちろんそうだね。簡単なことではないとわかっているけど、テレビの獲得が日本でのゴールだと考えているよ。

――数週間前にも日本を訪れていましたが、そのときも、テレビの関係者と交渉されましたか？

モンテ　テレビ局の人間というより、テレビに影響力を持った人物とミーティングを持って、どうやったら日本のテレビでMMAを放映させることができるか、ということを話し合ったよ。『M―1グローバル』オーナーであるミッチェル・マックウェル会長も同席して、非常に有意義なミーティングになった。これがいい方向に進むといいね。

――では、大晦日の『やれんのか！』と来年の『M―1グローバル』に期待してますよ。

モンテ　ありがとう。大晦日のイベントは、私自身、とても楽しみだよ。これからもっと素晴らしいマッチメイクが発表されるだろうからね。

――えっ、さらなるビッグカードが内定してるんですか⁉　ちょっと、こっそり教えてもらえませんか？

モンテ　これはオフレコだよ。

――はい。わかりました。

モンテ　大晦日のイベントのメインイベントは……私とサエキ（佐伯繁DEEP代表）のスーパーヘビー級スペシャルマッチだよ！（笑）。

――ダハハハ！　モンテ・コックスvs佐伯繁！　それは「けやき広場」でお願いします（笑）。

モンテ　アイスクリーム早食い競争でもいいなぁ（笑）。

【07年11月28日／都内・某ホテルにて収録】

なぜか、選手より大きいヘビー級揃いの“大連立”首脳陣。この協力関係は大晦日の『やれんのか！』だけのものではなく、来年はさらに発展させていく計画があるという。

サク×田村の『PRIDE.34』劇場が奇跡を起こした!!

今回の格闘大連立はあのKAMIKAZEがきっかけです

旧PRIDEスタッフが舞台裏を激白!!

笹原圭一

『やれんのか! 大晦日! 2007』実行委員

10月4日の電撃解雇から短期間のうちに大晦日のイベント開催発表にこぎつけ、そしてFEGとの大連立を実現!! 驚異的なスピードで"一夜限りの夢"へと突き進む旧PRIDEの日本人スタッフたちだが、今回の大連立劇を踏まえれば、大晦日以降の動向も気になるところ。いったいこの先どうなるの? 大会実行委員広報の笹原氏に話を聞いた!!

聞き手/ジャン斉藤

——笹原GM!……じゃなくて、笹原『やれんのか! 大晦日! 2007』実行委員! 今日は『やれんのか!』を開催することになった経緯をうかがわせてください。

笹原 了解しました。

——それにしても、今回は事実上の〝最後のPRIDE〟となるイベントを開催するだけでなく、これまで対立していたFEGと協力することになるなんて、ファンはみんなビックリしてるんですよ。

笹原 そんなにビックリしてるんですか。

——あれ? そういう声は届いてないんですか?

笹原 届いてないわけじゃないですが、かつてPRIDEオフシャルサイトのBBSとかでは、谷川さんってけっこう悪く書かれてたじゃないですか。

——人間ってここまで他人を憎めるのかってくらいに(笑)。

笹原 でも、『やれんのか!』の主催に加わることが決まって以来、もう救世主みたいになってますよね(笑)。

——まあ、人間って都合がいい生き物ですから(笑)。笹原さんたち旧PRIDEスタッフの皆さんは、新生PRIDEから解雇されたあと、大晦日に向けて動きだしたということなんですけども、実際には来たる日に備えて準備をしていたんじゃないかという見方もされてますね。

笹原 いや、動き出したのは解雇されたあとですね。それまでは新生PRIDEが開催されるもんだとばかり思っていて、アメリカサイドの指示をずっと待っていましたから。

――笹原さんたちが解雇された直後に、旧PRIDEをサポートしていた方々がワールド・ビクトリーロードと日本総合格闘技協会の設立を発表して。つまり、来年3月に旗揚げする『戦極』の礎となる組織を発足させましたが、そういう動きがあることはご存知だったんですか？

笹原 だいたいの話は聞いていました。

――彼らに協力する考えはなかったんですか？

笹原 うーん、我々がしっかりしていれば、そういうお話はできたのかもしれないですが、新生PRIDEから解雇されたばかりで自分たちがどうするかもわからないのに協力するも何もないと思うんですよね。

――笹原さんたちが参加しなかったこともあって、『戦極』は『やれんのか！』と対立しているんじゃないかという声もあるんですよ。

笹原 そんなことはないですよ（笑）。やっぱりPRIDEという舞台がない以上、選手は次のリングを求めますし、関係者は新しいリングを作ろうとしますよね。そこは我々がどうこう言う話じゃないですし。

――では、協会の発足と事務所の閉鎖が図らずも重なったということなんですかね。

笹原 そうですね。ケンカしていたら吉田（秀彦）さんや瀧本（誠）さんに出場の打診もできないですし、お二人が大晦日について言及されることもないでしょうし。

――で、一方では裏でつながっているんじゃないかとかいう声もありますす。いったいどっちなんだという話ですが（笑）。

我々には総合格闘技を日本中に広めた責任があると思うんですよ

笹原 ハハハハ。裏でつながってるってひどい表現ですね（笑）。べつに普通に連絡を取り合う仲ですよ。

――タイミングさえ合えば、もしかしたら一緒に何かをやっていた可能性もあったんですかね。

笹原 充分にありえたんじゃないですかね。ただ、解雇通告されたのは10月4日で、正式に解雇されたのは1ヵ月後ですけど、それが1ヵ月早かったり遅かったりしたらだいぶ状況は変わってたと思うんですよ。たとえば、1ヵ月解雇が遅かったら、大晦日にイベントはできてないですね。

――絶好のタイミングでの解雇だった、と。アメリカサイドってそこらへんはあまり深く考えてないんですかね？

笹原 さあ、どうなんでしょう。でも、おそらく向こうの感覚でいうと、大会の1ヵ月前にカード発表して、イベントを開催するなんてとても考えられないと思うんですよね。

――ダナ・ホワイト調で言えば、クレイジー・ジャパニーズだ、と（笑）。

笹原 そうです（笑）。あと大晦日というのは日本の格闘技界において常にエポックになる日じゃないですか。おまけにサイクルの早い日本の格闘技界の中でも、とくに信じられないようなスピード感で物事が進む時期でもある。そういったスペシャル感って、普通の感覚じゃ理解できづらいですよね。

――でも、笹原さんたちは、やろうと思えば1ヵ月の準備期間でイベントができるという自信はあったわけですよね？

笹原 全然できると思ってました。だって一番忙しいときでいえば、『ハッスル』も含めて月に3回もイベントをやっていたわけですから。

――ただ、正式発表がここまで遅れたのは、やるからにはそれなりのイベントにしなければいけないという気持ちが強かったからですよね。

笹原 そうです。イベントはできます。でも、何をやるかが一番重要な問題だったんです。

――正直、卒業式的なイベントで行なうことも可能だったと思うんです。言葉は悪いかもしれないですけど、お涙頂戴イベントで全然問題ないじゃないですか。

笹原 はいはい。確かにそうですね。そうすりゃここまで苦労することはなかったかもしれないし（笑）。

――ホントに（笑）。ヒョードルは呼ぶわ、大連立はするわでハードルがメチャクチャ高くなってますよね。今後のマット界の運命を左右するイベントになってしまって。

笹原 やっぱりそう見られるんですかね？ これで「サヨナラ」というのはダメなんですかね（笑）。

――おそらくみんな許さないと思います（笑）。でも、こうして自らハードルをどんどん上げていくさまはホントにPRIDEらしいですよね。

笹原 ああ、確かにそうかもしれませんね。

――要するに、そこはPRIDEを名乗れないとはいえ、単なるお涙頂戴イベントにはしたくなかったのは意地なんですか？

笹原 それってカッコイイ言葉で言うと、責任感ということだと思うんです。PRIDEを10年間やってきてやっぱり作るものにはこだわりを持ってきましたし、総合格闘技を日本中に広めたっていう責任があると思うんですよ。だからピリオドを打つイベントだからといって、お茶を濁す内容にする気もないですし、そもそもそれって〝らしくない〟と思うんですよ。最後だからこそ「なんじゃこりゃ～!?」ってファンが驚くものをやってこそ〝らしい〟じゃないですか。

――そういえば、佐藤大輔さんが記者会見で「しみったれた葬式にはしたくない」と言われてましたけど、その心意気ですね。

笹原 そうですね。どうせやるなら派手な葬式をしようってことですよね（笑）。

――やるべきですよね（笑）。今年の4月以降、PRIDEはずっと殺されてきたわけじゃないですか。「PRIDEは終わった」「もうできないんだ」という言い方で。確かにそうだったのかもしれないですけど、あのPRIDEにふさわしい死に方というものがあると思うんですよね。だから、もう亡骸は墓の中に眠っていたとしても、ムリヤリにでも引っぱり出して派手な葬式をやるべきだとは思ってたんですよ。

笹原 それこそ寺山修司が主催した、『あしたのジョー』の力石徹の葬式み

“夢の続き”となるイベント開催だけでも狂喜乱舞ものなのに、ヒョードル参戦や格闘大連立が実現するなどして期待のハードルを上げまくるからたまらないって！こうして挑戦し続けることがPRIDEを作りあげてきた魂でもある。それにしても、首脳陣の方々が強そうだ。

ヒョードル参戦とFEGとの大連立は大晦日開催の必要な条件でした

たいなもんですよね（笑）。

——そうですね（笑）。で、妥協だけはしたくない中で開催への条件はいろいろあったと思うんですけど、ヒョードル招聘はその一つだったんですか？

笹原　はい。ヴァンダレイやミルコはUFCと契約中ですし、PRIDEの象徴的な選手で唯一チャンスがあったのがヒョードルだったんですよ。逆にそこでヒョードルの出場がなければ、年末にやるという選択肢はなかったんじゃないかと思います。

——でも、ヒョードル招聘のハードルは高かったわけですよね？　普通に考えたら、あのベラボウなギャラを払えるのかなって。

笹原　いろんなところで書かれてましたね。まあ、全然気にしてないですけど（笑）。

——では、いったいどんな方法でヒョードル出場にこぎつけたんですか？　彼と契約したばかりの『M－1グローバル』からすれば、非常に納得しがたい話ですよね。

笹原　一番大きかったのは、ヒョードル自身が「やりたい」と思っていたことなんですよ。ヒョードルは03年から日本で年を越すのが心地よい習慣だったんですよね。だから今年の年末も日本で試合をしたいというヒョードルの気持ちがレッドデビルのワジムさんや『M－1グローバル』を動かしたということなんですよ。あとは『M－1グローバル』からすれば、アジア戦略の一環ということでしょう。

——それならあとは条件面のすり合わせだけだった、と。

笹原　はい。だから普通のまともな交渉ですよ。迷っている選手をムリ口説くのとはまったく違いますね。

——田村潔司と交渉するのとはまったく違うということですね（笑）。

笹原　そうですね（笑）。時間のない中でよくまとまったと思います。

——しかし、金銭面で折り合わないとすれば、ヒョードルを擁する『M－1グローバル』のイベント制作面をサポートしていくことが条件だと普通に考えちゃうんですけど。『M－1グローバル』の旧PRIDEの制作チームへの評価って、メチャクチャ高いじゃないですか。

笹原　それはたいへんありがたいことなんですけど、彼らはまだ一回もイベントをやっていないから、我々の能力以前に、そもそも彼らがどういう世界観を作り上げていこうとしているのかでしょうね。

——ちょっと話はずれますが、ある程度の選手とお金があれば誰でもイベントは打てると思うんですけど、ブランドとして磨き上げていく作業って凄く難しいですよね。

笹原　本当に大変だと思いますよ。だってゴールのないマラソンを走るようなもんですからね。ブランドを磨くことって。

——で、もう一つのサプライズとしてFEGとの大連立がありましたけど、それは『やれんのか！』を開催するにあたって必要な条件だったんですか？

笹原　必要な条件だったと思います。さっきの話に戻りますけど、お涙頂戴イベントだったら簡単にできますけど、それではおもしろくないじゃな

いですか。やっぱり"らしい"世界観を作るためには破天荒なことをやんなきゃいけない。そう考えると、いま我々の手持ちの選手だけでは破天荒さはなかなか作り出せなかったと思うんです。そのためにはFEGと連立を組むのは必須でしたし、それしか手はなかったと思いますね。

―そもそもどういうきっかけからこういう話になったんですか？

笹原　きっかけは『PRIDE・34 KAMIKAZE』です。桜庭選手がサプライズで登場したあの日からです。

―つまり、桜庭和志vs田村潔司が生んだ夢の懸け橋。

笹原　あそこからお互いにぐっと距離が縮まって、いろいろと話ができる環境ができて。で、PRIDEがあんなことになってしまって、アメリカのMMAシーンも巨大化したことで、さすがにいがみ合っている場合じゃないだろう、と。

―ただ、うがった見方をすればFEGに吸収されたんじゃないかと捉えられても不思議じゃないですよね。

笹原　ま、解雇された立場から言えば、ぜひ吸収してくださいって感じなんですけど（笑）。でもマジメな話、この座組みが成立したのは我々が最後のイベントだからというのもポイントだと思いますよ。

『HERO'S』の協力？ 大晦日以降のことは何も決まってないです

―正直、FEGにしても今年の大晦日は駒不足。何かしら大きな仕掛けをしなければならなかったわけですよね。

笹原　そうですね。そこらへんの思惑が一致したんですよね。

―噂には上がっていますが、さいたま・大阪のTBS二元中継はあるんですか？

笹原　まだどうなるかわからないですね（12月12日時点）。

―FEGからすると二元中継が実現しないとかなり痛いことになりますよね。

笹原　ソフトで仕掛けができなければ、ハードのところでダイナミックな仕掛けをしたいということですよね。谷川さんはそれだけ危機感を持って今回の件に臨まれてると思うんですよ。

―ここで仕掛けないと日本格闘技界が事実上、滅びかねないという。

笹原　だと思います。そこは谷川さんの本心だと思います。今回の大連立には裏があるみたいなことを言う人がいますけど、我々のイベントに主催で名を連ねて前面に出ているのに裏も表もないと思うんですけど。

―まあ、谷川さんって今年の初め頃から「ボクは敗戦処理にだけはなりたくないんだよ～」って言ってましたから（笑）。

笹原　ハハハハ！　非常に谷川さんらしい言い回しですよね。でも真意は間違いなく危機感だと思います。

―来年の計は大晦日にあり！　じゃないですけど、大晦日の成否によっていろいろ変わってきますよね。

笹原　そうですね。ウェブとか見ても、ひさしぶりに盛り上がってますし。

―ポジティブに盛り上がってますね。大晦日以降のことは何も決まってないんですか？

笹原　決まってないですね。いろんなところで聞かれますけど。

―それは大晦日の結果を受けてジャッジをするという話もないわけですか？

笹原　ないですね。興行が終わって家でDVDを観たら、『もっとやれんのか！』開催決定！」みたいな、『PRIDE・1』のときと同じようなことが起きるんじゃないかなと思ってドキドキしてるんですけど（笑）。

―それでよく言われているのが、笹原さんたちが来年からFEGのMMAイベントに協力するんじゃないかってことなんです。

笹原　さっきの責任という言葉で言えば、いまこの状態で「来年はこうします」とかいうのもちょっと違う気がするんですよ。きちんと会社や組織としてしっかりしている中で来年できることがあれば協力するのはかまわないと思いますけど、自分たちの足元がグラグラしているわけですから。

―でも、ホントにこのままサヨナラしたらビックリしますよ！（笑）。

笹原　しかし……、来年の今頃はどうなってるのかなあ？

―去年の今頃も、まさかこんな騒ぎになってるとは思いもしませんでした（笑）。まったく見えないですね。

笹原　見えないですよね。誰がキーパーソンになるんですかね。それは選手なのか、関係者なのかわかりませんけど。

―ボクが注目しているのは、次の『HERO'S』がいつやるのかということですね。

笹原　年末に大きなイベントがあって2月だとキツいから、たぶん3月になるんじゃないですかね。

―そうなるとバタバタしますよね。『戦極』も3月ですから。

笹原　でも正直、どうなっていくかを気に病んでもしょうがないですよ。

―確かに10月の頭に解雇されたのに、短期間でこんな大仕掛けをしているわけですから。何が起こるかわかんないですよね。

笹原　わかんないですし、なんとかなってるじゃないですか。いままでみたいに（笑）。いまは年末を成功させることしか考えてないんですけど、まあ、年が明けたらなんとかなってるでしょう！　さんざん「責任」と言っておきながら非常に無責任な言い方なんですけど（笑）。

―まあ、『やれんのか！』という言葉の語源自体、無責任の象徴でもある猪木さんですから（笑）。

【07年12月5日／都内某所にて収録】

ささはら・けいいち■1967年9月16日、愛知県出身。『PRIDE.1』から参加する"歴史の証人"の一人。PRIDEの広報として写真のようなことを喜んでこなす活躍を見せていた。『ハッスル』では初代GMにも就任。現在は『やれんのか！』実行委員広報。

「合い言葉は“ピュア・ホワイト”です」

ワールドビクトリーロード
“真打ち”が熱血格闘
LOVEを大展開!!

ドン・キホーテ代表取締役兼CEO

安田隆夫

ワールドビクトリーロードの“ドン”がついに登場！ そのお方こそ、言わずと知れたドン・キホーテ会長、安田隆夫氏である!! 東証一部上場企業の代表であるかたわら、10月15日に設立が発表されたワールドビクトリーロードおよび日本総合格闘技協会の役員も務めるという素晴らしい肩書きの安田会長だが、ここ最近メディアにはほとんど登場していないという。しかし！ そんな安田会長も、なぜか『kamipro』登場をご快諾!! そこには4ページでは語りきれない格闘LOVEがあった。

聞き手／井上崇宏　撮影／乾晋也　構成／松下ミワ

都内・新宿にそびえ立つ高層ビルの35階。気圧で耳がおかしくなるくらいエレベータで上へ昇っていくと、そこには見慣れたドンペン君のアイコンと「株式会社ドン・キホーテ」と書かれた立派な受付が出現！　そして通されたのは、おそらくマット界の話をするために作られたのではないであろう美しく広すぎる来賓室。本インタビューはそんな異空間な場所で行なわれたのだが、安田会長は異色な訪問者を気にも留めず、ドンペン君の人形を脇に置き、マット界への熱い思いを切々と語り始める。

——安田会長、さっそくですが、僕のこのテレコとデジカメはいずれもドン・キホーテで購入させていただきました!!

安田　ああ、それはどうもありがとう（ニッコリ）。

——今回、会長はワールドビクトリーロードの取締役と、日本総合格闘技協会の副会長に就任されたわけですが、協会と興行会社の役員を兼務というかたちでズバリ、安田会長は具体的にどういった活動をされていくんでしょうか？

安田　いやあ、基本的にこの話はすべてボランティア！　私も木下さんも、あるいはこれに関わる福田さんも含めて全員がですね、1円の給料ももらっていないんです。みんな本業があるのでね、べつにこれで儲けようって気持ちはサラサラないんです。我々がやろうとしていることは、とにかくPRIDEという興行団体の閉鎖によって場を失なわれた選手に対する不条理さ。これをなんとかしたいという思いだけです。木下さんなんかもおそらく私と同じ感覚ですよ。

——要は木下工務店さんであったり、ドン・キホーテさんは主催者側であるんだけれども、それと同時にスポンサードする側の立場でもあるんですよね。

安田　ええ。だからこれまでも金を出す立場で、これからも金を得る立場ではないと思います（笑）。

——僕がこれまでドンキさんで落としたお金が巡り巡って、格闘技界に投入されるわけですね（笑）。

安田　だから、これで儲けてやろうって気持ちは一切ないんです。だって儲けようと思ったら、もう一店舗出したほうがよっぽど儲かりますよ！　ワハハハハ!!

——アハハハハ。確かにそうなんでしょうね（笑）。

上場企業に、それから元警視総監もいる
これはもう一点の余地もないですよ!

安田会長が"無償の愛"を注ぐ『戦極』には、ご覧の面々の出場が決定。会長によると、このほかにも「相当いい選手も確保できている」ということだが……、"相当いい選手"っていったい誰なんだ!?

安田　だから、とにかく我々がやらなければいけないことは、総合格闘技を競技として確立しようということ！　そして結果的には興行形態としてもイベントとしても継続をすること。長期的な視野で見れば、それは明白なんですね。そういう長期的な視野で見れる人間というのは、やはりそれ以外で収入を得ている人間じゃないとできないですよ。

——なるほど。

安田　もちろん、この世界で生きてこられた方の協力がないとできないですけど、双方が有機的な結合をしてやっていくべきだと思うんです。会見でも言いましたけど、真剣勝負なのにNHKでも取り上げられないでしょ？　真剣勝負なのにね……あ、私はプロレスを否定するわけではないですよ？　『kamipro』自体も最初はプロレスを中心にやられてたし。

——あ、よくご存知で（笑）。

安田　プロレスをどうこう言うつもりは私は全然ない。ただ片一方でですね、総合には真剣に取り組んで、文字どおり血と汗を流している選手がいる！　それを正当に評価しないのは私は違うと思うんだな。もっとメディアが取り上げたっていいじゃないか！　だから、競技体系として明確にきちっとしたものを試行錯誤しながら作っていくという過程が大事なわけですが、そのあいだはビジネスとしては儲からないですよ。損するばっかりです！　そんな儲からないことをあえてやっていこうというのは最終的に我々のようなバックボーンのある会社が立つしかないんです。しかし、競技体系を整備するといってもですね、地味に小さな会場で草試合ばっかりやってても選手としては夢がないでしょ？

——ええ。ドンキさんが関わる意味がないですね。

安田　総合というものは、そんなに長い期間できるスポーツじゃないから地味に草試合だけやってても、これは選手にとっては意味がない。だったら競技は競技で、片一方では華やかな舞台も必要なんですね。この両方を同時・並行的にやっていかない限り、1年、2年ぐらいならなんとかテクニックだけでやれるかもしれないが、10年、20年という長期的な活動にはならないですよね。

——今回、PRIDEがスタートしてからちょうど10年で消滅をしてしまったんですけど、会長はその失敗の最大の要因はなんだと思いますか？

安田　PRIDEが反社会的勢力と接点があったかどうかは、私は知れる立場でもないし、まったくわからない。ただ少なくとも、そういう疑惑を抱かれるような余地を招いたことが興行団体としてはある意味で失敗なんです。ですから我々の場合は上場企業が後押しをし、なおかつコミッショナーには元警視総監が入っていてですね、それ以外にも錚々たるメンバーがいて、一点の余地もない！　まさに"ピュア・ホワイト"ですよ。

——純白ですか！

安田　そう！　もしくは"クリスタル・ホワイト"!!

——クリスタル・ホワイト!!　いい響きですねえ〜。谷川さんにも"谷川クリスタル"とか名乗ってほしいですね。……これはあまりうまくなかったか（笑）。

安田　いや、本当にピュアかクリスタルまでいかないとですね、もともと人間が本来持っている〝闘いの本能〟というのは、一歩間違えれば〝戦争〟であり〝殺し合い〟だ。それを競技に切り替えることで、最終的には〝平和〟が実現できるんだという部分があって初めて成立するわけです！　で、闘いが終わったあと、最後に握手をして、あるいは抱き合ってお互いを尊敬し合って終わるというのが素晴らしいことですよね。その、人間が本来持っているバイオレンスな部分を十二分に認識しながらも昇華させていくということは、ピュアじゃなきゃいけないんですよ。この部分はちょっとでも色が入っちゃうともうダメだと思う。我々はそういう要素はすでに排除しているんで、次は競技としての確立をしていきたい、と。

――それでは格闘技に対しては〝無償の愛〟を注ぐという感覚ですか？

安田　そう！　無償の愛。私は格闘技が本当に大好きだから!!

――会長は昔、プロボクサーを目指していたこともおありだそうですね。

安田　ええ。だけど私はね、小学校4年生のときにケガで左目を失明してるんですね。

――あっ、そうなんですか!?

安田　いまでも左は見えないんです。だから、ボクシングを一生懸命やってて、いざプロテストを受けようとしたときに、事前審査で引っかかってしまって受けられなかったんですよ。ある程度自信を持ってやっていたんですけど、そんなことも把握しないでやっていて、いかに俺は子どもだったのか、と（笑）。

――いや、片目が見えない状態で、プロテストを受けようと思えるレベルまでやられていたこと自体が凄いですよ！

安田　だからねえ、次はキックをやろうと思ったんですよ。

――そこからキックボクサーに転向ですか！

安田　ええ、こうなったらキックに転向してやろうと！　しかし、キックのジムに行きかけたらですね、当時やっていたキックのテレビ放映がバタバタっと中止してしまった！

PRIDEに“フジショック”が降りかかった直後の『PRIDE無差別級GP2006 2ndROUND』では、カズの入場で、なんと「♪ドンドンドン、ドンキ～」のテーマとともにドンペン君が登場！　この不思議な組み合わせに会場も一瞬息を飲んだが、スポンサーがつきにくい当時のPRIDEの環境下でも、安田会長は我流で格闘技LOVEを発揮したのだった！

30年前のキック界は助けられなかった。でも、いまなら多少なりとも力を貸せる！

――沢村忠の引退をきっかけにですね。

安田　沢村とか藤原（敏男）とかですね。当時キックは4、6、10、12チャンネルがやっていたんですよ。

――ああ、4局も。

安田　それが全部放映中止！　それで全国にたくさんあったジムもバタバタと閉鎖になったんで、「これじゃあ、やってもしょうがねえや」と。

――タイミング的には悪かったともいえるし、やらなくてよかったともいえますね。

安田　それでそのときに思ったのは、一生懸命キックをやっていたホープの選手たちがかわいそうだよな、と。自分たちとはなんの関係もないところで出場の機会をなくしてしまった。団体そのものの消滅によって試合ができない。そういう現象が昭和48年くらいにババーっときたんです。

――つまり、それと似た現象が今回……。

安田　そうっ！　今回また同じようなことが起きているじゃないかと。あのときは助けられなかったけど、いまなら私は多少なりとも力は貸せると！

――会長にとってはデジャヴだったわけですね。

安田　まさにデジャヴ！　かつて見た風景が30年後によみがえってきて、「なんだ同じじゃねえか！」と。あれが原体験なんですね。だから当時のキックも地上波に頼るんじゃなく、あそこは競技として確立すべきだったと思う。今回もまたああなっちゃいけないんです！　だから本当はPRIDEがあのまま継続していればそれでよかった。我々が出る必要はなかったんですよ！

――これが会見でおっしゃっていた「力のない正義は無力だ」発言につながるわけですね。

安田　ただ、私の力といっても微力ですが、私も60近いトシになって、これ以上お金がほしいわけでもない。それならそろそろ自分の好きなことをして、自分の築いてきた

ワールドビクトリーロード設立会見では「まったく赤の他人でも、泳ぐことができれば、溺れる子を助けることができる！」と熱弁を振るった安田会長。大連立をはたしたFEGおよび旧PRIDEスタッフらとは、今後どのような接触を図っていくのだろうか。

正義でも力がなければ変革できない
悪意に基づいた力はもう論外だ！

やすだ・たかお■1949年、岐阜県出身。慶応義塾大学法学部卒業。88年、東京・府中にドン・キホーテ第一号店をオープンし、現在は国内外含め150店以上を展開。東証一部上場企業の超豪腕経営者である。また無類の格闘技好きで知られ、吉田秀彦、中村和裕らJ-ROCKの選手らをスポンサード。ワールドビクトリーロード設立にあたり、取締役に就任。また、日本総合格闘技協会の副会長も兼任している。

モノを使って貢献したほうがいいんじゃないか。いくら正義だ、正義だって言っても力がなかったら変革できないでしょ？ やはり、力を持たないとどうにもならないですよ。その力の裏づけが正義であればいい。悪意に基づいた力はもう論外だ！ だから「力のない正義は～」の言葉には「正義に基づいた力」という意味もあるんですよ！

——ええ。そんな会長からは若い頃に「正義に基づいた力」を発揮された戦極臭がプンプン漂ってきますよ（笑）。

安田 そう？ まあでも、本来なら、経営者っていうのはもっと黒子に徹するべきなんですけどね。今回私がこうやってインタビューに答えさせてもらっているのは、たまたま、媒体が『kamipro』だってことだからですよ。メディアに本格的に出たのはじつに数年ぶりですね。

——ええっ!? 『kamipro』だからですか!!

安田 ここ数年、メディアに出ていないですから。『kamipro』はここ5～6年、毎号読んでますからね。

——ええっ!? 会長は『kamipro』愛読者でしたか！ 読んでておもしろいですか？

安田 おもしろい！ まあ、ほかの媒体も読みますけどね、『kamipro』だってちゃんと読んでますから。

——それはありがとうございます！（笑）。それと今年は旧PRIDEスタッフとFEGが大連立というかたちで大晦日に『やれんのか！』を開催するという流れもあるわけですが、会長の中では無償の愛とは言いつつも、『戦極』を業界トップのイベントにしたいっていう思いはありますか？

安田 それはもう当然！ お互いに切磋琢磨しながら高度な闘いにしていけばいいですよ。やはりPRIDEの演出、会場の設営などは本当に素晴らしかった。我々はあれに負けないものをね、ぜひ作っていきたいな、と。

——来年3月に旗揚げですが、時間があるようでないですよね。

安田 ないない！ 全然ない！ だけど、具体的なことは専門の方がいろいろ頑張っておられまして、相当の手応えはあります。何より選手が我々の趣旨に心の底から賛同してくれてます。相当いい選手もどんどん確保できていますよ。

——あっ、そうですか！ もうけっこうな数ですか？

安田 けっこうな数です。3月の大会では全員を出しきれない。だから3月が終わったら、5月なら5月にすぐ次の大会をやっていかないと。選手の出場機会を標榜した人間ですから、それを連続してやらなかったら「何をやってんだ！」って話になりますから。ぜひ選手には夢をつかんでもらいたいですからね。

——わかりました。最後に、会長は熱帯魚の飼育もご趣味の一つだとうかがったんですけど。

安田 ワハハハハ！ もともと私はナチュラル嗜好というかですね、いまでいうバックパッカーだったんだな。20代の頃にニューギニアやアマゾンに行ったりしてたんですよ。ところがいまはもう現地に行く体力がないから近くに熱帯魚をね（笑）。

——やっぱり観賞されていると、心が癒されますか？

安田 そうですね。決して魚はしゃべらないけどね。こっちのことを覚えてもくれないし。

——もう、それも無償の愛ですよね（笑）。

安田 そう！ 無償の愛！ それに魚は人間と違って決して裏切らない!!（笑）。

【07年12月7日／熱帯魚が泳ぐドン・キホーテ本社にて収録】

獏さん、『やれんのか!』開催の喜びを存分に語る!!

誰よりも“ピュア・ホワイト”な格闘ファン

夢枕獏

「ホントによかったねぇ～」(しみじみと)

格闘小説家の第一人者であり、いつ何時も“現場主義”を貫く、格闘技ファン・獏さんが“PRIDE消滅”から『やれんのか!』開催までの苦難の日々、そして気になる獏さんの大晦日の動向までを直撃!

聞き手／真下義之

―獏さん、ごぶさたしています!

獏 『kamipro』本誌はひさびさじゃない?

―前回は『Dynamite!! USA』に尿道結石で行けなかったという話でしたから(笑)。そのときのインタビューの結びが「PRIDEが再開してくれないかねぇ……」だったんですよ。

獏 それは凄いじゃない(笑)。しかしさ、大会がやれてホントによかったねぇ～(心の底からしみじみと)。

―そのへんの積もる思いもうかがいたいんですが、まず“PRIDE消滅”から、『やれんのか!』開催への日々をどうご覧になってました?

獏 じつはね、俺もいろいろと裏情報はつかんでいたんだよ(笑)。

―獏さんが裏情報を!?

獏 そう! 細かい間違いもあったけど、おおまかなところは正確だったから。「海外主導のPRIDEはかなりの確率でやらない」というウワサも早い段階で聞いていたしね。

―そのダメ押しとなったのがPRIDE FC WORLDWIDEの日本事務所閉鎖でしたね。

獏 あのやり口はまさにアメリカ人だねぇ～! でも向こうは将棋でいえば「手を誤った」よね。年越しまで飼い殺しにしておけば、『やれんのか!』はなかったと思うんだよ。

―チャンスを与えてしまった、と。

獏 まぁ、無駄なお金を使うよりも撤退を選んで、「たいしたことはできないだろう」とタカをくくってたんだろうなぁ。

―そして『やれんのか!』開催の発表がありました。一部にはこの開催に関して「ガセじゃないか?」なんてウワサもありましたけど。

獏 俺は少しずつだけど、かなり具体的な話まで聞いてたからね。

―ほう。ちなみに獏さんはネットとかもご覧になってるんですか?

獏 ネットも一つ二つ見てますけど、あとは直接電話で話を聞いたり。それに少人数だけでやっているネット情報もあるんですよ(笑)。

―そんなクローズドな情報網がありましたか(笑)。

獏 そこではわりといい情報が拾えるんだよねぇ。フッフッフ。

―精度の高い情報を仕入れていた。

獏 ただね、今回はPRIDEがなくなってから、一番PRIDEっぽいイベントだろうとは思うけど。もう後戻りになるから“PRIDE復活”というのは捨てたほうがいい。観るほうは気持ちをリセットしたほうが絶対いいよ。

―なるほど。さらにFEGや『M―1グローバル』の大連立も話題です。

獏 これはね、ホントにうまく行くならUFCと真っ向から対抗できる組織になるでしょう! ……ま、難しいだろうけど(ポツリと)。

―ダハハハ! やっぱり難しい(笑)。

獏 どこも「俺んとこが一番儲けたい」って思ってるんだろうから。でも今回は利害関係がピッタリ合ってるワケだよね。『M―1グローバル』は日本へのお披露目になるし、『やれんのか!』は願ったりかなったり。K―1はテレビの視聴率だったり。

―まだ絶賛交渉中みたいですけど。

11月21日の『やれんのか!』開催記者会見、獏さんは独自の裏情報網から「ほぼやる」ことを確信していたが、“皇帝”ヒョードルの来日には「ありゃ、ビックリしたなぁ～」と想定外だった模様。

獏 「そこだけ放送させてよ」ってのはハードルが高いのかなぁ。でもさ、それはやったほうがいいんじゃないのぉ! やってほしいなぁ。

―やらんのか? と(笑)。ちなみにカードで気になるのは?

獏 これはねぇ～、青木真也vsJZカルバン! (キッパリ)。これが俺の心のメインに決定ですよ。しかしカルバンは魔娑斗ともK―1ルールでもやってるでしょ。よくやるよねぇ～(と感心して)。

―チャレンジ精神が旺盛すぎです。

獏 やっぱりハートが強いんでしょう。青木くんとはスタイルが違うぶん手が合いそうだしね。

―あとは、獏さんの大好きな川尻選手も出ます!

獏 そう! 川尻はいいよぉ～! あのさ、五味(隆典)ってちょっと試合的にも精神的にもブレがあるじゃない? 凄いときは凄いけど、モチベーションが上がっていないときは「あれ?」っていう負け方をしたりする。そのハラハラするところも五味の魅力なんだけどさ。

―確かに取りこぼしもありますね。

獏 でも川尻は勝っても負けてもそれが一切ないんだよ! だから今回のようなことがあっても俺の知っている川尻なら、試合がなくともコンディションをキッチリ仕上げてると思う。そこも楽しみだねぇ。ところで、『やれんのか!』のチケットは相当に売れてんの?

―あ、かなり売れてるみたいですね。

獏 基本的にはPRIDEさよなら興行みたいな感じだしなぁ。でもさ、もし来年も興行があるならば、第一弾は『やれますよ!』ってどう?

―ダハハハ!

獏 その次は『やりました!』、そして『まだやる!』、さらに『もっとやる!』と続くわけですよ!

―やるシリーズが続々実現、と(笑)。しかしこうなると“現場主義”の獏さんにとって「どこで観るか?」は頭が痛いですね。

獏 そうなんだよ! 『Dynamite!!』の桜庭vs船木も気になるしなぁ～。

―ズバリ今年のご予定は?

獏 自宅観戦になるのかなぁ。う～ん。家族サービスもしなくちゃいけないんだけど。もう一つ二ついいカードが決まっちゃったら、家に不義理をしても行こうかな? という気持ちもないではないんだよ(笑)。

―ホントに難しい問題ですね。

獏 でも、今回『やれんのか!』の終了は夜12時を回るでしょ? そこで年越ししたら、小田原には始発まで帰れないよ!

―都内であれば大晦日は一晩中、電車は動いていると思いますけど。

獏 ま、東京までは出れると思うけど。そこから先は動いてるのかなぁ? 動いていても各駅とかで行くのはツラそうだしなぁ……(と不安そうに)。

―確かにご自宅まで各駅で帰るのはツラそうですね。そこを頑張っていただいて、なんとか大晦日にお会いできるのを楽しみにしています!

【07年12月7日/電話にて収録】

ゆめまくら・ばく■1951年、神奈川県小田原市生まれ。小説家。77年のデビュー以来『キマイラ吼』『陰陽師』シリーズなど話題作を発表。格闘技をテーマにした『餓狼伝』を20年に渡り執筆など格闘技への造詣は広く深い。99年『神々の山嶺』で第11回柴田錬三郎賞受賞。代表作に『陰陽師』など。

K-1 PREMIUM 2

ダメな大人に大好評！
UWF"変態"座談会
シリーズ第5弾

僕たちが好きだった 前田日明座談会

戦慄の第二次UWF&リングス編

前号で「青春の新日本プロレス&第一次UWF編」を掲載。例によって、30代の変態読者を中心に、絶大なる支持を集めた『ぼくたちが好きだった前田日明座談会』。後編となる今回は、禁断ともいえる「第二次UWF&リングス編」だ！ プロレスから格闘技への過渡期として、どうしても"デリケートゾーン"に入らなければならないこのお題を"変態"たちは、いかに語ったか。いよいよ戦慄の後編、始まりやんけ！

構成／堀江ガンツ

獏さん、『やれんのか！』開催の喜びを存分に語る!!

誰よりも"ピュア・ホワイト"な格闘ファン

ガンツ　さて、前号でおおいに盛り上がった新日本プロレス&第一次UWF編に続き、今回の前田日明変態座談会は第二次UWF&リングス編です！　今回も盛り上がっていきましょ〜〜！

一同　………。

ガンツ　あれ、なんだかあまり盛り上がってませんねぇ。

タコ　第二次Uって言われてもなぁ。あんまりワイワイ話すネタもないような……。

井上　かといって、リングスの話になると、どうしても〝デリケートゾーン〟に入らざるをえないような気もしますしね。あ、またお腹が痛くなってきちゃった……。

椎名　俺なんて、第二次UWFは観てもいないからね（笑）。

ガンツ　ちょっとちょっと、あれだけ大ブームを起こして、社会現象とまで呼ばれた第二次UWFなんですから、もっと盛り上がっていきましょうよ！　ボクなんか、当時は公式ファンクラブ『THE UWF』にも入ってましたからね！

タコ　じゃあ、ガンツが考える第二次UWFを代表する前田のベストバウトって何なん？

ガンツ　………ないですねぇ（笑）。

椎名　ないんだ（笑）。

ガンツ　強いて挙げれば前田vs船木戦あたりですけど、これは前田というか、船木から見た試合ですからね。

タコ　第二次UWFは船木のいくつかの試合とか、妙に印象に残る試合、あるいは不思議な試合はあるけど、前田は出てこんのよなぁ。

ガンツ　まぁ、新日本との対抗戦までは、バリバリの革新派だった前田が、第二次UWFでは〝保守〟の権化みたいになってましたからね。船木とか若い選手に前衛的な魅力を奪われていたというか。

タコ　第二次Uの試合って、いま思えば我慢して観とったような気がするなあ。

ガンツ　ボクも、わざわざレンタルビデオを借りてきて、毎回観ながら寝ちゃってましたからね（笑）。

井上　わかる！「おもしろいはずだ」って自分で思い込みながら、途中で寝ちゃうんだよね（笑）。

タコ　それは会場でも一緒やで。だから第二次Uは観客の野次が進化したんやと思うわ。

ガンツ　みんな真剣に観ているようで、ホントは退屈だったんでしょうね（笑）。

椎名　野次を飛ばさないときは、初期のパンクラスみたいに、みんなでシーンとして観てたの？

ガンツ　そうですよ。でも、グラウンドが長くなって退屈してくると、2階席あたりで退屈した客が「チャーチャチャチャチャチャチャ」って『UWFのテーマ』を歌ってたりしたんですよ（笑）。

リングス忘年会の凄まじさって、前田ファンのあいだでは伝説になってるよね！（椎名）

井上　いたね〜！　武道館で『UWFのテーマ』に歌詞をつけて歌ってるヤツもいたな。「♪チャラララーン！　蹴れ、山崎〜、泣くな、安生〜」って。

一同　ダハハハハ！

井上　ヤクルトの応援団みたいな感じで。

タコ　ヒマで時間を持て余してたんやろなあ（笑）。だいたい、これだけ変態的プロレスセレブが4人も集まってるのに、まったく試合で盛り上がらへんというのは、相当なもんやで。

ガンツ　前田vsポール・オンドーフ戦であれだけ盛り上がったのに（笑）。

井上　第二次UWFって、ぶっちゃけ実際会場で観たり、ビデオで観たりするより、『週プロ』の試合リポート読むほうが一番おもしろかったですからね。

タコ　でも、第二次Uはもう一つやけど、リングスは好きやっていう人って多いよね。

ガンツ　やっぱりUWFインターや藤原組が、第二次UWFを引きずってたのに対して、リングスは前田以外はいろんな格闘家が大集合してたじゃないですか。それで、もう一度、旧UWF的な前衛的なイメージになったのが良かったんでしょうね。

椎名　前田が一人ぼっちの旗揚げっていうのもいいよね。相棒がクリス・ドールマンっていう、オランダ人のヒゲオヤジなのもなんか良かったな。

タコ　個人的なことを言わせていただくと、リングス時代っていうのは、ボクが『紙のプロレス』編集部に入って、前田に一番〝かわいがり〟をされた時期やったんですよね。いろいろヒドい目に遭わされたんやけど、初めてレスラーにかまってもらえたってことが嬉しかったなあ。

ガンツ　タコ兄さんは『紙のプロレス・インターナショナル』のダミー編集長として、前田日明とツーショットで表紙を飾ってるんですよね（笑）。

タコ　そうやで。初めてリングスの事務所に行ったのが、そのときやったから。

井上　入ったばかりの新米編集者を〝編集長〟ということにして、前田と表紙を飾るって、とんでもない雑誌だよね（笑）。

タコ　そんとき前田日明に、デコピンを100発食らって、顔にオ○コマークと山○組の紋をマジックで落書きされて、それで「帰れ！」って外に放り出されたんですよ。

椎名　それも前田流の愛情表現なんだろうね（笑）。

タコ　でも、あんときはデコが腫れ上がって、自分で上を見たら腫れ上がったデコが見えましたからね。

椎名　マジで!?

タコ　ホンマですよ。それぐらい腫れましたから。

UWF"変態"シリーズ第5弾

前田日明座談会出席者プロフィール

椎名基樹
本誌の好評長寿連載コラム『サムライ三昧』でもおなじみのフリーライター。放送作家。構成作家。UWF、真剣勝負にあくなきこだわりを持つ。リングスファンでもあり、写真は「リングス・オランダ」のTシャツと、「リングス・オランダ」特製オープンフィンガーグローブを着けたものだ。

井上崇宏
携帯サイト『スカパー！ バトルLIFE !!』制作に携わっていたペールワンズの総帥。高田延彦にあくなきこだわりを持ち、船木とはメル友。かつては、ショップ『グレート・アントニオ』のプロデューサーとして、写真の「クイック・キック・リー」Tシャツや、「リングス・ラスト興行」Tシャツを手がけた。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から変態的プロレスファン&UWF信者として鳴らし、『kamipro』編集部に入ってからもUWF研究家を自称する。とくに前田日明&リングスへのこだわりは異常なほどで、その愛情が高まりすぎてついつい筆がすべり、リングス・エカテリンブルグ大会では前田総帥に正拳突きを頂戴したこともある。

原タコヤキ君
小さい版型の頃の『紙のプロレス』編集者。現在は音楽プロデューサー兼カリスマ司会者。いまでこそジャイ子へのセクハラで憂さを晴らす日々だが、旧『紙のプロレス』ダミー編集長時代には、前田日明との交流もあり、前田総帥の得意技である「デコピン」を100発ほど頂戴したこともある。

“社会現象”とまで呼ばれたその人気とは裏腹に、記憶に残る名勝負と呼べる試合が意外なほどに少ない第二次UWF。しかし、前田vs安生なんていう、のちの“因縁カード”も実現していたりするのだ。

椎名　危ないよ、それ！
タコ　そのあと3回ぐらいやられましたね。会うたびにやられて。
井上　アレクの結婚式のときもやられてましたよね？
タコ　あんときはデコピンだけやなしに、ボクなんか酒一滴も飲まれへんのにガンガン飲まされたんですよ。「すいません、飲めないんです」って言うても、まったく聞かずに。
椎名　前田が聞くわけないよね（笑）。
井上　あのときの前田、嬉しそうだったなあ。結婚式場でビール片手にタコヤキ君を追いかけてるんですよ。「タコどこ行った？　タコどこ行った？」って。
ガンツ　天下の格闘王が何をしてるんですか（笑）。
タコ　あんなに飲んだこと、あとにも先にもないですよ。
井上　プロレスラーの結婚披露宴で、タコヤキ君しか面識がないっていうのもどうなんだろうと思いますけどね（笑）。
椎名　ホントは寂しがりやなんだろうね（笑）。
井上　それで周りがおもしろがって、「タコヤキが向こうで『前田をしばく』って言ってますよ！」とか言うと、「マジで？」って嬉しそうに「どこどこ？　あ、おった！　飲め！」って。そのときのビデオ、俺まだ持ってますよ。
ガンツ　ボクも前田日明に酔い潰されたことありますよ。リングス忘年会に参加させてもらったときに。
椎名　リングスの忘年会って、前田ファンの中ではもはや伝説になってるよね（笑）。
ガンツ　ホント、毎年凄かったですよ。ボクが行ったときは、ちょっと仕事で遅れて行ったら、よりによって前田日明の隣しか席が空いてないんですよ（笑）。
タコ　それはキツいなぁ～。
ガンツ　で、「よう来たな。まずは駆けつけ3杯や」って言われたんですけど、普通、駆けつけ3杯って小さいグラスでビールを3回一気するだけじゃないですか。
井上　一般社会ではそうですよ。
ガンツ　でも、前田の場合は大ジョッキで3杯なんですよ（笑）。
一同　ダハハハ！
井上　“リングス公式ルール”では、駆けつけ3杯は大ジョッキ使用と定められてるんだ（笑）。
ガンツ　しかも、1杯目は生ビール、2杯目が赤ワイン、3杯目はウィスキーのストレートをジョッキで一気ですからね！
椎名　それ、あぶないよ！（笑）。
ガンツ　そして3杯とも一気したあと、その場飛びを10回やらされて、左に10回転、右に10回転させられて、一気に酔わせるんですよ。だか

ケンカ1万戦無敗いくでホンマ！

前田日明 ファンタジーバウト ベスト5

前田日明といえば、実際のリング上での闘いだけでなく、リング外での数々の武勇伝を含めて、その幻想が高まっていた選手。ここでは、そんな格闘王の裏名勝負ともいえる、代表的なファンタジーバウトをいくつか紹介しよう。

前田日明vs牛

“牛殺し”大山倍達よろしく、我らが前田日明も牛との死闘を展開していた！

その決闘の舞台は、はるかなる大英帝国。80年代初頭、ヨーロッパ武者修行中の前田は、ある日、サーカス専用のアリーナで試合があったとき、会場の裏手でサーカス用の象や牛、ライオンを発見。猛獣は当然、檻の中にいるものの、牛は外につながれているだけだったのを見た前田は、大山総裁の牛殺しを思い出し、渾身の力を込めて牛のうしろ足にローキック一閃！　しかし、牛は倒れるどころか、尻尾でさっとこするだけで知らん顔。牛の打たれ強さ、そして大山総裁の強さをあらためて感じた前田だったのだ。

前田日明vsミスター高橋

あの“暴露本”でプロレス界をメチャクチャにした張本人であるミスター高橋と前田日明の血で血を洗う、凄惨な闘いが実現していた！……といっても、前田が新日本プロレスの若手時代の話。当時、合宿所内で宴会になると、ビール一本で酔っぱらうほど酒が弱かった前田。それだけならばまだいいが、当時の前田は酔っぱらってわけがわからなくなると、台所から包丁を持ち出し、あたりかまわずぶん投げるという、とんでもない酒癖の悪さを発揮していたのだ！　そんなキ○○イに刃物状態の前田に、敢然と素手で立ち向かったのがピーター。なんとか前田から包丁を取り上げようとするが、前田は「ヘッヘッヘ」と笑いながら、ピーターの手の甲に包丁を刺したというのだから、もはやことは殺傷事件の領域。そんなことが、日常のヒトコマだった昭和新日本はやっぱり、とんでもないのであった。

前田日明vsアメリカ兵

前田日明のもう一つの“戦場”である六本木。若手の頃から、数々の武勇伝を残しているが、夜の六本木の“住人”でもある黒人アメリカ兵との夢の一戦も何度か行なわれているという。座談会の中でも語られていた、「革靴で顔面蹴ったら、相手の口の中に足が直撃し、翌朝、靴の中に折れた歯が3本あった」事件。そのほかにも、「便所ブラシを片手に前田が複数のアメリカ兵相手に大立ち回りを演じ、髪の毛をつかんで引きずり倒し、ヒザ蹴りでKO」事件など、名勝負に事欠かず連戦連勝。なお、すべて前田日明本人の証言による記録だ。

前田日明vs原タコヤキ君

詳しくは座談会を参照していただきたいが、前田と旧『紙プロ』時代の原タコヤキ君との抗争も名勝負続出。しかし、いまのところ「デコピン」「酔い潰し」という二つの必殺技に対し、タコヤキ君はなすすべなく、前田の全勝。はたして、リベンジの機会はあるのか？

前田日明vsフルコン山田編集長

94年10月、極真空手オープントーナメント全日本大会において、前田日明が『フルコンタクトKARATE』誌の山田英司編集長（当時）を女子便所で“説教”した大事件。

当時、真剣勝負絶対主義者の山田編集長が別冊宝島EXの『格闘技死闘読本』の中で、「前田日明を全否定せよ！」なる原稿を掲載。これに激怒した前田が、極真の大会で見かけた山田編集長をなんと女子便所に連れ込み、恫喝。これを前田は「説教してやった」と言い、山田編集長は「暴行、脅迫、監禁」と主張。

しかし、実際に暴行はあったかというと、山田編集長は「掌底が一発来て、私はそれをスウェーでよけた。あれが当たってうしろの壁に頭をぶつけていたら、私はたぶん死んでいた。金的にヒザ蹴りも二発来たけれど、ヒジでブロックした。ホントに格闘技やっててよかったですよ～」と証言。これに対し前田は「掌底をスウェーでよけた？　裁判官立ち会いのもと、実際にやったろか！」と反論。結局、一切警察沙汰にならずに、格闘技マスコミとファンの酒の肴となった大事件だったのだ。

獏さん、『やれんのか!』開催の喜びを存分に語る!!

誰よりも“ピュア・ホワイト”な格闘ファン

ら、ボクはそこまでしか記憶がありません（笑）。

タコ 俺がそんなんされてたら、間違いなく救急車で運ばれとるわ。

椎名 マスコミ相手でそれじゃ、選手はどんだけ飲むんだろうね。

ガンツ ボクが目撃したのでは、ヤマヨシ（山本宜久）は、ワインを一気で飲むたびに、空のグラスを壁に向けてぶん投げて割ってましたね。

タコ 何をしとるんや（笑）。

井上 ヤマヨシは前田におしっこをひっかけたって話なかった？

ガンツ ありましたねぇ。前田がいつだかの忘年会でリングスの選手を一列に並ばせて、「おまえらがどんだけのもんになったか検査してやる。チンポ出せ！」ってチンポ出させたらしいんですよ。

タコ アホや（笑）。

ガンツ それで一人一人のチンポを引っぱりながら「まだまだやな」とか言ってたんですけど、ヤマヨシは引っぱられた途端、前田に向けておしっこたらしちゃったという（笑）。

一同 ダハハハハ！

椎名 さすがヤマヨシだね（笑）。

ガンツ そのあとがまたおもしろいんですよ。前田が「おまえらやっぱりまだまだや」って言って、おもむろにパンツを脱いで「見てみぃ、この色！　このツヤ！」って、自分のチンポを自慢し始めたらしいです。

井上 長さや太さじゃなくて、色とツヤなんだ（笑）。

ガンツ 昔、TKが『kamipro』の表紙を飾ったときのコピー「見てみぃ、この面（ツラ）！」って、じつは前田の「見てみぃ、このツヤ！」が元ネタですからね。わかる人だけおもしろい、という（笑）。

タコ アホなことやっとるなあ。前田と『kamipro』のコラボでいうと、『前田日明とは何か？』っていうビデオを作ったことあったよな。

ガンツ ありましたね。そのビデオには、なぜか角田（信朗）さんの結婚式の秘蔵映像が収録されてるんですよ。

タコ もうあれは凄いよ！

ガンツ 伝説ですよね。例によって参列者の前田日明が酔っぱらって大変なことになったという（笑）。

井上 新郎の角田さんを酔っぱらった前田が酔い潰そうとして、追いかけ回すのを佐竹が身を挺して押さえてたんだよね。

椎名 俺もそのビデオ観たよ。あれ見て、やっぱ佐竹はつええんだなって思った。あの状態の前田を押さえられるの佐竹しかいなかったもん。

井上 なぜか、そんなところで佐竹雅昭再評価（笑）。

ガンツ でも、最後の最後に前田が爆発したんですよね。新婦が両親に花束を贈呈するっていう、一番感動的なシーンで、式場中に響きわたる大声で、「オ〇〇コォ〜〜〜〜！」って叫んだという（笑）。

椎名 最低だね（笑）。

井上 最も結婚式に呼んじゃいけないタイプですね（笑）。

タコ そんなんも含めて、ちっちゃい版型の『紙のプロレス』の時代は、取り上げ方も含めて、前田のかわいいところが全開やったもんな。

井上 あと、当時は「vs素人」全盛じゃないですか？　前田vs暴走族とか。前田vs山田編集長とか、前田vs暴走族とか。そっち路線になっていきますよね。

ガンツ 芸風がとんねるずの「タイマンテレフォン」の延長みたいでしたもんね（笑）。

井上 とんねるずといえば、なぜだか知らないけど、前田が石橋貴明を飲み屋で見かけて「おまえ、プロレスのことバカにしてるらしいな」って言って、いきなりビール瓶で自分の頭をぶん殴ったっていう話がありましたよね。

タコ え〜っ、石橋さんをじゃなしに自分の頭を!?

井上 そうなんですよ。当然、前田は大流血だったそうですけど。

タコ 石橋さんとかも怖かったやろうな。キ〇〇イやでホンマ。

ガンツ でも、当時の前田はそんな「vs素人」の逸話に事欠きませんでしたよね。

タコ しかも、それも全部、前田の自己申告やもんな。とんでもないファンタジーバウトやで。

井上 それが非常にディテールが細かいんですよ。六本木のトイレで黒人のアメリカ兵数人をシバいたっていう話も、革靴で米兵の顔面を蹴って、翌朝、自分の靴の中を見たら米兵の歯が3本入ってたって言うんですから。ファンタジー溢れまくりですよね。

椎名 靴の外側に突き刺さってるなら、まだわかるけどね。

タコ でも当時は「おぉ〜っ！」って言いながら聞いとったもんな。でも、「vs素人」もすべてセルフプロデュースで、自己申告の伝説やもんなあ。

井上 それと、「vsヘビ」っていうのもなかったっけ？

ガンツ あ、ありました！

椎名 なにそれ、前田vsヘビって。それじゃ松永光弘じゃん（笑）

井上 なんかの番組のロケで、前田と糸井重里がアマゾン川で釣りをしてたら、前田が大蛇に噛まれたんですよ！

ガンツ 新聞の「ラテ欄」には「前田日明、大蛇に噛まれる！」って書いてあったんですけど、実際はちょっと大きめのヘビに親指噛まれただけだったんですけどね（笑）。

井上 だから、当時の前田の裏名勝負といえば、vsヘビ、vsアメリカ兵、vsフルコン山田編集長、vsタコヤキ君、vs暴走族、あとvs尾崎社長とかね。

タコ 証拠映像が残ってるの、ヘビと俺だけやん（笑）。

ガンツ 公式記録扱いにできるのは

過激でくだらない企画を連発していた、小さい版型の頃の『紙のプロレス』。95年には当時まだ入社4カ月の原タコヤキ君を“ダミー編集長”に仕立て上げ、御大・前田日明とのツーショットを表紙にするという暴挙を敢行！　さらにビデオ『前田日明とは何か?』では、あの“女子便所説教事件”の再現フィルムを本人出演で作成！（ザンス山田編集長役はタコヤキ君）。この一連のバカバカしい企画を糸井重里氏は「完全なるくだらないものシリーズ」と命名してくれていた。あー、くだらない。

これが『SRS・DX』に掲載された「前田日明、谷川貞治デコピン襲撃事件」だ！　平和なサイン会に響き渡る「やめてください〜い！」の悲鳴！　前田日明なら何をやっても許されるの……だ！

K-1 PREMIUM 2

前田にはデコピン食らったり、酔い潰されたりしたけど、気さくないいイメージしかない（タコ）

いまでこそ、葉巻、ヒゲ、コワモテのイメージの強い前田CEOだが、かつてはご覧のような人懐っこい笑顔がステキな"日明兄さん"だった。リング上での過激なるゴンタ顔と普段のギャップが前田の魅力でもあったのだ。

前田vsヘビと、前田vsタコだけですか（笑）。

タコ　山田編集長にしても、「前田の掌底をスウェーでかわした」とか、向こうも嘘つくもんやから、嘘が嘘になってもうわけわからんことになってるからな。

井上　普通だったら、脅迫事件になってもおかしくないのに、警察も取り合わないという（笑）。タイガー・ジェット・シンの伊勢丹前襲撃みたいな感じになってますからね。

ガンツ　だいたい、壁をうしろにしたらスウェーじゃなくてダッキングですよね、どう考えても。

井上　あと編集長つながりでいえば、前田vs谷川貞治っていうのもあったんですよ。

タコ　『格通』編集長時代に怒られたってヤツやったっけ？

井上　それもあるんですけど、『SRS・DX』時代に、グレート・アントニオでクイック・キック・リーのTシャツを出したとき、前田に来てもらってサイン会をやったんですね。そこに谷川さんも遅れて来たんですけど、そこでも谷川さんにデコピン何十発もやって。

椎名　そこでもデコピンなんだ（笑）。

ガンツ　そのときもタコヤキ君にやったのと同様、腫れ上がった額にオ○コマーク書いたんですよね（笑）。

井上　谷川さんはなんとか逃げようとしたんだけど、「ナメ、押さえろ！」って、お付きで来ていた滑川に羽交い締めさせて、ファンの前で延々とデコピンしたんですよ。谷川さんも最初は「やめてください！　やめてください！」って言ってるんだけど、途中から「おい！　しつこい！　やめろよぉ！（怒）」って叫び出して（笑）。

ガンツ　ダハハハ！　前田相手にキレる谷川さんって、もの凄く見たかったなあ（笑）。

タコ　滑川に対してもキレたんやなかったっけ？

井上　そう。でも谷川さん、滑川の名前を知らなくて、「あの若手の野郎〜〜！」って怒ってたんですよ。

ガンツ　「若手の野郎」（笑）。

井上　しかも、その日の夜はちょうど東京ドームでK−1 WGPの決勝だったんですよ。だから番組の冒頭で「放送席の谷川さんです」って映ったら、おでこが真っ赤に腫れ上がってて（笑）。

タコ　その映像観たいな〜。俺も含めて、前田にはいろいろやられたけど、不思議とかまわれて嬉しい人でもあるんだよね。

井上　ガンツくんがロシアでド突かれたのは別として、俺らレベルだと接してて嫌なことないですもんね。むしろ、凄い気さくで優しい印象ですよね。

タコ　俺なんて、とくにいいときの前田にしか会っとらんから、いいイメージしかない。いま会っても嬉しいんやないかな。やっぱり身体が大きい人っていうのは、いいですよね。

椎名　無条件にボスって感じがするよね。

タコ　『kamipro』は前田のインタビューできへんの？

ガンツ　どうなんでしょうね？　正式にはひさしくインタビュー申請してないんで、なんとも。

井上　ガンツくんが直接行けば大丈夫だって！

ガンツ　でも、ロシアで直接挨拶に行って、正拳突きで骨折られてるんですよ、ボク（笑）。

椎名　折られたの!?

井上　やっぱ直接行っちゃダメ（笑）。

獏さん、『やれんのか!』開催の喜びを存分に語る!!

誰よりも“ピュア・ホワイト”な格闘ファン

——獏さん、ご
獏 『kami
さじゃない?
——前回は「
USA』に尿
という話でし
のインタビュ
Eが再開して
だったんです
獏 それは凄
しさ、大会が
たねぇ～（心
——そのへん
いたいんです
消滅〃から、
の日々をどう
獏 じつはね
報はつかんで
——獏さんが
獏 そう！
けど、おおま
たから。「海外
かなりの確率
ワサも早い段

タコ それ、ガンツの自己申告ファンタジーちゃうの？

ガンツ これはリアルです（笑）。

椎名 でも、ロシアで折れたら大変じゃん。痛いまま日本に帰ってきたの？

ガンツ そうですよ。帰国してからも、いつまで経っても痛みがひかないんで、病院に行ったら「肋軟骨骨折の疑い」って診断されたんですよ。でも、肋軟骨ってレントゲンに写らないんですよね。

タコ だから「疑い」なんや。

井上 その医者、どっかの団体のリングドクターなんじゃないの？（笑）。

タコ プロレスのファンタジーを守ってくれるお医者さん（笑）。お医者さんといえば、前田のビデオ作ってるときに中山ドクターのとこに話を聞きに行ったら、「前田は常人じゃない。麻酔の量も他人の何倍」とか、「いままであんな人間に会ったことない」とか言うてましたね。

ガンツ 技術的に凄いとか、運動能力が凄い、じゃなくて、生物として凄い、と（笑）。

タコ 第二次UWFを観てなかった椎名さんは、リングスが旗揚げして、すぐ観戦復活したんですか？

椎名 いや、テレビ放映がWOWOWって問題もあったから、すぐは観てなかった。1年以上経ってから観始めたのかな。

ガンツ じゃあ、初期の正道会館が参戦してた頃は観てないんですか？

椎名 観てないんだよ！ それを観なくちゃと思ってるんだけど。

ガンツ あれはいま観ても最高ですよ！ もの凄く新しい刺激に溢れていて。

椎名 当時は東京に出てきてそんなに経ってなかったからさ、すぐにWOWOWに加入できたりしなかったんだよ。

井上 俺、あの頃の佐竹ってじつはけっこう好きだったんだよな。

ガンツ ボクも大好きでしたよ！ だからボク、船木カットにする前は佐竹カットでしたから。

タコ なんで毎度、髪型から入るんや（笑）。

椎名 でも、あの頃は角田とか平直之なんかも、みんなリングスに骨を埋めようとしてたんでしょ。

ガンツ ホントに修斗は別として、総合格闘技が産声を上げたのが、リングスでしたからね。みんなこぞって参戦してくるような状態で。

椎名 でも、当時はまだ真剣勝負とプロレスが混じってたから、いろいろ問題もあったって聞いたけど。

ガンツ そうなんでしょうね。リングス初のビッグマッチである有明コロシアム大会のとき、正道会館が初めて参戦してきて、おもしろい試合がたくさんあったんですけど、当時のボクが観て一番おもしろかった試合は、ディック・フライvsウィリー・ピータースだったんですよ。

井上 ああ、すっげえ攻防があったヤツ。

ガンツ そう！ ピータースがスープレックスで追い込みながら、フライが打撃で逆転KO勝ちするってやつですよ。ところが、『格通』読んだら、「格通的名勝負」っていう表記で、木村浩一郎vsグロム・ザザ、角田vsヘルマン・レンティングとかは大きく扱われてるんですけど、フライvsピータースは全然評価されてなかったんですよね。

井上 「格通的」には〃選考外〃だったんだ（笑）。

ガンツ それで、もちろんメインの前田vsヴォルク・ハンも入ってなくて、そこで「なるほどな」と堀江少年も気づかされたという（笑）。

タコ でも、総合格闘技の技術体系なんかできてなかった時代に、世界中のいろんなジャンルの格闘家が集まって、しかもプロレスとガチンコが混在して、それでちゃんと興行が成り立ってたんやから、奇跡的な団体やなあ。

ガンツ だから、有明大会の次の東京ベイNKホール（92年1月）も最高なんですよ。佐竹vsジェラルド・ゴルドー、角田vsロブ・カーマンなんていう試合が、リングスルールのガチンコでやってたんですからね。あと、第一試合の長井満也vs木村浩一郎も凄かった。

井上 ああ、凄かった！

椎名 長井vs木村が凄かったって、マニアはみんな言うよね。

ガンツ ボクはあの試合で、初めて「スタンディングダウン」っていうものを観ましたからね。それまでUWFのプロレスにスタンディングダウンなんてありませんでしたから。

椎名 でも、そうやって初期はガチンコがかなり混じってたリングスが、途中からなんか違ってきちゃってたのは、なんでなの？

ガンツ 要は、リングスは毎月興行をやらなきゃいけなくて、当時は所属選手は毎大会出るのがあたりまえだったから、「そんなの毎月やってられない」ってことだったんでしょうね。

タコ そこでもやっぱり興行論なんやなあ。

井上 でも、前田は第二次Uのとき、船木とかが「ガチをやりたい」って訴えてたのを「まだ早い。あと3年待て」って言ってたのに、リン

正道会館が参戦してた頃の初期リングスはいま観ても緊張感抜群で最高ですよ！（ガンツ）

まだ総合格闘技のルールすら未整備だった時代、リングスでは正道会館の佐竹雅昭、角田信朗をはじめ、さまざまな格闘家が集結し、手探りでガチンコを行なうという、実験の場でもあった。当時のリングスをヒントに『K-1グランプリ』はスタートし、のちのPRIDEフォーマットの原点ともなった。

グスでそれが実現しなかったのがちょっと「?」だったんだけど。

ガンツ まあ、前田は旗揚げ第2戦でヒザのじん帯を切る大ケガをして、そこで選手としては事実上終わっちゃってた部分もありましたからね。絶対的メインイベンターとして毎月試合に出なきゃいけなかったけど、とてもじゃないけど、純然たる真剣勝負に打って出られるような身体じゃなかったという。

井上 でも、現役末期にヒクソン戦をマジで交渉してるみたいな話が伝わってくると、またそこで燃えたよね。

タコ 燃えた!

ガンツ あれは本気だったみたいですからね。

椎名 じゃあ、ヒザをケガしてなかったら、前田自身も引退前にバーリ・トゥードやったりしたのかな?

ガンツ う～ん、ヒザをケガしてなくて、もうちょっと若かったら、やってたんじゃないかな……(笑)。

椎名 いろいろエクスキューズがつかなきゃいけないんだ(笑)。

タコ 前田のバーリ・トゥードとか、真剣勝負に対する言いきりって気持ちええとこあんねんけどな。「昔の新日本道場にいた人間なら、誰でもグレイシーに勝てる」とかさ。

ガンツ 「道場でイワン・ゴメスに勝った」とかですよね(笑)。

タコ あと印象に残ってるのは、「ジョージ高野。あいつはね、ボクシングやったら世界チャンピオンになっとるよ」とかね。ホンマかいな?って思うけど(笑)。

ガンツ でも、前田が言うことって、自分の中では真実なんでしょうね。

井上 (突然、山本小鉄の声マネで)モンスターマンならK－1で優勝できましたよっ!!

椎名 (無視して)前田って自分でどれぐらい強いと思ってるのかな?

ガンツ いや、ホントに自分は強いって、疑いなく思ってるんじゃないですか。そういう自信は凄くあると思いますよ。

タコ でも、実際にはバーリ・トゥードとかやってへんわけやんか。そのへんの思考回路がまったくちゃうんやろうな。

椎名 前田ってさ、所英男とかに本気でアドバイスしてるじゃん。あれはマジなの?

ガンツ マジも大マジですよ! ファンの中には「リングスはガチンコじゃない、前田はシュートやったことがない」とか言ってる人はいますけど、前田の中ではリングス、そして自分の試合はれっきとした総合格闘技なんですよ。

タコ ………それは本気で?

ガンツ 本気で! それはなぜかっていうと、同じU系でもUWFインターとリングスでは、試合のメカニズムがあきらかに違ったらしいんですよ。田村潔司なんかは、「UWFはプロレス、パンクラスは格闘技、リングスはUWFではあるけどプロレスではない」という言い方をしてるんですけど。

タコ それは真剣勝負やってこと?

ガンツ う～ん、純然たる真剣勝負とは言わなくとも、よりそれに近いってことじゃないですか。だから、高田vs北尾みたいな感じだと思いますよ。一応、プロレスリングのフォーマットの中では行なわれているけど、何が起こってもおかしくない、と。

井上 (突然、藤原組長の声マネで)だ、だからな。そ、そうやって真剣勝負って言うけどな、ピストル持ってるヤツが一番強いだろがっ!!

タコ (無視して)高田vs北尾は、一応、引き分けにすることになっていたのを、流れの中で高田がKOしたって言われとるよな。

ガンツ だから、前田はリングスのボスでマッチメイカーなのに、高田vs北尾戦における「北尾」の立場になった試合が何試合かあるらしいんですよ。それはべつに"裏切られた"わけじゃなくて、そういうことがあり得る試合形式で、前田もやってたってことですよね。

椎名 実際、リングスのメンバー見ると、プロレスをまっとうしようにも難しいよね。世界中からプロレスを知らない格闘家を連れてきてリングに上げてるわけだから。

井上 最近、猪木さんが「俺は手の合わないプロレスが好きなんだよ」って言ってたんですけど、たぶん前田もそういう嗜好なんだと思いますよ。ただし、猪木さん本人はほうきが相手でもいい試合をするんですけど(笑)。

ガンツ そして、おそらく前田vsニールセン戦もそういう試合だったと思うんですよね。"ひっくり返る"可能性を多分に含んだ試合。それを純然たる真剣勝負とカウントしていいかどうかは別として、カテゴリー的には格闘技なんですよ。前田vsヴォルク・ハン戦の何試合かは、じつは真剣勝負に近い形式で行なわれていたなんて、逆に幻想が広がりませんか?(笑)。

タコ でも、それを格闘技ってカウントするんやったらさ、永田裕志と

リングスを代表する一戦として、幾度となくメインイベントで組まれた前田日明vsヴォルク・ハン。お互い認め合う二人の闘いの質は、高田vs北尾戦というより、パンクラスでの船木vs鈴木戦に近かったのかもしれない。

貘さん、『やれんのか!』開催の喜びを存分に語る!!

誰よりも"ピュア・ホワイト"な格闘ファン

昔の"日明兄さん"に戻ってもらうためにはタコヤキ君がまたデコピン食らわないと(笑)(井上)

言い合いになったとき、自分のシュートマッチとしてニールセン戦なんてもの凄く古いところを持ち出さんでも、ヴォルク・ハン戦を挙げてくれたらええのに。

ガンツ　いや、「自分は新日本でプロレスをやりながらも、ニールセン戦のような試合をやってた」と言いたいんじゃないですか。

タコ　まあ、前田は自分のバックボーンとか、新日本なんかでやってきたことを凄く肯定する人やもんな。

ガンツ　だから、いまの総合の選手とかに対しても、「俺が若い頃、新日本の道場でやってたことは……」とか、堂々と語るわけですよね（笑）。

椎名　前田の中では、いまの総合も昔の新日本プロレス道場も完全に同一線上なんだね（笑）。

タコ　それは自分の過去に補正フィルターをかけてる部分もあるんやろなあ。

ガンツ　でも、前田の試合ではないですけど、リングスの後期はけっこうリングスルールでありながら、純然たる真剣勝負って試合が多かったらしいですよ。

椎名　各選手がプロレスと格闘技の"両刀使い"みたいな部分もあったんだ。

ガンツ　だからボクが大好きなエピソードで、グロム・ザザが当時最強説すらあったヒカルド・モラエスに勝ったときがあったじゃないですか。あのとき、ザザは通常のリングスルールをやるつもりで来日してたらしいんですよ。

椎名　え～っ!?　そうなの？

ガンツ　ところが実際はバーリ・トゥードで、それでも平然とリングに上がって、しかも勝っちゃうんだから、凄いことですよ！

椎名　ザザ、最高だね！

井上　（ふたたび山本小鉄で）俺なら殺してるね!!

ガンツ　（完全に無視して）いつシュートになっても、すぐに対応できる技術と胆力を持っているという、これ理想のプロレスラーですよ。だから、ボクはリングスは"理想のプロレス団体"だと思うんですよね。

タコ　だから好意的に考えると、前田は逃げてたり、根性がないからガチンコやらへんとかじゃなくて、やっぱり興行論を優先せざるをえなかったんやろうな。

ガンツ　興行を成立させる、選手を食えるようにするっていうのが最上位に来てただけだと思うんですよね。だって、当時はPRIDEすら赤字続きで、ガチで食える状況じゃなかったわけですから。

タコ　「選手が食えないで何が理想や」っていうのを前提にしてたわけやもんね。だから、故障もなくて立場的に楽なところやったら、前田はもっと純粋にガチンコしてたかもしれんな。

椎名　でも、リングスはやっぱり、完全なる真剣勝負になるのがちょっと遅かったから、終わっちゃったのかな。KOKはおもしろかったけど、バーリ・トゥードの世界的な流れがもうできちゃってたもんね。

ガンツ　だから終わるべくして終わった感はありますね。よく「PRIDEの選手引き抜きでリングスが潰れた」って言う人がいますけど、ほとんど関係ないと思うんですよね。当時のノゲイラやアイブルにそこまでの興行価値はないですから。それよりも田村、ヤマヨシ、成瀬とか日本人選手が次々と離脱したことのほうが問題であって。

タコ　リングスの客数が目に見えて落ちたのって、日本人が金ちゃんぐらいしかおらへんようになってからやもんな。

ガンツ　ただ、これはけっこう勘違いされてるんですけど、じつはリングスって潰れてないんですよ。

タコ　へ？

ガンツ　WOWOWの打ち切りが決定したから、黒字のまま活動休止したんですよ。しかもWOWOWの放送も一足飛びに打ち切りになったわけじゃなくて、当初は「契約を見直したい」っていうぐらいのもので、前田が出向いて「来期もお願いします」って頭を下げてたら、地上波で言うところのプライムタイムから深夜枠に降格ぐらいで済んでた可能性が高かったらしいんですよね。でも、そういう交渉もしないから、そのまま終わっちゃって。

椎名　えぇ～～！　そうなの!?　じゃあ、WOWOWはまだやってたかもしれないの？

ガンツ　そうらしいです。

井上　第二次UWF解散時の「俺を信じられないなら解散や！」とノリは一緒なんだね。

椎名　（心底悔しそうに）マジで～～!?　前田、頼むよ。頭下げに行ってくれよ～。

ガンツ　昔から馬場さんも猪木さんも、テレビ局に行ってよく頭下げてたらしいですもんね。「いまはちょっと苦しいですけど、お願いします」って。そうやってテレビ放映を維持してたって。

タコ　それが事実やったら悔やまれるなぁ。WOWOWだって、思ったように加入世帯って伸びなかったじゃないですか。でも、リングスって開局の目玉として始まってるから、凄くいい金額をリングスに払い続けてたんでしょうね。でも、リングス自体は一般的な人気はどんどん落ちてたわけやから、お荷物になっちゃった。そやからWOWOWが契約を見直したいって言うのもあたりまえやんな。新日本なんかが放送枠を深夜に移行したような感じで、前田も現実的な落としどころ見つけりゃよかったものを……。

椎名　シーザー武志みたいに泥水をすすってでも、団体を存続させるっていうタイプじゃないんだね。

ガンツ　そういう「武士は食わねど高楊枝」的なところが、前田の魅力でもあるから、リングスが活動休止になったのは致し方ないと思いますけどね。ただ、それだけに、いま『HERO'S』のスーパーバイザーに収まってるのは、ちょっと違うんじゃないか、とも思うんですけど。

タコ　そやな。いまの前田には、前田日明本来の魅力が見えにくくなってるもんなぁ。

ガンツ　早く、我々変態的ファンが大好きだった"日明兄さん"に戻ってほしいですよね。

井上　そのためには、タコヤキ君がまたデコピン100発食らわないと（笑）。

タコ　んあ～！　そこまで戻るんかい！　って、こんなオチでええんかな？

ガンツ　変態座談会なんでいいんじゃないですか（笑）。というわけで、前編後編でお送りしてきました「僕たちが好きだった前田日明座談会」このへんでお開きにしましょう。次回はどんな変態ネタが飛び出すか、お楽しみに！

タコ　お、まだこの座談会続くんや。

ガンツ　もちろん！　変態ロードはまだまだ先が長いですよ～！

【07年10月31日／新宿・変態座談会の聖地「リビングバー」にて収録】

ライバルたちが語る

桜庭vs船木戦

12.31 Dynamite!! 京セラドーム大阪

フランク・シャムロック

エベンゼール・フォンテス・ブラガ

桜庭和志と船木誠勝。ともに1969年生まれの38歳で、格闘技界の"伝説"と呼ばれる二人であるが、最も活躍した時期が異なるため、これまで交わることがほとんどなかった。そんな二人がいま闘うとどうなるのか？　それを皮膚感覚でわかる数少ない人間である、共通のライバルたちに本誌は直撃！　フランクとブラガに桜庭vs船木を語ってもらった。

構成／堀江ガンツ

ライバルたちが語る
桜庭 vs 船木戦
12.31 Dynamite
①

フランク・シャムロック
FRANK SHAMROCK

「勝つのはフナキ。カール・ゴッチから学んだものは普遍の技術だよ」

聞き手&撮影／石井史彦　構成／堀江ガンツ

初代ＵＦＣミドル級王者にして、現ストライク・フォース世界ミドル級王者。アメリカＭＭＡ界のパイオニアにしてレジェンドであるフランク・シャムロック。
彼は大晦日の『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』で闘う、桜庭和志と船木誠勝、双方と浅からぬ因縁がある。
フランクのＭＭＡキャリアのスタートは、93年に船木誠勝が立ち上げたパンクラスであり、ＭＭＡの師匠も兄ケン・シャムロックと船木だった。船木とは実際にパンクラスマットで二度闘っており、1勝1敗の戦績を残している。
また、桜庭とは日米のスーパースター同士として、ＰＲＩＤＥマットで何度も対戦が噂されながらついに実現しなかったという経緯がある。サクがリング上で「フランクさんとやってみたいと思います」とマイクアピールしたのが、「船木さん」と聞き間違えられ、それが桜庭vs船木の起源となったことは、有名な話だ。
そんなフランクは、今回の桜庭vs船木戦をどう見ているのか。11月16日、米国カリフォルニア州サンノゼで行なわれた、ストライク・フォースの会場でフランクをキャッチ。独占インタビューを行なった。

――フランクさん、元気ですか！

フランク　体調はすっげー、いいよ！　毎日、トレーニングしているし、練習の終わりにはクールダウンとして300ポンド（136・1キロ）のタイヤをひっくり返しているんだ。

フナキはボクのティーチャー 人生の師匠といってもいい存在さ

――そんなに絶好調ですか。

フランク　もういつでも試合ができるね。本来なら試合のオファーから、最低2カ月の準備期間がほしいけど、いまなら直前のオファーでもＯＫできるぐらいさ。

――じゃあ、たとえば日本の大晦日のイベントから急なオファーが来ても大丈夫だ、と。

フランク　問題ないね！　あとは、たっぷりとお金を積んでくれたら出るよ（笑）。

©SHINYA INUI

兄ケン・シャムロックの指導を受けて、94年にパンクラスでデビューしたフランクは、95年3月と10月、二度にわたり船木と対戦。デビュー1年足らずながら、1勝1敗の戦績を挙げている。その後、フランクはバス・ルッテンと並び、パンクラスが生んだ世界のＭＭＡスターとなったが、いまでも船木を尊敬しているという。

――ハハハ、さすがですね（笑）。

フランク　でも、具体的なオファーがあるわけじゃないから、実際には次の試合は来年3月のストライク・フォース＆エリートＸＣになるんじゃないかとは思ってるけどね。

――噂されるヘンゾ・グレイシーとの再戦ですか？

フランク　きっとそうなるんじゃないかな。もしかしたら、相手はカン・リーになるかもしれないけど。

――前回のヘンゾ戦（07年2月10日）は不本意な結果に終わってしまいましたね。

フランク　あのときは試合時間が短かったし、おまけに失格になったしね（苦笑）。

――グラウンドで反則のヒザ蹴りを入れてしまったんですよね。でも、フランクさんが不利な体勢だったこともあって、「わざと反則負けになった」と言うファンも多いようですけど。

フランク　あれは本当にアクシデントだよ。べつに試合を中途半端に終わらせようとしたわけじゃないんだ。俺は逆にロングマッチでじわじわと痛ぶって、彼の心が折れるような作戦を考えていたんだからね。

――本当ですか？（笑）。

フランク　ホントだって！　でも次回のゲームプランは違うよ。次回は彼の身体を壊すような試合をしたいね。いまは凄く調子がいいから、自信があるよ。

――ところで、日本でもフランク・シャムロックvsヘンゾ・グレイシーのような〝レジェンドマッチ〟が組まれているんですが、ご存知ですか？

フランク　なんだろう。誰の試合？

――大晦日の『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』で行なわれる桜庭和志vs船木誠勝というカードです。

フランク　ああ、そうか！　凄くいいカードだね。

――船木選手が現役復帰するのはご存知でしたか？

フランク　オフコース！　彼はボクのティーチャー。人生の師匠と言ってもいい人だからね。そんな彼の復帰を知らないはずがないよ。

――人生の師匠とまで思ってましたか。その〝師匠〟が復帰することについてはどう思いますか？

フランク　ジェラシーを感じるね。

――ジェラシー？

フランク　彼は優秀なファイターだし、リングに上がる価値がある人間だ。そんな彼が復帰するのは嬉しいけど、あんなに大舞台で大々的に復帰戦を行なえることに、同じファイターとしてジェラシーを感じるね。しかも相手がサクラバ（桜庭和

©SCOTT PETERSON

今年2月10日、エリートXCでヘンゾと対戦したフランク。しかし、終始押され気味な展開の中、サイドポジションを取られると、下からヘンゾの側頭部をヒザで蹴り上げ反則負けとなってしまった。

99年7月4日『PRIDE.6』での桜庭vsブラガ戦後、アロハシャツに単パンという超ラフな格好でリングに上がったフランクは、PRIDE参戦と桜庭戦をアピールした。その後、このカードは何度も噂には上がったが、結局実現していない。今後、どこかのリングで実現する可能性はあるのか？

次はオレがサクラバと闘いたい！

志）ということについて、さらに嫉妬するよ。俺とサクラバの試合は、7年も前から何度も企画されていたのに、いまだに実現してないんだからね。

――桜庭選手に対しては、どういう印象がありますか？

フランク　彼は素晴らしいテクニックを持っている人間で、いまでもグッドファイターであることは間違いない。でも、正直言って、彼の身体は……引退に近づいているものだね。

――やはり衰えは感じますか？

フランク　やっぱり昔より反応が鈍っているように感じるし、身体もあちこち痛めている。でも、それはしょうがないね。サクラバはこの10年間、トップクラスで闘い続けてきたんだから。しばらく現役を離れてリフレッシュしたボクやフナキとそこが違うよ（笑）。

――では、この試合に勝つのは？

フランク　フナキだろうね。

――つまり、それは肉体的なコンディションの差で船木選手が上回る、と。

フランク　それもあるけど、一番はフナキに対する忠誠心かな（笑）。

――さすがに船木選手が負けるとは言えない、と（笑）。勝ち負けはともかく、どういった試合になると思いますか？

フランク　それは難しいね。サクラバもフナキもトリッキーな闘いをするからね。でも、サクラバはいろんな技術を持っているから、フナキにブランクがあることを狙って、スタンドで意地悪な攻撃を仕掛けるんじゃないかな。

――下馬評では「船木が勝つなら打撃」と言われていますけど、フランクさんは逆の考えということですか？

フランク　うん。総合格闘技のセオリー自体は、いまも昔も同じ。パンクラスや藤原組、カール・ゴッチから学んだものは普遍の技術だよ。だから、フナキもいまのMMAに対応することはできると思う。ただ、心配なのは、フナキのスタンドでの対応力。実戦から遠ざかりすぎているからね。

――では、やはり桜庭選手が有利ですか？

フランク　いや、勝つのはフナキだよ（笑）。

――そこは譲れない（笑）。この桜庭vs船木とフランクvsヘンゾの勝者同士が闘うのもおもしろそうですよね。

フランク　それはいいね！　とくにオレはサクラバとやりたい！　プリーズ！　ぜひお願いします！

――そんなにやりたいですか（笑）。

フランク　彼との試合をずーっと待ち望んでいたんだ。誰か、オレにオファーをかけてくれ！　いつでもいいよ！　フナキとはこれまで2試合やっていて、彼のことは本当に尊敬している。でもサクラバとはまだ闘ってない。彼とは同世代だし、ぜひ闘いたいね。

――お二人が引退する前には観たいカードですね。

フランク　オレはまだ引退しないぜ（笑）。体調もいいし、まだまだやるから、これからも期待してくれ！

【07年11月16日／米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

FRANK SHAMROCK

1972年12月8日、米国カリフォルニア州出身。ケン・シャムロックと同じ養父を持つ義理の弟。94年12月パンクラスでデビュー。UFC、リングス、修斗などでも活躍し、初代UFCミドル級王座にも輝いた。現在はストライク・フォース世界ミドル級王者。ダナ・ホワイトUFC代表とは犬猿の仲で有名。178cm、84kg。

ライバルたちが語る
桜庭 vs 船木戦
12.31 Dynamite
②

エベンゼール・フォンテス・ブラガ

EBENEZER FONTES BRAGA

「私に言わせれば、サクラバvsフナキは大会宣伝の"プロモーション・ファイト"だ！」

聞き手＆撮影／Eduard Ferrira

同い年ながら、異なる時期に全盛期を迎えたために、これまで交わることのなかった桜庭和志と船木誠勝。この二人と、唯一、バーリ・トゥードで対戦しているファイター、それがブラガだ。

99年4月にパンクラチオンマッチ（ヒジ、頭突きが許されるMMA）で船木と対戦し、判定なしのルールだったため記録上はドローながら、内容では終始圧倒。その余勢を駆って、同年7月にPRIDEに初参戦したが、日の出の勢いの桜庭に翻弄され、生涯初の一本負けを喫している。

そんなブラガは桜庭と船木をどう評価し、この一戦をどう見ているのか？

——2004年の『ジャングルファイト』（ファブリシオ・ヴェウドゥム戦）以来、試合から遠ざかっていますが、ここ最近は、何をしていたんですか？

ブラガ　じつは、あれから私は氷を配送する会社を立ち上げたんだ。

——いつのまにか氷屋さんを始めていましたか！

ブラガ　もともとファイターの傍ら、氷を売るビジネスをしていたんだけど、独立したんだよ。それを成長させるためにトレーニングをストップした。そうしたら、神様ありがとう！　成功したんだよ！　いまでは、毎週5000個のアイスを売っているんだ。

私はフナキとショウジに勝っていたし サクラバともう一回やれば負けない！

——5000個のアイスというのが、どれぐらい凄いのかわかりませんけど（笑）。とにかく、おめでとうございます。では格闘技界からは完全に身を引いたんですか？

ブラガ　いや、そういうわけではないよ。ここブラジルで、『ジュイス・ジ・フォラ・ファイト』などいくつかのローカル興行をオーガナイズしているし、選手のマネージメントもしているんだ。

——そんなこともしているんですか。では、ブラガさん自身は、現役を引退したということですか？

ブラガ　まだ完全にリタイアしたわけじゃないよ。会社を成長させるために選手としての活動を中断したけど、トレーニングは再開した。そして、いまは、これまで以上にパワフルなんだ。ファイターに〝本当の引退〟はないんだよ。

——死ぬまでファイターだ、と。いまは所属というか、練習はどこでしているんですか？

ブラガ　私が最後に試合をしたときは、グレイシー・バッハ・コンバットチームに所属してたし、いまでもそこにいるよ（※現在は名称が変わり、ゴルドー柔術）。

——では、もうヴァリッジ・イズマイウとは練習していないんですね。彼のブラジル・ドージョーはいま、どんな感じなんですか？

ブラガ　始まったときは勢いがあったけど、いまはよくないね。

——よくないですか（笑）。トレーニングを再開したということですが、闘いたい選手や、出場したいイベントはありますか？

ブラガ　私が闘いたいのは、とにかく世界のトップファイター！

——お、大きく出ましたね！

ブラガ　でもいまの私のコンディションじゃねぇ……。

——いきなり弱気ですね（笑）。

ブラガ　あちこちで、オールドファンのために試合をしたいけど、いまのMMAでは経験や勇気というのは、あまり役に立たないからね……。いまのMMAで勝つために必要なのは、フィットネス。コンディションが良くないと勝てないね。

——では、かつて、あなたと闘った桜庭和志と船木誠勝が今年の大晦日に試合をしますが、そのことは知っていました？

ブラガ　聞いているよ。

——ご存知でしたか。この二人それぞれの闘った当時の印象は？

ブラガ　フナキは闘う前、私が強いファイターだとは思っていなかったようだね。試合中に私が打撃も寝技も強いとわかって、かなり焦っていたようだ。それが彼の最も大きなミステイクだね。

——船木選手はブラガさんをナメていて、痛い目に遭った、と。

ブラガ　そのとおり。サクラバ戦に関して言えば、彼がどうというより、私のトレーニング不足だった。急なオファーに応じてしまい、準備もままならないうちにリングに上がってしまったんだ。それが心残りでならないよ。

——では、もう一度闘いたいですか？

ブラガ　フナキはもういいけど、サクラバとはぜひもう一度闘いたいね。コンディ

01年大晦日のグッドリッジ戦を最後に日本マットには上がっていないブラガだが、その後は『ジャングルファイト』を中心に活躍（写真・下）。03年にはUFCでショーグンを破ったフォレスト・グリフィンとも対戦（写真・上）。判定負けを喫している。

じつは『PRIDE.GP2000』にも出場しているブラガ。一回戦で小路晃と闘い、互角の内容となったが、グラウンドで下になる展開が多かったために判定負け。試合をコントロールしていたとの自負があるブラガは、いまだに小路との再戦を熱望している。

船木と闘った3カ月後の99年7月、『PRIDE.6』で桜庭と対戦したブラガ。自信満々で乗り込んだ『PRIDE』のリングだったが、桜庭のレスリングテクニックに翻弄され、腕ひしぎ十字固めで一本負けを喫してしまった。船木が大苦戦したブラガに完勝したことで、桜庭の評価は完全に船木の上となり、桜庭こそが日本格闘技界のエースという認識がこの一戦からさらに広まることとなった。

ションさえ万全なら、私はサクラバに負けない。あと、もう一つ言わせてもらえれば、アキラ・ショウジ（小路晃）戦で判定負けにされたのも、いまだに納得いかない！

――小路戦もですか（笑）。

ブラガ　これはぜひ、日本のマガジンでアピールしてほしい！

――ま、それはいいとして（笑）。闘った当時の桜庭選手と船木選手を比べると、どちらがどのように優れていましたか？

ブラガ　その二人を比べることはできないよ。二人は違うタイプのファイターだからね。フナキはストライカーだし、サクラバはグラップラーだ。でも、私が思うに、フナキのほうがタフだね。あれだけ殴られても、最後まで闘い抜いたのだからね。

――あれは殴られ続けたのではなく、殴られる瞬間にパンチを見切ってた、とのことですけど？

ブラガ　ノー。私のパンチはバンバン入っていたよ。フナキは、私が強い選手だということすら、わかっていなかった。でも、パンクラスのフロントは、試合前に気づいて、フナキが負けないようにするために、ギブアップかKOでしか決着がつかないルールに変更したんだ。でも、そのためにフナキは最初から最後まで殴られ続けるハメになってしまった。

――あの試合は〝パンクラチオンマッチ〟という形式で、最初から判定ナシの試合だったと思いますが……。

ブラガ　（聞かずに）あの試合でどちらが勝ったか、観ていた人間は全員わかっているだろう。ショウジ戦だって同じだ。

――また小路戦ですか（笑）。では、ここ2～3年の桜庭選手の試合はご覧になっていますか？

ブラガ　ブラジル人相手の試合は観たよ。ヴァンダレイ・シウバ戦とヒカルド・アローナ戦。どちらも彼が負けた試合だ。

――試合の感想は？

ブラガ　あの時点のサクラバが、ヴァンダレイやアローナとやるのは、無謀だと思ったね。彼は引退、もしくは第一線から身を引くタイミングについて、もっと前から考えておくべきだった。彼はもう、昔と同じレベルでは闘えないのだから。

――そうですか……。いまの桜庭選手と船木選手が闘ったら、どちらが勝つと思いますか？

ブラガ　私が思うに、サクラバだろうね。彼は、テクニック面でフナキより勝っている。でも私に言わせれば、この試合は大会を宣伝するためのプロモーション・ファイト。二人とも決してコンディションはよくないけど、大晦日のメインイベントにはふさわしいよね。

――プロモーション・ファイトですか（笑）。ブラガさんも〝プロモーション・ファイト〟をする予定は？

ブラガ　やりたいね。私も今年いっぱいはトレーニングして、来年には日本でサクラバかアキラ・ショウジと闘いたい。勝つ自信はあるよ！

――では、氷屋さんの仕事ともども頑張ってください！

【07年12月1日／電話取材にて収録】

EBENEZER FONTES BRAGA

1969年4月14日、ブラジル出身。ルタ・リーブリの名門アカデミア・ブドーカンで格闘技を学び、96年に『UVF1』で初来日。99年には船木誠勝と対戦、判定なしのルールで引き分けとなったが、内容では終始圧倒。しかし同年、桜庭和志には一本負け。04年5月の『ジャングルファイト』以来、リングからは離れている。182cm、90kg。

桜庭和志 vs 船木誠勝 徹底比較

桜庭和志		船木誠勝
34戦22勝9敗1分2無効試合	戦績	52戦39勝12敗1分
1969年7月14日（38歳）	生年月日	1969年3月13日（38歳）
秋田県南秋田郡	出身地	青森県弘前市
180cm、85kg	身長、体重	182cm、85kg
93年8月13日	デビュー	85年3月3日

桜庭和志×船木誠勝 HISTORY 1969-2000

桜庭和志	年	船木誠勝
秋田県南秋田郡に生まれる	69年	青森県弘前市に生まれる
秋田県秋田商業高校入学 レスリングで活躍	85年	新日本プロレスで 史上最年少15歳でデビュー
中央大学商学部入学 レスリング部の主将として活躍	88年	ヨーロッパ遠征
	89年	第二次UWFへ移籍
	91年	藤原組に参戦
UWFインターナショナル入門	92年	藤原組を離脱
UWFインターナショナルでデビュー	93年	パンクラスを旗揚げ
	93年12月	モーリス・スミスを破る
新日本との対抗戦で注目を浴びる	95年	
キモと初のバーリ・トゥード戦で敗れる	96年	第4代キング・オブ・パンクラシストとなる
Uインター崩壊後、キングダム参戦	97年	第6代キング・オブ・パンクラシストとなる
UFCジャパン王者に輝く	97年12月	
PRIDE初参戦	98年 3月	
カーロス・ニュートンに快勝	98年	
	98年12月	ジョン・レンケン相手に初の バーリ・トゥード戦を行なう
	99年 4月	ブラガとのパンクラチオンマッチでドロー
ブラガに腕十字で一本勝ち	99年 7月	
ホイラー・グレイシーにTKO勝ち	99年11月	
ホイス・グレイシーとの1時間半の激闘を制す	00年 5月	ヒクソン・グレイシーに敗れ引退

全対戦成績
（UFC-J以降）

- マーカス・コナン・シウヴェイラ
97.12.21「UFC-J」一回戦
1分50秒 無効試合

○ マーカス・コナン・シウヴェイラ
97.12.21UFC-J 決勝戦
3分45秒 腕ひしぎ十字固め

○ ヴァーノン・"タイガー"・ホワイト
98.03.15「PRIDE.2」
3R 6分53秒 腕ひしぎ十字固め

○vs カーロス・ニュートン
98.06.24「PRIDE.3」
2R 5分19秒 膝十字固め

△vs アラン・ゴエス
98.10.11「PRIDE.4」
3R終了 時間切れ

○vs ビクトー・ベウフォート
99.04.29「PRIDE.5」
2R終了 判定

○vs エベンゼール・F・ブラガ
99.07.04「PRIDE.6」
1R 9分23秒 腕ひしぎ十字固め

○vs アンソニー・マシアス
99.09.12「PRIDE.7」
2R 2分30秒 腕ひしぎ十字固め

○ ホイラー・グレイシー
99.11.21「PRIDE.8」
2R 13分16秒 レフェリーストップ

○vs ガイ・メッツァー
00.01.30「PRIDE GP 開幕戦 一回戦」
1R終了時試合放棄

○vs ホイス・グレイシー
00.05.01「PRIDE GP 決勝戦 二回戦」
6R終了時 TKO タオル投入

×vs イゴール・ボブチャンチン
00.05.01「PRIDE GP 決勝戦 準決勝」
1R終了 TKO タオル投入

○vs ヘンゾ・グレイシー
00.08.27「PRIDE.10」
2R 9分43秒 アームロック

○vs シャノン"ザ・キャノン"リッチ
00.10.31「PRIDE.11」
1R 1分8秒 アキレス腱固め

○vs ハイアン・グレイシー
00.12.23「PRIDE.12」
1R終了 判定 3-0

×vs ヴァンダレイ・シウバ
01.03.25「PRIDE.13」
1R 1分38秒 TKO 膝蹴り

○vs クイントン・ジャクソン
01.07.29「PRIDE.15」
1R 5分41秒 チョークスリーパー

×vs ヴァンダレイ・シウバ
01.11.03「PRIDE.17」
1R終了時 TKO 左肩脱臼

×vs ミルコ・クロコップ
02.08.28「Dynamite!!」
2R終了時 TKO

○vs ジル・アーセン
02.11.24「PRIDE.23」
3R 2分8秒 腕ひしぎ十字固め

×vs ニーノ・エルビス・シェンブリ
03.03.16「PRIDE.25」
1R 6分7秒 KO

×vs ヴァンダレイ・シウバ
03.08.10「PRIDE GP 2003 開幕戦」
1R 5分1秒 KO

○vs ケビン・ランデルマン
03.11.09「PRIDE GP 2003 決勝戦」
3R 3分26秒 腕ひしぎ十字固め

×vs アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ
03.12.31「PRIDE男祭り 2003」
3R終了 判定 3-0

○vs ニーノ・エルビス・シェンブリ
04.06.20「PRIDE GP 2004 2回戦」
3R終了 判定 3-0

○vs ユン・ドンシク
05.04.23「PRIDE GP 2005 開幕戦」
1R 0分38秒 KO

×vs ヒカルド・アローナ
05.06.26「PRIDE GP 2005 二回戦」
2R終了時 TKO タオル投入

○vs ケン・シャムロック
05.10.23「PRIDE.30」
1R 2分27秒 KO

○vs 美濃輪育久
05.12.31「PRIDE 男祭り 2005」
1R 9分39秒 アームロック

○vs ケスタティス・スミルノヴァス
06.08.05「HERO'S」
1R 6分41秒 腕ひしぎ十字固め

-vs 秋山成勲
06.12.31「Dynamite!!」
無効試合

○vs ユーリー・キセリオ
07.03.12「HERO'S」
1R 1分26秒 腕ひしぎ十字固め

×vs ホイス・グレイシー
07.06.02「Dynamite!! USA」
3R終了 判定 3-0

○vs 柴田勝頼
07.09.17「HERO'S」
1R 6分26秒 腕ひしぎ十字固め

全対戦成績
（パンクラス以後）

×vs ウェイン・シャムロック
93.09.21 パンクラス
1R 6分15秒 肩固め

○vs 柳澤龍志
93.10.14 パンクラス
1R 1分35秒 膝十字固め

○vs キース・ベーゼムス
93 .11.08 パンクラス
1R 1分42秒 アームロック

○vs モーリス・スミス
93.11.27 全日本キックボクシング 異種格闘技戦
?R 1分50秒 チョークスリーパー

○vs 高橋義生
93.12.08 パンクラス
1R 3分9秒 TKO 膝蹴り

○vs バス・ルッテン
94.01.19 パンクラス
1R 2分58秒 アンクルホールド

○vs ヴァーノン・ホワイト
94.03.12 パンクラス
1R 1分13秒 KO

○vs 冨宅祐輔
94.04.21 パンクラス
1R 6分55秒 チョークスリーパー

○vs グレゴリー・スミット
94.05.31 パンクラス
1R 1分58秒 チョークスリーパー

×vs ジェイソン・デルーシア
94.07.06 パンクラス
1R 1分1秒 膝十字固め

○vs スコット・ソルビン
94.07.26 パンクラス
1R 0分56秒 ヒールホールド

○vs ウェイン・シャムロック
94.09.01 パンクラス
1R 2分30秒 チョークスリーパー

○vs 鈴木みのる
94.10.15 パンクラス
1R 1分51秒 チョークスリーパー

○vs ロバート・ヨナサン
94.12.16 パンクラス1回戦
1R 2分20秒 腕ひしぎ十字固め

○vs ヴァーノン・ホワイト
94.12.16 パンクラス2回戦
1R 5分37秒 アームロック

×vs ウェイン・シャムロック
94.12.17 パンクラス 準決勝
1R 5分50秒 肩固め

○vs ジェイソン・デルーシア
95.01.26 パンクラス
1R 9分8秒 ヒールホールド

○vs フランク・シャムロック
95.03.10 パンクラス
1R 5分11秒 ヒールホールド

×vs 山田学
95.04.08 パンクラス
1R 4分43秒 ヒールホールド

○vs アレックス・クック
95.05.13 パンクラス
1R 7分14秒 ヒールホールド

○vs グレゴリー・スミット
95.06.13 パンクラス
1R 7分30秒 アキレス腱固め

○vs リオン・ダイク
95.07.23 パンクラス
1R 1分1秒 アキレス腱固め

○vs ガイ・メッツァー
95.09.01 パンクラス
1R 6分46秒 アキレス腱固め

×vs フランク・シャムロック
95.11.04 パンクラス
1R 10分31秒 アンクルホールド

○vs 冨宅祐輔
95.12.14 パンクラス
1R 0分31秒 フロントチョーク

○vs 柳澤龍志
96.01.28 パンクラス
1R 8分42秒 TKO

○vs 稲垣克臣
96.03.02 パンクラス
1R 1分14秒 膝十字固め

×vs 近藤有己
96.04.07 パンクラス
不戦敗

○vs オーガスト・スミスル
96.05.16 パンクラス
1R 2分1秒 チョークスリーパー

○vs ヴァーノン・ホワイト
96.06.25 パンクラス
1R 2分34秒 アンクルホールド

○vs 伊藤崇文
96.07.23 パンクラス
1R 2分1秒 チョークスリーパー

×vs バス・ルッテン
96.09.07 パンクラス
タイトルマッチ
1R 17分5秒 KO

○vs 近藤有己
96.11.09 パンクラス 一回戦
1R 1分43秒 チョークスリーパー

○vs ジェイソン・デルーシア
96.12.15 パンクラス
タイトルマッチ
1R 7分49秒 TKO

○vs セーム・シュルト
97.02.22 パンクラス
1R 5分47秒 アンクルホールド

○vs ポール・レイゼンビー
97.03.22 パンクラス
1R 4分36秒 アームロック

×vs 近藤有己
97.04.27 パンクラス
タイトルマッチ
1R 15分12秒 腕ひしぎ十字固め

○vs ウェスリー・ガサウェイ
97.06.30 パンクラス
1R 1分05秒 アンクルホールド

○vs 渋谷修身
97.07.20 パンクラス
1R 9分30秒 フロントチョーク

○vs ガイ・メッツァー
97.09.06 パンクラス
1R 3分58秒 腕ひしぎ十字固め

○vs ジェイソン・ゴドシー
97.11.16 パンクラス
1R 7分12秒 アンクルホールド

○vs 近藤有己
97.12.20 パンクラス
タイトルマッチ
1R 2分20秒 アームロック

○vs 稲垣克臣
98.02.06 パンクラス
1R 2分36秒 アームロック

○vs セーム・シュルト
98.03.18 パンクラス
1R終了 判定

×vs ガイ・メッツァー
98.04.26 パンクラス
タイトルマッチ
1R終了 判定

○vs 渋谷修身
98.07.26 パンクラス
1R 6分07秒 肩固め

×vs セーム・シュルト
98.09.14 パンクラス
1R 7分13秒 KO

×vs 國奥麒樹真
98.10.26 パンクラス
1R終了 判定

○vs ジョン・レンケン
98.12.19 パンクラス
1R 5分50秒 ギブアップ

△vs エベンゼール・ブラガ
99.04.18 パンクラス
1R終了 時間切れドロー

○vs トニー・ペテーラ
99.09.18 パンクラス
1R 1分16秒
パウンドによるギブアップ

×vs ヒクソン・グレイシー
00.05.26「コロシアム2000」
1R 11分46秒
チョークスリーパー

あまりにも文字のサイズが小さすぎますが、それだけ二人には長いキャリアがあるということ！
というわけで、両選手に敬意を表しながら、虫メガネでご覧ください！

桜庭と船木、学年こそ一つ違いながら同じ69年、東北生まれの38歳。ともに格闘技界のレジェンドながら、二人はまったく違う道を歩んできている。

船木は中学卒業後、新日本プロレスに入門。翌年、当時の史上最年少15歳でデビュー。そのとき、桜庭はちょうど高校入学。レスリング部で"格闘技歴"をスタートさせた。船木はその後、若手のホープとして欧州遠征に出発。時を同じくして桜庭は中央大学レスリング部に入り、主将として現在の基礎となるレスリングを磨く。桜庭の大学時代、船木は第二次UWFでスター街道を歩み、藤原組ではエースとなる。桜庭は船木に遅れること8年、92年にUインターに入門し、93年デビュー。同年、船木は"完全実力主義の団体"パンクラスを旗揚げする。

このように90年代半ばまでは船木は総合格闘技の若き先駆者であり、桜庭は一若手選手にすぎず、その"格"にはとてつもない開きがあった。しかし96年、船木に先駆けて桜庭はシュートボクシングのリングでキモ相手に初のバーリ・トゥード戦を敢行。敗れたもののその実力の片鱗を見せると、キングダムで実力をのばし、97年にUFC-Jトーナメントに優勝してブレイク。このとき船木もパンクラス王者に君臨していたが、当時、UWF系の"上位概念"であったブラジリアン柔術家から一本勝ちを奪った桜庭の輝きは、船木を色褪せさせていく。

1年後、船木はようやく初のバーリ・トゥード戦を行なうが、桜庭はすでにPRIDEの新スターとして勢いを増し、99年には船木が大苦戦したブラガにも完勝。ホイラー・グレイシーをも破り、立場は完全に逆転した。

そして2000年5月。桜庭はホイス・グレイシーに歴史的な勝利をあげる。一方、船木はヒクソンに完敗を喫し、現役引退を表明。格闘技界に桜庭という"新しい太陽"が輝くのと時を同じくして、総合格闘技界の先駆者は地平線へと消えていった。

あれから7年半。格闘技界のトップを走り続け、身体はボロボロながら闘い続ける桜庭。格闘技界の太陽は西の空に傾いてしまうのか。7年半ぶりに復帰する船木はどんな闘いを挑むのか。二人の大河ドラマが38年目のいま、いよいよ交差する！

“大連立”を尻目に年末年始にスーパーカード連発!

ダナの高笑いはまだまだ止まらない!

UFC

MMA WORLD SERIES 2007-2008

大晦日に向けた"大連立"によって、ひさびさに活気が戻ってきた日本の格闘技界。しかし、そんなことは尻目に、大帝国を築きつつあるUFCの勢いはまだまだ止まらない! "ジャイアン"ダナ・ホワイトが「MMAワールドシリーズはすでに始まっているんだよ」と豪語するように、年末から来年にかけて、怒濤のスーパーマッチ・ラッシュなのだ! シウバvsリデル、ノゲイラのタイトルマッチ、アルメイダの復帰戦……、まさに"格闘技界のメジャーリーグ"の名にふさわしいラインナップを堪能せよ!

12.29『UFC79』で“ミスターPRIDE”が“ミスターUFC”と激突!

WANDAERLEI SILVA

ヴァンダレイ・シウバ

チャック・リデルは オクタゴンのスペシャリスト ヤルか、ヤラれるかの闘いになるね

構成／上杉公文書偽造　撮影／Josh Hedges（UFC）

ダナに会って驚いた。ナイスガイだし、このビジネスに真剣に取り組んでいる。そしてスマートなんだ

時は来た!! よ〜〜やく来た! 〝ミスターPRIDE〟ヴァンダレイ・シウバがついにUFCへ殴り込み! しかも、その対戦相手は〝ミスターUFC〟チャック・リデル。

折しも、日本で〝格闘大連立〟が起こり、MMAが新たな局面を迎えようとするタイミングで、アメリカへと闘いの舞台を移し、人生の転機を迎えることになったヴァンダレイ。大一番を迎える覚悟とともに、「PRIDEの孤児」を自称するヴァンダレイに『やれんのか!』発足に対する心境を聞くべく、インタビューを申請したところ、UFC広報を通じた、メールによる一問一答形式での取材に応じてもらうことができた。ヴァンダレイは、いま何を思うのか。ここに紹介したい。

★

Q ファンの念願でもあった、因縁のリデル戦が実現することになりましたが、これまでの経緯を振り返って、どんなお気持ちですか?

ずっとこの日が来ることを待っていたよ。8年前にブラジルでチャックの試合を観たときから、いつか闘いたいと思っていたんだ。でも、その後、俺は日本のPRIDEでチャンピオンになって、チャックはアメリカでチャンピオンになったから、拳を交じえるチャンスがなかった。1年半前にオクタゴンでチャックと向かい合ったとき、ついにこの試合が実現すると思ったよ。でも(当時所属していたPRIDEとUFCの)交渉はうまくいかなかった。それが今回、ついにチャックと闘うことになったんだ。いまは、寝ても覚めても、この試合のことしか考えられないね。

Q 現在のコンディションはいかがですか?

とてもいいよ。フィジカル面でも、メンタル面でも。ケガもないし、これまででベスト・コンディションだね。

Q 家族でアメリカに移住してきてしばらく経ちましたが、ラスベガスの環境には慣れましたか?

ここの気温は、故郷のクリチバとあまり変わらない。この時期の天気も似たようなものだから、慣れる必要もないというか、体調を崩すこともなかったよ。人々もフレンドリーで、いつもストリートで握手を求められる。いい感じだよ。妻もここアメリカでの生活をとても気に入ってるようだし、息子はいまスクールで英語を勉強している。アメリカに住むことは家族にとっても大きな決断だったし、そうしてよかったと思ってる。

06年7月の『UFC61』で、オクタゴンに乱入したヴァンダレイはフェース・トゥ・フェースでリデルと視殺戦を展開。このとき、「チャックとファイトしたい」と言おうとして、「ファッ●したい」とマイクアピールしてしまい、一部で波紋を呼ぶことになった。

Q リデル戦は、どんな試合展開になると思いますか?

まず判定にはならないだろうな。チャックは俺を怖れない男だ。そして俺もチャックを怖れない。俺が倒れるか、彼がマットに這いつくばるか。何ラウンドになるかわからないけど、絶対にKO決着になるよ。2007年のベストファイトになることを望んでいる。

Q 具体的にどんなゲームプランを考えていますか?

もちろん、ボクシングスタイルさ。チャックも素晴らしいボクシングスキルを持っている。真っ向から打ち合いたいね。グローブはPRIDEのものより小さいから、ファンにとっては見応えのある、激しい試合になるよ。彼の目を閉ざしてやるさ。

Q オクタゴン対策やエルボーの練習は万全ですか?

まず俺が最初にトレーニングを積んだのは、ヒジの使い方が重要なムエタイだってことを忘れないでほしいな。チャックは俺のヒジの威力に驚くことになるだろう。オクタゴンでの試合はひさしぶり。ワクワクするね。金網の中では、試合がストップされないから、アグレッシブな展開になるだろう。

Q いまはどこでトレーニングしているのですか?

いまはズッファのジムで、トレーニングしているよ。誰にも見られることもなく、練習に集中できるんだ。ダナ(・ホワイト代表)ともよく顔を合わせるけど、昔の(PRIDEとUFCの)ライバル関係から考えると、ずいぶん状況が変わったなって感じるよ。それに、これまでダナはテレビで観てた存在だからね(笑)。実際、ダナに会って驚いた。ナイスガイだし、このビジネスに真剣に取り組んでいる。そしてスマートなんだ。

Q ランディ・クートゥアーのジムでも練習されているとのことですが、彼はリデルとこれまで3度闘っていますが、何かアドバイスを貰いましたか?

ノー。ランディとは、あまり話す機会がないんだ。彼は自分のビジネスで忙しいからね。

Q そのジムでは、『UFC76』アナハイム大会でショーグンから一本勝ちしたフォレスト・グリフィンも練習していますが、彼とそのショーグン戦について話しましたか?

俺はほかのファイターと試合について話したりはしない。試合以外の話はするけどね。グリフィンは、普段はシンプルな人間だよ。でも、本当にタフなファイターなんだ。ショーグン戦後、グリフィンに対する認識を変えたよ。彼はタイトルに挑戦するのにふさわしいファイターの一人だね。

Q 現在、タイトルを保持しているのは、PRIDE時代に2度勝っているクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンですが、リデル戦に勝てば、タイトル挑戦を表明しますか?

もちろん、ベルトは獲りたいさ。前チャンピオンのチャックを倒せば、そのチャンスが来るんじゃないかとも思う。ただ、いまはリデルとの試合に集中しているから、次の試合については考えられない。俺が闘おうとしている男は、オクタゴンのスペシャリスト。ヤルかヤラれるかの闘いになる。これまでの俺を愛してくれたファンには、これからの俺の新しい闘いをサポートしてほしいね。

★

と、リデル戦に対する熱い思いを伝えてくれたヴァンダレイだが、残念ながら、『やれんのか!』など日本のMMAシーンについての質問には、答えが返信されなかった。これまで本誌のインタビューで語ってきたように、PRIDEへの思いが人一倍強いヴァンダレイ本人が回答を拒否するとは考えにくいが……、目前の大一番にのみ集中したかったのだろうか。本誌は『UFC79』ラスベガス大会を現地取材予定。次回、ヴァンダレイの生の声をお届けしたいと思います!

WANDARLEI SILVA■1976年7月3日、ブラジル・クリチバ出身。99年にPRIDEデビューをはたすや、快進撃を続け初代PRIDEミドル級王者を獲得。03年には『ミドル級GP』を制するなど、PRIDEの象徴的存在となる。今年8月、アメリカに移住し、UFCと契約を結んだ。182cm、92.9kg。

1.19『UFC80』で"天才柔術家"が
ライト級暫定王座獲得へ!

BJ.PENN

BJ・ペン

『TUF』に出るためライト級に落とした。ウェルター級のベルトも獲って二階級制覇してみせるよ!

聞き手/石井史彦　撮影/Josh Hedges (UFC)　構成/上杉公文書偽造

ゴミとの再戦？ ぜひ、やりたいね。絶対にいい試合になるし、PPVがバンバン売れるだろうから（笑）

これまで五味隆典やマット・ヒューズといった強豪を相手に、一方的な試合内容を見せ、"天才"の名をほしいままにしてきた元UFCウェルター級王者、BJ・ペン。昨年は不振が続いたものの、今年6月、ライト級に転向するや、元ライト級王者のジェンス・パルヴァーをあっさりとチョークで破り、タイトル戦線に急浮上。来年1月の『UFC80』イギリス大会で暫定王座を懸けて闘うことになった。しかし、この男の目標はライト級制覇に留まらない。五味との再戦、さらには二階級制覇の野望を打ち明けた！

――トレーニングは順調ですか？

ペン 順調も何も、いますぐにでも闘えるぐらいのコンディションはいいよ。本当は9月に試合をするはずだったんだ。それが延びて、今日の大会（11・17『UFC78』ニュージャージー大会）になるだろうと言われていた。それが、さらに押しているんだ。見てくれよ、このグッドシエイプを（と言って、服をめくる）。

――あ、ホント。いますぐにでもオクタゴンに上がれそうですね。ライト級暫定王座を巡ってジョー・スティーブンソンと対戦することになったわけですが、彼をどう評価していますか？

ペン いいファイターだよ。パンチもいいし、テイクダウンの技術もある。ボクと同じレベルのトップファイターだよ。

――もともと、ペンさんはウェルター級で闘っていたわけですけど、ライト級に体重を落としたのはどうしてですか？

ペン それは、ダナ（・ホワイトUFC代表）と話して決めたんだ。まず、UFCはリアリティショーのためにコーチを探していた。

――では番組のために体重を落としたんですね。

ペン それに加えて、そのオファーはつまり、最終回で"コーチ対決"となるジェンス・パルヴァーの相手を探しているということでもあったんだ。ボクにとって、パルヴァーはどうしてもやりたい相手だった。

――2002年に負けているんですよね。

ペン ボクにとっては、絶対に取り返したいリベンジマッチだったんだ。そのチャンスが目の前にあったから、ホントは望んでなかったけど、階級を落として、番組に出ることにしたんだ。

――で、そのパルヴァー戦に勝って、暫定王座決定戦を迎えることになったんですね。

ペン ホントは、もっと早く、チャンピオンのショーン・シャークとタイトル戦を闘うつもりだったんだけどね（笑）。

――シャークに7月の『UFC73』サクラメント大会でシャークにステロイド陽性反応が出たことで、UFCの経営陣もライト級王座の処遇に困ってたわけですが、ペンさんも試合が決まらず、ある意味、被害者になったわけですね（笑）。ライト級では、ほかに気になるファイターはいますか？

ペン ゴミ（五味隆典）はいいファイターだよ。タフだしね。ここ何試合か勝ったり負けたりしていたけど、彼はいつでもリングに戻ってきて、周りの連中をなぎ倒すことができるよ。

――03年の『ランブル・オン・ザ・ロック』ハワイ大会では、その五味選手を終始圧倒して、一本を奪ってますが、もし、彼がUFCに来れば、リマッチを受けてもいいと思います？

（写真上）日本初の試合となった04年『K-1 ROMANEX』では、ドゥエイン・ラドウィックと対戦。開始直後にテイクダウンに成功するや、肩固め秒殺しファンを驚かせた。（写真下）ライト級転向戦となったパルヴァー戦は『TUFシーズン5』のコーチ対決として注目を集めたが、BJは完勝。誰がこの男に勝てるのか？

ペン オフコース！ ゴミとの試合なら、間違いなくいい試合になるし、PPVがバンバン売れるだろうからね（笑）。

――つまり、PPVボーナスがたくさんもらえる、と（笑）。

ペン なんなら、2回試合をしてもいいよ。ホームとアウェー形式にして、1回は日本で闘ってね。しばらく日本に行ってないから、行ってみたいんだ。

――日本のMMAの状況も気にされてますか？

ペン もちろん！ とくに『HERO'S』ではボクと同じ階級の選手がたくさんいるからね。

――王者のJZカルバンには、どういう印象があります？

ペン 彼はバランスのとれたいいファイターだよね。といっても、じつは彼の試合を観たのは、ビトー・"シャオリン"・ヒベイロ戦の1回しかないんだけど、圧倒的な強さを見せてたね。

――では、山本KID徳郁はどうですか？

ペン 彼とはいい友だちなんだ。そして、言うまでもないけど、いいファイターだ。アメリカで同じく"KID"の愛称で、スターになりつつあるユライア・フェイバーと闘ったらどうなるのか、ぜひ観てみたいね。

――その試合はどちらが勝つと思います？

ペン それは、ボクの口からは言えないよ。二人とも、ボクのいい友だちだからね（笑）。

――では、ペンさんの話に戻りますが、スティーブンソンとの暫定王者決定戦に勝てば、次は正式なタイトル戦になりますよね。

ペン そうだろうね。出場停止処分中のシャークが戻ってきて、統一戦をやることになるんじゃないかと聞いているよ。（※このインタビュー後、カリフォルニア州アスレチック・コミッションはシャークの出場停止期間を短縮することを決議）

――ライト級王座を獲得したら、ウェルター級に戻ることも考えていますか？

ペン じつは、ダナとはその話をしているんだ。ライト級王座を獲ったあと、何試合か闘ったら、ウェルター級でも闘いたい、とね。そこで、さらにもう一つのベルトを獲って、二階級同時制覇をしてみせるよ。

――二階級制覇を狙いますか！

ペン そうさ。その頃には、UFCが日本で再びイベントを開催できるかもしれないし、二本のベルトを持って、熱いジャパニーズファンに会えることを楽しみにしているよ。

【07年11月17日／米国ニュージャージー州ニューアーク・プルデンシャルセンターにて収録】

BJ. PENN■1978年12月13日、米国ハワイ州出身。2000年、ブラジリアン柔術世界選手権をブラジル人以外で初めて制覇。総合転向後は打撃の能力の高さも示し、快進撃。パウンド・フォー・パウンドの呼び声も高い。第4代UFCウェルター級王者。175cm、70kg。

2.2『UFC81』でヘビー級暫定王者決定戦に出陣!

ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

絶対にUFCチャンピオンになる。いまボクの頭の中にあるのはそのことだけだ!

聞き手＆撮影／Eduard Ferrira

「ノゲイラに2月の『UFC81』で、ヘビー級王座に挑戦させる」。10月にダナ・ホワイト代表がこうコメントしたことで、一躍タイトル戦線に浮上してきたノゲイラ。現王者ランディ・クートゥアーがUFC離脱を表明していることから、王座挑戦なのか、もしくはティム・シルビアとの王座決定戦になるのか、対戦相手がなかなか決まらなかったものの、UFC2戦目にして早くも訪れたビッグチャンスに、日々のトレーニングは万全だ。

本誌は、ブラジリアン・トップチーム（BTT）での元チームメイト、パウロ・フィリオと〝秘密特訓〟を続けるノゲイラを直撃。自宅から90キロも離れた、ニテロイにあるフィリオのジムでトレーニングを終えたノゲイラは、UFC、『やれんのか！』、そして永遠のライバル、ヒョードルについて語ってくれた。

――パウロ・フィリオとのトレーニングは、どうでしたか？

ノゲイラ　パウロは、まるでモンスターだよ。彼の腕力はボクの2倍ぐらいあるんじゃないかな。ヘビー級のトップクラスとスパーリングするのとまったく変わらないね。

――ノゲイラ選手と同じく、今年BTTを離脱したパウロと再びトレーニングをしようと思ったのはなぜですか？

ノゲイラ　とくに難しい理由はないよ。パウロは素晴らしい選手。だから一緒に練習するのは、お互いにとっていいことだと思ったんだ。それにボクはほかのジムに行って練習することが好きなんだ。いつも新しいことを学べるからね。このあいだは、LYOTOとも練習したよ。彼はオクタゴンでのステップワークを理解しているし、素晴らしいレスリングテクニックを持っている。とてもタメになったよ。

ボクはほかのジムへ出稽古に行くのが好きなんだ。パウロ・フィリオやLYOTOとも練習しているよ

――試合も決まって、トレーニングに集中できそうですけど、肝心の対戦相手は誰になりそうなんですか？

ノゲイラ　2月2日にラスベガスで試合をすることは決まっているんだけど、まだ対戦相手はわからないんだ（苦笑）。ダナが言ってくれたように、ちゃんと、ティム・シルビアかランディ・クートゥアーとのタイトル戦になることを期待しているけどね（シルビアとの王座決定戦が有力）。

――いまランディは、離脱問題でゴダゴダしていますけど、彼についてはどういう印象がありますか？

ノゲイラ　一言で言えば、オクタゴンケージでの闘い方を知りつくしているファイター。テクニカルなファイターだよ。グラウンド・アンド・パウンドが得意で、スタンドでもトップファイターと打撃で闘うだけの力がある。テイクダウンもうまいし、まったく穴のないコンプリート・ファイターだね。

――ティム・シルビアの印象は？

ノゲイラ　ランディが復帰するまで、アンドレィ・アルロフスキーとトップと争っていたファイターという印象だね。もちろん、タフな相手であることには間違いない。彼は以前よりもグラウンドゲームがよくなっているし、パンチは重たい。おまけにテイクダウンもしづらい。

――このまま、ランディがUFCサイドとの交渉が決裂したままだと、シルビアと闘うことになりそうですけど、どんなゲームプランを考えていますか？

ノゲイラ　テイクダウンしてグラウンドゲームに引き込みたいけど、スタンドで打ち合ってもいいよ。自信はある。

――ランディよりも、シルビアのほうがイージーだと思いますか？

ノゲイラ　そうは思わないね。どちらと闘っても大変な試合になると思うよ。ただ、二人のタイプは違う。シルビアの重たいパンチは危険だし、クートゥアーはグラウンドでのパウンドとエルボーで優れているということだね。

――どちらもテイクダウンしにくい相手だと思いますけど、どういったトレーニングをしていますか？

ノゲイラ　そのためにグラップリングやレスリングの特訓をしているよ。二人とも倒しにくい相手だけど、試合ではパンチやエルボー、ヒザを打ち込めば、テイクダウンしやすい局面を作れる。テイクダウンにはタイミングが重要なんだ。そしてボクはそのタイミングを見極めるのが得意だからね。上のポジションを取る自信はあるよ。

――前回のピース・ヒーリング戦では、これまで2度勝っている相手に苦戦した印象がありますけど、何が原因だと思いますか？

ノゲイラ　原因というか、彼が前脚で蹴ってきたことに驚いたんだ。彼のすべての試合を観て研究していたけど、それまで彼が前脚で蹴ったことはなかったからね。でも、そのキックは唯一、彼がボクにダメージを与えたもので、それ以外はずっとボクが攻撃していた。苦戦したつもりはないよ。

――でも、判定の際は嬉しそうではありませんでしたが。

ノゲイラ　それは一本取ることも、KOすることもできなかったからね。でも、あの試合はボクが支配していたことは間違いないよ。それに1ラウンドでヒーリングが出血して、試合が中断したとき、そのままレフェリーが止めるだろうと思っていたんだ。PRIDEなら、あそこで終わっているよ。でも、試合が再開されて、彼が珍しく前脚でキックを放ってきたから意表を突かれただけさ。

――では、オクタゴンに不慣れで戸惑ったというわけではないのですね。UFC参戦以降は、どんなことに力を入れて練習していますか？

ノゲイラ　とくに練習していることは、金網際での投げ。そして、グラウンドで上になっての〝痛めつける〟攻撃。これまでよりも、パウンドやエルボーを練習するようになったよ。それから、下になったときはなるべく早く立ち上がれるよう練習をしている。

――そうなると、PRIDE時代とはずいぶんと闘い方が変わりますね。これまでは〝柔術マジシャン〟の異名どおり、ファンタスティックな技をファンに見せてきたわけですが。

ヘビー級最強のグラップラーとウェルター級最強のグラップラーが再合体！ のんびり屋のノゲイラが約100キロも離れたジムにわざわざ練習に行くというのは、じつにまれなこと。それだけパウロとのスパーリングを重要視しているということだろう。なお、パウロはWECとの契約終了後、日本マットへの復帰を熱望しているという。

ヴァンダレイと一緒に練習したことはないし これからも彼と協力するつもりはないよ!

ノゲイラ　UFCでは闘い方が変わってくるよね。それは、グラウンドだけじゃない。スタンドでも、コーナーがあるのとないのとでは、ステップワークは違うしね。じつは今週、リオデジャネイロにボクのトレーニング・センターができたんだけど、オクタゴンを置いて、その中で練習しているんだ。

——やはり、UFCで闘うにはジムにオクタゴンが必要ですか。

ノゲイラ　そうだね。アンデウソン(・シウバ)もトレーニングに来るようになるよ。彼とはよく一緒にエルボーとかの練習をしているんだ。

——いまは、ブラックハウス・ジムではあまり練習してないと聞きましたが、ブラックハウス・ジムはどんな状況になっているのですか?

ノゲイラ　ブラックハウス・ジムで練習しだしたのは、前の試合からだけど、それは、ボクのエージェントである(タフ・メディアの)ジョルジ・ギマラエスとエド・ソアレスが、ブラックハウス・ジムのビジネスパートナーだったから。でも、次第に自分のトレーニングセンターが作りたくなったんだ。自分のチームメイトは12人もいるし、みんなフルタイムでジムを使いたい。だから、レスリング、ボクシング、ムエタイ、柔術のトレーナーのいるトレーニングセンターを作ったんだ。部屋が4つあって、食堂もある。いろんなところからファイターを受け入れることができるよ。

——アメリカでもジムをオープンされたそうですけど、ブラジルでもそんな大きいジムを作られていましたか!

ノゲイラ　うん(笑)。近々、シアトルやアトランタからファイターたちが練習に来るし、年末にはクロアチアからも来る予定なんだ。

——チーム・ミノタウロは巨大なネットワークを築きつつあるんですね。ノゲイラさんと同じく、ブラジルからアメリカに渡ったマリオ・スペヒーとは、いまでも交流はありますか?

ノゲイラ　彼とは会えば、気軽に話をするよ。でも、一緒にビジネスをすることはないかな。ボクは彼のファンだったたし、彼のスタイルは好きだった。BTTで一緒に働くようになってからも、彼には助けてもらったし、彼から学んだことはとても多いよ。でもBTTが分裂してから、彼は彼の選んだ道を歩んでいるし、ボクは自分の道を行くことにしたんだ。

——では、弟のホジェリオはどうですか?

ノゲイラ　彼はたぶん、カナダで闘うことになるだろうね。でも彼もボクも来年、日本で闘えることを期待しているよ。

——今年の秋までアメリカに滞在されていましたけど、その際にヴァンダレイ・シウバと一緒に練習する機会はありましたか?

ノゲイラ　(不機嫌になって)まさか!　そんなことはなかったし、これからもないよ!!

——シウバとは何かあったんですか?

ノゲイラ　彼とは昔、話したことはあるよ。でも、知ってのとおり、シュ

ートボクセとBTTはライバルになった。それは、べつにいい。でも去年の9月、ボクが『PRIDE無差別級GP』で（ジョシュ・）バーネットに判定負けしたとき、ボクらの隣の控室にいた彼らは何をしていたか……。

――何かあったんですか？

ノゲイラ　それがヴァンダレイ本人だったかどうかはわからないけど、ボクにとっては気持ちのいいものではないよ。

――リング外でもそんな因縁があったんですね。そのヴァンダレイは、12月にチャック・リデルと闘うことになりますが、どんな展開になると思いますか？

ノゲイラ　お互いのパンチが交錯する、いい試合になるだろうね。ボクも観たいよ。たぶん、手数の多いヴァンダレイが有利じゃないかな。リデルはカウンターを狙う慎重なファイトスタイルになるだろう。だからヴァンダレイは焦らず、少しずつ崩していけば、うまくパンチをヒットさせられると思うよ。ボクがヴァンダレイのコーチだったら、テクニカルな試合をすることをアドバイスするね。

――ところで、ヴァンダレイの出る『UFC79』には、ホジェリオとヒカルド・アローナをKOしたソクジュが出場して、LYOTOと対戦しますが、どのような闘いになると思いますか？

ノゲイラ　これも激しい試合になるだろうね。ソクジュは強いけど、さっき言ったようにLYOTOも強いファイターだからね。1ラウンドで決まればソクジュ、試合が長引けばLYOTOが有利なんじゃないかな。

――PRIDEファイターがUFCにどんどん転向する中で、旧PRIDEのスタッフが大晦日に『やれんのか！』を開催するんですが、そのことはご存知ですよね？

ノゲイラ　うん、聞いているよ。素晴らしいことだと思うよ。というのも、『HERO'S』しかなかった日本にはPRIDEに代わるトップイベントが必要だったからね。旧PRIDEスタッフは、どうやってイベントを盛り上げるかを知りつくしている。ボクは、カトー（加藤元DSE専務）のファンなんだ。彼こそ、ベストプロモーターだと思っているし、成功するだろうね。

――そのイベントには『M―1グローバル』が協力して、ノゲイラ選手の最大のライバル、ヒョードルも参加しますが、もう一度闘いたいという気持ちはありますか？

ノゲイラ　もちろん！　ボクの中では、彼との戦績は、1勝2敗だと思っている（公式結果では、ノゲイラの2敗1ノーコンテスト）。なんとしても星を取り返したいね。

――ヒョードルが額をカットして、ノーコンテストになった試合は、ノゲイラさんの勝ちだということですね。

ノゲイラ　そう。あの試合は、ボクが支配していたし、出血して闘えない状態に陥ったヒョードルの負けだよ。

――しかし、いずれにせよノゲイラさんが負け越しているヒョードルについて、ダナ・ホワイト代表は「ヘビー級のベスト5にも入らない」と話しているのですが。

ノゲイラ　う〜ん、ヒョードルを除いたトップ5はUFCで闘っている。だから、ボクが思うに、ダナが言いたいことは、ヒョードルはまだテストされていないってことなんじゃないかなぁ……。

――ずいぶん、好意的に解釈されますね（笑）。

ノゲイラ　確かにダナが言うとおり、ミルコと闘って以来、ヒョードルは彼を脅かすようなヘビー級のトップファイターとは闘っていない。でも、『M―1グローバル』は彼の相手に強いファイターを用意すると聞いているから、アメリカでもすぐに評価されるんじゃないかな。それだけの実力は間違いなくあるからね。

――あと、同じくPRIDEのトップファイターだったミルコが、UFCでは大苦戦しているのは、何が理由だと思いますか？

ノゲイラ　ミルコにとって、変化の局面かもしれないね。でも、彼がトップファイターであることは間違いのないこと。彼がトレーニングやゲームプランを新しい環境に適応させることができれば、彼は自分がトップファイターであることを証明できると思うよ。

――ところで、ノゲイラ選手自身はUFCとの契約終了後、また日本で闘いたい気持ちはありますか？

ノゲイラ　もちろん日本で闘うことはボクの喜びだったから、また日本に行きたいよ。ただ、いまのボクはUFCでの試合を楽しんでいるんだ。アメリカはもともと住んでいた国だし、家族もいる。MMAのキャリアを始めたのも、ここアメリカだった。そして、フロリダに自分のジムも作ったし、ロサンゼルスにもジムを開く予定がある。

――すっかり、アメリカに基盤を築いていますね。

ノゲイラ　そうなんだ。だから、いまは先のことは考えず、UFCのチャンピオンになることだけを考えて必死になって練習している。でもホントに日本は恋しいよ。日本では、いろんな人によくしてもらったし、彼らの文化が好きなんだ。（ヒカルド・）アローナもパウロも同じことを言ってた。

――アメリカでも日本と同じような待遇を受けますか？（笑）。

ノゲイラ　う〜ん、悪くはないけど、日本ほどチヤホヤはされないね（笑）。でも、まだボクはここでキャリアを始めたばかりだから。将来のことはわからないけど、UFCの契約が終わるまでは、ここで闘っていくよ。でも、ボクを育ててくれたのは、日本のファンだと思っている し、そういったファンには感謝している。来年には、また弟と一緒に日本に、エネルギーをもらいに行きたいね。

――では、無事、タイトル戦が決定して、王者になって凱旋してくれることを期待してます！

【07年11月30日／ブラジル リオ州ニテロイにて収録】

旧PRIDEスタッフが大晦日に大会を開くのは素晴らしいこと。ボクはカトー（加藤元DSE専務）のファンなんだ

ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA■1976年6月2日、ブラジル・バイーア州出身。99年リングスに初来日。『KOK2000』優勝の実績を引っさげ01年より『PRIDE』参戦。02年には初代PRIDEヘビー級王者となる。以後、ヒョードル、ミルコとともに"ヘビー級3強"と呼ばれ、PRIDE黄金期を築くが、今年7月からUFCに戦場を移した。191cm、109kg。

2.2『UFC81』で待望のMMA現役復帰が決定!

RICARDO ALMEIDA

ヒカルド・アルメイダ

UFCが進化したかどうかはわからない。でも、試合がつまらなくなったことは確かだ

聞き手&撮影／Eduard Ferrira

ボクは家族と柔術を愛している。闘いより大事なものがあったんだ

かつてパンクラスマットで、美濃輪育久、三崎和雄、ネイサン・マーコートらを破りミドル級キング・オブ・パンクラスのベルトを奪取。PRIDEでも2戦2勝の戦績を挙げ、日本マット界で無敗を誇ったアルメイダ。

しかし、04年5月『PRIDE武士道』での長南亮戦後にMMA引退を表明。柔術の指導者となっていたが、08年2月2日の『UFC81』でついにMMA現役復帰が決定した！

かつてミドル級で世界トップクラスの実力を誇ったアルメイダが、現在、世界最高峰のUFCでどんな闘いを見せるのか。米国ニュージャージー州にある、ヒカルド・アルメイダ柔術アカデミーで直撃した。

——おひさしぶりです！　アルメイダ選手のMMA復帰、ファンはみんな喜んでますよ。

アルメイダ　ありがとう。いろんな人に歓迎してもらえて、ボクも嬉しいよ！

——今回、現役復帰する一番の理由はなんですか？

アルメイダ　う〜ん、まずボク自身の中では今回の試合を「現役復帰」とは考えていないんだ。確かに、04年5月の『PRIDE武士道 其の三』（長南亮に判定勝利）以来、リングから離れていたけれど、MMAを完全にやめたわけじゃない。ただ、あのときは自分の（柔術）道場の経営と家族のために、バランスをとる必要があったんだ。

——柔術道場と家族のために、一時リングを離れざるをえなかった、と。ちなみに、自分の道場をオープンしたのはいつですか？

アルメイダ　チョーナン戦のすぐあとだよ。自分の道場を持つことはボクにとって夢だったし、あのときは妻が妊娠していたから、もっと家族とすごす時間もほしかった。ボクは家族と柔術を愛している。闘いよりも大事なことがあったってわけさ。

——なるほど。

アルメイダ　だからといって、MMAから完全に離れたわけじゃなかった。この3年間、（MMAの）トレーニングも欠かしてないしね。マスターのヘンゾ（・グレイシー）が試合をするといえば練習を付き合ったし、BJ・ペンともトレーニングを一緒にやった。パット・ミレティッチが復帰するときもヘルプしたしね。いつも、ボクの周りには試合をする選手がいたんだ。

——だからこそ、常に"試合モード"の練習ができていた、と。

アルメイダ　ただ、トレーニングはしていたけど、試合を観ることはなかったんだ。会場に行くと、どうしても闘いたくなってしまうからね。でも、ヘンゾがIFLの大会に招待してくれるようになってからは、また観るようになったね。そのあとは、さらにMMAに関わるようになったんだ。去年はフルタイムでトレーニングしていたからね。

——一時的にとはいえ、引退したのにフルタイムで練習ですか（笑）。ただ、当然試合もないわけですから、そこまでハードな練習はしないわけですよね？

アルメイダ　それはどうかな。もしかしたら、そこらの現役ファイターよりも、ハードだったかもね（笑）。対戦相手への対策を積んだりは当然しないけど、そのぶん、技術を高める練習、そして研究ができていたからね。そして、その新たな技術を生徒に教えることで、自分の技術の再確認にもなる。だから、選手としても指導者としても、この3年間はいい時期だったと思う。

——"研究熱心なコーチ"だったことが、試合にも役立ちそうだ、と。

アルメイダ　ここで教えたファイターは多いよ。ミサキ（三崎和雄）も来たしね。

——では、復帰を決めたのはいつですか？

アルメイダ　さっきも言ったようにトレーニングはフルタイムでやっていたから、1年ぐらい前から、いいオファーでもあれば、復帰しようと思ってはいたんだ。ただ、まだ完全に復帰する決心はできていなかった。でも、そんなときに、ブラジルにいる15歳の弟から電話がかかってきて「兄貴はもう30歳なんだから、サーフィンばかりしてないで、ちょっとは働かないとダメだよ」って言われたんだ。

——15歳の弟に説教されてしまいましたか（笑）。

アルメイダ　そう。15歳の弟に、痛いところを突かれたわけさ。だから、ボクのビジネスパートナーでもある妻と話をして、復帰することにしたんだ。

——では、UFCから今回のオファーがあったのはいつですか？

アルメイダ　その前に、じつを言うと、復帰戦はUFCになる予定ではなかったんだ。

——えっ、そうなんですか？

アルメイダ　本当は10月に『ケージフューリー』という大会で試合をすることになっていたんだ。でも、そのイベントが大会の5日前になってキャンセルになってしまった。

——あらら。大会の5日前になって中止とはひどい話ですね。

アルメイダ　で、気落ちしたまま、その翌週に道場へ出てきたら、あちこちの団体から電話がかかってきたんだよ。

——なるほど。いますぐにでも闘える状態だということをみんな知っていますからね（笑）。

アルメイダ　そう。そのときは、試合をするために完璧なシェイプだったからね。日本の団体からも声がかかったよ。

——その連絡のあった多くの団体からUFCを選んだのは、どうしてですか？

アルメイダ　じつを言うと、UFCからは『ケージフューリー』に出ると決める前から、『TUF』に出な

04年に米国ニュージャージー州にヒカルド・アルメイダ柔術アカデミーをオープンしたアルメイダ。いまや多くの弟子を抱える身だ。道場の壁にはかつて出場した『PRIDE武士道』や、美濃輪と闘いメインを張ったパンクラスのポスターが飾られていた。

UFC

いか?」という誘いがあったんだ。

――へぇ、リアリティショーへの出演オファーがありましたか!

アルメイダ　ボクは自分の道場があり、家族もいるから、長期間拘束される『TUF』はさすがに断ったけど、この業界ではUFCが最も大きな団体だからね。ナンバーワンになりたかったら、UFCに出るのが一番。それに、昔から(マッチメイカーの)ジョー・シウバのこともよく知っているから、今後のキャリアを相談する上で、安心だしね。まったく見ず知らずの新しい人間とビジネスするのは不安だろ? だから、UFCで闘うことに決めて、こちらから連絡したんだ。

――なるほど。では、復帰戦に向けて、いまのトレーニング・パートナーは誰ですか?

アルメイダ　いまは、生徒たちとトレーニングしているよ。

――自分の弟子と練習ですか?

アルメイダ　でも、ただの生徒じゃないよ。ローカルの大会で、チャンピオンになった選手とかもいるから

そこらの現役選手よりハードな練習をしてきたし 技術を高める研究ができた、いい3年間だったよ

パンクラス参戦時は、美濃輪育久、三崎和雄、佐々木有生、ネイサン・マーコートと、同階級の実力者たちを総なめ。ミドル級キング・オブ・パンクラシストとなり、04年5月に二度目の『PRIDE』参戦。長南亮を見事に判定で破るが、この試合を最後に引退を表明していた。しかし、これだけのメンツを破った実力は本物。パンクラス参戦前はUFCで1勝2敗と負け越してはいるが、3年ぶりの復帰でどれだけの力を発揮するか注目だ。

ね。それからマスターであるヘンゾの弟子ともトレーニングしている。ホーレス・グレイシーとかね。これまで、教えていた選手から、シゴかれるようになってしまったよ(笑)。

――ほかのジムに練習に行ったりもしていますか?

アルメイダ　ボクシングジムに行ってるよ。それからマット・セラの道場にもね。彼の道場には金網もあるし、UFCに向けてのトレーニングには最適だよ。ただ、セラ自身は年末の大会のプロモーション映像の撮影で忙しいみたいだけどね(インタビューのあと、セラのケガのため試合はキャンセルに)。

――かつての同門(ヘンゾ・グレイシー柔術)、マット・セラのUFCでの成功については、どう思いますか?

アルメイダ　彼ほど、この一年でMMAから恩恵を受けたファイターはいないんじゃないかな。彼はチャンピオンになって、結婚もしたし、ハッピーなライフを送っているよ。これまで、彼のキャリアは運命に見放されていたかもしれないけど、それを充分に取り戻したね。

――セラと共通の師匠であるヘンゾはいまローカルの大会を開いたりもしていますが、いまは、どういう関係ですか?

アルメイダ　彼はボクの人生に大きな影響を与えた人物だよ。彼がいなければ、ボクは柔術をすることもなかっただろうし、本当に感謝している。最近でも、トレーニングを見てもらっているよ。

――ヘンゾは今回の復帰について、何か言ってましたか?

アルメイダ　彼は、あんまり口には出さないけど、喜んでくれていると思うよ。電話をくれるときはいつも、「How are you?」ではなくて、まず最初に「トレーニングはどうだ?」って聞いてくるしね(笑)。

――これまで、リングとオクタゴンの両方で闘ってこられてますけど、どちらが好きですか?

アルメイダ　テイクダウンするときにロープをつかまれるのが嫌だから、

妻と二人の子どもに囲まれ、幸せな生活を送っているアルメイダ。ちなみに息子は尊敬する師匠の名前をとり「ヘンゾ」と名付けたそうだ。

いまの選手は〝負けないこと〟ばかり考えている。でも、ボクは負けを恐れず全力で勝ちにいくよ

オクタゴンのほうが好きだけど、見た目でいえば、金網は嫌いだね。どうしてもバイオレンスを連想させてしまうからね。

——PRIDE出身のファイターの中には、オクタゴンに適応できずにいた選手も多かったですよね。

アルメイダ　それは最初は不慣れな部分もあるだろうけど、PRIDEに出ているファイターはみんな優秀だから、すぐに克服できるよ。それより、アメリカの観客は、日本の観客と違ってうるさいから、そのプレッシャーは大きいね。それに日本での試合なら、主催者がいろんな面でサポートしてくれるから試合に集中できるけど、アメリカだと、いろんな人間から電話がかかってきて、「チケットを取ってくれ」とかなんだかで、集中できないからね。

——そんなことも関係しますか（笑）。実際のテクニックについては、オクタゴンとリングでは違いますか？

アルメイダ　場所というよりも、ルールだよね。個人的には、エルボーやグラウンドでの蹴りがあるかないかによって、闘い方はまったく変わってくると思う。

——UFCでは、ミドル級で闘うことになるわけですが、現在のチャンピオン、アンデウソン・シウバについてはどう思いますか？

アルメイダ　（感嘆して）彼は本当に素晴らしいよ。ミット打ちをするように、相手に打撃を叩き込むからね。あんなマネはできないよ。彼がダン・ヘンダーソンと闘うのを観るのが楽しみでたまらないんだ。リングサイドで観たいよ。

——すっかり、ファン目線ですね（笑）。では、どっちが勝つと思いますか？

アルメイダ　う～ん、この試合で、名前を挙げるのは難しいね。どっちも本当に強いチャンピオンだからね。打撃ではアンデウソンだけど、テイクダウンではヘンダーソン。それにヘンダーソンには〝一発〟もある。これは凄い試合になるよ。

——この階級で闘う以上、当然、ベルトを狙うことになりますよね？

アルメイダ　もちろんだね。6試合契約を結んだから、そのあいだにタイトルに挑戦したいよ。

——じゃあ、もしアウデウソンと闘うとしたら、どんな試合になりますか？

アルメイダ　KOで勝つ！……というのは、たぶんムリだね（笑）。というか、ボクはこれまで一度もKOで勝ったことはないから、柔術で勝つしかないね。

——自信はありますか？

アルメイダ　自分の柔術を信じているよ。もちろん簡単なことじゃないけどね。

——ここ数年、MMAの技術は大きく進歩したと思うのですが、アルメイダ選手はどう感じていますか？

アルメイダ　それは、なんともいえないね。ただ昔は、昼間に仕事をして夜トレーニングしている選手が多かったけど、いまはフルタイムのファイターが多いからね。その影響もあって全体的にレベルアップはしているかもしれない。

——MMAブームで選手も潤うようになったわけですよね。

アルメイダ　ただ、UFCの試合は正直言ってつまらないものが多くなったよ。昔はエキサイティングなファイトが多かったけど、いまは勝ちを狙わずに、〝負けないこと〟にこだわる選手が多くなりすぎてしまったからね。勝ち続ける選手だけが、タイトル挑戦権を獲得できて、金儲けをできるシステムだからしょうがないけど。これは弊害かもね。以前はもっとムチャクチャな試合が多かったよ。

——昔と比べると、いまはボクシングみたいに、実力の拮抗した者同士が闘っているわけですしね。

アルメイダ　試合だから、勝つ人間がいる一方で、負ける人間がいるものだけどね。その点、ボクはいま100パーセントのコンディションだし、とにかく復帰することを楽しんでいる。だからある意味、勝っても負けてもいいと思ってるんだ。負けることを恐れずに、とにかく全力を尽くしたい。間違いなくエキサイティングな試合をするので、応援してほしいね。

——わかりました。ぜひ頑張ってください！

【07年11月18日／米国ニュージャージー州、ヒカルド・アルメイダの自宅にて収録】

RICARDO ALMEIDA■1976年11月29日、米国ニューヨーク州生まれのブラジル人。ヘンゾ・グレイシーの愛弟子で01年『ADCC』99キロ以下級準優勝。パンクラスでは美濃輪育久、佐々木有生、三崎和雄、ネイサン・マーコートを破り、第4代ミドル級キング・オブ・パンクラシストに輝く。PRIDEでも小路晃、長南亮に勝利し、日本では無敗。04年5月の長南戦以降、MMAから離れていたが、08年2月2日『UFC81』で復帰が決定した。180cm、84kg。

UFC

聞こえるか!? この男の高笑い!

ついにアメリカで地上波放送獲得? 覇権争いに終止符か——

帝国UFCが完成する日

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールでアメリカンなニュースをお届け!

USA COOL 宅急便

ランディ・クートゥアーの退団と、それに伴なう"内部告発"、そしてライバル団体『M−1グローバル』の出現というクライシスに見舞われていたUFC。しかし、その逆境を一気に打破、いやそれどころか、このシーンを制覇する決定打となるようなビッグニュースが飛び込んできた。なんと、アメリカでUFCの地上波放送が実現目前だという。これは凄いことになるぞ!

聞き手/デューク東郷　撮影/黒田史夫、Josh Hedges(UFC)

PROFILE

Scott Petersen
【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイ『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。日米格闘技事情に精通。ビッグマッチのたびに来日していたが、PRIDEの活動停止に伴ない、八王子のアパートを撤去。現在は米国ユタ州在住。

スコット 大変だ！ メディアを通じて、激しくやり合っていたあの二人がついに交渉の席に着いたよ！

——え〜〜え!? 個人的にはもっともっと、揉めてほしかったなあ。最近ご無沙汰だったコンニャク・ドラゴンぶりが抜群におもしろかったのに。

スコット はあ？ いったいなんの話をしてるんだよ!!

——え？ ドラゴンと西村修のケンカじゃないの？

スコット 俺が言っているのはダナ（・ホワイトUFC代表）とランディ・クートゥアーの話！

——ああ、ムガール帝国は崩壊寸前になったけど、UFC帝国もヤバかったみたいね。現役ヘビー級王者が突然、離脱を表明して、ファンや関係者を驚かせてから2ヵ月以上経ったけど、ようやく収束に向かいつつあるわけ？

スコット そうだね。その間に、ランディが会見で、UFCの〝ロッカールーム・ボーナス〟システムを暴露してオーナーのロレンゾ・フェティータを大慌てさせたりと、両者はドロ沼の争いになっていた。

——ライセンスを受けて、カジノ経営しているロレンゾからすれば、不透明なシステムが露見するのはさすがにマズイみたいだね。

メディアを通じ、UFCを批判していたものの、長南と闘ったカロ・パリジャンのセコンドとして『UFC78』に来場していたランディ。「今後のことは言えない」と話していたが、その闘う姿を見ることはなさそうだ。

スコット で、この騒動でランディのもとには72本の取材申請があったらしいよ。

——凄いね！ そのうちの一本は『kamipro』だけど（笑）。

スコット 『Yahoo!』のトップページにも載るほどの大騒ぎ。イメージダウンを怖れたUFC側はなんとか会って話そうとしていたらしいよ。

——でも、後藤達俊が待てど暮らせど、無我ワールドからの連絡はなし。

スコット だからそっちの話じゃないって！ ダナはこれまで「ランディはUFCの契約選手。2月にタイトルマッチを闘ってもらう」と主張していたけど、その言葉どおり、（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラとのタイトルマッチをオファー。それに対して、ランディはUFCとの契約が残っていることは認めつつも、「ノゲイラはヒョードルに2度負けている」と対戦を拒否。また、これ以上闘う意思がないことをダナに話したんだ。

——じゃぁ、このまま引退なの？

スコット そうだね。「最強の座を懸ける」という意味合いがあるヒョードル戦以外は闘う気持ちがないと話している。もっとも、UFCがヒョードル側と決裂したいまとなってはその試合はもう現実的ではないけどね。

——後藤達俊のドラゴンカップ出場ばりに現実的じゃなかったと？

スコット （おもいっきり無視して）ランディはいま、数本の映画のオファーがあるし、サプリメント会社やジムなどのビジネスも好調で忙しいらしい。金のために試合をする必要はないんだ。

——「UFCからはリスペクトが足りない」と語っていたランディだけど、その点、ダナは誠意を見せなかったのかな？

スコット プロとしての〝リスペクト〟は、イコール〝お金〟ということになるけど、ダナから提示された条件はどうやら以前と変わらなかったようだね。だいたい、すでにランディとは契約を結んでいるのだから。

——まあ、法律的に正しいのはダナのほうになるのか。

スコット ただ、なんにせよ、ランディにとって、アメリカで知名度がまだ高くないノゲイラと闘うことは大きなリスク。わざわざ、それを負う必要はない。ヘビー級王者の肩書きを保持したまま去るのであれば、築いた名声を失なうことはないからね。

——なるほどね。

スコット ファイターは永遠に闘い続けることはできない。ランディはもう44歳だし、去り際を見極めるという意味では、スマートな判断だと思うよ。

アメリカで知名度が低いノゲイラと闘うことはランディにとってリスク。スマートな判断だね

——〝勝ち逃げ〟された形になったダナはさぞかし悔しいだろうね。このあと、どんなジャイアン発言をするか楽しみだけど（笑）。ランディが『M−1グローバル』に転向して、ヒョードル戦を行なうという見込みはないの？

スコット 現時点ではないだろうね。「金はモノを言う」とも言うから、将来的な可能性は否定できないけど、ランディは「これからもMMAビジネスとは関わっていくし、UFCとは一緒に働いていきたい。彼らもそう願っているだろう」と話している。

——じゃぁ、PPV放送からなんの説明もなく消えていたランディが、年末興行（12・30『UFC79』ラスベガス大会）で解説席に復帰するかもしれない、と。

スコット そうだね。ところで、その大会のメインイベント、マット・セラvsマット・ヒューズのウェルター級タイトルマッチがトンじゃったんだ。チャンピオンのセラが首をケガしたことが原因でね。せっかくUFCは、二人を『TUF』のコーチにして、対立させて、さんざん煽ってきたのに。

——代わりに、ヴァンダレイ・シウバvsチャック・リデルの試合がメインになるってこと？

スコット まだ試合順は発表されてないからわからないけど、その試合の代わりに、急遽、挑戦者だったマット・ヒューズが前王者のGSP（ジョルジュ・サンピエール）と暫定王者決定戦を闘うことになった。でも、意外とダナ・ホワイトは今回のカード変更にご機嫌なんだ。王者のセラは『TUF』で人気が出てきたといっても、柔術ベースの地味な中年ファイター。一方のGSPは空手ベースのストライカーで、観客受けするファイトスタイル。好感度の高いキャラクターも浸透していて、まさに次世代のスター候補なんだ。

——つまりダナとしては、マーケティングしやすいってことね。

スコット 実際に、セラが王者になったとき、ダナはオクタゴンサイドで渋い顔をしていたのを、カメラに抜かれていたからね（笑）。

——ダハハハ！ わかりやすいなぁ、ダナは。

スコット しかも、来年カナダでの興行を控えているUFCにとってはカナダ人のGSPが王者になって、凱旋興行でセラとのリベンジマッチに臨むというのがストーリーラインとしてはベスト。ダナが嬉しくなるのもわかるよ。でも、ダナは喜んでばかりもいられない。

——それは、どういうこと？

スコット カルビン・エアーをもしのぐ〝IT富豪〟マーク・キュー

バンが所有するケーブルテレビ局HDNetがアメリカで『やれんのか！』のライブ中継を行なうことを発表したんだ。

――アメリカでも放送決定！

スコット　このニュースにはアメリカのハードコアファンはとても喜んでいるよ。

――それは喜ぶだろうねえ。高田本部長の引き締まったお尻が観られるんだから。

スコット　ハードコアの理由が違うよ！　で、みんな、HDNetの番組を観るにはどうしたらいいかで、話題は持ちきり。キューバンは『M―1グローバル』とレッドデビルを結びつけたとも言われているけど、同局の視聴者を増やすためにMMAビジネスに進出したキューバンにとっては、さっそくその投資が成果を出しつつあるというわけさ。

――日本のイベントといえども、やっぱり"お金を生む"アメリカ市場とは無関係でいられないんだね。

スコット　ただ、アメリカでもMMAビジネスは簡単じゃないよ。赤字続きのIFLは社長が辞任して、コスト削減を推し進めることになった。それに加えて、アメリカの投資銀行が、ズッファ社の第3四半期の業績不振を予測して、格付けを引き下げたんだ！

――UFCの経営がうまくいってないってこと？

スコット　そう！　ズッファ社は第2四半期の決算内容も芳しくなく、格付けを引き下げられたばかりだった。PRIDEやWECの買収、それからイギリス進出に巨額の投資をしたけど、それに見合った利益が上げられていないんだ。

――今年1年、UFCはイケイケドンドンだったけど、中身が伴なってなかったわけだ。

スコット　ただ、UFCにとって経営的にネガティブな風だけが吹いているわけじゃない。なんと！　アメリカの3大ネットワークのうちの一つ、CBSがUFCの放映を開始すると見られている。ダナが取材でそう答えているんだ。

――UFCがアメリカの地上波放映を獲得!?　もし実現したら世界制覇の決定打になるじゃん!!　それは大変なことになるなあ。

かつてはメディアに"残虐ショー"のレッテルを貼られたUFCが、地上波契約に向けて前進。いよいよメジャー・スポーツの仲間入りをはたしつつある。

スコット　UFCは以前から、CBSと交渉していたんだけど、あいかわらずというか、ダナが強気で交渉していたため、まとまらなかったらしい。

――なんか、日本でも似たような話を聞いたような（笑）。具体的には、どういうことなの？

スコット　ダナは制作チームをいまのPPV放送で使っているスタッフでやることを主張していた。それから、放映権の扱いについても、UFCに有利な条件を主張していたんだ。

――ふんふん。

スコット　そのため契約がまとまらず、業を煮やしたCBSが『M―1グローバル』やエリートXCら他団体と交渉したところ、それがプレッシャーになって、UFC側が折れたらしいんだ。UFCは同じく、有力ケーブルテレビ局HBOとの交渉でも強気に出すぎて、契約を逃していたから、焦ったんだろうね。

――で、いつから放映されるのさ？

スコット　それはまだ、わからない。当初は来年1月の『UFC80』イギリス大会が有力だと見られていたけど、その大会はPPVになるようだからね。そもそもダナが話しているとはいえ、まだUFCは公式にはCBSとの契約をアナウンスしていない。だからダナが仲のいいライターを使って情報をリークして、テレビ放映に向けて世論を煽っている可能性も捨てきれないけどね（笑）。とはいえ、アメリカのテレビ局がMMAコンテンツをほしがっているのは事実。じつはアメリカのテレビ業界では、いまドラマの脚本家たちが、大々的なストライキに突入していて、『24―TWENTY FOUR』や『ザ・オフィス』などドラマの撮影がストップしているんだ。

――そこで、脚本のいらないスポーツ系番組の需要が高まっているというわけだ。ということは、『ハッスル』はダメだけど、ノアにはチャンスがあるってことだね！　やったね！

スコット　（まったく無視して）同じく3大ネットワークの一つ、NBCもエリートXC&『M―1グローバル』連合と交渉しているという話もあるしね。とにかく、UFCとCBSの契約交渉の詳細はわからないけど、この地上波獲得はUFCが帝国を完成させるものになる。それと同時に、MMAというスポーツ自体にとって、大きな変換点となるよ。

――来年も日本はアメリカ市場の影響を受けるってことだねぇ。それでは皆さん、よいお年を！

【07年11月29日／国際電話にて収録】

USA COOL 宅急便 NEWS

来年のことを言うと、鬼が笑う!?　UFC怒濤の大会スケジュール

ヴァンダレイ、UFCに殴り込み!
12.29『UFC79 NEMESIS』
米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター

ヴァンダレイ・シウバ vs チャック・リデル
ジョルジュ・サンピエール vs マット・セラ
LYOTO vs ソクジュ
ディーン・リスター vs ジョーダン・ラデブ
ホアン・"ジュカオン"・カルネイロ vs トニー・デ・ソウサ

またしてもイギリス進出!
1.19『UFC80 RAPID FIRE』
英国タイン・アンド・ウェア州ニューカッスル、メトロラジオ・アリーナ

【UFCライト級暫定王座決定戦】
BJ・ペン vs ジョー・スティーブンソン
ファブリシオ・ヴェウドゥム vs ガブリエル・ゴンザガ
ジェイソン・ランバート vs ウィルソン・ゴビア

ブロック・レスナーがUFCデビュー!
2.2『UFC81 BREAKING POINT』
米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター

ブロック・レスナー vs フランク・ミア

ステロイド騒動が結審!
7月の『UFC73』でステロイド陽性反応が検出され、1年間の出場停止処分中のUFCライト級王者、シャーク・シャークが処分取り消しを求めて行なわれた公聴会で、カリフォルニア州アスレチック・コミッションは、出場停止期間を1年間から6ヵ月間へと短縮することを決定。またマリファナ陽性反応が検出され、500ドルの罰金と3ヵ月の出場停止命令が下されていた中村カズの処分が確定した。

アメリカでMMA初の死亡事故……
テキサス州ヒューストンで開催されたローカル大会でアメリカMMA史上初となる死亡事故が発生。アゴへのパンチを受けてKOされた35歳のサム・バスケス選手が意識を失ない、6週間後に死亡した。大会を認可したテキサス州は、事故についての調査を行なっている。

ニンジャの現在の契約状況は？
『kamipro Special 2008 WINTER』において、ムリーロ・ニンジャの契約状況について「次の契約を結んだようだ」との記述がありましたが、現在はエリートXCとの継続した契約のもと、ケージレージに参戦しているとのこと。各関係者の皆様には多大なるご迷惑をお掛けいたしました。

2007年、ありがとう。
2008年、またよろしく!

パンクラス　第3代ライトヘビー級王者　近藤有己

HYBRID WRESTLING
PANCRASE

パンクラスism：伊藤崇文　近藤有己　渡辺大介　佐藤光留　北岡悟　アライケンジ
大石幸史　金井一朗　川村亮　鳥生将大　WINDY智美
パンクラス稲垣組：武重賢司　前田吉朗　藤原大地　長谷川孝司
パンクラス チーム玉海力：玉海力剛
パンクラスP'sLAB東京：志田幹　島田賢二　五十里祐一　内村洋次郎　八島勇気
パンクラスP'sLAB横浜：本田朝樹　荒牧拓
パンクラスMISSION：鈴木みのる　冨宅飛駈

PANCRASE 2008 SHINING TOUR
1.30(水)後楽園ホール

NOW ON SALE

SS・¥12,000　A・¥8,000　B・¥6,500　C・¥5,000　D・¥4,000
当日券は一律500円増しとなります

パンクラス アマチュアジム「ピーズ・ラボ」東京／横浜／大阪で会員募集中!

お問い合わせ：(03)5792-7079

格闘技を学びたい、健康を維持したい、シェイプアップボディをつくりたいなど、目的にあわせて5種類のトレーニングコースからお選びいただけます。

●レギュラー・コース（総合格闘技）●キッズ・コース（小学生コース）
●キックボクシング・コース　●ヨーガ・コース　●レッシュ・ラボ（スポーツ整体）

●主催：(株)ワールドパンクラスクリエイト　●後援：インデックス、スカイ・A、ドン・キホーテ、STC GROUP
●お問い合せ：パンクラス　03-5792-0815　http://www.pancrase.co.jp/

パンクラス、テレビ観戦は スカイ・A sports+で! 全大会をどこよりも早く!

New **07.12.22 ディファ有明大会**

08年1月8日(火)18:00～20:00／1月13日(日)23:00～25:00(再)

08.1月　1日(火)16:30～18:30 ▶ 07.10.14 ディファ有明大会
08.1月17日(木)20:00～22:00 ▶ 07.11.28 後楽園ホール大会
08.1月24日(木)22:50～24:50 ▶ 03.08.31 両国国技館大会

※都合により、放送日時は変更となる場合があります。

スカイ・A sports+をご覧いただくには

お近くのケーブルテレビ

e2 byスカパー!

スカパー!　スカパー! えらべる15
「よくばりパック」(3500円)から15ch選べる「えらべる15」(2800円)がお得です!

sky・A sports+
最新情報は www.sky-a.co.jp

“格闘大連立”時代到来！
吉田道場、そしてGRABAKAのボスが
選んだのは“公明正大”でおなじみの
『戦極』だった！

ザ・戦極対談

ベールに包まれていたワールドビクトリーロードの新イベントの名称は『戦極』、旗揚げ戦は来年3月5日、代々木第一体育館に決定！ 大会開催発表会見で、いち早く参戦が発表されたのが柔道時代の先輩後輩の間柄でもある吉田秀彦と菊田早苗の二人だ。現在は吉田道場、そしてGRABAKAのボスでもある両雄に、『戦極』に対する意気込みから“格闘大連立”、さらには気になる大晦日についても直撃！

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／吉場正和　試合撮影／平工幸雄　会見撮影／乾晋也

――今回は、ついに大会名も『戦極』と決まった総合の新団体に参戦が発表された吉田選手と菊田選手の〝戦極〟対談ということでお願いします！ お二人は柔道時代の先輩後輩になるわけですよね？

菊田　いや～、もう大先輩ですよ、はい。

――でも、年齢的には……。

菊田　（さえぎって）近いんですよね、意外と（笑）。自分は吉田さんの後輩の松本（昌弘）と一緒なんですよ。

吉田　じゃあ、二つ下だ。1年のとき俺が3年か。

――でも、直接の先輩後輩ってわけではないんですよね？

菊田　いや、でもやっぱり、自分は明大中野高校なんで、明大じゃないですか。そうすると夏休みと冬休みと春休みは、ずっと練習に行くんですよ。

――柔道時代での実績でいうと、かなり……。

菊田　（さえぎって）いやいや、実績なんてもう、差がありすぎてわけがわかんないぐらいですよ（笑）。

吉田　でも、菊田は高校のときは強かったよ。

菊田　そんなことないですよ（笑）。ボクは国体行くぐらいのレベルだったんで。

――そういうお二人が、何年か経って総合格闘技の同じ舞台に立つっていうのはどういう心境ですか？

菊田　いや～、当時は考えられなかったですね。ボクなんかはもう中学からプロになることを最終的に考えて柔道をやってたんですけど、柔道の人っていうのは、最終的にはどっかの企業に就職したりとか、そういう路線だと思ってたんで。まったく別物だと思ってましたからね。

「大晦日？　俺の2007年はもう終わり！」

吉田秀彦×菊田早苗

「大晦日？　発売日までには決まってるんじゃないですかね」

吉田　いやいや、俺もそういう路線だったよ（笑）。
菊田　アハハハハハ！
——ちなみに、小川（直也）選手っていうのは菊田選手から見て、どういう存在だったんですか？
吉田　おまえ、面識ないんじゃないの？
菊田　いや、面識はけっこう、逆にあるんですよねぇ。やっぱり、なんて言うんですかね。……説明が難しいな（苦笑）。
——吉田選手の前では言いづらいとかあるんですか？（笑）。
菊田　いやいや、それはないんですけど、小川さんはどっちかというとかまってくれるタイプなんじゃないですかね。逆に高校生とかに。
——イメージ的には吉田さんのほうがかまってくれるタイプのような気がするんですけど。
菊田　（さえぎって）逆かもしれないですねぇ、それは。
吉田　えっ⁉　俺、かまって……かまってねえな。
菊田　アハハハハハ！　怖いとかそういうんじゃないんですけど、やっぱり、ボクらとは別の世界があったんじゃないですか。小川さんはたぶん……なんて言うのかなぁ。難しいですね、このテーマは（笑）。
——二年前の『男祭り』での吉田さんの小川さんの対戦は複雑な思いで見てたりしたんじゃないですか？
菊田　いや〜、あれはちょっと、おもしろかったですねぇ、ボクからすると。
吉田　おもしろかったんだ（笑）。
菊田　は、はい（笑）。でも、凄い不思議でしたよねぇ。要するに、明大の道場でやってる柔道の延長線しか思い浮かばない感じだったというか。当時はプロとか、観客っていうのは、まったく関係ない世界でしたからね。それが、プロのリングで、こんなに客が入る中で闘うようになっているというシチュエーションが凄く不思議な感じがして観てましたねぇ。

『戦極』やってる人たちは「お金は出すけど口は出しません」って人たちばかり（吉田）

吉田　へぇ〜、そうなんだ。
菊田　いままで、道場で何人かしか観てなかったものが、あんなに何万人も入ってやるっていうのが凄い違和感を感じたし、それに裸で闘っているのも、また凄い違和感を感じたんですよ。急に学生時代にタイムトリップしたような感じで。
——吉田さんも、同じ日に瀧本（誠）さんと菊田さんが闘ったのも違和感を感じたんじゃないですか？
吉田　それもまた複雑ですよねぇ。柔道のときはありえたんだけど、それが総合でやるとは誰も思ってなかったと思うし。むしろ本人も思ってなかっただろうし。やっぱ、時代の流れっていうのを感じますよね。昔は、そんなに総合もメジャーじゃなくて、どっちかっていうとプロレスとかの時代だったじゃないですか？
——総合はまだ10年ちょっとしか歴史がないですからね。
吉田　それが、時が経つにつれて、総合がメジャーになってきて、たまたまボクが引退するときに凄いメジャーだったんで。やっぱり、柔道やってるヤツ……、まあ、ほかのスポーツもそうですけど、自分がやってきたことでメシを食っていきたいっていうのは、たぶんあると思うんですよ。
菊田　それが理想ではありますよね。
吉田　いまは、そういう選択肢が増えてきたんで、まあ、いい時代になってきてるんじゃないのかなぁって思うんだけど。
——で、この本の発売日は12月20日になるんですが、それまでに大晦日の試合が決まってる可能性もありますよね？
菊田　自分はちょっと微妙ですねぇ。
——吉田さんのほうは2007年中に試合はありそうな感じ……。
吉田　（さえぎって）終わり！　もう2007年は。
——吉田さん的には2007年はもう終了、と？
吉田　もう、おしまい。
菊田　自分は、ちょっといまは五分五分というか、やりたいですけどね、できれば。
吉田　『やれんのか！』でやるの？
菊田　それもわからないんですよねぇ。
——吉田さんは『やれんのか！』はないですか？
吉田　『やれんのか！』はないんじゃないのかなぁ。知らない。
菊田　アハハハハハ！
——谷川さんは早くから吉田vs秋山戦を組みたいと言ってますし、その試合が『やれんのか！』か『Dynamite!!』で組まれるんじゃないかとの報道も一部ではされてますけれども。
吉田　もうね、直前に試合が決まったりっていうのはイヤ。もう3月に試合が決まってるから、それに向けて一生懸命練習していく上で……、もし試合が決まったとしても、それを目指しての試合になるかな（笑）。（※この取材後、12月10日に吉田は大晦日興行へ出場しないことを正式表明）。
——吉田さんに関して言われているのが、PRIDEが消滅して、契約諸々がUFCに移管したわけですけど、そのときの契約問題もあって、試合がしたくてもできない状態なんじゃないか、と。

吉田　いや、そのへんはまったくわかんない。（マネージャーに向かって）俺、どういう契約してんの？
──あれ、吉田さんは、あまり契約のことは把握してないんですか？
吉田　そんなことはないけど、契約云々で出れないってことはない。PRIDEとの契約だって年契約とかしてないもん。
──PRIDEとは年契約とか複数試合の契約ではなかったわけですね？
吉田　そう。毎試合毎試合の契約だったんで。
──そうでしたか。では、契約で縛られて試合に出られない状況ではない、と？
吉田　それはないね。
──いまは、旧PRIDE派とFEGサイドを中心に総合格闘技界は大連立という流れになっていますけど、こういう状況に関してはどう思われます？
吉田　まあ、よくわかんないね。いつどうなるかもわかんないし。自分が言えるのは、いまは『戦極』でやっていくってことで。で、『戦極』をやってる人たちは私利私欲でやってないじゃないですか？
──いまのところそんな感じですね。
吉田　K－1もPRIDEもそうですけど、オーナーがいて、それを仕事としてやってるからね。だから、いろんなことで対立し合ったりするわけじゃないですか。

まだ言えないこともたくさんあるけど、いままでの団体とは違う期待がある（菊田）

──まあ、そうですよね。テレビがついたらついたで視聴率も獲らなきゃいけないですし、どうしても私利私欲も考えなきゃいけなくなるわけですからね。
吉田　そうでしょ。だから、一番困るのって、そういうところに出てた選手たちですからね。いかに安定して試合をやるか、それで食っていけるかっていう問題が出てくるんで。そういう中で、『戦極』っていうか……、なんだっけ、あの会社？
──ワールドビクトリーロードですか？
吉田　そうそう、それ（笑）。
──忘れないでください（笑）。
吉田　そこは企業の人たちがきっちりバックアップして、ホントに好きでやってくれてる人たちばかりなんで。「お金は出します。口は出しません」っていうような感じなんで。それだったら、揉めることもないし、きれいにできると思うんで。
──会見でも言われてましたけど、UFCとか、いまは独占契約の大会も多いですが、『戦極』では契約で縛るつもりはなくて、ほかの団体に出場するのもスケジュールの都合さえ合えば問題ない、と。
菊田　けっこう、みんな縛りたがるんですよ。さっきも言ったけど、ボクはそういうのが嫌だったんでPRIDEのときもワンマッチ契約でやってたんでね。
──菊田さんは、だいぶ前から『戦極』サイドと話をされていて、「パワーというか魅力を感じた」ってブログでも書かれてましたけど。
菊田　そうですね。いま吉田さんが言ってらっしゃった部分ですよね。総合格闘技を好きな人たちが集まってますし。あとはまだ言えないようなこともたくさんありますけど、いろいろと、いままでの団体とはちょっと違うんじゃないかなっていう期待がやっぱりありますね。
──言える範囲で、その期待感っていうのは、どういう部分になるわけですか？
吉田　やっぱり、（日本総合格闘技）協会っていうのを立ち上げて、きちっと協会が入って大会をやるんで、へんな噂は流れないっていうところもありますよね。

格闘技界は"戦国"時代に突入！ WVR主催、総合格闘技・新イベント『戦極～SENGOKU～』旗揚げ戦は07.3.5代々木第一体育館に決定!!

11月27日、都内ホテルで（株）ワールドビクトリーロードが記者会見を行ない、ファンから公募していた総合格闘技新イベントの大会名が『戦極～SENGOKU～』に決定したことが発表となった。旗揚げ戦は来年3月5日、代々木第一体育館で行なわれ、会見では出場選手として吉田秀彦、菊田早苗、瀧本誠、川村亮の4選手が発表された。大会概要および、会見でアナウンスされた『戦極』の階級制度と主だったルールは以下のとおり。

『戦極～SENGOKU～』
東京・国立代々木競技場第一体育館
2008年3月5日（水）開始時間未定

【出場予定選手】
吉田秀彦（吉田道場）、菊田早苗（GRABAKA）
瀧本誠（吉田道場）、川村亮（パンクラスism）
※その他出場選手、対戦カードは決定次第随時発表

【チケット】
近日発売予定

【ホームページ】
http://www.sengoku-official.com

『戦極～SENGOKU～』階級＆ルール

【階級制度 全6階級制】

階級	体重
フェザー級	60kg以下
ライト級	68kg以下
ウェルター級	76kg以下
ミドル級	83kg以下
ライトヘビー級	93kg以下
ヘビー級	93.1kg以上

【主なルール】
■試合形式は原則として5分3ラウンドとし、延長戦は行なわないものとする。ただしチャンピオンシップは5分5ラウンドとする。
■禁止事項は以下の通りとする。
①噛みつき、②頭突き、③金的攻撃、④目、鼻、口内など粘膜部への直接的な攻撃、⑤頭髪を引っ張る行為、⑥手指を用いた喉に対する直接的な攻撃、⑦後頭部・延髄・脊髄への打撃攻撃（後頭部とは頭の真後ろのことを指し、側面、耳の周りは後頭部とはみなさない）、⑧頭部・顔面への肘を使った攻撃（スタンド、グラウンド状態は問わない）、⑨グラウンド状態にある相手が背中や臀部をマットにつけている状態、および3点ポジション以上の場合、スタンド状態にある選手による足の甲での攻撃（サッカーボールキック）、⑩故意にロープおよびコーナーポストを掴む行為、ロープに腕や脚などの肢体部分を引っ掛ける行為、またはロープおよびコーナーポストに道衣を引っ掛ける、あるいは巻きつける行為、⑪故意にリング外へ出る、⑫意図的に相手をリングの外へ投げる、⑬試合中、相手に対しダメージを与えると認められない無気力な攻撃、膠着を誘発する行為　※3点ポジションによるヒザ蹴り、およびグラウンド状態になった相手への踏みつけは認めるものとする。
※（記者会見時に配られた資料による）

――〝公明正大〟を強調してますからね。

吉田　総合格闘技がホントの意味でプロスポーツみたいなかたちでやっていけるような状況になってきたんでね。そういうふうになっていかないと、下からやってきて、これからプロで頑張っていこうっていう人たちが、「どうやったらプロになれるんだろう」っていうのが見えないと思うんですよ。だから、きちっと協会があって、試合も定期的に決まってるっていうのは、いいことだと思いますね。

――来年『戦極』では5大会を予定してるみたいですからね。

吉田　それに、いまから作り上げていく部分も大きいんで。それを菊田たちと、きっちり道筋を作っていってあげられればね、また格闘技の人気が出てくるんじゃないかなと思いますし。まあ、ボクたちも知らないことも、たぶんいっぱいあると思うんですけど、何も揉めることのない団体でやりたいなっていうのが、やっぱ一番ですよね（笑）。

――これまでは、いろいろと揉め事にも巻き込まれたりすることもあった、と？（笑）。

吉田　そうだねぇ。もう、そういうのはいいっていうか、やっぱり、みんな生活していかなきゃいけないですし、いつ試合があるかわからないっていう状態の中でやっていくっていうのは非常に選手としては不安なんでね。そういうのが少しでもなくなればいいと思うし、そういう状態を作っていけるのが『戦極』だと思いますし。作っていかなきゃいけないのが菊田とか自分とか、おじさん軍団が頑張っていかないと（笑）。

菊田　はい、頑張ります（笑）。

――以前話を聞いたときも、ドン・キホーテの安田会長とか、ホントに総合格闘技が好きな方で、凄い熱い方ですよね。

吉田　そうそう。メチャクチャ好き。それに、ドン・キホーテもそうだし、企業としてもしっかりしてるところがバックボーンにあるんでね。木下社長の木下工務店とかもそうですし、いまから安田会長とかもいろんな人に声をかけて、いろんな企業が参加してくれると思うんで。たぶん、ボクたちが言えるのは、資金力には不安はないな、と（笑）。

――それは何よりです（笑）。

吉田　そこが一番ですから。プロとしてやるなら。

菊田　まあ、そうですよね。

吉田　やっぱ、選手たちもね、きちっと食っていくだけの保証が見えれば、選手としてもやりやすいですし。安田会長なんか、ジムを作ってあげて、そこで練習できるようにしてあげて、ドン・キホーテで働かせてあげるとか言ってくれてますから（笑）。

――それは素晴らしいですね（笑）。吉田道場では選手によって、いろいろな大会に出ていますけれども、今後は『戦極』に全面協力していくつもりなんですか？

吉田　カズ（中村和裕）とか小見川（道大）もUFCの契約が終われば、たぶん『戦極』にも出ると思うし。それまでに、こっちの大会を盛り上げていかないと。

菊田　自分も主戦場としていきたいっていうのはあるんですけど、まあ団体っていうよりも、自分のやりたい選手がいろいろいるんで、実現できれば協力体制でやっていきたいなって思ってます。

吉田　誰とやりたいの？

菊田　いやいやいや（苦笑）、まあ、いろいろいるんですけどね。

――いまの気分で言うと、誰とやりたいんですか？

菊田　いまはちょっと難しいですけども、やっぱりいまはフランク・シャムロックに興味がありますねぇ。

――フランクですか。

菊田　ムチャクチャ興味がありますけど、彼は彼でアメリカとかで契約があるんで、ちょっと難しいかなって。

05年の『PRIDE男祭り』で吉田は柔道時代の先輩であり、当時『ハッスル』で活躍中の小川直也と対戦。試合は小川の足をアキレス腱固めで破壊した吉田が最後は腕十字で勝利。試合後、ハッスルポーズを誘われるも「引退したときに」と吉田はやんわりと拒否。

吉田vs小川戦と同日、菊田は柔道衣姿の瀧本誠と対戦。菊田は一本勝ちはできなかったものの、寝技で力の差を見せつけ判定勝ち。『戦極』で“大将”対決はやれんのか!?

――以前から、ちょくちょく名前を挙げていたホイス・グレイシーはどうですか？

吉田　いけるんじゃないの、ホイスは。

菊田　やりたいですけどねぇ。

――吉田さんは2回闘ってますからね。

吉田　あ、でも高いよ。

菊田　アハハハハ！　もういいかげん安くなってほしいですよね（笑）。自分は関節取りたいんですよ、ホイスから。

――それは前から言ってますよね。吉田さんは谷川さんからかなり前から秋山戦をリクエストされてるみたいですけど。

吉田　いつも俺はそういうのばっかり。

菊田　アハハハハハ！

――菊田さんは秋山戦も興味はあるって言ってましたけど。

吉田　おっ、行け！

菊田　いや〜、どうなんですかねぇ（苦笑）。ホントにこの世界は、やりたいと思った人は、やりたいと思ってくれなかったりするのが多いですからね。逆に、俺はやりたくないって思っても向こうからやりたいって言われたり。そういうのがいっぱいあって難しいですよねぇ。

吉田　『戦極』でも、ボクたちがどういう相手とやるのかはまだわからないし、大会自体がどうなるのかは、まだ見えないんで。でも、やっぱり総合っていうと、PRIDEのイメージが強いと思うんで、あいう大会に近づけるような大会にしていかなきゃいけないと思いますし、外国人から見ても「あの大会に出たいな」っていうような大会にしていかなきゃいけないなっていうのはありますよね。

――吉田さんは『戦極』を選手としての立場だけじゃなくて、大会自体にもなんらかのかたちで関わっていくっていうスタ

ンスになるんでしょうか？

吉田　やっぱね、ボクはどっちかっていうと、年齢的にね、あんまりできないと思うんで。何か下に残してあげられるものを作っていかなきゃいけないなって。いまさらUFCに行ってもしょうがないんで（笑）。

――しょうがなくはないと思いますけども（笑）。

吉田　でも、それだったら日本できっちりした大会っていうか、誰も不安なく出れるような大会を作っていくのが、これからのボクに課せられたものかなって思うし。やっぱり、道場主としては、下が入ってくると、そういう選手が出れるような大会を作っていきたいですしね。

――それが『戦極』のリングになるわけですね。

吉田　そうなるでしょうね。でも、テレビつかないかなぁ。

――どうしたんですか、突然（笑）。

菊田　うん。やっぱり、テレビはついたほうがいいですからね。

――いくら資金面は豊富といっても、テレビがつくかつかないかは重要だと？

吉田　やっぱり、コアなファン層だけじゃなくて、一般のいままで格闘技に興味なかったような人たちに観てもらって、会場に足を運んでもらうようにしなきゃいけないんで。テレビってね、影響力デカいッスよ。

吉田戦？　団体戦は盛り上がるんで、そういう可能性もいいのかな、と（菊田）

秋山とか知ってる人とは、やりたくない。まあ、頑張ります、来年は（笑）（吉田）

よしだ・ひでひこ■1969年9月3日、愛知県大府市出身。講堂学舎から世田谷学園、明治大学、新日鉄と柔道一直線で、92年のバルセロナ五輪では金メダルを獲得。02年の全日本選手権への出場を最後に第一線から退き、吉田道場を設立。その後は総合格闘家として活躍しつつ、柔道普及に努めている。180cm、105kg。吉田秀彦＆吉田道場情報→http://www.hidehiko.jp/

きくた・さなえ■1971年9月10日、東京都練馬区出身。学生時代に柔道を始め、明大中野高校在学中に高校国体86kg級で優勝。卒業後は日本体育大学で柔道を続けるも中退、その後、修斗でプロデビュー後はリングス、PRIDE、パンクラス、アブダビ・コンバットなど、さまざまな舞台で活躍中。176cm、89kg。菊田早苗日記→http://blog.livedoor.jp/kikuta_sanae/

――吉田さんはテレビによく出てますから、そのへんは実感として感じるんでしょうね。

吉田　スターを作り上げていかなきゃいけないじゃないですか。それにはやっぱりテレビが必要だと思うんでね。

菊田　地上波でやってほしいですね。

吉田　まあ、CX（フジテレビ）はたぶん無理だし、TBSもダメだろ。テレ朝も無理かなぁ。

菊田　テレ朝もダメですかね？

吉田　だって、テレ朝は新日本プロレスをやってるし、あと、12チャンは『ハッスル』をやってるでしょ。残るは日テレか？

――日テレはレスリング中継もやっていて、福田会長もつながりがありますし、可能性はあるんじゃないかと言われてますね。

吉田　日テレさんに「一緒に頑張りましょう」って言っておいてくださいよ（笑）。

――じゃあ、誌面を通じてアピールしておきましょう（笑）。まだ具体的なカードとかは見えてきていないですが、たとえば吉田道場vsグラバカの対抗戦のようなものも将来的には考えたりはしてます？

吉田　中にはそういう大会もあっていいだろうし、やっぱり、ファンがあってのボクたちですから。ファンが喜ぶような試合をやっていきたいと思いますけどね。……とか言ってると、またキツイ試合が組まれそうだなぁ（苦笑）。

――アハハハハ！　でも、ファンが望むカードは選手はやりたくない試合が多いと言うじゃないですか。

吉田　まあ、対抗戦っていうのもありだと思いますよ。そういうのも楽しみっちゃあ、楽しみだろうし。お互いのメンツを懸けてやるっていうのも、なんか『戦極』っぽいじゃないですか（笑）。

――確かに『戦極』っぽいです（笑）。

菊田　ボクなんか逆に柔道のときは、団体戦はよくやってましたけど、凄いドラマ仕立てなんですよ、メチャクチャ。だから、はたから見てても非常におもしろかったんで、そういった団体戦的なノリだとか、あとはマニアックなカードを散りばめたり、大会ごとにいろんなストーリーがあるのもおもしろいなって思いますけどね。

――その流れで吉田vs菊田戦っていうのも将来的に可能性はあるんですかね？

菊田　いや～、どうなんですかねぇ。でも、団体戦やると盛り上がるという意味では、そういう可能性もいいのかなとは思いますけどね。

――吉田さん的には、秋山戦もそうですし、菊田さんとか柔道時代から知っている後輩とは闘いたくないとかあります？

吉田　あんまりね、知ってる人とはやりたくない。俺は知ってるけど、あんまり仲良くない人だったらべつにいいけど。

――それは小川さんのことですかね？

菊田　ハハハハ（笑）。

吉田　まあまあ、それは終わったことですから。

――吉田さんは大晦日はなさそうなので、来年の活躍を期待してます！

吉田　頑張りますよ、来年は（笑）。

菊田　自分も頑張ります。……でも、大晦日もあるかもしれないんだよなぁ。

――もし決まったら、そちらも頑張ってください！（笑）。

【07年12月3日／都内『J-ROCK workout studio』にて収録】

大晦日は

“人喰い義生”が語る

IGF、パンクラス、アルティメット、桜庭vs船木、そして前田日明

高橋義生改め

高橋和生

7月にパンクラスを退団して、フリーとなった高橋義生改め高橋和生が、IGFの12.20『GENOME2』に“人喰い義生”のリングネームで参戦した。パンクラス旗揚げメンバーとして真剣勝負にこだわり、日本人で初めてUFCで柔術家を破った高橋が、いまプロレスに回帰する背景にはどんな思いがあるのか？　高橋のプロレス、格闘技へのこだわり、さらに総合黎明期を闘い抜いてきた思いを語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ

――パンクラスを退団してフリーになった髙橋さんが、12・20ＩＧＦ（イノキ・ゲノム・フェデレーション）に〝人喰い義生〟として参戦すると聞いて驚きましたよ！

髙橋　そうですか？

――みんな「なぜＩＧＦ？」って思ったんじゃないですかね。そもそも参戦に至ったきっかけはなんだったんですか？

髙橋　きっかけは藤原（喜明）さんですね。7月にボクがフリーになった記者会見をしたあと、すぐにボードッグの大会に出るためにアメリカに行ったんですけど、帰国後、一番最初に電話をくれたのが藤原さんだったんですよ。それで「やってみないか？」って言ってくださって。

――師匠直々の誘いに「ノー」とは言えなかったわけですか？

髙橋　いや、断れないとかじゃなくて、やっぱり藤原さんがいて、いまのボクがいるわけだし、しかも一番最初に声をかけていただいたんで、二つ返事でしたね。

――でも、髙橋さんといえば、藤原組時代から、とくに真剣勝負志向が強いイメージがあったんで、パンクラスを退団して最初のリングがＩＧＦというのは、驚いた人も多いと思いますよ。

髙橋　ＩＧＦに出ても練習は格闘技と一緒なんで、あんまり分け隔てして考える必要もないと思ってるんですけどね。まあ、パンクラス時代は頑なに分けていた部分もありましたけど。今回、辞めて心機一転ということで、いままでやってこなかったことに挑戦したいなっていう気持ちもありますね。

――では、逆に言うと、パンクラスにもＭＩＳＳＩＯＮという純プロレス部門がありますけど、パンクラス在籍時代には頑なに格闘技一本というこだわりがあったわけですか？

髙橋　ありましたね。所属してるときは、かなり強くありました。それをやってしまったら、なんのためにパンクラスを作ったんだって思いますからね。

――プロレスやるんだったら、藤原組を辞める必要もなかったわけですもんね。

髙橋　はい。

――船木さんなんかに話を聞くと、藤原組時代から髙橋さんは「格闘技がやりたい」って言い続けていて、「それができないなら、引退する」っていうようなことも言っていたらしいですね。

髙橋　そうなんですよね。まだ、あのときは総合格闘技っていうジャンルが確立されてなかった頃なので、よけいに「やりたい、やりたい！」って思いがありましたし。パンクラスを作って、思う存分できるようになったら、「これが自分の天職だ」と思ってたんで、在籍時代は頑なになってましたね。

――藤原組時代は、船木さんが、髙橋さんのその思いに応えてくれたんですよね？

髙橋　そうですね。だから藤原組時代は、船木さんと試合するのが一番楽しかったですね。

――そんな真剣勝負志向の髙橋さんは、もともとはプロレスファンだったんですか？

髙橋　プロレスファンですよ。ブロディ大好きで。

――ブルーザー・ブロディのファンでしたか！　それはそれでイメージどおりですね（笑）。

髙橋　子どもの頃からプロレス観戦にはしょっちゅう行ってたんですけど、目の前で観て怖かったのはブロディだけだったんですよ。自分はロード・ウォリアーズの来日第一戦も観に行ってるんですけど、ウォリアーズの近くに立ってもあんまり怖くなかったんですよね。

――暴走戦士恐るるに足らず、と（笑）。

藤原組に入る前、アメリカの刑務所にいるマサ斎藤さんに弟子入りしようと思った

髙橋　あと、スタン・ハンセンがブルロープ振り回しながら向かってきても、そんなに怖くは感じなかったんです。でも、ブロディが場外乱闘でこっちに来たとき、「ヤベぇ！」と思って逃げようとしたら靴が脱げちゃって、靴を取りに行ったときにパッと上を見たら目の前にブロディが立ってって、そのとき初めて恐怖を感じましてね（笑）。それ以来、ブロディは大好きです。

――やっぱり醸し出すムードや威圧感が違うんでしょうかね。

髙橋　そうですね。あと、全日本プロレスを離脱する直前だったんで、かなりイラ立ってたのかもしれないですけど（笑）。

――そういえば当時のブロディは、〝新顔〟のウォリアーズや長州力にかなりムカついてたらしいですからね（笑）。じゃあ、日大でレスリングをやられていたのも、プロレスラー志望ということだったんですか？

髙橋　そうです。ホントは高校卒業してすぐにプロレスラーになりたかったんですよ。あのときマサ斎藤さんがアメリカの刑務所に入ってるときだったんですけど、ボクもちょうどレスリングでアメリカ遠征があって、場所も近くだったら、弟子入りさせてもらおうと思ってたぐらいですから。

――刑務所にいるマサさんに弟子入り！　それも素晴らしいセンスですね（笑）。

髙橋　でも、いろいろ事情があって大学に行かなきゃならなくて。大学に入ったらＵＷＦができたんですよ。それでＵＷＦには鈴木（みのる）さんもいたんで、ＵＷＦに行きたいと思ったんですね。

――鈴木さんとは高校時代から面識があったんですよね？

髙橋　そうですね。レスリングで同じ階級だったんで。それで最後の国体が終わったあと、ボクは「大学に行くけど」って言ったら、鈴木さんが「俺はプロになるから」って、新日本プロレスに入って。その後もたまに会ったりしてて、その鈴木さんがＵＷＦに行ったんで、ボクも自然とＵＷＦに行こうかな、と思いましたね。

――大学卒業前は、日大の先輩でもある谷津（嘉章）さんのルートで、ＳＷＳの『道場・檄』に入る話もあったんですよね？

髙橋　それもありました。ちょうどボクが卒業する前にＵＷＦが潰れたんですよ。それで自分の行き場所がなくなったから、谷津さんのところに行こうと思ったんですけど、卒業前に鈴木さんに「これからどうすんの？」って連絡したら「ちょっと話をしよう」って

師匠・藤原組長の誘いでIGF参戦が決まった髙橋。総合と区別をつけるためか、IGFでのリングネームは自身がモデルになった漫画『高校鉄拳伝タフ』のキャラクター、“人喰い義生”に変更した。IGFでは、どんな人喰いっぷりを見せるのか。

大晦日は

言われて、会うことになったんです。そしたら「今度、藤原組ができるから」って、まだ口外しちゃいけないことをボクに話してくれて。でも、「俺は谷津さんのところでやるよ」って言ったら、「おまえ、谷津先輩のところに行ったら一生俺には勝てなくなるよ」って言われたんで、カチンときて。

——いやぁ、不良マンガのワンシーンのようですね(笑)。

髙橋　それでSWSではなく、藤原組に行くことにしたんです。

——谷津さんには丁重にお断りして。

髙橋　はい。ギリギリまで「行く」と言ってたのを翻したんで、怒られるだろうと思ってたんですけど、一生懸命謝りましたね。

——で、藤原組に入ったあと、途中で自分がやりたい試合というのがムクムクと出てきた感じですか？

髙橋　そうですね。ところどころ、船木さん以外でも自分のやりたい試合ができてたんで、我慢しながらやってました。

——では、藤原組時代は常に自分のやりたいことと、実際にやってるプロレスの試合が違うことへの葛藤があったわけですね。

パンクラス旗揚げによって、水を得た魚のように生き生きと闘っていた高橋。現在と違いグローブを着けず、グラウンドでの顔面攻撃もなかったが、真剣勝負の総合格闘技の礎を築いたことは確かだ。

髙橋　はい。そのとき藤田（和之）がまだ学生だったんですけど、飲みに誘って藤田の前で泣いた覚えもありますね（笑）。まだ22～23歳で若かったですから。

——それこそプロレスに対して純粋な思いが強かったというか。

髙橋　親の反対を押しきって入ったというのもありましたしね。その親の反対というのも、ボクの身体を心配してとかじゃなく、「プロレスなんてスポーツと言えない。そんなことはするな！」っていう、そっちの問題だったんですよ。そういう親が言うことに反発しながらも、実際にリング上では〝それ〟をやっている自分が凄く嫌で……。だから、たまにできる船木さんとの試合だったり、そういう試合を凄く楽しみにしてましたね。

——だからこそ、タイ人とリアルファイトで異種格闘技戦をやったりとかしてたわけですね。

髙橋　あと藤原組のリングでロシア人とかとも……。いろいろ上の人の考えもあったのかもしれませんけど、ボクは勝手にやってましたね。

——勝手にデカいロシア人相手に力試ししてましたか（笑）。

髙橋　でも、とにかく力が強くてビックリしましたね。ヘッドロックされたとき、頭蓋骨がメリメリって音がして「うわっ、割れる！」って思いましたからね。あんな思いをしたのは、あのときだけですね。ボク、いまだに締められたところにコブがあるんですよ。あれはちょっとビビりましたね。

——命知らずなことやってますね～。でも、そう考えると、髙橋さんの総合格闘技、リアルファイトのキャリアって猛烈に長いですよね。

髙橋　長いですね。

——しかも、一度も引退せずにいまも総合やってるのって、髙橋さんぐらいじゃないですか？

髙橋　でも、ボクは足を骨折して1年半ぐらい休んだりとか、たまにガッツリ休みをもらえてたんですよ。しかも、あの頃は船木さんと鈴木さんが二枚看板だったんで、ボクはファンの人たちの期待を一身に背負うことはあまりなかったんで、けっこう気楽にやらせてもらってましたからね。

——でも、この競技のパイオニアだという自負はないですか？

髙橋　それはあんまりないですね。結局、ボクたちが最初にパンクラスを旗揚げしてやろうと思ってたことと、まったく違うものになってきてますから。

——最初はどんなものをイメージしてパンクラスを作ったんですか？

髙橋　単純にプロレスの発展型ですよね。もっと華やかな感じをイメージしていました。いまはちょっとアマチュアチックになってきてるかな、と思いますね。

——確かにプロとアマチュアの境目がなくなってきているようなところがありますよね。

髙橋　PRIDEや『HERO'S』は別としても、いまの格闘技の興行自体がみんなそうじゃないですか。アマチュアの選手がいっぱい出てて、アマチュアっぽい試合も多く

80年代、フリーの超大物として世界中のリングを渡り歩いた"超獣"ブロディ。"人喰い義生"が目指すプロレスラー像もこの男か。

なってますから。けっこうヤバいですよね。そうなってくると、「ちょっと違うかな」という気がしますけど。

——そういった流れが顕著になってきて、パンクラスという団体から徐々に心が離れていった部分ってありました? 目指してたような団体と違うようなものになってきてるというか。

髙橋　パンクラスがそうなってるのは、もうしょうがないことだったんで、それはそれで割り切ってましたね。ボクはボクで我が道を行く感じでやってたので。

——そんな硬派なこだわりがある高橋さんが、リングネームを〝人喰い義生〟にしたり、IGFという、広い意味で〝なんでもあり〟なリングに上がることになったということは、ご自分でも丸くなった部分ってあると思いますか?

髙橋　ずいぶん丸くはなったと思いますよ。藤田とかがいろいろ電話をかけてくれたりしてるのは、たぶんボクが丸くなったおかげだと思うんですけど（笑）。なんていうんですかね、もうけっこういい歳なんで、いろんなことを楽しんでやりたいんですよ。それは『ゲノム』だけじゃなく、総合も明るく楽しくやりたいと思ってて。昔から判定決着が嫌いだから、判定で負けるぐらいだったら、自分から足を出して、足取られて負けたこともありますからね。

——足一本差し出してましたか（笑）。

髙橋　このままいっても絶対に勝てないと思ったら、負けを覚悟で隙を見せてでも攻めなきゃつまらないですからね。そういう気持ちが根底にあるんで、ボクが楽しんで、それをお客さんにも楽しんでほしい気持ちがありますね。

——昔の髙橋さんは、果たし合いみたいな試合が多かったですよね?

髙橋　そうですね。けっこう殺伐としてた試合が多かったんで、その反動で、いまは明るく楽しくって思うのかもしれないですけど（笑）。

——グローブ空手の『トーワ杯』に出たときも、一人違うムードを醸し出してましたし。

髙橋　やっぱり他流試合はそうなりますよね。あとはUFCとか、殺伐とした外敵とやることが多かったんで。

——あの当時のUFCに出るというのは、いまのUFCに出るのとイメージがまったく違いますよね。

髙橋　違いますね。やるほうの気持ちも、もう覚悟決めて。これで終わりになるかもしれない、死ぬかもしれないっていう気持ちで出てましたよね。いまとは全然、世界が違うんじゃないですか。

——殺し合いをやる地下プロレスみたいな感じでしたもんね。

髙橋　だから、覚悟決めて上がりましたよ。一回あそこで覚悟を決めてしまったから、もういまは試合をするにもけっこう気楽な感じになりましたけど。

——ある意味、究極の刺激を味わってしまったことで、逆に普通の試合がもの足りなくなったりしたことはありませんでしたか?

前田日明の「パンクラスは潰す」発言を受けて、「俺が前田を殺す!」と名乗りを挙げた髙橋は記者会見を開き、“中立のリング”である全日本キックでの決着戦を要求。結局実現はしなかったが、こうした団体間の仁義なき争いも総合黎明期ならではだ。

前田さんのケンカをボクが買ったのは それが団体にとって都合が良かったから

髙橋　少しそういう感じの時期もありましたね。そんな中でも自分で課題や楽しみを見いだそうという感じでやってましたけど。

——自分自身が燃えられることを探していた、と。

髙橋　あのときと同じような感情になることがまずないですからね。昔、ボクが空手の黒澤（浩樹）先生に「UFCに出たときに、いままでと違う体験をした」って話をしたら、「ボクもそういう体験がある」って先生がおっしゃったんですよ。

——黒澤さんの場合は極真の世界大会や、有名な拳の骨が飛び出しても闘い続けた全日本ウェイト制のことなんでしょうかね。

髙橋　そして、「それをね、もう一回やろうやろうと思っても、なかなかできないんだよ」って先生に言われたんですよ。いまだにボクもやっぱりできてないんですけど、「それをずっとやりたいと思うのは、結局、麻薬みたいなもんだから」って言われたんですね。だからそれがもう一回ぐらい経験できるまではずっとやってるのかなとも思いますけどね。

——自分のすべてを出すというか、すべてを懸けられるような試合を求めて。

髙橋　そうですね。

——あと、パンクラス時代の高橋さんといえば、前田日明さんとの抗争というか、舌戦がありましたけど。

髙橋　あれについては、そういうのが自分の役目だったというか、いつもボクが矢面に立ってやってましたからね。それもあって、よけいに一人になって気楽に楽しくやりたいっていうのも、やっぱりありますよ。だってもともとボクのケンカじゃないわけじゃないですか。

——もともとは船木&鈴木というか、おもに鈴木さんですよね（笑）。

髙橋　だから、わざわざそのケンカを買う必要もないんですけど、誰もやらないからボクがやったわけで。

——じゃあ逆に、買わない周りにムカムカしてる部分っていうのもはありました?

髙橋　いや、それはないですけどね。ボクの得意分野ってわけじゃないですけど（笑）、ボクが出ていくのが団体にとっても一番都合が良かったし。

——Uインターでいう安生さんみたいな立場というか、そういう役割だったわけですね。

髙橋　安生さんもかわいそうといえばかわいそうですよね。安生さんもヒクソンに恨みなんかないのに、ああいうことをやらなきゃならなくて。でも、ボクはあのとき安生洋二さんのことが凄く好きになりました。自己犠牲じゃないですけど、ああいうこと（道場破り）をやる人なんだって。

——パンクラスでは髙橋さんがそういう役目になったのは、周りの空気で自然となったんですか?

髙橋　そうですね。たとえば映画の中でも、主人公を守るために死んでいく人たちがいるじゃないですか。ボク、そういう人が好きなんですよ（笑）。だからなのかもしれないですけど、パンクラスのときは、船木さんとかのためだったら、ボクが先に行ってやられてもいい気持ちだったんで。ただ、船木さんたちは大変ですよね。ボクがやられたら、最後の砦として守らなきゃならないわけだから。UFCにしても、ボクが負けてたら、やらざるをえなかったと思いますしね。

——そして高橋さんは、そんな船木さんを

大晦日は

守る用心棒というか、食い詰め浪人的な立場になったわけですね。

髙橋　やっぱり、それが藤原イズムなんじゃないですかね。

――なるほど！　もともと藤原さんがそうですもんね。〝猪木の影武者〟として、世界中でわけのわからないのと闘ってきてるわけですもんね。

髙橋　猪木さんに振りかかる火の粉は全部自分が払う、みたいな。そっちまで行かせないよっていうのが藤原さんですからね。

――なるほど、そういうことなんですね。いま『HERO'S』とかで前田さんとお会いすることがあると思うんですけど。

髙橋　そうですね。前田さんのほうからいつも声をかけていただいて、いまは普通に話しますね。

――もともと、あの騒動がある前は、前田さんは高橋さんのことを凄く買ってた人ですもんね。

髙橋　そうらしいですね。そういう話を言ってくださったんで、普通に話ができるようになりましたね。

――当時は「俺が前田を殺す！」ぐらいの勢いでしたけど（笑）。

髙橋　ただ、自分が直接、何かをされたわけではないので、ちょっと気がねはしてましたよね。っていうか、あのとき大ごとになりましたけど、前田さんが直接ボクと試合をしてくれるとは思えなかったんで、最終的には成瀬（昌由）くんだとか、山本（宜久）だとか、あのへんと試合をすることになるんだろうな、と思ってたんですよ。

――もしくは、TKとやってたかもしれないですよね（笑）。

髙橋　あったかもしれないですね（笑）。このないだも高阪とそんな話をしてて、「懐かしいな」みたいな。だから「懐かしいな」で済むような時代になったんですよね。

――いまやいい思い出になって。

髙橋　いい思い出……というか単純な思い出ですよ。

――良くはないけど思い出ではあるわけですね（笑）。

髙橋　やっぱり、あのときのストレスとかは凄かったですから。

――1回目の高田vsヒクソン戦のとき、前田さんに会うかもしれないから、ファールカップをして会場に行ったっていうのはホントなんですか？

髙橋　ホントですよ。あのときは、『PRIDE・1』で、黒澤先生の応援で行ったんですけど、前田さんも来るって聞いてたんですよね。それで会社からは「絶対に先に手を出すなよ」と言われてたんですけど、鉢合わせになって、いきなり一発目が金的だったら嫌だな、と思ってファールカップをしてたんですよ。

――なんかヤクザ映画の出入りみたいというか、総合の創成期ならではの緊張感があったんですね。

髙橋　いまは、格闘技の会場でもそういう緊張感はまったくないですよね。みんな楽しくやってますし。

――格闘家同士が会場で鉢合わせしたら、何か事件が起こるなんてことは、いまはありえないですよね（笑）。

髙橋　そう考えると、凄い時代だったと思いますよ。

――試合の技術的にもセオリーが固まってなくて、自分たちで作り上げてたわけですもんね。PRIDEができて以降、パンクラスもいわゆるUWFスタイルの総合から、グローブを着けてのバーリ・トゥードになっていきましたけど、そのあたりの難しさはありませんでしたか？

髙橋　グローブに関しては、パンクラス旗揚げ当初からボクシングの練習をやってたんで、あんまり違和感はなかったですね。ただ、グラウンドで拳で人を殴るという行為に対しては、ちょっと違和感はありましたけど。

――当時はマウントパンチだけで、野蛮だと言われた時代でしたからね。

髙橋　そうですね。だからパンクラスでも、グラウンドで顔面に掌底を打つ、打たない、とかだけで揉めたり。

――ああ、ありましたね。

髙橋　外国人は普通にマウント掌底をやるのに、日本人がそれをやると「ちょっと汚いんじゃねぇか」って言い方をされたりもしましたからね。

――バス・ルッテンなんかおもいっきり、掌の固い部分で打ち抜いてましたよね。

矢面に立って船木さんたちを守るのが俺の役目。これが藤原イズムですよ！

第12回アルティメット 歴史的な1勝

日本人初勝利

アルティメット

パンクラス高橋

301戦無敗グレイシー戦士を撃沈

97年2月7日、『UFC12』に出場した髙橋は、当時、柔術界の大物だったイズマイウに判定勝ち。これは日本人が初めてUFCで勝利した快挙であり、大きく報道された。【97年2月9日付『東京スポーツ』】

髙橋　ただルッテンはかわいそうで、いつもそうやるたんびに手の骨が欠けたり、手首を壊したりしてましたから。それがかわいそうでしたね。

——そういう意味では、いまのようにちゃんとバンデージを巻けるようになったのは、選手にとっても良かった、と。

髙橋　はい。

——船木さんがヒクソン戦の前に、パンクラチオンマッチに打って出ていたとき、ずっと練習パートナーとして髙橋さんがついてたじゃないですか。あの頃の船木さんは、バーリ・トゥードスタイルにアジャストするのが、けっこう困難だったりしませんでしたか？　あまりバーリ・トゥードには向いてないイメージがあったんですけど。

髙橋　でも、関節技の技術は凄くありましたよ。パンチもともとボクシングの練習を続けてたので、苦にしませんでしたし。ただ、レスリングの倒す、倒されるっていう行為があまり得意じゃなかったんで、それで自分がついたんですけどね。

——もともとのロープブレイクがあって、グラウンドで極め合うスタイルだと、それほどレスリング技術が重要視されてませんでしたからね。

髙橋　だから、藤原組時代もパンクラスを始めてからも、みんなタックルの技術をおろそかにしてたんで、それが凄く悔しかったですね。だから、あの頃は「プロレスラーはレスリングのプロのクセにレスリングができないヤツが多すぎる」って、よく言ってました。後輩とかを大学へアマチュアレスリングの練習に連れていったりしたときも、学生にタックル取られて平気な顔してるヤツらを見てると怒ってましたね。「レスリングのプロなんだから、レスリングがしっかりできなきゃダメだろ！」って言ってました。

——ゴッチさんもホントはそういう考えの人なんですよね。

髙橋　そうですね。ボクが藤原組に入って、

03年10月13日、新日本プロレスの東京ドーム大会で、髙橋はジョシュ・バーネットが持つ、パンクラス無差別級王座に挑戦。三角絞めで敗れたものの、満足いく闘いを見せた。

大晦日は
プロレス＆格闘技だけ

タックルの技術をいろいろ見せると大喜びしてましたもん。

―そのレスリング技術が重要視されなかったことが、船木さんが現役末期に苦しんだ部分でもあった、と。

髙橋　そうですね。やっぱり柔術家とやるときに、タックル取られて上に乗られたら、向こうの思うつぼになってしまうわけですから。そこの倒す、倒されるの部分をキッチリやらなきゃいけない、というのはありましたよね。

―じゃあ、今回の桜庭選手との試合でも、そのへんがキーになりそうですか？

髙橋　いや、その試合については考えないようにしてるんですよ。ボクは船木さんをよく知ってますけど、長いこと一緒には練習してませんし、桜庭とも仲がいいから、あんまりどっちが勝つとか負けるとか、考えたくないんで。完全に知らない人たちの試合として傍観するつもりでいますね。

船木の引退前、ヒクソン戦に向けてのスパーリング・パートナーとして、つきっきりで一緒に練習した髙橋。このときからの課題であるレスリングを今回の復帰にあたり、船木は克服しているか。

―じゃあ、その試合ではなく、最近の桜庭さんってどういうふうに見てますか？

髙橋　やっぱり、いろいろと痛いところがいっぱいあるんだろうな、と思いますけどね。結局、いろんな選手が引退しても復帰してくるのは、引退すると練習が趣味でできるようになって、身体の調子も上がってくるんですよね。好きなときに練習して痛かったら休めるって状況なんで。それで体調がよくなるから復帰してくるわけで。そういう点だとボクや桜庭とか、ずっと辞めてない人間は、ずっとどこかしら痛みを感じながらやってるんで。だから痛めているところが悪化しなければいいな、とは思いますよね。

―桜庭さんなんかはPRIDEっていうもの凄くデカい舞台で、ずっと休めない状況で、エースとして闘ったわけですからね。

髙橋　いろいろ蓄積してるものがあるんだろうなと思いますね。

―とくに打撃のダメージなんていうのは、現役を続ければ続けるほど溜まるんでしょうね。

髙橋　大変だと思いますね。でもシュートボクセで練習してるって言ってたんで、（打撃を）当てられなきゃ問題があるわけじゃないんで。

―髙橋さん自身も打撃のダメージが蓄積してる自覚ってありますか？

髙橋　そうですね。だんだんボク、KOされる時間が短くなってきてるんで、打たれ弱くなってるな、とは思いますね。整体とか行ってるんですけど、それじゃ追いつかないようになってるのか、やり方がちょっと違ってるのかはわからないですけど……。でも、打ち合いになって負けてしまうというのは、練習不足なんでしょう。

プロのレスラーなのに、レスリングができないヤツが多すぎるのが悔しい

―う～ん、そうなんですかね？

髙橋　もっと練習して、もっと症状が悪くなるかもしれないですけど、練習したらよくなる可能性もあるので、やってみないとわかんないんですよね。だから一応いまは練習不足ってことで。

―とりあえず12・20IGFは決まってますけど、今後はどういった活動を考えていますか？

髙橋　身体の動く限りは、明るく楽しい総合、明るく楽しく『ゲノム』をやっていきたいなって思いますね。とにかく、楽しくやりたいです。最近、藤原組時代のことを思い出すんですけど、我慢しなきゃいけないところもありましたけど、楽しかったんですよね。パンクラスの旗上げ当初も凄く楽しかったんで。そういうふうに楽しく試合をしていきたいなと思ってますね。

―フリーになったからには、好きなことを好きなだけやりたい、と。

髙橋　ボクはまだ「引退」って言葉を口にしてないですし、身体が動かなくなったらできないことをやってるわけですからね。身体が動かなくなって引退せざるをえない選手とか、新弟子とかでも身体壊して辞めていったヤツもいますからね。そういうヤツらから比べると、ボクはまだ全然動くんで幸せ者ですからね。どうせやるなら、明るく楽しくやりたいな、と。

―やってみたい相手とか、やりたいリングとかありますか？

髙橋　ないですね。UFCもあんまり興味ないんで。ああいうふうにアスリートチックになるとボクの世界じゃないんで。どっちかっていうとファンタジーチックな。

―〝人喰い〟ですからね（笑）。

髙橋　だからボードックとかおもしろいなって思いましたよ。

―コスタリカとか（笑）。

髙橋　そうです！　コスタリカはビーチにリングを組んで、潮風を浴びながら闘ったんですけど、すっごい楽しかったんですよ。ボクが最後にやって楽しいと思えた試合って、ジョシュ（・バーネット）と東京ドームでやった試合なんですけど、あのとき以来の楽しさでしたね。

―ビーチでバーリ・トゥードって、なかなかできない体験ですからね（笑）。

髙橋　またあそこでやりたいですよ。

―『ゲノム』も南極大会とか狙ってるみたいですから、世界喧嘩旅みたいな活躍を期待してますよ。

髙橋　はい。明るく楽しく、自分がやりたいことを目一杯やっていきたいですね。

【07年12月4日／都内・イングラムにて収録】

たかはし・かずお■1969年3月13日、千葉県市川市出身。高校からレスリングを始め、日大レスリング部では主将を務める。92年、藤原組でプロデビュー。93年、パンクラスには旗揚げから参加。97年には日本人で初めてUFCで勝利をあげる。04年には『PRIDEヘビー級GP』にも出場。今年7月にパンクラスを退団し、フリーとなった。IGFでのリングネームは"人喰い義生"。180cm、91kg。

kamipro books

驚ガク! 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ! kamipro booksシリーズ! 死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

吉田豪の セメント!! スーパースター列伝 パート1

ストロング小林 田代まさし 猪木快守 イーデス・ハンソン 阿修羅原 鶴見五郎 サムソン・クツワダ

吉田にニラまれたら、生きてる心地がしない。リリー・フランキー

吉田豪セメントインタビュー11連発!! プロレスインタビュー本の最濃傑作!

★ストロング小林★田代まさし★猪木快守★イーデス・ハンソン★阿修羅原★鶴見五郎★サムソン・クツワダ★康芳夫★倉持隆夫★田中健一★小川宏

プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー——数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは"下調べの鬼"が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ!

B6変型判　344ページ
定価=1,890円(本体1,800+税)

プロレス狂 夕焼地獄流離篇

ジェラルド・ゴルドー 中島らも 後藤達俊 大槻ケンヂ ダニー・ホッジ シーザー武志

夕焼けがよく似合う人生のガチンコ勝負!! プロレス狂がシビれる凄玉たちの壮絶インタビュー集!

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武志★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる——!! プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、『kamipro』誌上にて掲載されてきた、濃厚インタビューから特別厳選収録!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円(本体1,800+税)

紙の破壊王 ぼくらが愛した橋本真也 爆勝証言集

前作をしのぐ愛すべきエピソードが続出!! またまた時は来た!

泣けて笑えるトンパチエピソード満載! またまた時は来た! 橋本真也三回忌追善本

★橋本大地★藤波辰爾★天山広吉★西村修★馳浩★スティーブ・コリノ★田中秀和★田山正雄★ライガー夫人★折鶴兄弟★AYAMI★紅蘭のマスター★佐藤正行★金沢克彦　ほか

破壊王本第二弾!! "愛すべき馬鹿"橋本真也を多くの"証言者"が語り尽くす! 破壊王の原点とも言うべき新日本プロレスの選手・関係者や破壊王ファミリーらが、いまだ知られざる破壊王のバカネタを大放出した珠玉の一冊!!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)[通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/

大晦日は
プロレス＆格闘技だけ
じゃない！

紅白歌合戦と超常現象SP

『kamipro』特選
年末TVガイド

『kamipro』読者の皆さん、大晦日はプロレス＆格闘技だけじゃないですよ！ なんて、あらためて説明するまでもないですが、日本の大晦日といえば、やはり『紅白歌合戦』！ もう一つおまけにいえば、ここ数年、『kamipro』の年末恒例企画となっている“超常現象番組”も盛り上がりを見せる時期なのだ。というわけで、今回は、紅白と超常現象を語らせたら右に出る者がいないという二人が、その魅力を熱く語りまくります！

このインタビューで語った内容は
決して外部には
漏らさないでください！

ザ・グレート・サスケが語る
2007年
超常現象とマット界

なぜか年末恒例となっている『kamipro』の超常現象特集。すっかり、この時期のレギュラーとなった感がある超常現象研究家にして、たま出版社長の韮澤潤一郎氏に今年も登場してもらおうと連絡をとると、年末特番の取材が立て込み、時間が取れないという。この緊急事態（？）に、かつて『kamipro』で韮澤さんと対談も行なっているUFO研究家のサスケに登場いただき、とっておきの超常現象話を披露してもらいましょう！

聞き手／阿修羅チョロ　試合撮影／平工幸雄

なぜか年末恒例
kamipro特選
年末TVガイド

国家機密を知りうる人物と私は一緒に活動しているんです！

―サスケさん、大変です！

サスケ えっ、どうかしました？

―いや、『ｋａｍｉｐｒｏ』では年末恒例企画として、サスケさんもよくご存知の韮澤潤一郎さんに超常現象について語ってもらっていて、今年も出演をお願いしたんですが、予言者のジュセリーノさんという方が極秘来日しているとかで、その取材対応に忙しくて時間が取れないらしいんですよ。

サスケ はいはい、ジュセリーノさんのことは私も存じ上げてますよ。毎回、『ｋａｍｉｐｒｏ』の韮澤さんのインタビューは私も楽しみにしてたんですけど、それは残念ですねぇ。……あれ、ということは、もしかして？

―韮澤さんの代わりといっては失礼なんですが、サスケさんにＵＦＯ研究家として、今年の研究結果を発表していただければと思っております（笑）。

サスケ はいはいはい、そういうことね。全然ノー問題ですよ！

―タイミングがいいことに、サスケさんは12月23日のみちのくプロレスの後楽園大会で因縁の佐藤秀＆恵兄弟との「宇宙大戦争最終決戦!!」なる試合が控えてるんですよね？

サスケ そうなんですよ。もうバッチリじゃないですか！

―しかも、24日の仙台大会では佐藤兄弟とのマイク合戦で「宇宙のことなら俺に任せろ！ 矢追純一さんと韮澤潤一郎さんを呼ぶぞ！」なんて言ってたみたいですし。でも、ホントに呼べるんですか？

サスケ まあまあ、正直言ってこれからの交渉次第なんだけども、期待大ということでね（笑）。

―期待してます（笑）。

サスケ まあ、お二人を呼んだからどうなるかっていうのは私にもわかんないですけどね。ガッハッハッハッ！

―ちょっと期待できなさそうだなぁ（笑）。で、さっそくなんですが、今年のＵＦＯにまつわる、とっておきの話を聞かせてください！

サスケ う～ん……、ちょっと困りましたねぇ。

―あれ、どうしたんですか？

サスケ いや～、正直言って、今年は知事選に立候補したり、その結果、落選したり、その後もいろいろとありまして、今年はあまりＵＦＯ研究家としての活動はできなかったんですよ。

―あらら。そうだったんですか？ じゃあ、どうしましょうかねぇ。

サスケ あ、大丈夫です！ ありましたよ、とっておきの話が！

―ホントですか？

サスケ ただし！

―ただし!?

サスケ この話は『ｋａｍｉｐｒｏ』さんだけにするので、今回のインタビューで私が語った内容は、決して外部には漏らさないでください！

―は、はい。では、こっそり聞かせていただけないでしょうか。外部には漏らしませんので。

サスケ でしたら話しましょう。まず注目は、日本テレビの朝の情報番組『スッキリ!!』！

―加藤浩次さんが司会で、テリー伊藤さんなんかもレギュラー出演してる番組ですよね。

サスケ そうです。あの番組でもね、けっこう、ちょくちょくとＵＦＯの特集をやってるんですよ。

―あっ、そうなんですか？ 朝は苦手なもので、チェックしてませんでした。

サスケ やってるんです！（なぜか得意げに）。

―でも、それは極秘情報なんで……。

サスケ （無視して）ＵＦＯの投稿写真とかを頻繁に放送したりしてるんですよねぇ。あいかわらず、ＵＦＯの目撃情報はあとを絶たないわけです！ 最近でも『東スポ』さんで一面になったりしてましたし。

―あ～、ありましたね。

サスケ で、これは私自身の目撃とは違うんですけど、あんまり詳しくは言えないんですが、私がひそかに動いてる分野があるんですよ。

―ほう！ どちら方面の分野なんでしょうか？

サスケ まあまあ、そこはちょっと言えないもどかしさがあるんですが、どうやらですね、日本の政府の一部、防衛省なりなんなりが、どうやら把握している情報がある、と。いや、かなり把握している。

―それはＵＦＯに関する情報ですか？

サスケ モチのロンです！ たとえばね、何年何月何日にあのへんを通るぞとＵＦＯの航行ルートまで把握してるという情報をつかみましたよ。これはね、間違いない！（キッパリ）。

―へぇ～、さすが日本政府！

サスケ これは私がひそかに暗躍してる分野なんでね、詳しくは言えないんですが。そこでね、国家機密を知りうる人物と私は一緒にやってるんですけど。

―国家機密を知りうる人物って、また凄い人と接点があるんですねぇ（笑）。いくつぐらいの方なんですか？

サスケ わりと高齢の方なんですけど。まあ情報通ですよね、その方は。ＵＦＯの情報も全部入ってきてるみたいで。どうやらですね、場所を特定するとアレですがね、東京駅前の……。

―東京駅前？ いきなり、場所が特定されてますよ（笑）。

サスケ 私なりのリップサービスです（笑）。東京駅前の……まあ、ここから先は特定するのは危険なんですけど、東京駅丸の内側の真っ正面に出てしばらく進んで突き当たるところに、お水があるエリアがあるんですね。

―お水があるエリア？ しかも、ますます場所が特定されてるし（笑）。

サスケ まあ、これぐらいは大丈夫でしょう。そこのエリアはですね、池でもないし沼でもないんですけども。

―池でもなく沼でもなく、川とかですかね？

サスケ まあまあ、あるんですよ、そういうスポットが。もっとわかりやすく言うと、よくジョギングしてるところです。まあ10キロぐらいのジョギングコースみたいなところを皆さんは何も知らずにグルグル回ってるんです。

―そのジョギングコースの近くにＵＦＯスポットがあると？

サスケ （声をひそめて） そのとおり。そこの水の中からＵＦＯが頻繁に離着陸しているというような情報が入ってきてるんですよね。

―へぇ～。じゃあ、水陸両用型のＵＦＯってことですか？

まだ『kamipro』が『紙のプロレスRADICAL』だった00年発売のNo.24号では矢追純一氏、そして05年発売の『kamipro』No.94では韮澤潤一郎氏と日本を代表する二人のUFO研究家と対談しているサスケ。自らもUFO研究家を名乗るだけあってマット界でのUFO知識では右に出る者はいない。ちなみに矢追氏と持っているのはスペイン語でUFOの意のオブニＴシャツ！

移動パスタ屋は頓挫しましたが、次はカレーで勝負しようかな、と

サスケ　そういうことです!

――東京駅周辺って政治的にも重要な場所ですよね。永田町も近いですし。

サスケ　そうですね。だから、そういうことなんです。

――これ以上は……?

サスケ　言えません。そこは察してください。これ以上の特定をすることは危なくてできないんですけども、先ほどの水陸両用タイプのUFOっていうのは古くからUFO研究家のあいだでは言われてたことなんですが、やっぱりUFOでも海とか水面から上がってくるUFOもかなりありますんで。つまり、水面でも問題なく滑走できるというようなことですね。

――それぐらいは可能だと?

サスケ　そういうことです!　それから先ほど話した、国が情報をつかんでいるUFOの航行ルートの件なんですが、あらかじめ、ルートをつかんでるんですよ。何時ぐらいにここを通ると。そういう場合にはですね、その前後に護衛のヘリコプターなり飛行機なりがつくということなんですね。

――単純な疑問として、ヘリコプターとかでスピード的にUFOを護衛しきれるもんなんですか?

サスケ　大丈夫です。まあおそらく大気圏内というか日本の上空という部分でのことでしょうけどね。だからこれは、UFOにもいろんな種類があるということなんですよ。で、どういう部類のUFOなのかが問題なんですよ。

――といいますと?

サスケ　だから「UFO＝異星人の乗り物」とは限らない。やっぱり高度な兵器かもしれないし、ステルス戦闘機にもUFOタイプのものがあるって言われてますからね。まあ広い意味でのUFOですよね。

――要は未確認飛行物体ってことですね。

サスケ　そのとおり。そういう情報に関してはね、今年に入ってからヒシヒシと伝わってきてますよ。まあ、UFO関連の話題はこんな感じでいかがでしょう?

――う～ん、ネタ的にはちょっと寂しい気もしますが、何かほかの話題はありますか?

サスケ　今年の上半期は選挙活動もあって、ずっと潜伏してましたんでね。後半は、ひさびさにプロレスラー、ザ・グレート・サスケとして一気にプチブレイクしちゃったかなって思うんですけども(笑)。

――「一気にプチブレイク」って言葉の意味はよくわかりませんが(笑)、確かに下半期は、『ハッスル』から、どインディーまでかなり幅広く活躍されてましたよね。

サスケ　そうなんですよ。もうね、これからは来た仕事は断らないという方針に変えましたんで。

――あ、そうだったんですか(笑)。

サスケ　以前はけっこうもったいぶって断ったりしてたんですけど、2007年下半期以降のサスケはもう断らないよ、と。どんどん呼んでくれよ、と。ギャラも格安でいきますから!

――ホ、ホントですか?

サスケ　来年は全団体制覇を狙ってますから。そのとっかかりとして、今年の大晦日から元旦にかけて、私のスケジュールは凄いことになってますから。

――そうなんですよね。ホームページの予定表を見ると、まずは大晦日の13時開始の『ハッスル祭り』に出て、そのあと後楽園での『プロレスサミット』に出て、年が明けて、午前2時からはニセ大仁田こと森谷俊之さんの『森谷ターミナル』という謎の大会に出て、元旦の14時からはZERO1・MAXの後楽園大会に出場されるみたいで。

サスケ　「いつ寝るんだよ!」みたいなね(笑)。

――そう突っ込みたくもなるハードスケジュールですよね(笑)。高田(延彦)さんどころじゃないですよ!

サスケ　自分でもどうなるのかなって思ってるんだけど。

――でも、『ハッスル』は聞くところによると、大晦日の出場は正式に決まってないんじゃないかっていう話なんですが、サスケさん的には出る気満々ってことですか?

サスケ　確かにカード自体は決まってないけど、一応、「日程は空けといてね」というオファーは来てますから。

――じゃあ、参戦の可能性は高いわけですね。

サスケ　ただね、これはもう、いまだから言っちゃいますけど、私がかねがねブチ上げてきたドス・カラスとのマスカラ・コントラ・マスカラ戦。これをね、なんとか大晦日の『ハッスル』さんの舞台でやりましょうよ、と。

――確かに常々、ドス・カラスとの覆面剥ぎマッチはやりたいって言ってましたからね。それをテレビ東京での放送も決まっている『ハッスル』の大舞台でやりたい気持ちがある、と?

サスケ　そうそう。そういう動きもね、水面下ではズーッと動いてるんでね。まるで水中に沈んでいるUFOのように(笑)。

――『ハッスル』の山口日昇社長との付き合いは長いですもんね。

サスケ　そうだね。テレビ的にもかなりおいしいんじゃないか、と。ひそかに水面下で動いてるんですよ、『kamipro』さんだから言うんだけど。

――ありがとうございます(笑)。ただ、このあいだの『ハッスル・マニア』を見るかぎり、足の状態がかなりヤバイじゃないですか?　実際、何大会か欠場されてるみたいですし。

サスケ　そうなんですよねぇ。ただね、おかげさまで、いま私が愛飲している〝やせるお水〟があるんですけど、じつはですね、その水にはカルシウムが大変豊富に入っていまして、負傷している足首も非常に調子がいいんですよ。もう、まったく問題ないです。

――その〝やせるお水〟って、最近い

05年11月22日にはプロレスラーでも議員でもなく、〝UFO研究家〟として法政大学学園祭で講演会も開催したことがあるサスケ。講演会のタイトルはズバリ「未確認飛行物体の実態」。キミも講演会にサスケを呼ぼう!

プロレス＆格闘技もいいけど、超常現象もね!
年末のオススメ超常現象番組情報2連発!!

『モクスペ　～9.11テロを完全予言した男!　ジュセリーノ緊急来日!　未来からの警告SP～』
12月20日(木)19:00～20:54　日本テレビ系列でオンエア!!

『ビートたけしの超常現象SP 10周年記念特番　～世紀のオカルトショック　嵐の100連発!～』(仮)
12月30日(日)18:30～20:54　テレビ朝日系列でオンエア!!

ろんなところで口にしてますけど、どこで売ってるモノなんですか？

サスケ　申し訳ないですけど、残念ながら詳しくは言えないんですね。言えないんですけど、買えます（笑）。

――どこで買えるんですか？

サスケ　私に直接聞いてきてください、と。会場で遠慮せずに声をかけていただければ説明しますんで。あっ、ちなみにね、このお水はスポーツ界ではオリンピック選手とか、競輪の選手に愛用者が多いんですよ。

――へぇ～、怪しいものではないわけですね？

サスケ　全然怪しくはないですから。フィギュアスケートの世界にもかなり広まってるみたいですし。

――それと、サスケさんに聞かなければいけないのが、『kamipro』のインタビューでも言っていた移動パスタ屋の件なんですが。聞きにくいんですが、ズバリ言って……。

サスケ　（さえぎって）はい、見事に頓挫しました（苦笑）。

――そうみたいですね（笑）。失礼ながら、非常にサスケさんらしいなと思ってしまったんですが。

サスケ　ねえ（笑）。あんだけ前フリしといてねぇ。

――てっきり、もう動きだしてるもんだと思ってたんですけどね。

サスケ　それに関しては、本当に申し訳ないという思いで。東京の責任者というか社長さんが音信不通になってしまいまして。

――んあ～、音信不通ですかぁ。

サスケ　ただね、私がやろうとしてたのは「スピードパスタHana」っていうんですけど、京都、大阪が本拠地なんですけど、そちらでは販売車が10台近くフル稼働してますんで。たまたま、私と接点があった方と連絡がつかなくなっただけですから。

――その、お店自体はしっかりと営業されているわけですね。

サスケ　きちんとやってますんで。期待してた皆さんには申し訳ないですけど、京都、大阪に行かれたときには私を思い出して食べてください、と。

――了解しました（笑）。

サスケ　その代わりというか、たぶん大阪が本社だと思うんですけど、今度はカレー屋の話が来てるんですよ。

――パスタの次はカレーですか？

サスケ　「えびすカレー」っていうお店があるんですけど。これはですね、マクドナルドのブレーンが独立して立ち上げたみたいなんですよ。

――そうなんですか。でも、マクドナルドといえば、サスケさんも若い頃にバイトしてましたよね？

サスケ　そうそう。それで、私がアルバイトしてた頃を知ってますという方から直接電話をもらいまして。「サスケさん一緒にやりましょうよ！」って言われてるんですよ。

――というと、同年代の方ですか？

サスケ　まあ同年代といってもブレーンの方ですから位は上でしょうね。同じ時期に働いてましたけど、本社クラスの人間だと思うんですけども。これも何かの縁だと思うんで、ちょっとこれから詰めていこうかな、と。

――一応、聞いておきますけど、カレーは好きなんですか？

サスケ　モチのロンです！　サスケといえばカレーっていうぐらいですから。ガッハッハッハッ！

――そんな話、初耳ですけど（笑）。

サスケ　やっぱり好きなものを商売にするのが一番いいんでね。まだ、どうなるかはわからないですけど、期待してもらっていいと思います。

――カレー屋の話も含めて、来年の活躍を期待してます！

サスケ　まかせてください！　私は、やりますよぉぉ！　……それとですね、来年あたり、サバイバル飛田とも再会したいと思ってるんですよ。

――ズバリ言って、飛田さんとの再会は非常に簡単だと思います。団体情報に本人の携帯番号が載ってますし（笑）。

サスケ　あっ、ホントに？　それはいい情報をありがとうございます。じゃあ、来年はそのへんも含めて期待しててください！

――了解しました（笑）。

【07年12月6日／電話取材にて収録】

ざ・ぐれーと・さすけ■1969年７月18日、岩手県盛岡市出身。新日本プロレス学校を経て、ユニバーサルプロレスへ入団。その後、メキシコ修業を経験したのち、1992年にみちのくプロレスを創設（現在は会長）。03年には岩手県議会議員選挙に出馬し、トップ当選。今年４月には岩手県知事選挙に立候補するも落選。８月に開幕した第４回ふく面ワールドリーグ戦でプロレス界に本格復帰してからは、みちプロ以外にも『ハッスル』からインディーまで団体を問わず活躍中。UFO研究家としても有名。180cm、88kg。

なぜか年末恒例
kamipro特選
年末TVガイド

ホントにやれんのか!? サスケの年末年始の大会スケジュール!!

みちのくプロレス
東京・後楽園ホール
12月23日(日)
開始12：00
[宇宙大戦争最終決戦!!]
サスケ＆X(当日発表)vs佐藤秀＆恵

ZERO-SUN
東京・後楽園ホール
12月24日(月)
開始18:30
[NWAインターコンチネンタルタッグ選手権試合]
(王者組)藤田ミノル＆菅原拓也vs
サスケ＆テングカイザー・改(挑戦者組)

『大みそか ハッスル祭り2007』
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
12月31日(月)
開始13：00
本人的には参戦予定

『プロレスサミット』
東京・後楽園ホール
12月31日(月)
開始20：00
サスケ＆グラン浜田＆TAKAみちのく＆X
vs裕次郎＆アジアン・クーガー＆
グレート・タケル＆藤田峰雄

『森谷ターミナル　新春早朝プロレス(仮)』
東京・新木場1st RING
1月1日(火)
開始2：00
サスケ＆佐野直vsX＆X

ZERO1・MAX
東京・後楽園ホール
1月1日(火)
開始14：00
対戦カード未定

※詳細は各自調査でお願いします!!

あなたはまだ紅白の本当のおもしろさを知らない!?

『やりすぎコージー』構成作家**寺坂直毅**氏

日本最強の紅白オタクが激語り!

「紅白歌合戦は最高のドキュメンタリーなんです!!」

2001年の『INOKI BOM-BA-YE』以来、『PRIDE男祭り』『Dynamite!!』など格闘技番組が定着してきた大晦日。今年は『ハッスル祭り』の放映も決まったが、やはりニッポンの大晦日といえば、『紅白歌合戦』! そこで、『やりすぎコージー』で過去30年の紅組・白組のトリの歌手と曲名、さらにはアナウンサーのコメントまで暗記していることを紹介され、一部で話題になった"紅白キ●●イ"寺坂直毅氏が本誌に登場! 『紅白歌合戦』の本当の魅力をたっぷりと語っていただいた。

聞き手/ジャン斉藤

なぜか年末恒例
kamipro特選
年末TVガイド

——寺坂さん！　いきなりですけど、ボクはあなたのような『紅白歌合戦』評論家をずっと探していたんです！

寺坂　そうなんですか？（笑）。

——はい。大晦日の格闘技番組を考える上でも、"世界最高峰のテレビ番組"『紅白歌合戦』にいずれアプローチしなければいけないと思っていたので。

寺坂　いやあ、その気持ちわかります。わかります。ボクもここ数年、大晦日の格闘技番組は気になって仕方なかったですからねぇ……。

——ダハハハハ！　今日はたっぷり紅白の魅力をお聞きしますが、寺坂さんは大好きな紅白を観るための儀式として、毎年12月30日に山に登られてるんですよね。

寺坂　はい。去年は東海道の商人たちが行き来した静岡の薩た峠に。一昨年は白虎隊が自決した福島県の飯盛山に登ったんです。

——あの飯盛山へ！　それは並々ならぬ決意を感じますね（笑）。

寺坂　今年は千葉の鋸山に登ります。で、じつは去年から山に登るのは紅白の1週間前にして、前日は「紅白　in　the　dark」というイベントをやってるんですよね。

——登山じゃなくて「紅白　in　the　dark」？

寺坂　紅白前日の夜、ド田舎の真っ暗闇に出かけるんですよ。その暗闇の中で明日の紅白を思い浮かべるという……（しみじみと）。

——そこまで愛してますか、紅白を！（笑）。

寺坂　ええ。今年は長野県の善光寺に行くんですけど、去年は茨城県ひたちなか市に。夜の太平洋に漁火が点いていて、それがNHKホールのステージの電飾に見えてくるんですよねぇ。

——漁火が紅白の電飾に！　凄い紅白パワーだ（笑）。

寺坂　それで、ふと上空を見上げたら三日月だったんです。その年の紅白は絢香が『三日月』を歌うことになっていたので、一人で『三日月』を口ずさみながら東京に帰りました（笑）。

——ダハハハハ！　凄い没頭ぶりですね（笑）。

寺坂　でも、大晦日は毎年仕事（番組構成作家）をしているので生で観られないんですよ。

——じゃあ、仕事中も気が気じゃないんでしょうね。

寺坂　そればかりか、紅白やってる時間はテレビ局のロビーにいるんですけど、芸人さんたちはみんなで格闘技番組を観てますからね。もう、ボクの居場所がないんです（笑）。

——大晦日に格闘技番組がスタートしたのは2001年からですが、その当時は、ここまで紅白を脅かす存在になると思いました？

寺坂　ええ。あの頃はCDも売れなくなって、紅白自体もちょうど衰退してきた時期なんですよ。だからもの凄くビクビクしていました（笑）。猪木がどうのとかテレビから聞こえただけでチャンネルを変えたりとか。

——じゃあ、03年『Dynamite!!』の曙vsボブ・サップ戦のときなんて、かなりドキドキしてたんじゃないですか。結果的に一瞬といえども初めて紅白を視聴率で上回りましたし。

寺坂　そうなんですよねぇ……（苦々しい表情で）。あのときの紅白は非常に巧みな番組構成で対抗したんですけど。

——曙vsボブ・サップ戦シフトが組まれていた、と。

寺坂　曙が終わった瞬間に、目玉である長渕剛を投入するみたいなこともやったり。それに曲順はいつも一週間くらい前に発表するんですけど、ギリギリまで発表されなくて。格闘技が紅白に合わせたか、紅白が合わせたのかわかりませんが。

——それにしても、寺坂さんが紅白にそこまでのめり込むことになったのはどうしてなんですか？

寺坂　それはですね、ボクは高校2年のときに引きこもりだったので、ずっと家にいたんですよ。で、大晦日にたまたま紅白を観ていたら、和田アキ子さんとサブちゃん（北島三郎）が歌っていて。で、アッコさんのときは豆電球を使った満天の星空というセットだったのに、サブちゃんが『竹』という曲を歌うときは竹林のセットに変わっていて。この瞬間芸はどういうことなんだって注目するようになったのがきっかけですね。

——豪華な演出が紅白にのめり込む入り口だったんですね。

寺坂　それでもともと引きこもり特有の遊びなんですけど、家の勉強机がありますよね。それをNHKホールふうに改造したんですよ。

——ええと、それはどういうことでしょうか？（笑）。

寺坂　紅白って一つの舞台で4時間の生放送でコマーシャルなしなのに、40パターンぐらいセットが変わるんです。それを自分で作るようになったんですよ。

——つまり、40パターンのセットを作ったということですか!?

寺坂　作ってましたね（キッパリ）。そうして実際の紅白に合わせてセットを出し入れする遊びに変化していったんです。

——寺坂さんが司会者役で曲紹介をして、実際に曲を流して（笑）。

寺坂　そう。書道用紙を使って紙吹雪も降らせたり、クラッカーをエンディングで鳴らしたり。で、ボクの勉強机がレバーを回すとせり上がるタイプのものなので、それもうまく使ってました。たとえば、せり上がるところの下に赤い照明を置くと、石川さゆりの『天城越え』のセットになるとか。

——はあ～!!　それってあくまで個人の楽しむなんですよね？

寺坂　個人の楽しみです！　でも、みんなこういう遊びをやってると思っていたんですよ（笑）。

——個人的な趣味はあるでしょうけど、こんな遊びはちょっと（笑）。ちなみに寺坂さんのような紅白マニアはほかにいらっしゃるんですか？

寺坂　いないみたいですね。

——まさに"60億分の1のNHKホール・アーティスト"！（笑）。

寺坂　カラオケで"一人紅白"をやる人とか、出場者を覚えている方はいらっしゃるんですけど、曲紹介のセリフを覚えていたり、セットを作っているのはボクだけだと紅白関係者は言ってましたけどね。

——ちなみに一番感動的だった紅白はいつの回ですか？

寺坂　「感動」でいうと、第52回（2001年）です。堀内孝雄がその年に死んだ親友の河島英五の映像と、『酒と泪と男と女』をデュエットしたんです。あれは泣かないほうがおかしいくらいで……。今年の小椋佳も同じ手法だと思うんですよ。小椋佳が『愛燦燦』を歌って、2番から美空ひばりの映像とデュエットするという。そういう狙いだとボクは思いますけど。

——では、「凄さ」を感じた回はいつですか？

寺坂　それは第35回（1984年）の大トリだった都はるみですね。都はるみがその紅白を最後に引退をするということで、一曲歌い終わったあとに客席から史上初のアンコールが起こったんです。で、もともと台本には1分間の空欄があって、そこで都はるみに『好きになった人』を歌わせるという段取りだったんですよ。

——観客の空気を見越した番組構成だったんですね。

寺坂　だから、台本どおりいくと、両チームのキャプテンのサブちゃんとチータ（水前寺清子）が「最後だからもう一曲だけ一緒に歌いましょう。指揮者のダン池田さんいいですか？　それではみんなで歌いましょう！」ってや

芸人さんたちはみんなで格闘技番組を観てますから、ボクの居場所がないんです

るはずだった。だけど、司会の鈴木健二さんが興奮しちゃって、「私に1分間だけ時間をください。交渉します！」と言って、都はるみにマイクを突きつけるんですよ。

——なんたるアドリブでしょうか（笑）。

寺坂 でも、フロアディレクターは何も知らないんで、「1分間なんか待てないよ！」ってキューを出したんです。それで都はるみの合意のないまま『好きになった人』が流れるという展開になってしまって（笑）。で、歌が終わったら興奮して総合司会の生方恵一アナウンサーが「もっとこの拍手を美空……」って美空ひばりと都はるみを間違えて。これがきっかけで、このアナウンサーはNHKを退職するんですが、本当に奇跡的なシーンでしたね。何度見てもなぜか悲しくて、胸が苦しくなります……。

——ほかにそういうハプニング的なものってありますか？

寺坂 有名なのは森進一さんが大トリで『襟裳岬』を歌ったときにチャック全開だったとか（笑）。

——チャック全開で一年の締めを（笑）。

寺坂 歌の間奏部分で村田英雄さんがチャックを上げて「頑張れよ！」みたいに声をかけて戻るんですけど、紅組の和田アキ子さんが「ちょっと開いてたわよ！」みたいにみんなに言って回ってて（笑）。まあ、4時間の生放送ですから何があってもおかしくない魅力はありますよね。

——ところで、いまの紅白に出場することって歌手にとってステータスになるんですか？

寺坂 じつはかなりあるんですよね。昔は紅白に出るのは恥ずかしいっていうポーズもあったんですけど、いまは紅白に出るとCDが売れるという現象が起きてますからね。中島みゆきさんの『地上の星』やSMAPの『世界に一つだけの花』がオリコン1位に返り咲いたり、『千の風になって』のように紅白がきっかけで売れ始めるパターンもありましたし。

——多くの国民が大注目する番組ですからね。ところで、今回の司会は中居（正広）くんと、予想に反して、もう一人、男性の笑福亭鶴瓶さんになりました。

寺坂 いや、この組み合わせは絶対におもしろいですよ！ 紅組の司会には長澤まさみも候補に挙がってましたけど、鶴瓶さんのほうが断然楽しみですね。やっぱり曲紹介のおもしろさがありますよ。とくに鶴瓶さんはさだまさしが大好きだから、どんな紹介をするかいまから楽しみですね。

——さだまさしの曲紹介に注目、と。

寺坂 それぞれ見方はいろいろありますけどね。紅白って「ながら見」する人が多いんですけど、音楽好きはテレビの前に正座をして観てるんです。というのは、紅白って生演奏なんですよ。

——あ、そうなんですか。

寺坂 昔はステージの上にオーケストラがいて、そのうちステージの地下で演奏するようになって、いまはもっと音をよくするために、別のレコーディングスタジオからラインをつないで生演奏を流しているぐらい音を大事にしているんですよ。

——ダナ・ホワイトなら「ほかの音楽番組はすべてジョーク！」と吠えそうな本物志向というか（笑）。

寺坂 ギターもトップクラスの人を用意したり、必ずオーケストラを用意するとか、音をとても大事にしている。音楽好きからしてみれば、こんなにしっかりした歌番組はないですね。だから、あとでDVDで観るほうが堪能できるんですよね。あんまり一人で紅白って観たくないですけど（笑）。

——まあ、家族と一緒に観るもんですよね（笑）。

寺坂 家族で観ると楽しいんですけど、一人で観るとこんなに寂しさが露呈する番組はないですから（笑）。

——ところで、今回の出場者は発表されましたが、あとは審査員くらいですよね。

寺坂 まあ、今年話題の人が出るんじゃないですか。小栗旬とかハニカミ王子（石川遼）とか、ダルビッシュ（有）とか。必ず審査員にジェームス三木がいるっていうのが定番なんですけど（笑）。で、森光子が審査員になったら必ず司会者が「森さんは司会も何度かされていますが、観るのと司会をするのはどっちがいいですか？」って聞くんですよ。それで、森光子が「観ているほうが楽です」って答えるのがお約束なんですよね。

——そこはプロレスなんですね。

残念ながらモノクロページのためわかりづらいが、寺坂氏が10年以上にわたって作り続けた、豪華な紅白のミニチュア舞台セット。"一人紅白歌合戦"として毎年、このセットを使い、実際の進行どおりにシミュレーション。本物の紅白と同じように、その夜のうちに取り壊すそうだ。この情熱は凄い！

なぜか年末恒例
kamipro特選
年末TVガイド

寺坂　紅白ってプロレスですよ。だって紅組、白組、どっちが勝つかって決まってますよ、もう!!

——ダハハハハ！　ちなみに今年はどちらですか？

寺坂　今年は白だと思うんですけどね。まあ、12月末に曲順が出るんですけど、トリの演出が派手なほうが勝つんですよ。紙吹雪を降らせたりとか、わざと豪華な演出にしたりとか。

——へえ〜！　トリの演出に〝勝敗のサイン〟が込められてる、と。

寺坂　プロレス的といえば、去年のDJ OZMAの全身タイツ事件なんて完全にそうですよ。サブちゃんが「紅白という神聖な場で、パンツなんか脱いだらシメちゃうよ」みたいなことを言っておきながら、サブちゃんはOZMAの歌っているときに出てきてたんですから。

——確かに普通に考えれば、OZMAの〝単独犯〟じゃあないですよね（笑）。

寺坂　ただ、演出はプロレス的なんですが、それぞれの歌はドキュメンタリーですからね。だから、ボクは紅白出場が決まったあとと、番組が終わったあとの出場者全員のブログをチェックするんですよね。

——この人はどんな気持ちで出場するのか、歌ったのか、と。

寺坂　そこにはいろいろドラマがあるんですよ……。SEAMOが中居くんの激励に感動したとか。一番感動したのはドリカム（DREAMS COME TRUE）ですね。歌番組って音程を合わせるためにイヤホンつけたまま歌うじゃないですか。でも、吉田美和が本番中にイヤホンを外したんですよ。「いったいなんだったんだろう?」と思って中村正人のブログを見たら、楽屋で吉田美和が「ごめんなさい、一番イヤな歌い方をしちゃったよ」って号泣したんだそうです。どうやらNHKのミスでまったくイヤホンが聴こえなかったみたいで。まあ、生放送で4時間もやってるとそういうミスがあるんですけど、あのときは200人の合唱団と一緒に歌うという状況だったんですよ。

——200人の合唱団！　それはちょっと音程が取りづらいですよね。

寺坂　その合唱団はやけに素人っぽい人たちだったから、あとで調べたら、ドリカムのスタッフたちの家族や関係者なんです。紅白という舞台だから興奮して練習よりキーは高かったみたいだし、それで吉田美和はよく音程を合わせたなあ、と。彼女いわく「心の耳」で歌ったらしいですけど。

——プロとして、シュートなトラブルに対応したんですねえ。合唱団の素性までもを調査した寺坂さんも凄いですけど（笑）。

紅白ってプロレスですよ。だって、どっちが勝つか、もう決まってますよ！

寺坂　そのドリカムが今年一番の注目ですね。吉田美和は旦那さんが亡くなられて、あまりのショックに「もう、私歌わない！」って宣言したそうなんですよ。それをアッコさんが「一緒に紅白で歌おうよ」って電話で説得したらしいんですね。それで出場することになったみたいで。

——それはいい話ですね！

寺坂　そこでドリカムが『未来予想図』を歌えば、紅白が歌番組じゃなくて、ドキュメンタリーになりますよね……。これはちょっと、凄いことになりますよ！

——確かに！　想像しただけで鳥肌が立ちますね。『Dynamite!!』や『ハッスル』を観ている場合じゃない（笑）。

寺坂　ホントに凄いことになりますよ。今年のドリカムは。

——プロレスや格闘技はもちろん試合内容は大事ですけど、その試合の背景も重要なんですよね。極端なことをいえば、内容なんてどうでもいい（笑）。人生を切り売りすることがプロだと思いますし。

寺坂　紅白もそうなんですよ！　この馬場俊英さんもそうですよね。

——〝リストラシンガー〟の馬場さんですね。

寺坂　たぶん背景をちゃんと見せると思います。なぜ歌うのか、どうして紅白に出るのか、と。だから、紅白って単なる歌番組じゃないんです。ドキュメンタリーなんですよ。紅白に出場できる、できないで涙を流す人はたくさんいたし、人生が大きく変わった人もいる。その背景に注目しながら観てほしいですね。

——いやあ、お話を聞いていると本当に見逃せなくなってきた。『kamipro』は今年は紅白を断然応援します！（笑）。

【07年12月3日／『kamipro』編集部にて収録】

司会の中居クンと鶴瓶にも注目!
第58回NHK紅白歌合戦出場歌手

紅組

aiko
あみん
絢香
アンジェラ・アキ
石川さゆり
AKB48
大塚愛
川中美幸
香西かおり
倖田來未
伍代夏子
小林幸子
坂本冬美
天童よしみ
DREAMS COME TRUE
中川翔子
中島美嘉
中村中
中村美律子
長山洋子
浜崎あゆみ
ハロー!プロジェクト
10周年記念紅白スペシャル隊
モーニング娘。
Berryz工房
℃-ute
一青窈
平原綾香
BoA
水森かおり
mihimaru GT
リア・ディゾン
和田アキ子

白組

秋川雅史
五木ひろし
w-inds.
EXILE
Gackt
北島三郎
北山たけし
コブクロ
米米CLUB
さだまさし
スキマスイッチ
すぎもとまさと
SMAP
寺尾聰
TOKIO
徳永英明
鳥羽一郎
馬場俊英
氷川きよし
平井堅
布施明
ポルノグラフィティ
前川清
槇原敬之
美川憲一
森進一
WaT

※NHK総合。
第1部19時20分〜21時25分
第2部21時30分〜23時45分

てらさか・なおき■1980年11月7日、宮崎県出身。紅白好きが高じて、高校2年生の頃より、"一人紅白歌合戦"を10年以上にわたって開催。高校卒業後、放送作家を目指して上京。『やりすぎコージー』の構成作家を務めつつ、同番組にも登場。デパート、エレベータマニアとしても有名。

あの素晴らしい“喫茶店トーク”をもう一度!!

<RADICAL特選劇場>

I編集長フォーエバー! これがリアル“嵐山哀歌”だ!

あれから一年……。一周忌を迎えて、『底なし沼』（エンターブレイン刊）が発売。あらためて注目を集める“活字プロレス界の哲人”I編集長。No.86ではI編集長の聖地である京都・嵐山でリアル喫茶店トークを取材。I編集長からの誘いで実現したこの取材はじつに5時間におよぶロングトークが展開。伝説の嵐山フォトセッションとともにその勇姿を焼き付けろ！

I編集長の「喫茶店トーク」はNo.50からほぼ毎号掲載されています!

あれから一年…… I編集長の“京都・嵐山”5時間インタビューは RADICAL で読める!!

一周忌追善本『底なし沼』（エンターブレイン刊）も絶賛発売中!

注 NO.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!

03-5368-1797

販売元 (株)ダブルクロス　平日 13:00~19:00

元祖! 紙のプロレス BACK NUMBERは すべて50%OFF

特集 神秘とは何か?
no. 14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no. 15 780yen⇒390yen
あんた誰？　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－1とは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no. 17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木&永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL no.16~87

格闘ノストラダムス!
no. 16 780yen '99.03
[表紙：エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初! 前田日明インタビュー／石川孝司

“新”プロレスとは何か?
no. 32 840yen '00.10
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
no. 34 840yen '01.01
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10　藤波語録／ボブ&オバチャンチン

純プロレスを徹底検証!
no. 35 840yen '01.02
[表紙：サクマシン（イラスト）] ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no. 36 840yen '01.02
[表紙：橋本真也（イラスト）] ノアから独立！ 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言

小川直也は是か非か?
no. 38 840yen '01.05
[表紙：髙田延彦（イラスト）] 忘れ物の正体は。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か?
no. 39 840yen '01.06
[表紙：前田日明] 前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは?
no. 40 880yen '01.07
[表紙：アントニオ猪木] 蘇れ！ Uインター&キングダム伝説！ 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎

“最後の黒船”WWF来襲!!
no. 41 880yen '01.08
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年！ ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no. 42 880yen '01.09
[表紙：アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／“ヒャッホーの真実”辻よしなり／高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no. 43 880yen '01.10
[表紙：桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no. 44 880yen '01.11
[表紙：桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々！ シーザー武志／怪物伝承対談！ 高山善廣&杉浦貴

一寸先はハプニング!!
no. 45 880yen '01.12
[表紙：アントニオ猪木（ホームレス姿）] 悪魔の書、現る！ ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
no. 46 880yen '02.01
[表紙：田村潔司] さらばリングス！ 金原×和田、浅草キッド／ならず者DEEPで勝利！エル・カネック／キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前!
no. 47 880yen '02.02
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] “天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！／噂の馳浩がミスター高橋本を語る！

桜庭、満開の日は近い!
no. 48 880yen '02.03
[表紙：桜庭和志] 奇跡のメガトン対談！ 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に！ 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no. 49 880yen '02.04
[表紙：ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談！ 高山&金原&和田／菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no. 50 880yen '02.05
[表紙：桜庭和志]「地方発世界」開始！ 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁！

揺るぎなきプロレスの確立
no. 51 880yen '02.06
[表紙：橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子／ 武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no. 52 880yen '02.07
[表紙：橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no. 53 880yen '02.08
[表紙：桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ！ マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括!
no. 54 880yen '02.08
[表紙：アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] “首の皮一枚”ホイス&エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
no. 55 880yen '02.10
[表紙：髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白！／金原が『PRIDE』参戦！／メガトン級の男、ボブ・サップ！

驚ガクの6周年記念号
no. 57 840yen '02.11
[表紙：高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる“U”が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号!
no. 58 880yen '03.01
[表紙：武藤敬司&船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no. 59 880yen '03.02
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌&再生する!
no. 60 880yen '03.03
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no. 61 880yen '03.04
[表紙：橋本真也&小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ!
no. 62 880yen '03.05
[表紙：ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場！ 佐々木健介／現役復帰？ 船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断！

マット界、超絶リボーン!!
no. 63 880yen '03.06
[表紙：橋本真也&小川直也（イラスト）]「お前は男だ」劇場炸裂！ 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no. 64 900yen '03.07
[表紙：桜庭和志] “異次元格闘技戦戦”田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
no. 65 880yen '03.08
[表紙：ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上！ ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣!
no. 66 880yen '03.09
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場！／『東スポとは何か？』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no. 67 880yen '03.10
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー！ ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no. 68 880yen '03.11
[表紙：髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前!
no. 69 900yen '03.12
[表紙：橋本&小川] 出てこい！ 泣き虫！ 橋本&小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場！／田村潔司／美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括!
no. 70 880yen '04.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告！／健介&北斗WJの真実を語る！／紙プロ大賞&語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー!
no. 71 880yen '04.02
[表紙：ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言！ ミルコ&ノゲイラ／川田利明初登場！／猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
no. 72 840yen '04.03
[表紙：ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no. 73 880yen '04.04
[表紙：小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no. 74 880yen '04.05
[表紙：小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功！ 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no. 75 880yen '04.06
[表紙：小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也／奇蹟の独占インタビュー！ 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no. 76 880yen '04.07
[表紙：桜庭和志] 小川の“盟友”と“宿敵”が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む！ 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no. 77 880yen '04.08
[表紙：小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ！ ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no. 78 840yen '04.09
[表紙：小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no. 79 840yen '04.09
[表紙：髙田総統] キャプテンに休息無し！ 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か？』

守護神ミルコが外敵狩り!
no. 80 880yen '04.10
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no. 81 880yen '04.10
[表紙：桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功！ 小川直也／ 草野仁

男たちの祭りは激化する!!
no. 82 890yen '04.12
[表紙：桜庭和志] “道場破り”の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露！ 永島勝司×ターザン山本！×吉田豪

ミルコ激白! 打倒皇帝!
no. 83 880yen '05.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表！ 小川直也／橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no. 84 880yen '05.02
[表紙：セルゲイ・ハリトーノフ] “殺人落下傘”が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
no. 85 860yen '05.04
[表紙：前田日明&髙田総統] PRIDE GP2005特集　桜庭、田村、高田／パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号
no. 86 860yen '05.04
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会！ 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括!
no. 87 860yen '05.05
[表紙：吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『kamipro Hand』で注文 ②電話注文 03-5368-1797 ③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。 ※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。 ※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

新 卓球少女(似)松下ミワの ハガキ愛ランド

いよいよ寒くなってまいりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？　グルメな話題が忙しい昨今、彦龍にミシュランという奇想天外な事件に、マチャアキが「星、みっつですっ！」と絶叫してしまうこともあるかもしれませんが、明日は我が身ということが世間の定説ですので、中華な雰囲気にはくれぐれも気をつけてください。それでは今号もスタートしましょう！　3、2、1、幸楽、幸楽、う～、審査中!!（山岡）。

kamipro117号へのお便り紹介

〝夢の続き〟座談会がよかった！　毎年楽しみで、このために1年仕事をしていたと言っても過言ではない。『男祭り』がなくなり、ぽっかりとどこかに穴があいたようでした。でも、さいたまスーパーアリーナの2部、あるんですよね!?

【神奈川県・大内和彦さん・会社員・33歳】

⬇あります！　世間では『やれんのか！』と『Dynamite!!』二元中継の噂もありますが、それも実現されるよう、みんなで祈りましょう～!!

毎月ですが、ダナ・ホワイトのインタビューは最高！　とくに「UFC以外はすべてジョーク！」のコメントは鉄壁です（笑）。ダナの「は？　笑わせてくれるな！」「～とかぬかしやがる！」の発言は、さすがアメリカンジョーク！

【岩手県・大沼真吾さん・フリーター・23歳】

⬇そんなダナも『やれんのか！』開催に関しては「頑張ってくれ」と不気味なエール……。詳しくは『kamipro Special 2008 WINTER』のインタビューでご確認ください～。

谷川FEG代表インタビューがよかった！　『やれんのか！』に協力したりと器のデカイ谷川さん。ついでに船木vs桜庭もさいたまでやってほしい。「風水では20年間、上昇しっぱなし!!」の発言には参りました！　必ず名言を残す谷川さんはさすがだなあと感心します。

【東京都・寺田純さん・豆腐売り・26歳】

⬇上がりっぱなしの運気で、マット界もどんどん盛り上げてほしいです！　んあ～。

バッシングとは何か？　企画は読んでて勉強になりました。テレビを観ていて、なぜこんなにバッシングするのか知りたかったし、大ファンの森達也さんの話も興味深かったです。

【静岡県・丸山明土さん・フリーター・25歳】

⬇この企画には、たくさんのおハガキをいただきました～。それにしても、「切腹」の話をするのに「武士の起源」までさかのぼる堀辺師範はさすが！　これが〝固定票〟をガッチリつかむゆえんなのか!?

ワールドビクトリーロードとは何か？　特集がよかった。概要がつかめず、興味を持てなかったワールドビクトリーロードだが、役員の思惑を知ることで動向が楽しみになった。ちなみに、谷津は「目つぶって30秒」発言や、山本KIDのオリンピック挑戦のときもコメントがおもしろい。レギュラーコーナーがほしい！

【kamipro Hand投稿】

⬇いよいよイベント名が『戦極』に決定。本誌・名コピーライターの阿修羅チョロ氏が応募したイベント名『FLIGHT（フライト）』は惜しくも（？）不採用に……。

安田忠夫インタビューは人ごとじゃないです。借金、離婚、リストラ、そして自殺未遂と中年男の抱える問題をすべて体験したヤスにもう恐れるものはない。また01年の大晦日のように、日本中に感動を呼び起こしてくれ！

【神奈川県・廣木和宣さん・会社員・42歳】

⬇安田が食べている焼肉はもちろん編集部のごちそうですが、食欲旺盛にむしゃむしゃ肉を食べる姿を見られて何よりです！

秋山復帰戦の記事が興味深かった。韓国では大スターだが、日本ではヒールを極めてもいいのではと思った。入場は道衣ではなく「邪道」のロゴが入った革ジャンで出てきてもおもしろいな！　大晦日は吉田戦はなさそうだが、いつか対戦するのを夢見てます。

【広島県・高橋剛基さん・フリーター・21歳】

⬇この号が発売されている頃にはもう発表されているのかもしれませんが、秋山成勲はいったい誰と闘うんでしょうか？　ゾクゾクするようなカードであることを祈る!!

「よみがえれ!!　プロレスゴールデンタイム伝説!!」、この言葉だけでも凄くうれしいです。金曜日は父親と新日本を観て、土曜日は友だち数人と電機屋さんの前で全日本を観ていました。本当に古き良き思い出です。

【大阪府・山内義久さん・自遊業・39歳】

⬇『どハッスル!!』に限らず、続々と特番が組まれている『ハッスル』ですが、毎週のゴールデンタイム放送ももはや夢ではない？

デーブ・スペクターのインタビューで、「（バッシング報道が）イヤなら観なきゃいいだけ」という言葉にシビレました。

【kamipro Hand投稿】

⬇デーブの発言にもシビレますが、やっぱりエリカ様の斜め45度の写真は最高です。エリカ様、バンザーイ!!

武藤敬司×曙の〝親子対談〟がおもしろかった。ほかの雑誌には取り上げられない部分に目をつけているから。

【香川県・古川智志さん・公務員・38歳】

⬇大晦日の『ハッスル祭り』では、いよいよ親子3人タッグ実現か!?　リング上での〝親子初対面〟にも要注目ダー！

117号・おもしろかった記事ランキング

順位	記事
1位	前田日明変態座談会
2位	バッシングとは何か？
3位	大晦日座談会
4位	安田忠夫
5位	よみがえれ!! プロレスゴールデンタイム伝説

大好評企画“変態”シリーズが今回も1位に君臨！　お題が真打・前田日明なだけに“変態”たちも乱れ咲き～。続いて2位は識者にご意見をたまわったバッシングとな何か?特集。結果的にスクープ記事となった大晦日座談会も3位にランクイン。そして、そして、なんと今回は『ハッスル』企画がトップ5に食い込むという、新しい動きもあったランキングとなりました。3、2、1、レーザービターン!!

トコロ天国で、5歳の幼稚園児が『kamipro』を読んでいるのにビックリしました。そういえば、前田日明座談会で「小学生が対象の雑誌だからって、小学生に向けて作っちゃダメなんだ。小学生も意味がわかんなきゃ、きちんと調べようとするんだよね」と書いていましたが、幼稚園児もきっとそうですね。

【北海道・安倍正典さん・フリーター・35歳】

⬇ズバリ、幼稚園児にそこまでハイレベルな能力があるかどうかは不明ですが……、『kamipro』読者にそんなスーパー幼稚園児がいるのなら、未来は明るいかぎりでございます。

髙田インタビューは、凄く期待感あふれるページだった。大晦日、忙しいと思うが、頑張ってほしいと思う。

【kamipro Hand投稿】

⬇大晦日、本部長と島田裕二には目が離せません。

東京都・サカモトカズヤさん◎次は、ピン子ではなく“もこみち似”の金ちゃんをお願いします！

香川県・ハワイアン・グレイシーさん】◎『ハッスル・マニア2007』での海川さんは、島田二等兵の素晴らしさをおおいに引き出してくれました～。

毎号、名前が変わる編集部員

上杉に第一子誕生！

初めての育児で多忙なせいか、なかなか散髪に行けないでいる上杉。以前、笹原元GM取材（『kamipro』No.108参照）の際に使用した超アメリカンな帽子を被り、うっとうしい前髪を強制封印。急場を凌いでいる。

上杉編集部員に、なんと第一子が誕生！ 『kamipro』No.114では、大々的に行なわれた結婚パーティの模様をお伝えしたが、おめでたいことに11月18日、無事元気な女の子が誕生したのだ!! これまで「奥さんが妊娠中だ」というのは巨大なアングルではないかと一部・編集部内で疑われていた上杉だが、写メで上杉そっくりの赤ちゃんを確認するとようやく編集部も（しぶしぶ）納得。何はともあれ、赤ちゃんが上杉ではなく奥さんのように優秀な女性に成長することをお祈り申し上げます！ おめでとう〜ッ!!

スクープ！

ザ・目撃!!

●先日、都内・久我山の散髪屋に行ったときのこと。隣でパーマをかけているお兄ちゃんがいたのですが、パーマの機械が外れた瞬間、なんだか見覚えのある顔が登場。よくよく見ると、なんとPRIDEライト級王者の五味隆典選手ではありませんか！ 残念ながら、ボクのほうが早くお店を出たので、いったい五味選手がどんな髪型になったのかはわかりませんが……、似合っていることを祈りたいと思います！ 【東京都・砂糖ガジロウさん・会社員・23歳】

衝撃ショット!!

S波氏が「道」に怒濤の赤入れ！

締め切りギリギリの段階で、またまたS波氏から衝撃ショットが到着！ 昔の写真を整理してたら、「道」についての発掘モノを発見したそうだ。時は1989年6月、東京タワーふもとにあったアントンの参院選準備中の選挙事務所で撮影した一枚（S波氏撮影）が郵送で送られてきたのだが……。S波氏は「詩の文言が微妙に違う！」と、この写真とともに、わざわざコピーして、怒濤の赤入れを施したものも送ってきたのだ!! なんたる情熱！

ちなみに、「猪木・政治スキャンダル」の仕掛人でもあるS波氏は最近14年ぶりにアントンの生声を聞いたそうだが……。

アントンをテレビマネージメントする某氏から電話があり、「ちょっと待ってください」と言われた1秒後、「元気ですかー!!」と突然、アントンの声！ しかしS波氏は何を思ったか「春一番にしては声がオッサンくさいな」、と感じつつブチっと切ってしまったという。その後、なぜ瞬間的に「元気があれば何でもできる、ムフフフ」など、うまい切り返しができなかったのか、自問自答の日々が続いているという。そういうわけなので、S波氏に会うことがあったら、ぜひ慰めてあげましょう〜。

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう！ お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

- ザ・目撃!!
- おもしろ写真投稿
- 選手に対するご意見、試合の感想
- その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは

radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス kamipro編集部「クリスタルホワイト」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

読者ページのヒーロー 森嶋猛の大応援コーナー

紙の森嶋

マット界で最も熱い男、森嶋をついに肉眼で目撃！ 時は11.27DDT後楽園大会。本誌が写真を撮れる貴重な機会を逃すまいと、足早に会場へ向かって観たものは……!! マッスル坂井を一回りも上回る森嶋の姿。試合はド迫力の展開の末、森嶋がバックドロップからの体固めで勝利したのだった〜。

悠々と入場する森嶋。この怪物の身を包むTシャツのサイズさえ気になるところだ。

マッスル坂井の頭をわしづかみにし、次の攻撃へと移行する森嶋。このあたりはさすがに容赦ない。

健闘をたたえるかのように、マッスル坂井の肩をポンポンと叩く森嶋。この姿からもノアのエースだという貫禄が感じられる。

森嶋の近況

11月2日 『週プロ（1395号）』インタビューでマッスル坂井戦に向けてコメント。取材場所はフィラデルフィアのステーキハウス。同誌では、サルのぬいぐるみを持つ森嶋も見られる。

11月2、3日 アメリカ遠征へ。

12月2日 ノア・日本武道館で、森嶋が丸藤正道に勝利！ 9.9武道館での「GHCヘビー級選手権次期挑戦者決定リーグ戦」決勝戦では、丸藤にボールシフトで敗れているが、今回は晴れてリベンジとなった。

12月10日 東スポプロレス大賞で、なんと敢闘賞を受賞!!

12月29、30日 ニューヨークで開催されるROH主催の大会に出場することが決定！ 29日にはブライアン・ダニエルソンとシングルマッチ。

さあ、明るい未来への列車に乗ろう！

上井駅長の人生相談

ピーッ!!

さあ、今回も社会人ならではの相談が届いておりますよ！ いつものように、上井さんにズバッと解決していただきましょう！ それではさっそくスタート!!

電話の音が恐怖に感じます

お悩みごと

■社会人に関する相談（東京都・審判さん・29歳・出版業・♂）

新日本プロレス時代からどっぷり営業畑の上井さんにぜひ相談したいことがございます。ボクは今年29歳にしてようやく就職した編集者なのですが、じつは電話が非常に苦手であります。電話がかかってくると、手が振るえ、受話器をとるのが恐怖に感じます。自分が電話をかけるときも、相手が出ると何を話していいのか頭が真っ白になるのです。

上井さん、こんなボクはどうやったらうまく電話応対できますでしょうか？ 教えてください！

上井駅長

それはねえ、はっきり言ってもう場数ですよ！ あの坂口（征二）会長でも話ベタだったんですよ。メモ書きがないと話せないって言ってね。だから一番いけないことは、「オレはできないんだ！」と決めつけること。オレだって最初はできなかったんだから。大学出て新日本プロレスに入って、最初の一ヵ月かな。「はい、新日本プロレスです！」って電話に出たら「おう、オレだ、アイツに代われ！」って感じで、みんな自分のこと知ってるもんだと思って話をするわけよ。それで、「もう一度、お名前を……」なんて聞くと、「オレだっていってるだろうが！」と、こうですよ。それでも、一生懸命メモをとってね、覚えたもんですよ。だから、メモをまずとってごらんよ。うん。……え？ 電話での失敗談!? ああ、これはボクじゃないんだけど、新日本プロレス時代、ある新人の女の子が「左衛門さんからお電話です」っていって、必死にメモをボクに渡すわけ。でも、「そんな名前のヤツ、聞いたことないな」と思いながら電話に出たら……、なんとこれが"サイモン"だったんですよ！ ワッハッハッハ!!（爆笑）。だからね、失敗しながらでも、元気よく「はい！」と電話に出たら、それで相手にも覚えてもらえるし、自分の仕事も増えるからね。自分しかできない仕事が増えたらうれしいでしょ？ だから、イヤなことから目を背けずに必死にやるだけですよ！ トンネルは長いほど、抜けたときは爽快に感じるはずだから。わかった!?

審判さん、おわかりになりましたでしょうか？ もうトンネルの出口かもしれませんので、ぜひ気合いを入れて電話にトライしてみてください。

※人生相談ドシドシ送ってください！ また、悩みが解決した人もぜひ結果をご報告ください!!

マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

Fight & Event December 12

20 THU.
◆IGF/東京・有明コロシアム(19:00)
◆リアルジャパン/東京・後楽園ホール(18:30)
◆ユニオン/東京・新木場1stRING(19:30)

21 FRI.
◆橋本友彦プロデュース興行/東京・新木場1stRING(19:30)

22 SAT.
ジョシュ・バーネット4年ぶりの参戦!
ゴッチさん直伝のキャッチレスリングが炸裂!!

『PANCRASE 2007 RISING TOUR』
東京・ディファ有明(16:00)

決定対戦カード
佐藤光留 vs ジョシュ・バーネット
伊藤崇文 vs 昇侍
川村亮 vs KEI山宮

チケット料金
SS=12,000円、A=8,000円、
B=6,000円、C席=4,500円
◎問=パンクラス 03-5792-0815

◆DRAGON GATE/岐阜・岐阜商工会議所(18:30)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆DEEP/大阪・梅田ステラホール(16:00&18:00)
◆風香祭り/東京・新木場1stRING(18:00)
◆WAVE/兵庫・神戸サンボーホール(18:00)

23 SUN.
◆新日本/東京・後楽園ホール(18:30)
◆SEM/東京・ディファ有明(16:00)
◆DRAGON GATE/兵庫・サンポーホール(17:00)
◆みちのく/東京・後楽園ホール(12:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
◆K-DOJO/千葉・BlueField(13:30)
◆666/東京・新木場1stRING(19:00)
◆STYLE-E/東京・西調布アリーナ(13:00)
◆シュートボクシング/大阪・松下IMPホール(16:00)
◆SWAT!/東京・ゴールドジムサウス東京アネックス(16:00)
◆NEO/東京・板橋グリーンホール(18:00)
◆WAVE/大阪・デルフィンアリーナ(17:00)

24 MON.
◆新日本/東京・後楽園ホール(12:30)
◆NOAH/東京・ディファ有明(16:00)
◆ZERO-SUN/東京・後楽園ホール(18:30)
◆大日本/神奈川・横浜にぎわい座(19:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆NEO/東京・板橋グリーンホール(18:00)

25 TUE.
感動のハッスル・マニア2007から1ヵ月!
大晦日へ向けてカウントダウン!!

『ハッスルハウス～クリスマスSP 2007』
東京・後楽園ホール(19:00)

出場予定選手
坂田亘、HG、RG、天龍源一郎、インリン様、モンスター・ボノ、川田利明

チケット料金
ハッスルVIP=10,000円、スタンドS=7,000円、
スタンドA=5,000円、スタンドB=3,000円
◎問=ハッスルエンターテインメント 03-5464-1731

26 WED.
◆ソウルコネクション/東京・新宿FACE(19:00)
◆スマックガール/東京・後楽園ホール(19:00)

27 THU.
◆大日本/神奈川・ラゾーナ川崎(18:30)
◆宮本和志自主興行/東京・新木場1stRING(19:30)

28 FRI.
◆DRAGON GATE/東京・後楽園ホール(18:30)
◆大日本/神奈川・ラゾーナ川崎(18:30)
◆JWP/東京・東京キネマ倶楽部(18:30)

29 SAT.
◆UFC/米国ネバタ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター
◆大日本/神奈川・ラゾーナ川崎(18:00)
◆El Dorado/東京・後楽園ホール(19:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆WMF/東京・新木場1stRING(19:00)
◆仙台女子/宮城・Zepp Sendai(19:00)

30 SUN.
◆DDT/東京・後楽園ホール(19:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)

31 MON.
"一夜の限り夢"がついに実現!
格闘大連立の行方はどうなる!?

『やれんのか! 大晦日! 2007』
埼玉・さいたまスーパーアリーナ(20:00)

決定対戦カード
青木真也 vs J.Z.カルバン
桜井"マッハ"速人 vs 長谷川秀彦
川尻達也 vs ルイス・アゼレード
石田光洋 vs ギルバート・メレンデス

出場予定選手
エメリヤエンコ・ヒョードル、ヒカルド・アローナ、三崎和雄

チケット料金
VIP=100,000円、RRS席=30,000円、
スタンドS=17,000円、スタンドA=7,000円
◎問=『やれんのか! 大晦日! 2007』実行委員会
03-3797-7331

◆Dynamite!!/大阪・京セラドーム(15:00)
◆ハッスル/埼玉・さいたまスーパーアリーナ(13:00)
◆プロレスサミット/東京・後楽園ホール(20:00)

Fight&Event January 1

1 TUE.
◆ZERO1・MAX／東京・後楽園ホール(14:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(17:00)

2 WED.
◆全日本／東京・後楽園ホール(12:00)
◆大日本／東京・後楽園ホール(19:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(14:00)

3 THU.
◆全日本／東京・後楽園ホール(12:00)
◆マッスル／東京・後楽園ホール(19:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆K-DOJO／千葉・Blue field(17:00)

4 FRI.
二大タイトルマッチが実現!
IWGPの頂点に立つのはどっちだ!?

『レッスルキングダムII in 東京ドーム』
東京・東京ドーム(17:00)

決定対戦カード
【IWGPヘビー級選手権試合】
棚橋弘至 vs 中邑真輔
【IWGPタッグ選手権試合】
ジャイアント・バーナード&トラヴィス・トムコ vs
リック・スタイナー&スコット・スタイナー
グレート・ムタ vs 後藤洋央紀
永田裕志 vs カート・アングル
中西学 vs アビス
チケット料金
ロイヤルシート=20,000円、アリーナA=10,000円、1階スタンドA=5,000円、1階スタンドB=3,000円、シニア・小中学生=1,000円
◎問=新日本プロレス 03-6407-3111

◆新日本／東京・東京ドーム(17:00)
◆全日本キック／東京・後楽園ホール(18:00)

5 SAT.
◆全日本／埼玉・所沢市民体育館(18:00)
◆DDT／大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆チーム・ベイダー主催興行／東京・ディファ有明(18:30)

6 SUN.
◆全日本／東京・八王子市民体育館(16:00)
◆NOAH／東京・ディファ有明(17:00)
◆大日本／埼玉・桂スタジオ(13:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
◆DDT／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆K-DOJO／東京・後楽園ホール(18:30)
◆IWAジャパン／東京・新宿FACE(18:30)
◆覆面マニア／東京・新木場1stRING(12:00)
◆NEO／東京・後楽園ホール(12:00)

7 MON.
◆全日本／埼玉・桂スタジオ(18:30)

8 TUE.
◆NOAH／静岡・ツインメッセ静岡(18:30)

9 WED.
◆全日本／静岡・キラメッセぬまず(18:30)
◆NOAH／愛知・豊橋市総合体育館(18:00)
◆グレートプロ／東京・新木場1stRING(19:30)

11 FRI.
◆NOAH／高知・高知県民体育館(18:30)
◆大阪プロ／徳島・美馬市うだつアリーナ(18:30)

12 SAT.
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆NEO／東京・板橋グリーンホール(14:00)
◆JWP／東京・板橋グリーンホール(19:00)

13 SUN.
◆ハッスル／愛知・愛知県体育館(17:00)
◆LOCK UP／東京・後楽園ホール(18:30)
◆NOAH／福岡・博多スターレーン(17:00)
◆DRAGON GATE／兵庫・SITE KOBE(15:00)
◆DDT／東京・新木場1stRING(18:30)
◆666／愛知・クラブダイアモンドホール(18:30)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
◆みちのく／岩手・矢巾町民総合体育館(15:00)
◆K-DOJO／千葉・千葉・BlueField(13:30&15:00)
◆NEO／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆LLPW／東京・後楽園ホール(12:30)
◆OZアカデミー／東京・新宿FACE(12:30)

14 MON.
◆NOAH／大分・大分イベントホール(17:00)
◆DRAGON GATE／愛知・名古屋テレピアホール(18:00)
◆みちのく／宮城・仙台市仙台港ビジネスサポートセンター(14:00)
◆WMF／大阪・世界館(18:30)
◆VKF／大阪アゼリア大正(15:00)
◆DEEP／新潟・新潟フェイズ(未定)

15 TUE.
◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール(18:30)

16 WED.
◆NOAH／広島・広島産業会館西展示館(18:30)
◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール(18:30)

17 THU.
◆ハッスル／東京・後楽園ホール(19:00)
◆DRAGON GATE／栃木・栃木県総合文化センター(18:30)

18 FRI.
◆NOAH／栃木・栃木県総合文化センター(18:30)
◆DRAGON GATE／静岡・アクトシティ浜松(18:30)
◆ソウル・コネクション／東京・新宿FACE(19:00)

19 SAT.
"ミルコをKOした男"ゴンザガと
元チーム・クロコップのヴェウドゥムが激突!

『UFC80 RAPID FIRE』
英国タイン・アンド・ウェア州ニューカッスル、メトロジオ・アリーナ

決定対戦カード
【ライト級暫定王座決定戦】
BJ・ペン vs ジョー・スティーブンソン
ガブリエル・ゴンザガ vs ファブリシオ・ヴェウドゥム

◆DRAGON GATE／愛知・名古屋テレピアホール(18:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

20 SUN.
◆NOAH／東京・後楽園ホール(12:00)
◆DRAGON GATE／三重・松阪市総合体育館(14:00)
◆大日本／千葉・Blue field(16:00)
◆DDT／千葉・Blue field(21:00)
◆K-DOJO／千葉・Blue field(12:30)
◆大阪プロ／和歌山・和歌山マリーナシティ(14:00)
◆パンクラス／東京・後楽園ホール(18:30)

22 TUE.
◆DRAGON GATE／大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:30)

25 FRI.
◆新日本／沖縄・沖縄武道館(18:30)
◆El Dorado／東京・新宿FACE(19:00)

26 SAT.
◆全日本／大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:00)
◆DRAGON GATE／和歌山・和歌山県立体育館(18:30)
◆El Dorado／静岡・清水マリンビル(18:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆修斗／東京・後楽園ホール(17:30)

27 SUN.
◆新日本／東京・後楽園ホール(18:30)
◆DRAGON GATE／愛媛・松山市総合コミュニティセンター(17:00)
◆El Dorado／愛知・クラブダイアモンドホール(13:00)
◆大日本／愛知・クラブダイアモンドホール(17:00)
◆K-DOJO／千葉・BlueField(13:30&15:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
◆JWP／東京・キネマ倶楽部(13:00)
◆NEO／東京・キネマ倶楽部(17:00)

30 WED.
◆パンクラス／後楽園ホール(18:30)

◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(22:00)
◆グレートプロ／東京・新木場1stRING(26:00)
◆VKF／大阪・アゼリア大正(未定)
◆JWP／東京・後楽園ホール(12:00)

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■上井オフィス
03-5766-0079
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-18-10 5F
http://blog.livedoor.jp/uwaistation/

■キングダム・エルガイツ
042-376-1639
〒206-8585 東京都多摩市関戸4-8-18 TOHO聖蹟桜ヶ丘ビル
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■健介オフィス
048-982-0960
〒342-0041 埼玉県吉川市保1-4-12

■新日本プロレス
03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏真陰流 興義館
050-3599-7872
〒113-0033 東京都文京区本郷3-6-13 太平ビル2F
http://homepage2.nifty.com/seikendo/

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■日本修斗協会
03-5984-3209
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
http://www.alles.or.jp/˜shooto/

■ハッスルエンターテインメント
03-5464-1731
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-7 カプリース青山3F
http://www.hustlehustle.com/

■バトラーツ
048-963-0005
〒343-0046 埼玉県越谷市弥生町9-8
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリングSUN
ZERO1-MAXと同じ

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■無我ワールド・プロレスリング
03-3402-2474
〒107-0062 東京都港区南青山4-2-4 シャトー青山第3-204号室
http://www.muga-world.jp/

■やれんのか! 大晦日! 2007実行委員会
03-3797-7331
http://www.yarennoka.com

■ユニオンプロレス
042-724-9242
〒194-0022 東京都町田市森野6-319マルイシコーポ202
http://union.ne07.jp

■DDT
03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/ feg/

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IGF
03-5159-3380
〒104-0061 東京都中央区銀座1-15-2 銀座スイムビル3F
http://www.igf.jp/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-7-5メゾン文京関口204

■MARS
03-5550-7308
〒169-0073 東京都中央区銀座2-12-3 ライトビル2F
http://www.mars-k.com

■NEO
044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■ワールドビクトリーロード
03-3369-2211
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-21-1 新宿ロイヤルビル6F
http://kakutougi-kyoukai.com/

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1(RIKIPRO道場内)
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■U.K.R
044-833-4130
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファーストオン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

「選手を育てる工場です！」
小路&ペタスの道場が新弟子を募集中！

PRIDEでも活躍した小路晃と、K-1ファイターのニコラス・ペタスがトレーナーを務める格闘家育成施設『A・E FACTORY』が都内・上野毛にオープン！ 現在新弟子を絶賛募集中だ。15～25歳の健康な男女なら誰でも入門可能で、入会金・月謝は発生しない。そして、入門後のトライアウトで生き残ればプロファイターを目指すジムの正式メンバーとなれるシステムだ。プロ格闘家を本気で目指す人は『A・E FACTORY』へどうぞ！

★問／ A・E FACTORY 03-6658-4583
★HP／ http://www.ae-factory.com/

初詣は中邑&後藤と伊豆長岡へ！
『RISE』がファン参加の新春温泉ツアー敢行ッ！

温泉に初詣！ 新年早々、『RISE』三昧！ 中邑真輔を中心に後藤洋央紀や稔、ミラノコレクションA.T.らで結成された新日本プロレスの新ユニット『RISE』が2008年1月19日～20日まで1泊2日のファン参加型温泉ツアーを行なうことが決定！ 選手とバスに同乗してのふれあいタイムや三嶋大社参拝など企画も盛りだくさん。『RISE』が気になる新日本ファンはいますぐ予約！

★問／（株）トラベル日本本社営業部『RISE・ING』係 03-3574-0231
★HP／http://www.njpw.co.jp/

“マニア”もいいけど“エイド”もね!
『ハッスル』新作DVDがまたまた登場！

『ハッスル・マニア2007』の興奮も冷めやらぬまま、一気に『大みそかハッスル祭り』へ突っ走る『ハッスル』。その新作DVDが12月26日（水）に発売決定。今回は6月17日に行なわれた上半期最大のイベント『ハッスル・エイド2007』を完全収録！ まさかのクロマティ参戦やインリン様の失神劇など見どころタップリの一本。地上波だけではわからない『ハッスル』ワールドを堪能しよう！

★『ハッスル EPISODEⅡ DVD 2』（エンターブレイン）5,040円（税込）12月26日発売
★HP／http://enterbrain.co.jp

大晦日テレビ戦争の“伏兵”!?
DEEP大阪大会がテレビ大阪で放送！

DEEPが一足お先に大晦日テレビ戦争へ突入！ 12月22日に大阪・梅田ステラホールで行なわれるDEEP大阪大会が、地元のテレビ大阪で地上波放送されることが決定！ 放送時間は12月30日25時からの60分ワク。女王MIKUとムエタイ選手の一戦や日韓3vs3対抗戦など見逃せないラインナップの地上波中継となる。大晦日テレビ戦争、君はいったいどこまで見れんのか？

★HP／http://www.deep2001.com/

“ウワサの男”カルバンも出撃!
07年のK-1 MAX決勝トーナメントがDVDに！

魔裟斗の快進撃で異様な盛り上がりを見せた07年の『K-1 WORLD MAXトーナメント』が早くもDVDで登場！『やれんのか！』で青木真也との対戦が決定した『HERO'S』ミドル級王者J.Z.カルバンも出場の“開幕戦”に加え、魔裟斗vsブアカーオ戦など名勝負続出となった“決勝戦”も合わせて2大会24試合を完全収録! 秘蔵のバックステージ映像も満載の永久保存版DVDが発売決定！

★『K-1 WORLD MAX 2007 ～世界一決定トーナメント開幕戦&決勝戦～』（TBSビデオ）6.090円（税込）2008年1月23日発売

旗揚げシリーズ完全版が登場!!
IGFの限定版DVD-BOXが完成！

「一寸先はハプニング！」で毎度お騒がせのIGF。ゲノムマニア待望のDVD-BOXがついに完成ダーッ！“全カード当日発表”という前代未聞の6.29両国国技館旗揚げ戦や、驚異のアントン・ラップが炸裂した9.8名古屋大会に加えて、選手インタビューやバックステージ映像なども収録した豪華な3枚組。思う存分、闘魂を満喫するんダーッ！

★『イノキゲノム旗揚シリーズDVD-BOX』（ポニーキャニオン）3枚組 14,280円（税込）発売中

自身の“つりバカ日記”も更新！
武蔵オフィシャルサイトがグランドオープン！

本誌が夢見た『K-1 WORLD GP』優勝！ は残念ながらならなかったものの、その動向にはまだまだ注目の武蔵のオフィシャルサイト『MUSASHI-STYLE.COM 武蔵流』がグランドオープン！ ニュースやフォトギャラリーに加え「K-1携帯公式サイト」でも好評連載中の「武蔵のつりバカ日記」がこちらのオフィシャルサイトにもバッチリ掲載！ いつ何時でも武蔵情報は『武蔵流』でチェック！

★HP/ http://www.musashi-style.com/

“ミスタープロレス”誕生秘話！
天龍源一郎の新刊は『七勝八敗で生きよ』！

「ふざけるな！ この野郎！」の精神でプロレス界をサバイブしてきた“ミスタープロレス”天龍源一郎の新刊『七勝八敗で生きよ』が発売！ 少年時代から大相撲入りのきっかけやジャイアント馬場の教え、SWSに『ハッスル』出場まですべての真実がここにある。勝敗を超えたものが生まれる瞬間とは? プロレスファン必読の一冊だ。

★『七勝八敗で生きよ』天龍源一郎（著）（東邦出版）1,500円（税込）発売中

KAMIPRO COLUMN

イラスト◎師岡とおる

第26回

ヤヒーラ一本取られないかな

花くまゆうさく

リングの汁ミニ

亀田大毅の不思議な会見、やはり自宅出るところから、ホイッスル渡辺さんはバッチシ、テレビのフレームに入っている。見事だ。イズマイウと同じものを感じる。

それにしても、亀田家は毎日、渡辺さんたちガードマンを雇っているのだろうか？ それとも会見や試合のときだけなのか？ どっちにしろ金出してるのはTBSなのか？ メキシコでのお膳立てもTBSなのか？

そもそも去年の秋山事件の真相はなんなのか？ とTBSにモヤモヤモヤしながら今日も朝11時に『ピンポン』観て、さらにモヤモヤしている。最近、TBSでよかったのは『関口宏の東京フレンドパーク2』に、やべきょうすけを出演させてくれたことだけだ。

こないだ修斗の代々木大会観に行ったら、秋山がバリバリに黒いオーラ発してふんぞり返って試合を観てたので、少し驚いた。『kami-pro』には〝黒い魔王〟って書いてあったけど、まんまそうだった。この人に謝罪させろって言ってもそりゃ無理だな、とへんに納得してしまう説得力が黒魔王にはあったね。

試合のほうは、最後のメインは寝技の戸井田に勝ってほしかったので、沈んだ気持ちで帰った（代々木公園に自転車置いといたら、ライトが盗まれてたし）。

そんな修斗ですが12月の楽しみは、上田将勝vs徹肌ィ朗戦。寝技で決着ついてほしいが、どうなるのかしら。注目高かった中村K太郎vs花井岳文戦は、残念ながら寝技はなしだったけど。

大晦日は、KIDvsハニ・ヤヒーラが一番楽しみ。ヤヒーラの一本勝ちは充分あり得る。逆にヤヒーラKO負けはもっとあるかもしれないけど、KIDが極められるとこ見たい。

さいたまのほうは、これ書いてる時点でまだ2カードしか知らないけど、マッハvs長谷川戦が驚いた。大物になると自分よりネームバリューないけど実際は強い日本人とはやりたがらない人が多い中、マッハは昔からあっさりそういう試合もOKするから偉い。

青木vsカルバン戦もいいが、最後のPRIDEならライト級GPの総決算として、やっぱ青木vs五味戦実現してほしかったよね。ヒョードルは相手がいない。クートゥアーやジョシュが理想だが、誰なんだろう？

新勢力の日本総合格闘技協会のワールドビクトリーロード、組織としてクリーンで立派そうだが、誰も総合を見るセンスがなさそう。そして彼らの考える夢のカードとこっちの思いにズレが大きそうでちと不安です。

Hanakuma Yusaku
◎スカパーでは清志郎ライブもあるし、大晦日は録画が足りない。

リング上からプライベートまで！
"なんでもあり"の質問コーナー

第11回

所英男のトコロ天国

本コーナーは、読者が抱くさまざまなお悩み、質問に、所選手がすべて答えてくれるという天国のようなコーナーです（こじつけ）。

聞き手／松下ミワ

――所さん、今年もいよいよ終わりに近づきましたねえ（しみじみ）。

所 どうしたんですか、急に？

――いや、今日はそんな「年の瀬」に関する質問が届いてるんですよ。

所 へー、それはまた大変そうですねえ（関心なさげに）。

――冒頭からいきなりうわのそらですか！

所 そんなことないですよ！ もう毎回どれだけボクが真剣に答えているか、皆さんに見てもらいたいぐらいだなって。

――それは、それは、ありがとうございます。では、今回も超真剣に答えてもらいましょう！

顔に関する質問

北海道・細川たか子さん・17歳・高校生

毎年、年末が近づくと非常に複雑な気分になります。なぜなら、私は紅白歌合戦の常連歌手・鳥羽一郎に顔がそっくりだからです。もっと言うと、私だけではなく、父、妹、それに一緒に住んでるおばあちゃんも似ています。この時期になると、決まって私のあだ名は「兄弟船」になり、男子からは「紅白の観覧券をくれ」などと無理難題を言われます。こんなヤツらに何かうまく立ち回る策はありませんか!?

家族の大半が鳥羽一郎に似ているにも関わらず、山川豊似の親類がいないのが不思議だが、非常に複雑な悩みであるのは間違いない。

所 かわいそうに……（ポツリ）。

――ワハハハハ！ それって各方面に失礼すぎますよ！

所 だって「観覧券くれ」って言われても、ちょっとどうしようもないなって。ただ、「あの人に似てるね」って本人に伝えたくなる気持ちはわからないでもないですけどねえ。

――確かに（笑）。

所 でも、この人はもう自覚済みなんでしょ？ 鳥羽一郎に似ていることは。

――家族の大半が似ているということなんで、自覚せざるをえない環境なんじゃないんでしょうか……。

所 だったら、もうモノマネするしかないですよ！

――モノマネですか！

所 そう！ 鳥羽一郎の完コピです!! 『兄弟船』を完全に歌えるように練習してください。女子高生なんだから、カラオケぐらい行きますよね？ そこで、鳥羽一郎を熱唱して覚えればいいんですよ。

――お友だちがBoAとかあゆとかを歌う傍らでですか（笑）。

所 それで、男子に「おい、兄弟船」とか言われたら、それを逆手に取って、いきなり歌ってあげたらいいんじゃないですかね？

――それはいいですね！ そこで大熱唱されたら、逆に引いちゃいますもんね。

所 似てることを否定する必要がないんだったら、ボクは前に進むほうがいいと思います。

――なるほど。かなり前向きな回答をいただきましたので、女子高生といえども遠慮せずに、ぜひ『兄弟船』をどんどん歌ってください！

急所に関する質問

東京都・高田よし子さん・31歳・主婦

所さんの大ファンです！ そんな所さんに突然の質問ですが、ぜひカニの急所を教えてください！ というのも、北海道に住む夫の両親から毎年カニのお歳暮をいただくのですが……、それが生きたままのカニがおがくずに入っている状態のものなので、いつもフタを開けるのに腰が引けてしまいます。去年なんか、カニが箱から飛び出し、家中逃げ回られて捕まえるのに一苦労。当時1歳の娘も泣きわめき、大変な騒ぎになってしまいました。今年こそはスムーズにカニを仕留められるよう、プロ格闘家の所さんに技を伝授していただきたいと思います！

人間よりはるかに小さいカニでさえ、対峙すると腰が引けてしまう、この悲しさ。しかし、うまく仕留める方法はきっと何かしらあるはずである！（適当）。

――という、ある意味たいへんなお悩みなんですが。

所 はあ、生きたカニですか……。ボク、海のないところで育ってるんで、カニのことはよくわからないんですけどねえ。

――所さんは岐阜県出身ですもんね。

所 そういえば、ボクの親はちょくちょく北海道に旅行に行ってて、そのときには冷凍のカニを送ってくることがあるんですけど……、あのー、冷凍のカニって、解凍しても生き返ったりしないですよね？（真剣に）。

――ワハハハハハハハハハ！ いったい何を言ってるんですか!!（爆笑）。そんなことができたら、ズバリ言ってもう地球がひっくり返りますよ！

所 だって、ボク見たことないんですもん！ そういう生きたカニを!! でも、それって1杯だけなんでしょ？ 箱に入って送られてくるのは。

――それは送る人のチョイスによるんじゃないですか？ 場合によっては3杯とか4杯だったりすることもあるでしょうし。

所 げっ！ 3杯とか4杯!? それが暴れだしたら確かにキツいですよね（真顔で）。

――だから、この人も困ってるんでしょうね。

所 でも、人間とカニだったら、さすがに人間が勝つんじゃないですか。こう、ハサミの部分を抑えながらガッとつかむしかないですよ。

――最大の武器を封印するということですね。ただ、それだときっとほかのカニたちが暴れだしますよ。

所 ……（しばらく考えて）最終的には、箱の上から踏んづけるのが一番いいかもしれないですね！

――えー、これ以上話すと現実離れな回答が飛び出しそうなので、このへんで～。

付き合いに関する質問

岡山県・ワタミさん・35歳・会社員

ボクは忘年会・新年会シーズンが非常に苦痛です！ ボクはお酒が飲めない上に、あまり声を張れないタイプの人間なので、宴会という宴会に最も不向きな男なのです。しかも営業職なだけに、そういう場には必ず出席しないと取引先のお偉いさんから「付き合いが悪い」という目で見られ、仕事に響くのです。なので、今年こそ宴会嫌いを克服したいのですが、何かいい方法はありませんか？

所 お酒飲めなかったらつらいですよねえ。ボクも昔はコップ一杯で吐いてたんで、お酒を飲む機会があると憂鬱でしたよ。

――では、ある意味この方と同じ悩みをお持ちだったんですね。こんな場合、所さんだったらどうするんですか？ 無理やりトークを展開するとか？

所 いやいや、全然しゃべりもしないです。人の中に紛れるという技でいきます。

――人の陰に隠れて知らんぷり！ でも、この人は営業職なので、率先して場を盛り上げないといけないんでしょうね。

所 きっと、小島よしおとか、一発芸をやんなきゃいけないんですよね。ボクだったら絶対にイヤですけど！（語気を強めて）。

――所さんはやりませんか。

所 まあ、歌ぐらいなら歌いますけど。ただ、ボクの場合はいまお酒が嫌いじゃなくなってるんでよかったんですけどね。

――なるほど。お酒が好きになるっていう方法もあるんですかね。

所 あとは、逆に最初っからハイペースで飲んで、早めに吐いて寝るっていう手もありますね。

――自ら限界に飛び込むわけですね。

所 そしてあとは何もしない！ さすがに限界の人に一発芸を強要したりはできないですからね。それから、ほかに考えられるとしたら、飲めるお酒を作ることです。ボクだったら、ビールか薄めの焼酎水割り。たぶん、レッドアイとかも飲みやすいはずですよ。

――いやあ、今回は凄く具体的なアドバイスじゃないですか。

所 全然飲まないで悪い印象を与えるよりはいいと思うんで、それでお願いします。

――これは"珍しく"使える助言だと思われますので、お酒が苦手な方は忘年会シーズンをこれで乗りきってください！

Hideo Tokoro◎ところ・ひでお【所英男オフィシャルブログ】http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/ 【ZSTのHP】http://www.zst.jp/

※所選手に解決してほしいお悩みや質問は〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F『kamipro編集部 トコロ天国』係まで

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第24回

私だけが知っているオクタゴンの名物レフェリー

UFCで500戦以上も試合を裁いた名物レフェリー、ビッグ・ジョン・マッカーシーが慣れ親しんだオクタゴンから去り、レフェリーを引退することになりました。

ズッファ社ではなくSEGが主催するUFCの頃から活躍してきた彼は、〝UFCの顔役〟の一人でもあります。選手よりも強く見える巨体。否が応でも興奮する「試合開始」の絶叫。危険と判断するや、攻撃中の選手を突き飛ばして試合を止める勇気。UFCに詳しくなくとも、そんな彼の姿が記憶にある読者もいらっしゃるのでは?

初期UFCではルールブックというものがなく、マッカーシーが選手に口頭でルールを説明。我々が日本人ということもあり理解が充分ではないと感じたのか、毎回「大丈夫かい?」と声をかけてくれたことで親近感を持ちました。また、夫人のエレインはSEG時代、飛行機の手配などの仕事をしており、それも通じて彼らと関係を深めることに。そうして意外な相談を受けることになったのです。

「PRIDEで試合がしたいんだ」

あれは確か00年の『PRIDE・10』前後のことでしょうか。柔術で帯を持つマッカーシーは、自分の力を試したくなったようなのです。なぜPRIDEなのか。当時のUFCは低迷期で一試合1000ドルという選手はザラ。そんじょそこらのMMAファイターより有名なマッカーシーの知名度に見合うギャラはとても払えません。ならばPRIDEに……ということで私が話を進めたのですが、彼が求める条件はさすがに高すぎました(笑)。マッカーシーのPRIDEデビューは、いつしか幻に終わってしまったのです。

また、レフェリーとしてUFCからPRIDEに移籍するという計画もありました。契約書にサインを済ませるまで話はまとまっていたのですが、最後の最後で断念。「本当に申し訳ないが、今回は……」と、マッカーシーは何度も謝りましたが、PRIDEとは縁がなかったとしか言いようがありません。

しかし、彼は引退後、UFCのキャリアを活かしてケーブルテレビ局『ファイトネットワーク』のアドバイザーに就任。今後もMMAに携わっていくそうですから、彼の決断が正しかったのでしょう。

彼がどれくらい強かったのか。それは永遠のナゾになってしまいましたけど(笑)。

金ちゃんのどこまでやるの?

●第19回● 引退撤回します!の巻

イラスト◎中川画伯

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

早いもので、今年も最後のコラムになりました。ホント、早いよね~。

今年は3月にパンクラスで川村(亮)くんとやったあと、「あと一試合やって、年内に引退」って発表したんだけどさ、結局、引退試合もやらずに1年終っちゃったよ!(笑)。

やっぱりさ、「あと一試合で引退」と発表したものの、エキシビションならともかく、真剣勝負の格闘技で引退する人間と最後に闘ってくれる人なんて、なかなかいないんだよね。もし、俺に負けたら一生リベンジする機会もないわけだし、「引退する人間に現役選手が負けた」なんて言われるだろうからね。これが団体に所属してる選手だったら、その団体の若手が相手したりするのかもしれないけど、俺なんてしがないフリー選手だからさ、なかなか難しいよね。

だから、須藤(元気)くんやTK(高阪剛)みたいに、試合が終わったら突然、引退するしかないんだろうね。前田さんの前で、引退前に一試合やるって話もあったんだけど、結局、実現してないし。最近は前田さんから電話も来なくなったしね(苦笑)。ちょっと前までは、とくに重要な用件がなくても電話が来たのに、全然だからね。お子さんが生まれて、それどころじゃないのかな。

だからさ、この場を借りて、引退撤回宣言させていただきます!

撤回といっても、次の試合で終わりかもしれないし、5試合ぐらいやるかもしれないけど、「いつ」とは決めずに、一試合一試合、これが最後のつもりでやろうと思ってるんだよ。総合格闘技に〝引退試合〟っていうのはないんだなってわかったからさ。俺はもう、一度腹を括った身だからね。とにかく最後の力を振り絞って、必死になってやるだけだよ。いまは、試合をやりたい気持ちが出てきてしょうがない。周りのみんなからも「まだまだできる」って応援してもらってるし、身体の調子もいいからね。

ただ、引退撤回しても試合が決まらなきゃ、事実上の引退みたいなもんだからね(笑)。なんとか次の試合を決めたいんだけど。気がつけば9カ月間もリングから離れてるわけだから。これだったら出場停止処分食らってるほうがマシだよ! 出場停止処分だったら、「いまは出られなくてもしょうがない」って思えるけど、俺の場合はいつでも出撃準備オーケーなのに、試合がないんだからね。試合が組まれないって、精神的には出場停止よりはるかにキツいよ(笑)。

引退撤回したからには、総合だけじゃなくて、プロレスもやりたいんだけどね。ハッスルでアン・ジョー司令長官の部下とかになれないかな~。ハッスルの地上波放送が決まったとき、山口(日昇)社長が「テレビに出たいプロレスラーは私のもとに来てほしい」って言ってたのを新聞で読んでさ、俺、本気で応募しようかな、と思ったぐらいだから(笑)。

今年は結局、一試合だけしかできなかったから、来年はもっと試合がしたいね。リングスに所属していた頃はさ、毎月毎月試合があって、ケガしてても必ず試合しなきゃいけなかったから、試合するのが嫌だった時期もあるんだよね。

それがいまは、試合したくてもできないんだから、人間の気持ちって勝手だよね。試合が毎回組まれていた頃のありがたみを、いまになって感じてますよ。ただ、もう充分感じたから、早く解放してほしいけどね(笑)。

まあ、俺にとっても皆さんにとっても、来年がいい年であることを願ってますよ。では、よいお年を!

せき詩郎の

サムライ三昧

シロー

第20回

黒く塗りつぶせ！

世の中には黒く塗りつぶしてはいけないものがある。

たとえばマークシート。5択のテストだとして、そのうちの一つを塗りつぶすことはかまわないが、全部塗りつぶしてしまうことは避けなければいけないだろう。

また魚拓も塗りつぶしてはいけないものだ。釣りの思い出、記録がただの黒い紙になってしまうからだ。

トランプもまた塗りつぶしてはいけないものの部類に入る。すべて真っ黒であると、楽しいゲームが台なしだ。神経衰弱はすべて当たりとなってしまうし、トランプマンの年収にも影響してくる可能性がある。

居酒屋にある靴箱の木の鍵。これを黒く塗りつぶしてしまうと番号がわからなくなる。つまりは、自分の靴がどこにあるのかが不明となり、裸足で帰宅することになってしまう事態へと陥る。塗りつぶすべきではないことは明らかだ。

デーモン小暮が黒一色でメイクしてしまった場合も考えてみよう。この場合、デーモン小暮の顔は黒く塗りつぶすことと同義となる。黒いほうがより悪魔らしいという意見もあるだろうが、視聴者がデーモン小暮と認識することが難しくなってしまう。

このほかにも、カメラのレンズ、楳図ハウス、美輪さんの頭など、黒く塗りつぶすと何かと不都合や違和感があるものはたくさんある。

それでもすべてを黒く塗りつぶそうとする男、蝶野。その蝶野が塗り絵をやるとどうなるのか、蝶野の気持ちになって塗ってみました。

師走。誰もが何かと忙しく、慌ただしい季節。そんな時期にわざわざ「蝶野の気持ちになって」みたというわけだ。これがまた、自主的に、であるから自分でも驚きだ。

それでは良いお年を。

おまえらも黒く塗りつぶせ、オラ、エーーーッ!!

Elephant

蝶野らしく真っ黒に塗りつぶされた動物の塗り絵。特徴のある鼻部分がなんの動物なのかのヒントになるはずだ。

Fish

蝶野によって黒く塗りつぶされた魚の塗り絵。焦げた魚であってもこれほど見事に黒くなることはないだろう。

Walrus

太いマジックでだいたい塗ってから細いマジックで細かいところを塗る。そんな蝶野らしいクレバーな方法で塗られた海の生物。

Seahorse

はみ出してしまうたびに「ファッキンッ！」を連発しながらも、なんとか蝶野が黒く塗りつぶした海の生物。

椎名基樹のサムライ三昧

第21回

印象に残った格闘技中継

こちらが本文中に出てくるザ・スミスのアルバムのジャケ。このバンドのボーカルはモリッシーだがモーリス・スミスとは無関係！

ニート、という言葉を耳にするたび「ニート・イズ・マーダー」というダジャレが頭に浮かぶ。言わずと知れた、ザ・スミスのアルバムタイトル『ミート・イズ・マーダー（肉食は人殺しだ！）』が元ネタだが、ニートさんが連日巻き起こす、凶悪事件と相まって、くだらないダジャレが意味深長に思えてくる。

ところで、現在の自分の昼夜逆転意味不明の生活ってまさしくニート!? と思いつつ、連日ぼんやり見続けた中から、今月印象に残った格闘技中継を思いつくまま書いてみたい。

サムライTVで解説者の熊久保（英幸）さんが、妙なハイテンションで今年最大のメガファイトだ、と煽りまくった、NJKFのライト級王者の桜井洋平vsアタチャイ・フェアテックス。熊久保さんが神業と絶賛するアタチャイが桜井選手になんにもさせずに勝利を収めた。確かに凄い。パンチが当たる寸前スウェーで避けて、戻りっぱなのパンチでダウンを奪う。テレビゲームの技のような美しさ。

またこのアタチャイ、テクニックが凄いだけでなく、もの凄く冷めた、それでいてただ冷酷というのではなく、一種悟りを開いたかのような目が、達人たる雰囲気を存分に醸し出している。総合ファンの筆者としては、このレベルの打撃選手が総合に挑戦したらどーなるのか？ と思わず想像を巡らせてしまう。あのスウェーの動体視力、反射神経を見る限り、タックルを切ることなんてたやすいことのように思えてくる。「ただ勝つだけでなく、ムエタイの技を見せたい」と語るアタチャイ。熊久保さんが熱狂するのも納得の、格闘技の神秘を感じる選手であった。

また、RINGSファンにはおなじみの熊久保さんであるが、その子どものようなはしゃぎっぷりには、本当に格闘技が好きなんだなあ、と好感を覚えると同時に、へんな人なんだなあと思う。『SアリーナWの映像で試合後、「♪ユニオン、ユニオン、ユニオン」と連呼する、妙な曲が流れていて、それを受けた熊久保さんは、「ARBのユニオンロックを聴いて、テンションが上がってしまいました。これからはユニオンプロレスですよ〜！」と大興奮。司会の三田さんを困惑させていた。意外な一面だ。

熊久保さんといえば、角田師範と並び、大山倍達のモノマネを得意とする男として、筆者にはインプットされている。ゴッドハンドのモノマネを得意とするヤツは侮れない、という持論があるので、これからも熊久保さんには注目していきたい。

さて、熊久保さん的メガファイトを紹介したならば、世界的の本物のメガファイトについても書かねばならない。ボクシングのウェルター級タイトルマッチ、フロイド・メイウェザーvsリッキー・ハットン。ボクシングに興味がない読者がほとんどだと思うので、毎度恐縮であるが、これを書かずして何を書くというほどのビッグマッチなので許してほしい。

米英対決として盛り上がったこの一戦。ペイパービューの視聴件数で、メイウェザーvsデラホーヤを上回ったというから、やはり今年一番のメガファイトだと言えるだろう。お互いに無敗対決。結果、メイウェザーが左フック一発でハットンを仕留めた。ハットンがKOされるとは驚いた。

ボクシングから突然話題は変わるが、借金王・安田忠夫が沖縄合宿に旅立つとき、空港での服装は衝撃であった。真っ赤なトレーナーにオーバーオール！

誰もあの任天堂のヒゲのダンナを思い浮かべることは間違いないであろう。三田さんも、マ、マリ……オ、という言葉をきっと呑み込んで、「もの凄いかわいい服装だったですね」というコメントをしたに違いなかった。

修斗の11・8代々木大会は素晴らしかった。自前の選手であれほど高いクオリティの試合を提供できるのは、奇跡的なことだと思う。好試合の連続であったが、その詳細は他にまかせるとして、TV放送ではボクシング世界バンタム級王者の長谷川穂積がゲスト解説を務めたことを記しておきたい。

長谷川は終始興奮、キック、寝技とボクシングにはない攻防に終始感心しているようだった。長谷川の大ファンの筆者。長谷川は日本のジム所属の選手の中では、あのユーリ海老原（のちの勇利アルバチャコフ）以来の完成度だと思っている。そんな長谷川に修斗を総合格闘技を認めてもらうことが妙に嬉しい。長谷川選手、来年の5度目の防衛戦、頑張って〜！

ケビン山崎の指導を受けたり、沖縄の平仲ジムで練習を積んだりと12.20 IGF有明大会でのレネ・ローゼ戦へ向け気合い充分の安田。この勢いはいつまで続く!? 右はリングスの解説でもおなじみだった熊久保さん。一度、ユニオンプロレスの解説をする熊久保さんも見てみたいなぁ。

イナズマKの ハードコア ドージョー Special

平成版アントンは"プログレフリーク"!!

『マッスル』の申し子は演劇よりも、プロレス派!!

アントーニオ本多

『マッスル』やDDTで、軽妙なしゃべりで笑いを誘い、独特なムーブと間合いを織り交ぜたファイトで観客の心をワシづかみにするアントーニオ本多。彼は、「武蔵野美術大学（以下、武蔵美）で学生プロレス（以下、学プロ）をやりつつ、演劇もしていた」異色の経歴の持ち主、平成のアントンの魅力を探っていこう。

ハードコア列伝1 美大出身なのに学プロ出身!!

現在29歳の彼がプロレスに惹かれたきっかけは「20歳で、98年の猪木さんの引退試合をテレビで観てから」という遅咲きぶり。「その引退特集のVTRで昭和のプロレス会場の特殊な雰囲気、若い猪木さんのカッコよさに衝撃を受け、ビデオを借りて研究しまくりましたね」と語るアントン。

武蔵美の前は、「普通大学に行っていた」が「エスカレーター式で入って、人生何をしたらいいかわからずモヤモヤしてたけど、猪木さんの衝撃で人生が変わってしまった（笑）」。ここで勢いづき、今度は武蔵美に入学したアントン。「映画を作るため」に入ったものの入学式で学プロに勧誘されて即加入！「猪木さんの技しか知らなかった」という理由でリングネームはいまとほぼ同じアントニオ本多に決定。

学プロでは下ネタ系のリングネームが定番だが「1年生でも現役4年生と同い年だったからへんな名前をつけられずに済んだ。だからアントンへの道のりはトントン拍子（笑）」だった模様。

アントンは父親が大ベテラン俳優の渡辺哲さんということもあって"演劇寄り"レスラーのイメージが大きいが、学生時代に演劇を始めた彼は、「学プロでプロレスの表現の自由さを知ったあとだから、閉塞感を感じました」と意外な答え。

「演劇は何度も同じことやって、セリフも覚えなきゃいけない。脚本家が書いたセリフでウケても僕がおもしろいわけじゃない。役者は照明や脚本や演出に保護されすぎな部分もある。プロレスは半裸で人前に出ていくから逃げ場がないけど、この自由度や高揚感はやった人しかわからない」。

ハードコア列伝2 『マッスル』加入はまさに運命！

大学卒業後、「闘龍門に入ろうとしたけどお金がなくてやめた」アントンは学プロを続け、やがて学プロの会場で"盟友"マッスル坂井と運命の出会いをはたす。

以前、坂井が初期『マッスル』のメンバーを探して「"演劇ルート"でプロレス好きでしゃべれる人と"学プロルート"でプロレスができて演技もできる人を探したらどっちもアントーニオ本多の名前が出てきた」と語っていたが『マッスル』の世界観にうってつけの存在だった。

『マッスル』の話を最初に聞いたときは「それをやるなら僕だろう！」と思ったというアントン。「嬉しかったし、こうなる運命だったんだろうなって思いもありました」と出会いを振り返る。

彼は、『マッスル2』に"イタリアから来た猪木ファン"というキャラで初登場。アントニオ本多からアントーニオ本多と名前を変え、『マッスル』を支える重要人物としてブレイクしていく。

さらに『マッスル』での強烈な個性に目を留めたディック東郷の推薦でDDTマットにも登場。ディック東郷のキューバ軍団のマネージャーをはじめ、レスラーとしての道を歩んでいくが苦労も多かった模様。「学プロとプロレスの違いは場内に流す"実況"がないこと。実況があれば技を失敗してもごまかせる。実況がないと自分の動きがすべてですから」。

だが東郷は「自分の笑える動きの要素を『アントンはへんな動きをするけど、それがアントンの味だから』とほめてくれた。それに『プロレスは運動神経じゃない、いかにプロレスを好きで見てるかが大事』」とも語っていたという。

猪木ファンから、アメプロ好きとなり、中でもジェリー・"ザ・キング"・ローラーのパンチのうまさにシビれていたアントンの心に強く響いたのは間違いない。

それでもアントンは『マッスル』のほうにやりがいを見い出しているのかと思いきや、「やりがいは凄くあるけど自分のやってきたことが結実してると思う瞬間はDDTのほうにある」と意外な返答。「『マッスル』は演劇寄り、DDTはプロレス寄りですが、僕は表現として用意されたものを超えた部分にこだわりを持ってます。昔はDDTでのマイクも最初に言うことを考えてたけど、ここ一年くらいはまったく白紙！　だからスベったりもしてます（笑）」。

ハードコア列伝3 いつ何時もプログレ主義ッ!!

さてさて、アントーニオといえばイタリア系の男性の名。なんとアントンはイタリア系を中心とする大のプログレ（※）フリークでもある。「18歳くらいからプログレ好き。最近はイタリアの通販でCDを買ってます」とプロレス同様、プログレにも熱い思いを寄せている。

「ハッタリを利かせたりするという"けれん味"という言葉があるけどプログレもプロレスも"けれん味"がある。プログレもいろんな感情や要素を一つの作品で過剰に表現してますから」と共通点を告白。

リング上では陽気でファニーなアントン。その実態はプログレッシブでハードコアなプロレスの表現者だった。最後に大好きなプログレ話を交えつつ締めてもらおう。

「キング・クリムゾンというバンドのドラマーのビル・ブラッフォードが、『僕らは作曲されたものとそうでないものの壁を取り去りたかった』と言ってたんです。かなりプロレス的な発言ですよね。僕もそういう意識が強いし『マッスル』は違うけど、表現としてただセリフを言わされたり、やらされてるだけなら『そりゃ、Jポップだろ！』と。だから僕は何かあると『自分はプログレじゃなかったのか？』と問い直したり、そこは無意識に考えてますね（笑）」。

あんとーにお・ほんだ■1978年1月2日生まれ。イタリア出身。武蔵野美術大学在学中から学生プロレスや演劇活動を行なう。卒業後も学生プロレスで活動していたところをマッスル坂井がスカウト、05年1月4日の『マッスル2』に初参戦、軽妙なマイク＆パフォーマンスで一躍人気者に。現在はDDTマットにも登場し、独特の存在感を放っている。168cm、76kg。

「〜〜ジョルノ！」などアントン語が炸裂のマイクはもちろん、「パンチやキックしか出さないけど即興的で表現力が高い」と崇拝するジェリー・ローラーの影響がうかがえる試合スタイルも高評価。タイツだってローラーばりのワンショルダー！とこだわりまくりだ。

※プログレ＝プログレッシブ・ロック。従来のロックにクラシックやジャズなどの影響を加えたより前衛的かつ実験的なロックのこと。

掟ポルシェの萌え萌え女々苑

イラスト◎ゴローちゃん

第26回 栗原あゆみ（フリー）の巻

肉！ 肉！ 肉！ 三度のメシより肉好きな炭水化物否定&たんぱく質大スキっ子・掟ポルシェが、口の端からユッケをたらして生々しくしく萌え萌えインタビュー！ 今回のゲストは栗原あゆみさん！ プロレスラーなら知らない者はいないレスラー御用達、焼肉の名店『三宝』の看板娘レスラーに肉薄します！

掟 今日の取材場所でもある栗原さんの実家の『三宝』は、プロレスラーの方々が昔からよくいらっしゃるみたいですけど、物心ついた頃から周りはプロレスラーだらけみたいな感じだったんですか？

栗原 そう……でしたね（笑）。

掟 女子プロレスラー以外で、よく来てたのは新日系、全日系？

栗原 男子の方々も来られてたんですけど、ちっちゃい頃、よく遊んでいただいたのはGAMIさんとかですね。

掟 そのGAMIさんがデビュー戦の相手で、しかもデビュー戦で、その大先輩から勝利したんですよね？

栗原 そうなんですよね。いま考えると凄い不思議な感じで（笑）。でも自分は勝ったのに最初気づかないで、3カウント入ったあとも、ひたすらフォールをしてたみたいなんですけど（笑）。

掟 それだけガムシャラだった、と。ちなみにGAMIさんと年齢差はどれぐらい？

栗原 確か17歳か18歳ぐらいだと思います。私がまだ小学校の低学年ぐらいのときから知ってるんで。

掟 認識としてはプロレスラーっていうか、どっちかっていうとお店によく遊びに来るお姉さんみたいな感じですかね？

栗原 いや、プロレスラーでしたよ。よく私のお兄ちゃんがGAMIさんにゲームの攻略法とか教えてましたね（笑）。

掟 あ、逆に小学生から教わるんですね（笑）。お店には男子プロレスラーも大勢来られたと思うんですけど、印象に残ってるのは誰ですか？

栗原 たくさんいるんですけど、ホントにちっちゃいときは、ジョージ（高野）さんと（高野）俊二さんがよく来てました。

掟 おおお！ 昭和のプロレスラーらしく酔って暴れて、各所で出禁になっていたという伝説の高野ブラザーズが揃い踏み！ どうでした、高野兄弟は？

栗原 凄いおっきくて、親戚の女の子と二人で、いつもジョージさんと俊二さんの片ヒザと片ヒザのあいだに座ってたりとか、両腕にぶら下げて持ち上げてもらったりとかしてましたね（笑）。

掟 いわゆるレスラー的なサービスをしてもらってたわけですね。そういう環境で育って、子どもの頃から「将来はプロレスラーになるんだ」っていう感じでした？

栗原 それはもう、なりたくてなりたくて。

掟 でも、大きい人ばかりだし、体格的に不安じゃなかった？

栗原 いや～、なんも気にしてませんでしたね。私は北斗（晶）さんが好きだったので。北斗さんは細いじゃないですか？ でも強かったので、私も頑張ればなれるかなって。

掟 身体が規格外じゃなくても、北斗さんのようにメキシコ仕込みの技と抜群のプロレス勘さえあればどうにでもなりますもんね。ルチャ的な動きに憧れたりしました？

栗原 いや、飛びたい……とは思ってました。子どもの頃は、ふすまからよく飛んでました。

掟 ふすま？

栗原 ふ、ふすま？ ふすまじゃなくて押し入れでした（笑）。

掟 なんとなくニュアンスでわかりますけどね。周りの人たちに栗原さんの話を聞くと、だいたいの人が「天然です」って答えてるんですよ。

栗原 いや～、「天然じゃない」って言うと、「天然じゃない人は『天然じゃない』って言う」って言われるんで、それは言わないようにしてますね（笑）。

掟 プロフィールによると「心の嫌な感じを緩和する方法は？」って質問に、「レモンティーと牛乳を4対7で混ぜて飲む」って答えてました。あの、これ足すと11になっちゃいますよね？

栗原 え～～っ!? いつ書いたんですか、そんなの（笑）。

掟 公式のプロフィールにおもいきり書いてありましたよ。

栗原 自分、好きなんですよ。でも、凄いおいしいんですよ。

掟 いや……おいしいだろうとは思うんですけど（笑）。「4対7」だと、よりおいしいですか？

栗原 はい（笑）。牛乳多めで。

掟 「4対6」じゃなくて、カップから溢れるぐらい牛乳入れちゃいました、みたいな（笑）。気持ちはわかります！ あと、好きな動物は？ という問いに、おもいっきり「トトロ」って書いてるんですが……。

栗原 それ、全然、自分書いた記憶がないんですよ。

掟 え～、だって自分のホームページに出てますよ！（笑）。

栗原 たぶん、好きなキャラクターかなんかと間違えたんだと思うんですけど。さすがにトトロは……実在する……動物なんですか？（真顔で）。

掟 なんで確認してるんですか！（笑）。否定するのもイヤなほど実在してません！

栗原 「さすがに実在しないって知ってます」って言おうと思ったんですけど……（笑）。でも、トトロは凄い好きなキャラクターなんですよ。

掟 皆さんが栗原さんを天然だという意味が、よくわかりました（笑）。性格的には「負けず嫌い」ってことみたいですけど？

栗原 負けず嫌いですね。

掟 でも、この業界は負けず嫌いって多いと思うんですよ。栗原さんはほかの女子選手に負けない自信あります？

栗原 ありますねぇ。ホント、些細なことでも負けたくないんで。

掟 たとえば？

栗原 普段とかでも、前の人が凄い速く歩いてたりすると抜かしたくなる、みたいな。

掟 うわっ、単純！ それは負けてもいいんじゃないですか？ 誰かは先に歩いてますよ、必ず。

栗原 さっきまで隣で普通に歩いてたのに、突然速く歩きだしたら、これは負けてられないって思うんですよ（笑）。

掟 その人、同じ方向に向かってるだけですよね？

栗原 そうなんですけど、なんかダメなんですよね（笑）。

掟 ここ最近はケガで長期欠場中だったみたいですけど、復帰したら、その負けず嫌いっぷりを発揮して頑張ってください！

栗原 完全復帰したときには応援よろしくお願いします。あと、ウチのお店もよろしくお願いします！（笑）。

くりはら・あゆみ■本名＝栗原亜弓。1984年7月13日、東京都三鷹市出身。05年4月、M's StyleでのGAMIとのデビュー戦で、いきなり勝利を挙げ脚光を浴びる。ここ最近は鎖骨骨折により、しばらく欠場を続けていたが12月9日に開催された大向美智子引退興行で一時復帰。その後、手術を受け、来年の完全復帰を目指す。164.5cm、58kg。

栗原の実家 都内・神楽坂の『焼肉ハウス三宝』（TEL.03-3268-0017）で行なった今回の取材。店内には栗原関連の写真やポスターがズラリ。新鮮＆ボリューム満点の肉が食いたきゃ『三宝』に集合。運がよければ栗原をはじめプロレスラーに会えるかも!?

Okite Porsche◎掟ポルシェ■12・23（日・休日前夜）深夜、代官山UNIT（03-5459-8630）でJポップDJイベント『申し訳ないとスペシャル』開催！ 掟ポルシェはロマンクルーの将絢とのマイアミベースユニット『ROMANZ』でライブ&DJ出演！ 当日券も出るから来い！ 1・15（火）渋谷LUSH（03-5467-3071）で掟ポルシェのバンド『ロマンポルシェ。』のライブがあります！ 対バンはステージ上でマグロをさばくフィッシュロックバンド・漁港、持田茜他。その他の情報はブログ参照！【http://porsche.exblog.jp/】

ファイター関係者がこだわりの選出！

“俺だけの”なんでもランキング

ザ・グレート・サスケの 僕が出演したCMベスト5

俺だけの、俺だけによる、俺だけのためのランキングをうかがって、毎回さまざまなベスト5を選出！　第12回目は知事選敗戦ショックから復活！　精力的にリング活動を続けるザ・グレート・サスケが選んだ、なんと“私の出たCMベスト5”！

ざ・ぐれーと・さすけ■1969年7月18日。岩手県盛岡市出身。93年にみちのくプロレス旗揚げ。03年に岩手県議会議員に。07年は岩手県知事選挙に敗戦も、現在はプロレスラーとして精力的に活動中。180センチ、88キロ。

1
『東北塗料』
（2006年制作）

2
『エースコック“ラーメンの鉄人”』
（1995年制作）

3
『TSUTAYA サマーキャンペーン』
（1999年制作）

4
『JA全農“良米蔵”』
（1998年制作）

5
パチンコ店『ララ・フェスタ』
（2003年制作）

なぜかいきなり巨大化!? 地方CM独特のオチとは？

このコーナーいつも読んでますよ！　じつは編集部から「今年を振り返っての事件ベスト5」ってお題をいただいたんですが、それだと1位も2位も3位も4位も岩手県知事選敗退になっちゃう（笑）。

そこで一晩悩んで、〝私が出演した映画ベスト5〟を考えたんですが、残念なことに出ている映画が4本しかなかった（笑）。でも「コマーシャル（以下、CM）ならたくさん出てる！」と選んだのが〝私の出たCMベスト5〟！

地方CMが多いと思われるでしょうが、全国版にも出させてもらってますからね。

まず5位ですが、これは地方のCMで岩手県一関市のパチンコ屋の『ララ・フェスタ』さん。今回これだけ映像が用意できなかったんですが、パチンコ屋さんらしく次々と〝火の玉〟が飛んできて、それを私が蹴り飛ばしたり打ち返す内容。で、最後はなぜかお店の前でグーン！と巨大化しちゃう。地方のCMにはこの「巨大化して終わり」というオチがかなり多いんです（笑）。ベスト5の次点候補だった福島県の中古車販売の『大久自動車』さんのCMでも、私はハンパじゃなく巨大化してますから。

これは03年くらいのCMで県議会議員として当選したあと「覆面を脱ぐ・脱がない」の騒動があった頃の起用ですから非常に太っ腹なスポンサーでしたね。

全国版はギャラも全国規模!! 食品CMで商品はもらえる？

続いて4位はお米のCM！　しかも農協さん、いわゆるJA（全農）さんで初の全国版CMです。〝良米蔵〟（りょうまいぐら）というおいしい銘柄の米を厳選しているお米のブランドで、CMのコピーが「新米には負けない！」。

私と同じ覆面を被った子役と共演しているんですが、私が「新米には負けない！」と叫んだあと、なぜか試合の場面になって新米、つまり息子と対決して、最後はごはんを食べて終わる、と（笑）。ちょうどみちのくプロレスブームの真っ最中で「全国区に行くか？」というタイミングだったんで非常に嬉しかったですね。

あと「お米がもらえるかな？」と期待したんですが、これは残念ながら無理でした（笑）。ただギャランティのほうは全国規模でしたから、ノー問題です。

続いて3位も全国版のCM。レンタルのTSUTAYAさんですね。これは夏のキャンペーンだったんですが、私をはじめとした覆面一家が家の中でダラーッと夏を過ごしているところに「TSUTAYAに行けばいろいろあるのに」とナレーションが入る。ベランダで狭いビニールプールに4人が詰め込まれてるバージョンと2種類あったんですが、これは撮影も大変でした。

ただ、さすがTSUTAYAさんというか、各店舗で〝サスケ手旗〟を作ってもらったり、私の顔がズラーッ！　とディスプレイされたりして壮観でした。おかげさまでギャランティもよかったですから。またお願いしたいな、と（笑）。

そして2位もまた全国版。これは即席ラーメンのCM。エースコックさんの『ラーメンの鉄人』というCMですが、これは「東北から販売をスタートして全国展開しよう」という商品。さらに〝鉄人〟という言葉もあって選ばれたのかもしれない。内容的にはリングでファイトポーズを決めたあと、最後はラーメンを食べて終わるというものですが、ビデオじゃなくフィルムの撮影で現場はかなり大掛かりでしたし、画面も非常に雰囲気があるんですよ。

このときも「ラーメンをもらえるかな？」と期待したんですが、やっぱり無理だった。自分で買って食べてましたね（笑）。実際に味はおいしかったし、巡業でも「食べたよ」って声もかけられました。でも東北では好評でしたけど、全国展開以降はすぐ姿を消して、いまや幻の味ですね。

サスケ、〝あの映画調〟でCMを出演&監督していた!!

そして1位なんですが、これは力作ですよぉ！（と自信満々に）。ただ、ここで全国から地方に戻るんですけど（笑）。岩手県の海岸にある『東北塗料』という塗装会社。昨年のCMですが、これはなんと私に「CMを作ってくれ！」というオファーだったんですねぇ。

私もノリノリで絵コンテから出演、編集からすべてやりました。キャストにはみちのくプロレスの気仙沼二郎や、モデルをやってる私の息子までも動員してますから（笑）。

これは塗装会社のCMでありながら、岩山漆芸美術館で起こった殺人事件の手がかりを探していくという内容で……ズバリ！　映画『ダヴィンチ・コード』を意識してます。そこで一瞬だけ映る死体役が私の息子なんです（笑）。

現場に残されたヒントから謎を解こうとするんだけど探偵役の気仙沼が「わかったぁーっ！」と外に出て、なぜか美術館の屋根を指さして「屋根の塗装がキレイ！」とアピールするという展開ですね。

ただこのCMがわずか15秒。収まるハズもなくて最初は60秒になっちゃった。編集でつまんでつまんでなんとか15秒にまとめました。でも自分にとっては一つの作品みたいなものですよね。

ただし！　じつはなんとコレはギャランティが発生してないんですよ。いま、この件でちょっと揉めてるんですけど（笑）。思い入れとしては一番なんでこれが一位かな、と。

こういうCMのお仕事をいただけるのはホントにありがたいことですし、来年は私も鈴木みのる選手ばりにドンドン試合をしていこうと思いますが、CMのほうも出来る限り出続けたいですねぇ。

今後やりたいCMとして、私も一度は大好きなビールのCMをやってみたいッ！　そのときは今度こそビールのほうも一緒にいただければな、と。各広告代理店の皆さま、お待ちしてますッ！

ハッスルに限界なし

本誌の限界もブチ破る23ページハッスル大特集!!

LOVE & HUSTLE

11.25『ハッスル・マニア2007』でハッスルが破壊したもの そして新たに創造したものとはいったいなんだったのか!?

11.25『ハッスル・マニア2007』はプロレスに軸足を置きながら、もう片方の足をどこまで遠くに伸ばせるかという壮大な実験だった。決して小さくはない風穴をプロレス業界に開けたこのイベントがどのような影響をもたらしたのか。今号の発売日から約1ヵ月も前のイベントながら世間に打って出る『ハッスル』の闘いに焦点を当ててみたい。

構成／坂井ノブ　撮影／平工幸雄、山口比佐夫、平専英
写真提供／ハッスルエンターテインメント

ハッスル
破壊か？ 創造か？

破壊から創造へ

『ハッスル』4年間の集大成は再編集された古くて新しいプロレスだった

いまさらですがもう一度おさらい

ハッスル・マニア2007をPLAYBACK!!

4th HUSTLE

ちびっ子に大人気の『ケロロ軍曹』がプロレスをやる!! しかも試合中も声優の吹き替えつきという前代未聞の実験的な展開に。ケロロの試合コスチュームがかわいくないとの声は多数。

3rd HUSTLE

ウエポンマッチは凶器公認のルールなのでクロダーマンは自転車を使用。入場ゲートのパチンコ台が回転して当たりが出たらマーク・ハントが登場してパンチ二発で決着。場内は大歓声だった。

2nd HUSTLE

島田二等兵vs海川ひとみの因縁決着戦。粘着質な中年のセクハラに泣き叫ぶアイドルという構図を最高のキャストで表現。ボロボロのデビューから1年、海川は見事に輝いた。

1st HUSTLE

“モンスターK”川田利明のオープニングを受けてハッスル軍の若手が大暴れ。KUSHIDAの花道ダッシュ・トペ・コンヒーロなどイキのいい技が次々と炸裂して景気よくスタート。

この10年間、プロレスが世間の目に触れる機会はどんどん少なくなっている。地上波放送では深夜枠に押しやられ、レスラーたちは闘う理由も明確に打ち出されないまま己の肉体を極限まで痛めつけるような技を繰り出していく。しかも試合時間はけっこう長いのにザクザクに編集される。試合後のコメントは観客のいない通路や控室で報道陣に吠えまくっている。

あえてプロレスの「どうなのよ？」という部分を強調して列記してみたが、わざわざ入り口を狭めているとしか思えないようなことばかりだ。そんな業界に参入してきた『ハッスル』は従来のプロレスが抱える病巣を徹底的に否定することから着手した。プロレスラーだけでは知名度が足りないならタレントを起用する。選手をキャラクター化して、無意味な攻防をなくし、試合時間を短縮し、誰もがわかりやすい試合を心がける。歓声が上がるような仕掛けを用意する。試合後のコメントは一切なく、選手がアピールすべきことはリング上でマイクを使って観客に向けて語る。旗揚げから4年が経ち、そのノウハウもかなり蓄積されてきた。プロレスの何が通用して、何が通用しないのか。シビアな実験を重ねてきた結果が、『ハッスル・マニア2007』には集約されていた。

観客にとって不要な部分は削り、喜んだり驚いたりする部分を厚くするという作業で徹底的に再編集されたプロレス、それが『ハッスル』の正体だ。だが、プロレス業界では『ハッスル』が「プロレスではない」という定義になりかかっている。実際、07年のプロレス大賞では無冠に終わり、一部専門誌も扱いに苦労しているようだ。

だが、そんなプロレス業界を支配する定義も、逆に世間ではまったく通用していないようにも見受けられる。『読売新聞』（12月2日付）のラテ欄では『ハッスル・マニア』の地上波放送が「レスラーたちの迫真の演技」と紹介されており、「この見事な開き直りの前には“低俗だ”という非難も、おそらくむなしいだろう」と結んでいる。『週刊文春』ではコラムニストの亀和田武氏が『どハッスル!!』について肯定的に書いていた。賛否両論あるが、プロレスは再編集すれば世間でも充分に通用するのだ。

プロレスの定義や価値が揺れている時代だからこそ、『ハッスル』が提示した可能性には大きな意味がある。スポーツや格闘技の一ジャンルという狭い定義だけでははみ出してしまう『ハッスル』とはなんなのか？　これからの時代におけるプロレスの在り方を考えるきっかけになるだろう。

（文／坂井ノブ）

ハッスル
破壊か？ 創造か？

ENDING

ボロボロの坂田だったが、レーザービターン返しで力を使い果たした小池栄子似の妖精さんを介抱。抱き合う二人に「坂田」コールの場内。髙田総統も降臨して坂田を挑発、大晦日での対戦を示唆した。最後は坂田が涙ながらに感謝の気持ちをコメントした。最後は「3、2、1、ハッスル!!　ハッスル!!　ラブ・アンド～・ハッスル!!」で締めくくった。見事なハッピーエンドだ。

Main HUSTLE

無表情で動きのないエスペランサーの周囲を、さまざまな表情で坂田が動きまくるという静と動の対比が見事。レーザービターンではやぐら上のカメラマンが犠牲になった!?

Semi HUSTLE

無駄の一切ない6人タッグ。中森明菜ふうのインリン様は、バロ・スペシャルまで繰り出した。RGやボノちゃんはあいかわらず素晴らしく、この因縁は大晦日へと続いていく。

5th HUSTLE

あのボブ・サップをHGがリードしながら試合を進めるというとんでもない展開に。敗れはしたがHGの凄まじい力量がプロレスマニアにもしっかり伝わる内容だった。

健康優良不良少年時代から
地獄のリングス道場、
そして〝妖精さん〟参戦まで……
いますべてを語った!!

『ハッスル・マニア2007』の涙の“源流”を探る

坂田亘の人生狂騒曲

11.20『ハッスル・マニア2007』のメインという大役を“妖精さん”と愛の力で締めた坂田亘。最後は号泣しながらのマイクで感動のエンディングを迎えた。そこで本誌はあらためて「坂田亘とは何者なのか?」を問うロングインタビューを敢行! 波瀾万丈の人生を一気にプレイバック!

聞き手/坂井ノブ、堀江ガンツ　撮影/菊地茂夫

ハッスル
破壊か? 創造か?

―坂田さん！　今回はあらためて「坂田亘、涙の源流を探る」ということで坂田さんの生い立ちをたっぷりとうかがいたいと思います。

坂田　あん？　まだ34年しか生きてないよ。

―じつは『kami-pro』は坂田さんの深い部分を全然掘り下げてこなかったんですよ。

坂田　掘り下げる必要もないやろ？

―『ハッスル・マニア2007』で主役を張った以上、おもいきり掘り下げたいな、と（笑）。出身は名古屋ですよね？

坂田　ああ、愛知県の田舎のほうだな。

―今日は小さい頃の写真も持ってきていただいたんですが……、子どもの頃は非常にかわいらしいですね。

坂田　あん？　子どもの頃は？

―いやいやいや（笑）。

坂田　まあ、子どもの頃はやんちゃだったよ。弟と二人で家中を走り回ったり。家でチャンバラしてたら、高いところにあったカミソリが落ちてきて顔面血だらけになったり。ガラスの戸に突っ込んで何枚もガラスを割ったりな。

―小さい頃からハードコアでしたか！（笑）。その活発なエネルギーで格闘技を習ったりはしなかった？

坂田　田舎だからそういう場所がない。空手道場一つ探すのも大変だし。

―原点という意味では、もともとプロレスは好きだったんですか？

坂田　最初に引き込まれたのは初代タイガーマスクだよな。ちょうどその頃アニメも始まったじゃない？

―『タイガーマスク二世』（テレビ朝日系）ですね。

坂田　アニメとリンクしてたし、「アニメのタイガーが実際にリングで闘ってる」って信じてたもんな。

―当然プロレスごっことかも？

坂田　当時のプロレスごっこはかわいらしいもんで、ホントに暴れだしたのは中学生くらいの頃だよな。

―もしかして地元の暴走族に入ったりしてたんですか？

坂田　いや、地元には暴走族もいたけど、アイツらは弱かった！

―そうなんですか（笑）。

坂田　腕っぷしはたいしたことなかったし、彼らはケンカよりシンナーとかに向かっていくんだよ。それに比べて俺は〝健康優良不良少年〟だったからな！（と胸を張る）。

―〝健康優良不良少年〟！　イメージがいいような悪いような（笑）。

「盗んだバイクで走り出す～♪」と熱唱したい素敵なショット。（残念ながらバイクは自分で購入）。ナイスな髪型は「角刈りじゃねぇ、リーセントや！」とキッパリ。レスラーを目指しつつ、ダークサイドに目覚め始めた坂田亘16歳、青春の一枚。

坂田　シンナーなんて邪道だと思ったし、健康には気をつけてたから。

―でも、暴走族より暴れていたなんて、その頃から〝坂田軍団〟を結成されたりしてたんですか？

坂田　するわけないだろ！　……と言いたいけど、そういう軍団が確かにあったんだよ。通称〝坂田ファミリー〟と言われてたな（笑）。

―坂田ファミリー！　マフィアみたいですね（笑）。

坂田　その坂田ファミリーのせいで、中3のときに弟が中学に入学して、肩身の狭い思いをしたようなんだよ。

―兄貴がファミリーのドンだったらよけいな注目を浴びますよね。

坂田　で、俺たちは休み時間に校庭で、陸上の高跳び選手用マットでプロレスごっこしてたの。校舎を向いて「いくぞー！」とやったりさ（笑）。みんなこっちを観てたよ。凄いのはさ、中学の校庭でもドラゴンスープレックスとかやると、けっこう客が沸くんだよなぁ。

―ダハハ！　客じゃないです。ちなみに部活は？

坂田　体操部だったね。単純に体操部の人って筋肉質だから「筋肉がつくかな」って思ったんだよ。練習は部活で一番キツかった。

―それで〝健康優良不良少年〟が中学を卒業したあとの進路は？

坂田　じつは諸事情があって……中卒ってことにしとけ！

―諸事情！　いろいろと荒れていた時期だったということですかね。

坂田　争いごとは多かったな。友だちとゲームセンターで遊んでるだけで因縁つけられて、20、30人に追い回されたり、捕まって指を折られたりとか、毎日メチャクチャだったよ。

―指を折られるって、どんな毎日ですか、それ！

坂田　なあ。俺らが16、17のときにマンガの『BE-BOP HIGHSCHOOL』（きうちかずひろ著／講談社刊）がヒットしたけど。「こんなに楽しいわけねえだろ！」ってムカついてたから。

―ヒリヒリするような場所でサバイバルしていたわけですね。

坂田　ホントは中学を卒業したらすぐに新日本プロレスに入りたかった。当時はまだUWFが業務提携で新日本にいたじゃん？　新日本の中のUWFってグループだと思ってたの。

―同系列じゃないか、と（笑）。

坂田　でも夢中になったのは、UWFより前田日明！　前田日明が俺のすべてだった。最大の衝撃だったのはドン・ナカヤ・ニールセンとやった試合（『INOKI闘魂LIVEパート1』86年10月9日、日新日本プロレス両国大会）だよね。あれを観て「これしかねえ！」と思ったから。

―前田日明の勇姿を観て、プロレスラーを志すことになった、と。

坂田　ただし中学3年に進路を決めるときに田舎だから、「プロレスに行く」なんて言ったら、一斉に止めにかかる。それで人を通じて街のボディビルのジムを紹介してもらったの。

ホントに暴れだしたのは中学生くらいの頃!! 通称〝坂田ファミリー〟という軍団があった

坂田亘 思い出のロマンアルバム

「見たまんま赤ん坊や～」と坂田自身も語るとおり、生まれたてのキュートな坂田亘。なんと坂田は「この頃の記憶がある！」と熱弁。親にも「こういうこと言ってただろ？」と確認済とのこと。

坂田曰く「いまでも仲がいい」という2歳下の誠くんとの仲むつまじきツーショット。坂田は「いまでも慕ってくれている」と言うのだが「たまにビクついているけど」というからさすがだ。

満面のスマイルでじゃがいもの皮を剥く坂田少年。「たぶん小学生の頃のキャンプ旅行」でのショットとのこと。残念ながらこの頃の友人の名前は「まったく覚えてない」理不尽ぶり！

坂田少年、中学校に入りたてホヤホヤの一枚。「中学生になってから上下関係に気づき始めた」というが、坂田は1年生のときは静かにすごすが、2年生から徐々に暴れん坊ぶりを発揮！

—じゃあ地道ながら、プロレスラーへの道を歩んでいったわけですね。
坂田　バイトをしながら身体を鍛えだしたんだよ。でも、中学を卒業して社会に出ると急に道が開けたみたいな気分になる。しかも悪いつながりほど楽しそうに見えるじゃない？
—ダハハハ！
坂田　でも、クスリだけはやらなかったぞ。
—まったく自慢になりません（笑）。
坂田　へんな話、ボディビルのジムに行って鍛え始めたのと、悪いことに染まりだしたのが同時期なんだよ。
—じゃあ道を外れつつ、道を見い出していった、と（笑）。
坂田　そう。10代半ばで、大人の社交場で遊ばせてもらえるわけじゃん。そりゃおかしくなるよ。でも、人生としては挫折してた時期だよね。それに好き放題にやってたら、18歳のときに補導されて、その刑事さんに「おまえ、絶対に〝年少〟入れてやるからな！」って言われたの。
—少年院！　いつの間にか崖っぷちまで行き着いてしまったんですね。
坂田　さすがに俺も「ヤベェ！」って。年少なんて入ったら自分の人生はメチャクチャになるなって考えたし、さんざん親父やおふくろも泣かしていたから、さすがの俺もヘコんだよな。結局、入らなくて済んだけど。
—人生を見つめ直すきっかけになったんですね。
坂田　時間はあったから、自分の将来のことを2、3日ずーっと考えたね。その頃は格闘技やプロレスのことは頭の隅に追いやってたんだけど。「身体を使った仕事なら、年齢的に最後のチャンスだ」と思ったんだよ。
—土壇場で踏みとどまって上京を決意された、と。プロレス入りのアテはあったんですか？
坂田　全然ないよ！　でも同級生で東京に出てきてるヤツがいたから、観光気分でいろんなところに行って、浅草に行ったとき「アニマル浜口さんのジムってこのへんかな？」って裏路地を歩いていたら、突然聞こえたの。浜口さんの叫び声が（笑）。
—ダハハハハハ！　それは奇跡的ですね（笑）。
坂田　それで「あ、ここだ」と思ってジムに上がって浜口さんと話をさせてもらったの。浜口さんに「君、プロレスラーになりたいんだろ？」っていきなり指摘されて、何も考えずに「ハイ！」って返事しちゃった（笑）。そこから通いだしたんだよ。
—運命的ですねえ。ちなみに当時、浜口ジムにいたプロレスラーは？
坂田　小原（道由）さんはいないし、大谷（晋二郎）くんは新日本に入っちゃった時期。そのときいたのは船木（勝一）さんくらい。
—そこを東京の起点として、目標であるリングス入りを目指した、と。
坂田　当時、衛星放送とはいえ、テレビで流れててUWF系でリアルタイムで状況を追いかけられるのはリングスしかなかったんだよ。それに前田日明は最初に憧れた人だったから。
—それでリングスの入門テストを受けたんですよね。
坂田　俺以外に7人ぐらい受けたんだけど、みんな180センチ以上で170センチ台は俺だけ。俺が一番体力あるだろ？　と思ったんだけど、俺だけ落ちて俺以外のヤツはみんな受かったんだよ。
—当時のリングスは〝身体優先〟でしたから。
坂田　ところがガッカリしてたら、浜口ジムにリングス公式記録員の田代（徳一）さんが訪ねてきて「見どころがあるから、次回もテストを受けたら」と声をかけてくれたんだよ。そこでまた火がついて、当時のリングスは後楽園や有明コロシアムでバンバン試合をしてたから。何度も前田さんの出待ちをしたの。最初は「あっち行け！」って対応だったけど、回を重ねるごとに「また来たんか？」となって、「じゃ、明日テストしてやるから来いよ」と言われた。でもテストに行ったら前田さんはいなかった（笑）。
—ダハハハハ！　さすがだ（笑）。
坂田　でも「頑張ろう！」とテストを乗りきったんだけど。テストが終わって長井（満也）さんが前田さんに連絡してる姿をすぐ近くで見てたんだよ。ゼエゼエ言いながら、ドキドキしながら待ってるわけ。そこで電話を切った長井さんが「じゃ、おまえ入門！」って言ってくれたんだよ。

ruSAKATA

前田さんにショルダースルーで投げられたりデッドリードライブでブン投げられたよね

—ようやく自分の場所を見つけたわけですね。でも、入団したらしたで大変だったんじゃないですか？
坂田　過酷だったなぁ……。1ヵ月遅れで髙阪（剛）も入門してきたんだけど、その頃は最初のテストで受かってたヤツはほとんど辞めてた。
—それくらいハードだった、と。
坂田　俺は練習がしんどいのは覚悟できてたから「逃げ出したい」って気持ちはなかったけど、あの練習量はハンパじゃなかったぞ！
—よく存じ上げております。聞いただけで吐きかねない練習量で（笑）。
坂田　朝、道場に行って走って、スクワットに腕立てに腹筋。それを延々やって、「もう動かねぇ〜」ってときに長井さんや山本（宜久）さんにリングに呼ばれてスパーリングでボコボコにされる（笑）。それどころか、前田さんが道場に練習に来るときとかは、俺らが練習始めた30分後くらいに来るんだよ。俺らがスクワットのノルマの500回を終わって、「次は縄跳びかな？」ってときに、前田さんが（声真似で）「おまえらスクワットやれ！」ってまた始まっちゃうわけ。
—いま、やったばかりなのに（笑）。
坂田　でも「いまやったんですけど」なんて言えねえだろ？　それでまた500回やり直したり（笑）。前田さんの機嫌が悪いときは、結局、1000回くらいやったりしたね。
—あとリングスは受け身の練習も丹念にやらされたんですよね。
坂田　そうそう。不思議なことにデビュー戦が近づくにつれて受け身の練習が入るんだよ（笑）。髙阪から柔道の受け身の重要性も聞いてたけどね。最初は前回り受け身とかから始まるんだけど、だんだん慣れると前田さんから「ロープに走れ！」とか、「トップロープに登れ！」とか言われて。さすがに俺も髙阪も「なんだコレ……？」って疑問が湧くんだよ。
—リングスのスタイルとは関係のない動きですし（笑）。
坂田　一度なんか、前田さんに「ロープに走れ！」って言われて、戻ってきたら前田さんがショルダースルーの態勢に入ろうとしてたんだよ！
—ダハハハハ！　なぜだ（笑）。
坂田　こっちも「どうすりゃいいんだ……!?」って思ったけど、逆らわずビョーンと投げられたよ（笑）。
—ダハハハハハ！　あと、トップロープから前田さんのデッドリードライブも受けるらしいですね。
坂田　そうそう！　コーナーに登らされて身動きとれずにいると前田さんがノッシノッシとやってきて「おりゃあ！」ってブン投げるんだよ。前田さんは「ロシアのヤツは、こうして投げにくるで！」って言ってたけど、そんなの見たことないよな（笑）。
—前田さんも新日本道場でデビュー前にやらされたんでしょう（笑）。
坂田　ただ、受け身の失敗で亡くな

いつ何時も「社長は不在」なダブルクロス社長室に潜入！ 山口日昇のイスにふんぞり返り、波瀾万丈な“我が人生”を語りまくった坂田亘。超ロングインタビューとなった取材時間は、なんと2時間30分以上ッ！

（写真左）"絶対師匠"前田日明を中心に"兄貴分"の田村潔司、金原弘光らと坂田のリングス時代の一枚。田村に師事した"田村派"の坂田は、リングスに警鐘を鳴らす改革派でもあった。（写真下）99.3.22東京ベイNKホールのボリス・ジュリアスコフ戦での坂田。浜口ジム仕込みの特攻精神で"対抗戦向き"とされた坂田は他流試合にも積極果敢に参戦。

ハッスル 破壊か？ 創造か？

Wataru SA

前田さんにブチのめされている映像のこと？ ああいうことは珍しいことじゃないからね

った方もいるから、「通らなきゃいけない道なのかな」と思ってたよね。……しかし、ホントに昔の練習って練習のレベルを超えてるよ！

――"根性だめし"みたいな感じで。

ひたすら練習やって、ちゃんこは山ほど食えっていう。

坂田 髙阪が入って半年過ぎたあたりから、新弟子はずっと二人で、練習もキツかったけど、ちゃんこ当番も俺と髙阪が日替わりでやってたの。その頃は、やっと先輩とスパーリングやっててもなんとか逃げられるようになってた。楽しくてしょうがなくなるんだけど、そういう時間もちゃんこ当番しなけりゃいけないとなると、ストレスを感じもしたよ。

――そうした環境で迎えた94年のデビュー戦のことって覚えてますか？

坂田 いや試合よりも、その前に俺と髙阪でプロテストを受かったのが嬉しかったね。ほぼ入門テストと同じ内容なんだけど、体力がどれだけついたか見比べられるの。まず「スクワット500回を8分間でやれ」とか。

――500回を8分で!?

坂田 それを凄まじいスピードでやんなきゃいけない。そういう試練を乗り越えた結果、ヘルニアになっちゃったんだけど（笑）。

――そりゃデビュー戦より思い出に残りますよね（笑）。

坂田 プロテストの翌日が日曜日で休みで、月曜日の朝にフトンから動けなくなってたんだから。だからプロテストに受かってからデビューまでの4ヵ月間はほとんど治療だけ。

――いよいよ念願のデビューをはたすわけですけど、当時のリングスは他流試合みたいなものが多かったじゃないですか。いきなり緊張感のある闘いに巻き込まれていくわけですよね。

坂田 うん。リングスの登竜門的な『実験リーグ』を何回か重ねて、他団体の人たちが出てくるようになった頃だったし、藤原組や空手家とやった試合はヒリヒリしてたね。でも、対戦相手が3日前に変わるとか、ルールが当日じゃないと決まらないとか。いま考えるとありえないだろ！

――それにデビューしたばかりとはいえ、リングス・ジャパンの看板を背負ってるんですから負けるわけにもいかないですよね。

坂田 うん。俺らはデビュー1戦目でも2戦目でも、うしろにはリングスって看板がつくから。いまは事務所に所属してる人も、外部のジムの選手に簡単に負けたりするじゃん。当時じゃ考えられないぞ！

――精神的には"組"とか"一家"とかの世界ですよね（笑）。

坂田 完全に任侠モードだもんな。

――あの髙阪さんも当時は完全に"殺すモード"で試合をしたって言ってましたから（笑）。坂田さんはそういう他流試合（95年5月20日vs鶴巻伸洋戦）で覇気のない試合をしてインタビューを受けていたことに腹を立てた前田さんにブチのめされる伝説のVTRが流出してますね。

坂田 あのことはみんなが言うほど俺は気にしていないんだよ。ああいうのは珍しいことじゃない。

――珍しくはない（笑）。

坂田 でも証拠として唯一残っちゃってるものだからな。

――凄い映像ですけど、見る角度では殴る前田さんと、耐える坂田さんの師弟関係の絆さえ見えるというか。

坂田 ただ、あの試合も当日までルールが決まらなくて、試合でも相手は逃げよう逃げようとするから。

――"エスケープあり"で逃げるモードの人を極めるのは至難の業ですね。

坂田 いまならアームロックが極まれば全開で極めにいくわけじゃない。でもあの当時のルールだと足がロープにかかったら、また一から始めなきゃいけない。こんなスタイルがいまの人にできるのかって。わざわざ言うことじゃないけど、もちろんガチンコだぞ。いま30分一本勝負でエスケープ5回なんて言われたら、「ギャラ1億円くれ！」って言うよ（笑）。

――それだけ過酷なんですね。さらに前田さんという存在に加えて田村（潔司）さんという"兄貴分"の存在で、技術的にも成長していきますよね。

坂田 そうだね。ただ、田村さんがUインターからリングスに入ってくるときはホントに寝耳に水っていうくらい、突然だったの。

――誰もがパンクラスへ移籍するのだとばかり思ってましたね。

坂田 でも田村さんがリングス入団会見をやった日にたまたま事務所に行ったら前田さんに田村さんを紹介された。俺の先輩になる人なのにえらく腰も低かったし、しかも第二次UWFを経験した人は俺にとっては

特別な存在だから。

——まさに〝神話〟の中の人ですね。

坂田　俺が道場の細かいことを教えたり、気を使っていたんだよ。田村さんにとっては毎日が新鮮でありつつ、居心地も悪かったと思うけど。

——山本、成瀬（昌由）、長井の3人が田村さんにピリピリしてたとか。

坂田　お互いに腹の底を見せないって感じだったね。でもそういうのって疲れるじゃん？　それで田村さんがリングス勢と対戦していく時期と俺がヒザのケガで手術して入院してる頃と時期が重なったんだよな。田村さんも道場に顔を出さなくなって自分のジムを作ったでしょ。そこで俺が「練習に行っていいですか？」って感じで、精神的にも技術的にも交流がスタートしたんだよ。ただささ、いま思うとリングスは常に前田さんが道場にいれば一致団結してたって気がするんだよな。

——そこから徐々にリングスは内部分裂的な感じになるわけですが……。

坂田　みんなが前田日明を慕う気持ちには変わりはなかったけど、当時は「近いのに遠い人」って感じだったね。前田さんも俺らもどっちも気を使いすぎだったのかもしれない。前田さんからしたら「若手の連中は何を考えてるんや」って感じだったろうけど。

——距離が生まれてきてしまったんですね。前田さんは団体の長であり、マッチメイカーでもある。その人が同時にリングス・ジャパンのほかの選手と同様に一選手でもある、というのは非常に難しい関係ですよね。

坂田　いまだったらそんな体制は考えられんけどな。いまそんなことやったら、誰もついてこないだろ。

——そして01年にリングスを離れることになりますけど、そこから一転してプロレスの世界に飛び込もうと思ったのは何か転機があったんですか？

坂田　いや、明確な転機があったわけじゃないんだよ。その時期に新幹線とかでバッタリ橋本（真也）さんに会ったりすることが重なった。そこで山口（日昇・現ハッスルエンターテインメント社長）さんに橋本さんとの席を設けてもらったんだよ。ただ、「ウチに出てくれ」と橋本さんに言われて、「ハイ」って返事をしたら、その3日後くらいに勝手に発表されちゃってな（笑）。

——ダハハハ！　さすが破壊王！（笑）。ZERO-ONEではジュニアの試合が多かったですよね。

坂田　『天下一Jr.』に出て優勝したり、ロウ・キー（現・センシ）と試合をやったり、高岩（竜一）くんや葛西（純）くんとかともやったりね。

——ちなみにZERO-ONEの〝ボス〟としての破壊王はいかがでした？

坂田　ボスとしたらダメだろう！（キッパリ）

——ダハハハ！　ダメですか（笑）。

坂田　もちろん人間としては最高だよ。でも実務的な部分では、申し訳ないけどまったくダメだったよな。

——でも、メインイベンターとしての貫禄はあったんですよね。

坂田　素直に「素敵だなぁ」と思ったね。自分がテレビで観てたときの橋本さんの動きと比べたら、コンディションの差はあったけど。前田さんは前田さんのオーラがあったように、橋本さんには橋本さんのオーラがあった。

小川（直也）さんには小川さんの……それはあまりなかったか。

——そこは控えめな感じで（笑）。

坂田　でも地方に行ったときにメインでOH砲が出て来たときのお客さんの声援は明らかに違ったよ。「二人とも凄ぇな」ってホントに感心したよね。「たいして動いてねぇけど」とも思ってたけどさ（笑）。

——そうやってプロレスにのめり込みながらも、03年の『PRIDE男祭り』（vsダニエル・グレイシー戦）にも出ましたね。いまのところ、総合のラストマッチになりますが。

坂田　そうなるな。前々から話はもらってたんだけど、ZERO-ONEにレギュラー参戦していたから、あのタイミングしかなかったんだよ。

——その頃、ちょうど小池（栄子）さんともお付き合いされてましたよね。ぶっちゃけ、その話題性で引っぱり出された部分もあったんですよね。

坂田　ホントにぶっちゃけてんなぁ。

uSAKATA

——ただし放送席では一切そのことに触れないという不思議なスタンスでしたけど（笑）。

坂田　入場シーンで花道に上がったら、遠くの実況席に髙田（延彦）さんや彼女が見えるわけじゃん？　「こりゃあ見世物っていうか、死刑台みたいだな」と思ったし、2週間前から胃潰瘍にもなって絶不調だったしね。

——そこまで追い込まれてましたか

坂田　あとで彼女から聞いたら「スタッフから、『何もしゃべらないでください』って言われた」って。「どうせやるなら、しゃべらせてよ！」って言ってたよ。しかもその試合で脱臼して、翌年の『ハッスル1』にも出られなくなっちゃったんだから。

——そういえば、坂田さんはゼブラーマンとして出る予定だったんですよね。『ハッスル』に出てプロレスに対する意識は変わってきましたか？

坂田　でも初期はやるほうもスタッフもホントに手探りだったよ。いまほど目的が明確じゃなかったよね。

——そういう意味で、集大成的な『ハッスル・マニア』でみんなから神輿として担がれて主役に押し上げられましたけど。上に立つ人間として、いまこそ師匠の前田さんや橋本さんの気持ちがわかったりしますか？

坂田　もちろん質は違うけど、「メインを任される」とか「団体を背負う」ってのはこういうことかって感じた部分もあるよな。

——前田さんなんてビッグイベントのメインをいったいいくつ張ってるんだ？　って感じですしね。

坂田　時代が違うって部分もあるけど、そこは凄いと思うよ。やっぱり前田さんも自分しかわからないジレンマがあったり、練習に行きたくても身体が動かないこととかもあったと思うんだよ。俺も今回、腰が悪くて思うように身体が動かなくなっちゃったりして、座薬をブチ込んでやっと動けるような状態だったからさ。

（写真上）見てみぃ、このポーズ！　02年の「天下一Jr.トーナメント」の初代優勝者となった坂田をNo.59でスタジオ特写！「願いごとがかなう」水晶玉を握りノリノリの撮影。翌年も連覇をはたす大活躍ぶりだった。（写真左）ZERO-ONE地方大会の控室ショット。坂田にとって破壊王はプロレス、そして小池栄子との仲をとりもった“恩人”にほかならない。

俺の気持ちはマイクでしゃべったまんまだよ
素の自分を出すことしかできなかったんだ

Wataru S

ハッスル 破壊か？ 創造か？

――肉体的にそこまで追い詰められてたんですね。

坂田　むしろ今回のポイントは精神的な部分だったな。とにかく「ファンに受け入れられなかったらヤバイな」と思ってたよね。

――メインに立つにふさわしい人間なのか、って部分ですか？

坂田　うん。もし観に来た人にガッカリされたら、「俺だけの問題じゃねえな」って危機感はあったよ。それまで会場が盛り上がってても、俺のパートで客を引かせたら台なしだろ。

――とくに今回は、最高にいいものを見せたと思ってもお客に「何バカなことやってんだ！」と言われたらおしまいでしたし。

坂田　そう！　そこの反応はホントにやってみないとわからないんだよ。

妖精さんの「レーザービターン返し！」で勝っても「えぇ～っ！」て反応だって考えられますし。妖精さんを迎えに行ってリングに帰る最中にヤジが飛びまくってる可能性もあったわけですから。

坂田　だからホントに、うまくいってよかったよ。俺はな、大会前日眠れなかったからっ！

――じゃあ、最後のマイクで涙も流すわけですよね（笑）。

坂田　あれはウソ泣きや!!

――ウソ泣き!?

坂田　というのはウソだけどさ、俺の気持ちはホントにあのしゃべったマイクそのまんまだよ。あの空間やテレビを観た人に届かせるために、ああいう素の自分を出すことしかできなかったんだよな。あと「あれが試合と呼べるか？」って人もいるかもしれないけど。メインはメインじゃない？　俺がのし上がったにしろ、祭り上げられているにしろ、見晴らしのいいところに行かないとわからない部分はある。だからとても貴重な経験をさせてもらったよね。

――今回は奥様も相当な重圧があったんじゃないですか？　プロレスラーでもないのに、デビュー2戦目でメインを任されるなんて。

坂田　まぁ、彼女も楽しんでいたと思うし、前回も言っていたけど「こんな緊張感ないよね」って「四方八方から観られて、こんなに逃げ道がなくて恐ろしいところはない」って。

――へぇ～っ。場数を踏んでいる小池さんも緊張されていた、と。

坂田　言ってたね。だから『ハッスル』に出たいっていうタレントさんは相当な覚悟が必要だよ。軽く考えないでほしいね。それにみんな言ってると思うけど、ここがゴールじゃねえから。『ハッスル』はようやくスタートラインに立ったくらいなんだよ。

――ええ。初めて地上波放送で『ハッスル・マニア』を観た人の数って相当に多いと思います。いままで『ハッスル』を観てきた総数よりも多いんじゃないかって（笑）。

坂田　ホントにここからだね。

――そういう意味では大晦日もおそらく『ハッスル』を観る人の数も過去最高に多いでしょうし。

坂田　それを言い出したらキリがないけどさ。具体的な話を聞いてないから、そっちのほうが心配だよ！

――それに坂田さんは大晦日前に腰のレーザー手術をするそうですし。大晦日は間に合うんですか？

坂田　間に合うんじゃない？　でも治療をした人に聞いたら、「その日に帰れるし、2、3日で動ける」っていう話だったから手術を頼んだのに、いざ先生に聞いたら「10日くらいは安静です」って言うから困ったよ（笑）。

――メチャクチャ、ギリギリですよ！

坂田　ま、今年最後の大舞台だからなんとか間に合わせたいよ。俺様にはおまえらをしっかり食わせてやる役目があるからな！（ニヤリ）。

――はい（笑）。期待してます！

【07年12月7日／『kamipro』編集部にて収録】

さかた・わたる■1973年3月11日生まれ。愛知県中島郡出身。93年にリングスジャパンに入門、翌年11月19日のvs鶴巻伸洋戦でデビュー。01年にリングスを退団したあとZERO-ONEなどを中心にプロレスラーとして活動。現在は『ハッスル』が主戦場。07年はタレントの小池栄子さんと入籍。『ハッスル・マニア2007』で"妖精さん"と愛の力でザ・エスペランサーに激勝した。175センチ、93キロ。

“プロレス村”にもレーザービターン!!

プロレス復興のカギは“レーザービターン”にあり!?

11.25『ハッスル・マニア』座談会

坂田亘と小池栄子似の妖精さんの愛の力で『ハッスル』最強のボスキャラ、ザ・エスペランサーを倒し大成功に終わった11・25『ハッスル・マニア2007』。今回は元『週刊ゴング』編集長にして現在は『Gスピリッツ』を中心に活躍中の“熱血プロレスティーチャー”こと小佐野景浩氏を迎え、『ハッスル・マニア』を大総括。頭のお硬いプロレス村に“レーザービターン”座談会ですよぉぉ!

構成／阿修羅チョロ　撮影／平工幸雄

座談会出席者

ジャン斉藤
本誌編集長。永久電機に代表される〝アントン事業〟の真摯な調査・検証をライフワークとする32歳。好きなハッスラーはジュードー・オー。これぞ『ハッスル』史上に残る虚実入り乱れた名キャラクター。いや、入り乱れすぎ!?

坂井ノブ
本誌『ハッスル』担当。FMWやWWEなどエンタメプロレスを中心に担当していた編集部イチの『ハッスル』事情通。好きなハッスラーはクロマティとバンザイ・チエ。「クロマティ、また来ないかなぁ」が最近の口癖な30歳。

堀江ガンツ
本誌編集部。子どもの頃から変態的プロレスファン＆UWF信者として鳴らす『kami-pro』のプロレス博士。好きなハッスラーはモンスター・ボノとアン・ジョー司令長官。「ボノちゃんはプロレスの天才」と太鼓判を押す34歳。

小佐野景浩
元『週刊ゴング』編集長。現在は『Gスピリッツ』を中心に活躍する熱血プロレスティーチャー。高校1年のときに新日本ファンクラブ『炎のファイター』を結成、全国ファンクラブ連盟の初代会長も務めた。好きなハッスラーはRG。

ハッスル
破壊か？創造か？

『ハッスル・マニア』大成功であります!

ノブ　今回の『ハッスル』座談会にはブログで『ハッスル・マニア』を、「完成度が高くエンターテインメントとしておもしろかった」と書かれていた〝熱血プロレスティーチャー〟こと小佐野景浩さんを迎え、『ハッスル』について、いろいろとティーチしていただければと思っております。

小佐野　よろしくお願いします。

ガンツ　12月発売の『Gスピリッツ』さんの中でも『ハッスル』の特集をされてるみたいですね。

小佐野　そうですね。山口（日昇）代表との対談をやらせてもらって。内容的には読者層を考えて、ちょっと大人向きな話をしてるんだけど（笑）。

ジャン　詳しい内容のほうは『Gスピリッツ』を読んでもらうとして、噂によると取材をすっ飛ばされたみたいですね（笑）。

小佐野　そうそうそう（笑）。でも、凄く興味深い話を聞かせてもらったし、『kami-pro』読者の皆さんもぜひ読んでみてください。

ノブ　ブログでは『ハッスル』に対する印象がだいぶ変わったというお話でしたが。

小佐野　変わったっていうか、もともとこの手の、いわゆるエンターテインメント系のプロレスっていうのは嫌いじゃないんですよ。というのは、僕は冬木（弘道）さんがやってたエンタメ路線のFMWっていうのはけっこう支持してたほうだし、冬木さんの考え方も僕は好きだったから。要はあの人が言ってるのは、プロレスっていうのは真剣勝負と見てる人もいるだろうし、インチキと見てる人もいる。どっちだっていいんだよ、楽しんでもらえれば。だから、理想としては一つの勝負の中に真剣勝負もあれば、インチキもあれば、お笑いもあれば、ドラマもある。それがほどよくミックスされたのがプロレスのショーとして確立されてるもんだと思う、と。

ノブ　そのへんは『ハッスル』と通じるところがありますよね。

小佐野　そうだよね。当時も「なるほど、そうだよな」と思って。おもしろおかしく、いろんなことを使って客を集めるのは非常にありだな、と。要は観てもらわなきゃしょうがないわけだから。観てもらうためにいろんなことをやって客に来てもらう。それは企業努力でもあるし、素晴らしいなと思って観てたけども、残念ながらFMWも冬木さんもディレクTVが潰れてからは、お金もなくなって、エンターテインメントが非常にチチな感じになっちゃった、と。

ノブ　志は高かったんですけど、残念な感じで終わっちゃいましたからね。

小佐野　凄く残念だった。冬木さんも「とにかくこれはホントに金がかかる、金がなきゃできないんだ」と悩んでたからね。それであの人が亡くなってから『ハッスル』というものが出てきたから、じゃあこれはいったいどういう方向に行くんだろうということで非常に注目していたわけです。

「限りなくショーに近いプロレスをやる」と、いまは亡き冬木弘道が推し進めていたのが後期FMWのエンタメ路線。当時中継していたCS放送のディレクTVの放映権料もあり豪華な演出でビッグマッチを開催していたが、ディレクTV撤退後は一気にチープな演出に……。

ノブ　そうでしたか。で、旗揚げから4年経って今回の『ハッスル・マニア』があったわけですが、ショー全体として非常に完成度が高く、いままでの『ハッスル』の中でもベストじゃないかっていう評価がファンのあいだでも出ていますけども。

小佐野　ああいうショーって隙があったらダメじゃないですか。「ファイティング・オペラ」と名乗って、エンターテインメントを謳ってるものが未完成なものであったりしたら、とてもお客に見せるものではないし。たとえば従来のプロレスであれば、どんなにしょっぱい試合があってもメインがよければお客さんは満足すると思うんだけど。『ハッスル』は一つのショーだから、それが完璧じゃないと。「この試合がよかった」じゃなくて、ショーとして完成されてたかっていうところをやっぱりファンは観るだろうから。僕もそういう見方で『ハッスル』は観てるし。そういう意味では今回の『ハッスル・マニア』は完成度は非常に高かったと思いますよ。

03年12月4日に行なわれた『ハッスル』一発目の会見は榊原信行DSE代表（当時）の「プロレスですから」との発言に小川が激怒。当時、出版されたての高田延彦の『泣き虫』騒動も重なり、『ハッスル』は大荒れの船出となった。

ノブ　そんな感じでよかったなと思っていたときに発売されたのが『週刊プロレス』（No・1397）だったんですけど（と言って、『ハッスル・マニア』同日に行なわれたドラゲーのCIMA vs 鷹木信悟が表紙の『週プロ』を広げる。ちなみに表紙コピーは『プロレスに限界なし』）。

小佐野　まだ、ちゃんと読んでないんだけど、どういうことを書いてるんですか？

ノブ　まず「『ハッスル』はプロレスなのか」みたいな論旨を展開してまして。通常、『週刊プロレス』は10点満点で点数評価をつけてるんですが、『ハッスル』に関してはエンターテインメントなので満足度を星5つで表します、ということみたいで。

ガンツ　ミシュランブームに乗っかって（笑）。

小佐野　そういうふうに変えてるんだ。へぇ～っ、そうかそうか。でも、それ難しいと思うよ、1個1個取り上げたら。

ほかのプロレスと差別化したところでこの流れは止められないと思う（ジャン）

ガンツ　プロレス記者がプロレスを数値で批評するならわかるけど、プロレス記者がエンターテインメントを批評するってなったら、ターザン山本！の『シネマイッキ塾』みたいなもんですからね（笑）。

ジャン　『週刊プロレス』がいまのプロレスマスコミを代表するとすれば、『ハッスル』に対する向き合い方っていうのがイマイチわかりにくいですよね。それがこの評価システムに象徴されてるんじゃないか、と。

小佐野　だからプロレスとして捉えたいのか、そうじゃないものとして捉えたいのかっていうところがあやふやになってるんだろうね。

ノブ　『週プロ』がこの時点で出した結論は「そうじゃないものとして扱います」ということですよね、たぶん。

ガンツ　『週プロ』というよりは、「あれは別ものだ」っていうふうにしてほしいプロレスファンとか業界の人の空気を感じてやってるような気がしますけどね。

ジャン　いくら差別化したところでこの流れは止められないと思うんですけどねえ……。小佐野さんの周りではどうですか？ 「『ハッスル』はプロレスなのかどうなのか」って議論はプロレス業界ではあるんですかね。

小佐野　僕が思うのは、まず『ハッスル』みたいなものがあると、カミングアウト問題って出てくるじゃないですか。

ノブ　それこそ、つい最近の『週プロ』では高田本部長が表紙で「カミ

『マニア』を観てわかったのは、『ハッスル』ではレスラーもタレントも差はない（小佐野）

ングアウトしよう！」って出てきましたからね（笑）。

小佐野　僕なんかはカミングアウト云々っていうのはどうでもいいことだと思ってるわけ。っていうのは、プロレスっていうのは、たとえばもともとのルールが5秒以内の反則はOKだったり、レフェリーが見て見ぬふりしたり、火吹いても反則にならなかったり、かなりいいかげんな曖昧なものでしょ（笑）。

ガンツ　まったく、おっしゃるとおりです（笑）。

小佐野　非常にグレーゾーンなもので、ファンも「これってインチキじゃないの？」とか「これは真剣だ」とか、いろんな勝手な見方をしてるもんなんだから、勝手に楽しめばいいんだよ。白か黒かなんて決める必要ないから、グレーのまんまでそれを楽しみましょうよ、と。そういうところが僕のプロレスの好きなところだから。じゃあ『ハッスル』がプロレスかプロレスじゃないかとなると、従来の感覚からいったら、少なくとも今回のメインはプロレスじゃないね。だってレーザービターンだもん（笑）。

ノブ　従来のプロレスでは、ありえない技ですからね（笑）。

小佐野　まあ、最後はキックで決まってるから、技で決まってるんだけど、一番重要だったのはレーザービターンがどうなるかっていう話であって。僕は去年の『ハッスル・マニア』で髙田総統とHGがやったとき、ブログに「闘いがない。闘いがなき

『マニア』のMVPとの声も多いインリン様と、ボノの合体攻撃。それを受けるのが天龍というのも凄いが、中森明菜のデザイア風のインリン様のコスチュームも凄い、そしてエロい！　ボノちゃん、うらやましい！大晦日はお父さんのグレート・ムタも登場ですヨゥ!!

ハッスル
破壊か？ 創造か？

kami-pro Hand アンケート！

11・25『ハッスル・マニア2007』のMVPとその理由、大会の感想を聞かせてください！

● MVPは断トツで坂田。不覚にも泣いてしまった。昔、リングスの会場で坂田にブーイングしていた頃を思い出し、頑張ったんだなと。

●「小池の旦那ではない」坂田亘選手＋「小池栄子激似の」妖精さん、二人のLove＆HustleにMVP。エスペランサー敗北までもが霞んでしまったほどの、二人で一つの圧倒的な存在感に対して。

● MVPはインリン様。真のハッスラーはインリン様しか考えられない。ハッスルに出る芸能人はインリン様を少しは見習いなさい。

● MVPは山口日昇氏と演出担当者の方。笑わされたり泣かされたり、なんとなく悔しいけど文句なしです。

●『ハッスル1』から見てきたけど、最初の頃が嘘のようなクオリティになってきた。もうプロレスファンを隠さなくて大丈夫。『ハッスル』ファンだって言えばいいから。

● ケロロ軍曹にもっと強くなってもらいたい。

● 選手ではなくメインの試合自体がMVP。緊張感、笑い、涙、ドキュメンタリー、すべてのプロレスの（もしくはそれ以上の）要素がつまっていた。

● めちゃめちゃおもしろかった！　私はザ・ファンクス対ブロディ＆ハンセン。猪木対ホーガンや維新軍の世代ですが、『ハッスル』とは、もはやプロレスというジャンルでは計れないものだと改めて感じました！　ラブ＆ハッスルです！

● MVPは髙田総統。「うそだよ～ん！」は鳥肌が立った。煽って、仕掛けて、挑発する。すんげえ真面目に『ハッスル』は定型（退屈）化したプロレスをリボーンしようとしている！　のか？

● 酒を飲みながら観たら最高のプロレス！　ほうきに意味を持たせるプロレス！　誤解力のプロレス！　ただ……ハントは当日まで隠すべきだった！

● 海川ひとみがMVPだと思います。海川さんはグラドルなのに島田やバボに非道い仕打ちを受けながらも、くじけずに闘い抜き初勝利をあげたからです。仕事で行けないのを後悔するくらいに感動的で楽しめた大会だと思いました！

● MVPはインリン様。最初はイロモノと思って観ていたけれど、もはや、あのムーヴはプロレスラーそのもの。表情も抜群でファイティング・オペラという名前に最もマッチしている。

● プロレス界と混ざりたくないなら、独自で。利用するなら上手く。途上ではなく中途半端。よくやった、は逃げだ。おもしろい「試合」は観たことがない。

● キンターマン＆クロダーマンが最高でゲした！（※金村キンタローさんからの投稿）

● MVP？　そりゃインリン様でしょう！　あの美しさには息を飲みました……。

● MVPは島田二等兵。あまりにもわかりやすすぎる悪者ぶりに「ヌルヌル秋山」で輪をかけた潔さ。大会は過去最高。エンタメとして二段階ほど昇華した。

● MVPは海川ひとみ。一つ一つの技を出すときのドキドキ感が最近の技の洪水のようなプ

HUSTLE MANIA 2007

ゃいけないんじゃないか」というふうに書いたんですよ。でも今回はそう思わなかったのよ。っていうのは、これはファンタジーの世界の闘いだからっていう意識になっちゃってる。もしかしたら僕の中でも無意識にプロレスとこれは別ものにしてるかもしれない。ファンタジーの世界の闘いなんだからいいじゃない、レーザービターンでもなんでも。それでお客さんが喜べば。そこに目くじら立てることはないんだし、って思うようになった。

ガンツ　ボクはレーザービターン大肯定派で、ある意味、あれこそがプロレスじゃないか、と思っていて。なぜかというと、レーザービターンによってプロレス本来の一撃必殺のフィニッシュがよみがえった。プロレスの必殺技、フィニッシュホールドって、いわゆる〝記号〟でもあるわけじゃないですか。実際のダメージはともかく、観客全員が「あ～っ、これが出ちゃったらおしまいだ」って思えるものがフィニッシュという。

小佐野　昔の（ザ・グレート・）カブキさんの正拳突きとかね。みんなちょっと「ん？」と思うけど、これが決まったらもう試合が決まってしまうというね。

ノブ　わかりやすく言うと猪木さんの延髄斬りとかもそうですよね。

ガンツ　もっと言えば、ジャイアント馬場さんの16文キックは、「なぜ、足を上げただけで相手の大男が倒れるんだ？」なんて昔から言われてましたけど、観客全員に「これを食らったらもうおしまいなんだ」っていう認識があったからフィニッシュになってたわけじゃないですか。レーザービターンは、16文キックどころじゃないぐらいに「あれが効くわけねー だろ！」ってつっこめる技なのに、観客はいつ決まってしまうのか、ハラハラしてたわけですから、これは凄いことですよ！

ノブ　エスペランサーが指を構えただけで「キャーッ！」みたいな（笑）。

ガンツ　あの興奮って完全にプロレスの興奮だな、と。本来のプロレスって、猪木の延髄斬り、馬場の16文、ハンセンのラリアットといったフィニッシュが出るまでどう展開するかじゃないですか。そして坂田vsエスペランサー戦には、どエンタメにも関わらず、レーザービターンというフィニッシュが出るまでの緊張感があった。そこが素晴らしいんですよ。

小佐野　あとは純粋に凄いなと思ったのは、レーザービターンが出たら坂田は絶対に勝てるわけないわけ。だったら、坂田が勝つときはどうやって勝つんだろうっていうのを考えるわけでしょ。でも、まさかあんな手があるとは誰も想像してないっていうところは凄いな、と。

ノブ　小池栄子似の妖精さんの「レーザービターン返し！」でしたからね（笑）。

小佐野　そうそう（笑）。この手のものは人の想像の上をいかないとね。

ジャン　あまりにもエスペランサーの初期設定が無敵すぎて、そうでもするしかなかったという（笑）。

ガンツ　極端に言えば、レーザービターンとミルコのハイキックは一緒だと思うんですよ。実際の威力はともかく（笑）。どちらも一撃必殺で、みんながいつ出るのか、ヒヤヒヤドキドキしながら観ている。そういう意味で、坂田vsエスペランサーには逆説的なリアリティがありましたよね。ついでに言えば、ボクは「2・9プロレス」こそがプロレスからリアリティを奪ったと思ってるんです。格闘技ではキック一発でもまともに入れば、どんなに強い選手でもKOされるんですよ。いまのファンはそういった〝現実〟を観てるんです。でも、最近のプロレスは大技が何回決まっても試合が終わらない。レーザービターンより、そっちのほうがよっぽど非現実的でファンタジーですよ。

ジャン　僕は去年のHG vsエスペランサー戦で純プロレスをやっちゃたら、大げさに言うと、いままでの『ハッスル』を否定することになると思ったんですよ。だってエスペランサーは〝タマアゴ〟から生まれたモンスターですよ！

ノブ　それがハードゲイと純プロをやってどうするんだ、と（笑）。

ジャン　ブチ壊しですよ！（笑）。実際、あの二人が純プロをやれば及第点は確実に取れたけど、あえてファイティング・オペラの道を突き進んだことに鉄の意志を感じましたね。まあ、結果的には斬新すぎて引いてるお客さんもいたんですけど（笑）、あれはあれでいいチャレンジだなと思ったし、それが結局今回の大成功に結びついてるのは間違いないです。

ガンツ　いい落としどころというか、去年の反省点を踏まえてというか。去年の大実験があったからこそ、レーザービターンを話の軸として試合が展開するっていう空気ができたんで。まあ、もう二度とそれはできないですけどね（笑）。

ジャン　だから姿勢ですよね。『ハッスル』がどうするのかって。今年の『ハッスル・エイド』で唯一残念だったのは、高山善廣と鈴木みのるを出して普通の純プロレスをやったことなんです。内容的には、いわゆるプロレスマスコミが評価する〝いい試合〟になるのかもしれないけど……。

ガンツ　そういう〝いい試合〟だったら、高山、鈴木はほかの団体でもっといい試合してますからね。

ジャン　それに相手の川田はオープニングでCHAGE&ASKAを演じていたんですよ？　べつに『ハッスル』における純プロは否定しませんけど、ここは違うでしょう、と（笑）。

小佐野　そういう部分も含めて、いままでのプロレスの感覚ではやっぱり観れないんですよ。で、僕が一つ自分で勘違いしてたなと思うのは、結局プロレスのリングにタレントや格闘家が上がってくるっていう目で『ハッスル』を観てたし、周りも観てたと思うんだけども、今回の『マニア』を観てわかったのは、そうじゃなくて、『ハッスル』というファンタジーの世界にプロレスラーもタレントさんもみんな入ってきてるわけだから、その意味ではタレントさんもレスラーも同一線上であって差はないわけ。その中でどんなパフォーマンスができるかという勝負だから。そうなると、レスラーだからとかタレントだからとかないわ。みんな同じ世界で作り上げてるものだなって。

ノブ　レスラーが試合をするのは、そ

●MVPは海川ひとみ　一つ一つの技を出すときのドキドキ感が最近の技の洪水のようなプロレスと違って、こちらの胸にも響くような気がします！

●MVPは髙田延彦。最後にすべてを締めてくれる。まるでUインターを見てるようでした。

●MVPはレーザービターンで撃たれて見事に落っこちたカメラマン役の方。素晴らしい落ち方だった（笑）。あそこまで突き抜けたら拍手するしかない！　あまりの展開に涙が出ました（笑）。

●MVPはレーザービターン。観る側の〝ハッスル〟が試される恐ろしい技だ。

●MVPは海川ひとみ。一年前のガチファイングを大歓声に変えたのは彼女の努力の賜物でしょう。

●MVPはRG。あそこまでできるとは思わなかった。坂田の試合はまだ免疫ができてないのであそこまでやられるとちょっと引く。

●みんなハッスルしてましたね！　こんな感動を覚えるほどの真剣な茶番劇は初めて見ました。『ハッスル』には本当にプロレス本来の「底なし沼っぷり」を感じます。MVPは文句ナシで坂田！　でも海川が飛んだ瞬間も感動。大満足！

●MVPはインリン様。パロスペシャルに痺れた。それと、TAJIRIのキックをまともに食らったところ。

●MVPはレーザービターン。レーザービターンが技として定着している……この事実を前に、いまさら「ハッスルはプロレスか？」なんてナンセンスだ！

●MVPはインリン様。プロですね。この人こそ『ハッスル』にとって替えのきかない人。プロレス経験ゼロで超一流のハッスラーなったのは本当にスゴイことです。

●小池の旦那の奥さんがMVP。あれをまったくテレなくやるっていうだけでも凄い。つか小池の旦那の奥さん、現時点で日本最強女優だと思うんだけど、世間が気づいてなさすぎ。

●エンターテインメントプロレスとして観るなら楽しめる。ノアと比べるのは勘弁してほしい。

●MVPは髙田総統。『ハッスル』の大黒柱ですね。スペシャルウェポンとして、ハントではなくデンジャラスKやジュードー・オーなどが出てきてもおもしろかったかも。

●MVPは坂田亘。嫌いだったけど、めちゃくちゃかっこよかった。

●大の大人が、真剣にバカなことをやっているのを見ると、人は感動する。最高でした。参りました。素晴らしかったです。

●MVPは妖精さん！　妖精さんなしでは感動のフィナーレもエスペランサー撃破もなかったと思う。

●MVPはもちろん坂田！　正直なめてました。ごめんなさい。

●昨年はイマイチだったが今年は最高に素晴らしいファイティング・オペラでした。大晦日も楽しみにしてます。

●久しぶりに感動が伝わる興行を見ました。ヒヨードル対コールマン戦以来ですよ！

●MVPは、やはり坂田でしょう。最後のマイクはジーンとしました。

「過小評価されすぎ。彼のいぶし銀のインサイドワークは素晴らしい」と本誌プロレス博士・ガンツを唸らせたのがHG。数年前、プロレス大賞MVPを受賞したサップだったが立場は逆転!?　今後も『ハッスル』できんのか!?

作りものなのに本物の感情が見える、それこそがプロレスなんじゃないか、と（ガンツ）

ハッスル　破壊か？　創造か？

HUSTLE MANIA 2007

ういう役割であって、タレントさんにはタレントさんの役どころがあり、みんな『ハッスル』の世界を作ってる一要素でしかないってことですよね。リング内が主役で、リング外が脇役かっていうと、またそうでもないし。

ガンツ　でも、もともとプロレスってファンタジーの世界だと思うんですよね。昔は個性豊かなガイジンレスラーがたくさんいて、子どもにとっては、『ウルトラマン』に出てくる怪獣もブッチャーもアンドレも一緒ですよ。テレビを観ながら、プロレスという夢の世界に入っていってたんです。でも、いまのプロレスは全然、夢の世界じゃない。だから、ボクは魅力を感じないんですよ。

小佐野　だからよく〝非日常空間〟っていうけど、いまは会場に行ったって非日常じゃないもんね。だいたい生々しい「キャラがどうなった」とか、そんな話をしてる時点でうんざりなわけで（笑）。そこにはまったく非日常もファンタジーもないし。昔は大きいガイジンがいたり、いかがわしいヤツがいたり、シベリアから来たとかなんとか、正体不明のヤツが入国できるかって話なんだけどね（笑）。

ガンツ　それを「ファンタジーです」と言わずにやっていたのが、ボクらが大好きだったプロレス。それをいまは「ファンタジーです」と一応断りを入れて『ハッスル』がやってるだけで、新しいことというよりも、逆に本来のプロレスの楽しみに戻ってきてる部分もあるんじゃないかなという気がするんですよね。

小佐野　ハッスル軍と髙田モンスター軍の対立っていうのも、昔のプロレスの善と悪の対立とまるっきり同じで、それを踏襲してるわけだから。『ハッスル』は新しいと言いながらも、ちゃんと古いところというか、根本は押さえてるなっていうのは凄く感じるよね。

ジャン　でも、どのマスコミも『ハッスル』の伝え方に苦労してるじゃないですか。もっと言えば、『ハッスル』に限らず、これからはプロレスの伝え方が問われてきますよね。

ガンツ　いまは新聞系も専門誌も、『ハッスル』の試合も真っ当に試合として報道するっていうスタンスだからね。

小佐野　『ハッスル』の場合は書き方が難しいっていうのもあるだろうけどね。試合展開を「ここでレーザービターンが出て、こうやって返して、最後はトラースキックで勝ちました」ってダラダラ書いても、「バカじゃねえか？」って話だから（笑）。

ガンツ　「小橋がエメラルドフロウジョンをカウント2で返した」と同じトーンで「レーザービターンを返した」って書いてたらバカですよね（笑）。

小佐野　それをちゃんと読める記事にするんだったら、そのレーザービターンがこの試合でどういう意味があったのかとか書いて、初めて記事になるわけで。これまでの報道とはまたちょっと違うような料理の仕方をしなきゃいけないよね。

ノブ　でも、『週プロ』の編集長自ら「紙媒体としてはレーザービターンを出されては、もうどうしようもない。人工的に作られたものより、生身の肉体でプロレスラーたちが作り出す

闘いを評価するのが専門誌の務めだ」と書かれていましたからね。

ジャン　……いまのプロレスの勝負論こそファンタジーだと思いますけどね、極端なこと言うと。それに生身の肉体とかなんとか言うなら、でっぷり太って動けない三沢光晴がチャンピオンなのはあきらかにおかしいじゃないですか。三沢光晴というプロレスラーの記憶がない人からすれば、まるで説得力がないですよ（笑）。そこにいるだけで問題のない馬場さんならまだしも。

ガンツ　でも、レーザービターンだけでこれだけ語れるんだから、こんなに活字になることないですよ。ここまでほとんどレーザービターンの話しかしてないぐらいだし（笑）。

残念ながら試合は組まれなかった“モンスターK”だが、オープニングでは、田中星児さんと『ビューティフル・サンデー』を熱唱、続けて登場のオリエンタルラジオとは“武勇伝”を競演し、ハッスラーぶりを見せつけた。

小佐野　僕もこの大会の前に山口代表といろいろ話をしたけど、その想像よりさらにぶっ飛んでた大会だったわけで。度肝を抜かれた。「これはすげえな」っていうのと、結局、僕も従来のプロレス界に住んでる人間だったけども、少なくとも従来のプロレスの枠は飛び越えたよ、この『ハッスル』っていうのは。だからホントにこれがこれからの時代のプロレスだってなるのか、あるいはまったく違うジャンルとしてドーンと成立していっちゃうのかはわかんないけど。たとえば『ハッスル』がもし大成功して、ほかのプロレス団体がみんな『ハッスル』に寄っていくようなことになったら、これはまた困るわけで。

ノブ　それはそれで困りますよね。

小佐野　新日本はストロングスタイルをやっててほしいし、ノアはああいうスタイルをやっててほしい、大日本にはデスマッチやっててほしいとか、それぞれにちゃんと確立しててほしいっていうのは願いとしてあるけどね。新日本が『レッスルランド』をやったけど、あれはやるべきじゃなかったと思うし。

ジャン　きっと簡単に見えるんでしょうけど、相当に大変だと思いますよ。大会までのリハーサルというか打ち合わせを考えると、もの凄い時間がかかってるでしょうから。

小佐野　プロレスファンが好きな言葉を使えば「真剣勝負」って言葉があるけども、どこを真剣にやってるかの違いであって、『ハッスル』も真剣勝負だし、従来のプロレスだって真剣勝負であって。そのタイプが違うだけで、そこに関しては同じだと思うから。それこそ、ポンッとリングに上がればいいって世界じゃないわけだから。失敗は許されないわけじゃないですか、『ハッスル』の世界っていうのは。撮り直し利かないんだから。

ガンツ　このあいだのメインで失敗してたら大変ですよね（笑）。

ジャン　プロレス特有の「俺が俺が」精神があったら、今回だってあそこまで盛り上がってないですよね。みんなで坂田亘一人を盛り上げようとしてたわけじゃないですか。

ガンツ　これもまた昔からのプロレス本来のルールですよね。だからこそ、メインイベンターの技は使っちゃいけないとか、そういう暗黙の掟があって。そのルールがプロレス界になくなった中で、逆にもう一回縛りをつけてるって凄いクラシックなことですよね。

小佐野　そう、クラシックなことをやってる。だって個人が目立ちゃいいってビジネスじゃないんだから。

ガンツ　ずっとカッチリ決まってたのが、長州力あたりから壊し始めて、それが凄く刺激的だったけど、壊れた状態があたりまえになったら、もうなんの刺激もないですよ。

小佐野　まず日本人対外国人の構図が崩れただけでも、プロレスのそれまでの流れは崩壊したし。あそこから崩れてきてるから。

ガンツ　プロレスに格がなくなったら、勝敗の意味すらほとんどなくなりますよ。第1回『G1』で蝶野が優勝してスターになったのは、当時はまだ格があったからですよね。でも、いまはみんな横並びだから、『G1』で優勝しようが、『スーパーJr.』で優勝しようがスターになれない。

ノブ　プロレスは本来、スターを作れる部分があるんですけどね。

小佐野　でも、その期待と重圧に応えられる器かどうか見極めなきゃいけない。

グラドル海川を『マニア』のMVPとして挙げる人も多かったが、玄人筋に評価が高かったのが島田二等兵。秋山ばりに柔道衣で登場、セクハラ三昧で場内は超ヒートアップ!

ガンツ　あと、最後の坂田と妖精さんの感動的なシーンっていうのは、あれはリアルだったじゃないですか。チエとかRGが泣いてたのもリアル。天龍が凄くいい顔していたのもリアル。だから作りものなのに、本物の感情が見えるんですよ。

小佐野　ファンタジーの中にちゃんとリアリティがあるんですよ。

ガンツ　それこそがプロレスじゃないか、と。「底が丸見えの底なし沼」なんじゃないか、と。ハッスルは作りものだってみんながわかってる、要は底が丸見えなんですよ。でも、坂田やRGの涙、坂田と妖精さんの言葉のやりとりは、どこまでがホントでどこからが作りものかがわからない〝底なし沼〟ですよ。観客はラストシーンを観ながら、いつの間にか底なし沼にはまっていた。だから感動したんです。やっぱり底なし沼にはまらせてくれないと、プロレスはおもしろくないですよ。

小佐野　そういう意味では『ハッスル』は地上波もスタートして、大晦日もやって。これによって世間がプロレスというものに注目してくれればいいよね。

ジャン　注目されるのかもしれないし、誤解されるのかもしれないですけど（笑）。

小佐野　それはわからないけど、とりあえずこの業界の一つの爆弾というか、起爆剤にはなってるわけだから。

ジャン　その爆弾をあーでもない、こーでもないと論じるのがマスコミの役割でもあって、そこを放棄する行為こそが最大の間違いだと思うんですよ。つまり、我々は妖精さんのように〝LOVE&HUSTLE〟の盾を持ってレーザービターンに立ち向かわないといけないんです！（笑）。

小佐野　これを食わず嫌いにしてちゃいかんだろ、と。嫌う人は観て嫌えばいいんだし、観もしないで「あんなのは！」っていうのは一番くだらないことだから。

ノブ　もの凄くあたりまえの話になりましたね（笑）。

【07年12月1日／『kamipro』編集部にて収録】

プロレス大賞では決して評価されない"世間との闘い"へ——。

12.31『ハッスル祭り』はプロレスの総力戦である

ハッスル
破壊か？ 創造か？

大晦日の『ハッスル祭り』は『ハッスル』史上最大のビッグマッチであり、勝負の舞台だ。しかし、12月12日現在カードが一つも発表されていない。いままでの『ハッスル・マニア』や『ハッスル・エイド』でも、一つぐらいはカードが発表されていたものだが……。大丈夫なのか!? とはいえ、『ハッスル』は「こいつとこいつが闘うなら観に行こう!」という対戦カードで客寄せをするイベントではない。会場に行けば何かがある、という期待感とイメージだけを発信してここまできたという実績がある。

11月の『ハッスル・マニア2007』では大いなる感動のクライマックスを迎えた『ハッスル』が燃えつきていないか心配だ。もちろん、そんな心配をしなくても『ハッスル』は次の大一番に向けて動き始めており、髙田本部長も今号のインタビューで「出役もスタッフも大晦日に向けてすぐに走り出している」と語っている。

大舞台にふさわしい大物芸能人に水面下でコンタクトを取っているという噂だけは聞こえてくるのだが……。いったい誰なんだ!?

出場メンバーとしては、おなじみのハッスル軍と髙田モンスター軍のメンバーに加えてグレート・ムタの参戦が発表されている。07年のプロレス大賞の受賞者は一人も出場しないが、大晦日の『ハッスル祭り』に出場するプロレスラーたちはそれぞれの時代を彩ってきた大物プロレスラーばかりだ。天龍源一郎、髙田延彦、川田利明、グレート・ムタ（武藤敬司）、曙、TAJIRIという80年代から00年代までのプロレス界を熱く、激しく、牽引してきたスーパースターたちに坂田亘、インリン様、HG、RGといった『ハッスル』発のスター軍団が絡んでいくことになるだろう。

大晦日のゴールデンタイムで2時間の地上波放送は『ハッスル』にとって、いやプロレス界にとってもこれ以上ない大チャンスである。いままで『ハッスル』がプロレスの枠を拡張しながら闘い続けてきた総決算だ。だが、プロレス界は格闘技界のように大連立が組めるような状態ではない。

さいたまに集結するメンバーはいまのプロレス界の中心地、というかプロレス村の主流からは微妙な距離がある人たちばかり。プロレス大賞では決して評価されない"世間との闘い"に挑む男たちを見届けよう。

大食い王者・ジャイアント白田が大晦日に参戦!! 対戦相手は大晦日の視聴率男〝ジャイ・シル〟か!?

ハッスルデビュー戦が決定!!

11・25『ハッスル・マニア』の休憩明けに、いきなりジャイアント馬場のテーマ曲である『王者の魂』が流れた。入場してきたのはジャイアント馬場でもジャイアント・バボでもなくて、ジャイアント白田だった! 『TVチャンピオン』(テレビ東京系)の大食い選手権で優勝した元祖フードファイターである。身長195センチという日本人離れした高身長と、大食いという武器を持ってファイティング・オペラの世界に飛び込んできたのだった。

ジャイ白はリングインすると、「大晦日、僕が『ハッスル』をたいらげます。お腹を空かせて待っていてください。必ず皆さんを満腹にしてみせます」とマイクアピール。デモンストレーションとしてカレーのイッキ食いを披露して喝采を浴びた。

大食いの世界では間違いなく世界トップレベルのジャイ白だが、これがファイティング・オペラの世界にどのように当てはまるのか!? かつて新日本プロレスの小林邦昭は新幹線の東京―新大阪間で食堂車のメニューを全部たいらげたという伝説を持っていたが、いまや新幹線に食堂車というものが存在しない時代になってしまった。プロレスと大食いは、〝怪物性〟という部分でつながっているだけに、その相手にも注目が集まる。

大晦日といえば必ずといっていいほど日本で試合を行なっている〝大晦日高視聴率男〟ジャイアント・シルバとのジャイアント対決が噂されているが、どうなる!? (注/12月12日の時点)。

知名度も体格も実績も申し分ないジャイ白がどのような闘いを見せてくれるのか!? おおいに注目したい!

ハッスルの2007年上半期最大の大会をDVDで堪能せよ『ハッスル EPISODEⅡ DVD 2』12月26日にモンスターッ! と発売

髙田総統が『ハッスル』を買収した07年2月以降のストーリー、いわゆる「EPISODEⅡ」のDVDシリーズが11月から続々とリリースされている。12月26日には『ハッスルEPISODEⅡDVD2』の発売も決定した。これには上半期最大の大一番である『ハッスル・エイド2007』の模様が完全収録されているぞ! 『ハッスル・マニア』の感動的なクライマックスは、『ハッスル・エイド』がストーリーの大きな起点になっているから見逃せない。

なんといっても、この『エイド』の最大の注目は、RGが魔界から召喚してしまったグレート・ムタである。なんとインリン様の股間に緑の毒霧を噴射するという大スキャンダルが発生! これがのちにインリン様のご懐〝卵〟につながり、イン珠の産卵、そしてモンスター・ボノの誕生へとつながっていく。この試合の最後にムタの毒霧を受けてリング下へ転落するRGのぶざまな姿は、今年最もフォトジェニックな名シーンだ。

『エイド』には元読売巨人軍のウォーレン・クロマティも急遽参戦! 「子どもの頃からプロレスファンだった。ワフー・マクダニエルが大好きだったんだ」というクロマティは、〝インドの狂虎〟タイガー・ジェット・シンと対戦。そう、この試合はジャイアンツvsタイガースという『ハッスル』版〝伝統の一戦〟だったのだ! 血の気の多い両者の激突は、観る者の血をたぎらせる!

オープニングでは髙田総統と〝モンスターK〟川田利明が、CHAGE&ASKAの名曲『YAH YAH YAH』を大熱唱! いきなり会場を一つにまとめるという荒業を繰り出してきた。

そして、このDVDで最大の注目はHG vs天龍源一郎のシングルマッチだろう。かの〝天龍番〟小佐野景浩氏が衝撃を受けまくったという超ド級のサプライズは見逃し厳禁! 2月以来、髙田総統のむちゃブリに対してすべて受け身を取ってきたHGの意地が爆発する! これぞ、ハッスラーという至高の闘いである。男・天龍の生き様もプロレスファンならしっかりと見届けていただきたい! とにかく必見! (文/坂井ノブ)

『ハッスル EPISODEⅡ DVD 2』
標準価格/4800円(税込5040円)
発売日/07年12月26日　発売元/エンターブレイン

芸能界随一のプロレスファンが
ファイティング・オペラの魅力を分析

ハッスル
破壊か？ 創造か？

くりぃむしちゅー

有田哲平が語るハッスル論

聞き手／佐藤譲　撮影／平工幸雄
試合写真／山口比佐夫、平専英
写真提供／ハッスルエンターテインメント

大みそかは世間の人を振り向かせてほしい。それができるのは『ハッスル』だけですから

『アメトーーク！』（テレビ朝日系）ではザ・コブラについて語り倒し、『とんねるずのみなさんのおかげでした』（フジテレビ系）の「細かすぎて伝わらないモノマネ選手権」では髙田延彦や長州力のモノマネを惜しげもなく披露する。そして、フジテレビ・ショックで『ハッスル』がピンチに陥ったときには有田総統となって観客の暗いムードを吹き飛ばし、最高の笑顔を届けてくれた。

くりぃむしちゅーの有田哲平は、プロレスに愛を注ぎ続ける本物のプロレスファンであると同時に、プロレス魂を背負ってブラウン管の向こうにいる世間と勝負している芸人である。それは『くりぃむナントカ』（テレビ朝日系）や『むちゃぶり！』（TBS系）といった彼の番組を観れば感じることができるはずだ。そしてお茶の間でのブレイクを目指す『ハッスル』の視線は、間違いなく有田と同じ地平線を睨んでいるはずだ。そこで今回は先日行われた『ハッスル・マニア』について、そして対世間という点においてまさしく天王山となるであろう大晦日の『ハッスル祭り』について、率直に語りまくっていただいた。

――『くりぃむしちゅーのオールナイトニッポン』（ニッポン放送）のポッドキャスト（07年11月28日配信）を聴かせていただきましたが、全体の半分が『ハッスル』の話でしたね。語りすぎなぐらい濃厚なハッスル・トークでした（笑）。

有田　聴いていただいたんですか？　ありがとうございます！　たぶん、来年の一発目の『オールナイトニッポン』はますだおかだを呼んで、ひたすら昭和プロレスの話をすると思います。

――凄いなぁ。以前は長州力の『力説』（小社刊）についてもお話ししてましたよね。

有田　『kamipro』もムック本も単行本も全部網羅してますよ。ほかの雑誌だと最近では『Gスピリッツ』（辰巳出版刊）がおもしろかったですね。長州が噛ませ犬発言やったところが表紙ですから（笑）。

――特定層のマニアにはたまらないでしょうけど（笑）。

『くりぃむナントカ』で共演した海川の奮闘に有田も感涙！　海川も試合後、「『ハッスル』が大好きです！」と号泣した。

ひさびさにプロレスを観て泣きましたね！その前に泣いたのも05年の『マニア』ですよ

有田　あれに載っていた長州がメキシコで大仁田と一緒になってたという事実にはシビれましたよ！メキシコで接点があって、ひょっとしたらお互いいい感情がなかったのかもしれない。それが時代が巡って電流爆破になるという……、いやぁ、プロレスは歴史だね（しみじみと）。

——20年以上前のことですから、ほとんど調べようがないですよね、ネットでも。

有田　テレビと1ヵ月に一回出る雑誌しか情報がなかった。いまは情報化社会でなんでもわかってしまう時代ですからね。でも、そんな時代の中にもそれなりの楽しみ方はあると思いますけどね。

——じつはそこに挑戦してるのが『ハッスル』なんじゃないかなって思うんです。

有田　うん。ホントに優秀な人たちがやってるんだなって思いますね。『ハッスル・マニア』でもメインでザ・エスペランサーが負けた。そのあとに髙田総統が倒れるんだけど、すぐに「うそだよ～ん！」って復活するVTRが流れましたよね。テロップがある時点で「なんだよ、勝敗は決まってたんじゃん！」って話ですよね（笑）。

——事前に編集してやがったのか！　と（笑）。世間の人は「そんなの知ってるよ」ってことになるんでしょうけどね。

有田　でも、『ハッスル』がやってるのは「だからどうした？」ってことですよね。そういう古い価値観にとらわれてたら、たぶん新しいおもしろさは追求できないんでしょう。

——あと僕は有田さんがやっている『くりぃむナントカ』や『むちゃぶり！』もそうだと思うんですよ。いわゆるテレビ的な……普通の人がわかってるような「お約束」に対しても勝負しているというか。

有田　ああ、なるほどね！　ロープに振ってラリアットがくるって流れをわかった上で崩していく、と。　そういうイズムはあるかもしれない。確かに『視聴者もバカじゃないから、わかってるだろ』という思いは原点にありますね。

——そういうスタンスが『ハッスル』と共通してるなと思うんです。さて、そんな有田さんに今回は『ハッスル・マニア2007』についていろいろお話をうかがいたいと思います。

有田　ひさびさにプロレスで泣きましたね。じつは、その前にプロレスで泣いたのも『ハッスル・マニア2005』なんですよ。HGにすぐ電話して「マジであの試合、良かったよ！」って。現場で会ってもHGにドキドキしましたから（笑）。僕は感動の映画とかでも泣けないんですけど、プロレスだけは泣くんです。それは作りものとしていいものってより、僕が勝手に主催者みたいな気分になってるからなんですけどね（笑）。だってね、伝説の『ハッスル1』から観てるわけですよ。

映像にテロップが乗る、ということは事前に収録して編集しているのだ。これは、つまり……、そういうことだよ。バッドラックだ！

ハッスル
破壊か？ 創造か？

——観客が少なくて末期の川崎球場みたいになっていた伝説の『ハッスル1』を！（笑）。

有田　髙田延彦さんがまだスーツでね。『ハッスル2』から髙田総統が出てきて、おもいっきり振り切ってるのを観て「うわぁ、試行錯誤してやってるな」って。そしたら小川（直也）選手がハッスルポーズ流行らせて、HGとか和泉元彌とかインリン様が出て世の中に浸透していった。このあいだ女の子とコンパをやったときに聞いたら、みんな『ハッスル』を知ってるって言うんです！　そうすると僕は「『ハッスル』もここまでよく頑張ったね」って涙が出てくるんですよ（笑）。

——成長を見守る保護者みたいですね（笑）。

有田　もちろん、なんでもかんでも最高だとは言わないですよ。「あれ、今日の大会はなんなの？」っていう大会もある。でも、それがあるから次につながったり感動になったりするわけですよ。

——では、まずモンスターKのオープニングはいかがでしたか？

有田　あそこは安心して観てられますよね。オリエンタルラジオはよくスケジュールが合ったなって意外と冷静な目になっちゃいましたけどね。ギャラとか大丈夫？って（笑）。田中星児だけで終わらなかったところで、僕は「おおっ！」ってなりました。ただ、川田選手が試合がないのはその時点では信じてなかった。小川直也電撃復帰のパートナーだと思ってたから（笑）。

——そんな妄想が頭の中で膨らんでたんですか！（笑）。では、第一ハッスルから順

ハッスル論

プロレスもお笑いも魂が入ってないと、おもしろいものも、おもしろくならない

番に振り返っていただきましょうか。

有田　試合うんぬんより、\(^o^)/チエ選手とKUSHIDA選手がやっぱり『ハッスル』のキーになってくると思うんですね。『ハッスル』って誤解してる人からすれば、過去の遺産を食い潰してるようにも見える。たとえば長州力を呼んで、ハッスルポーズをやるのかやらないのかって攻防はゾクゾクしましたけど、それもいつかは終わる。でも二人は自家培養でしょ。この人たちがどうスターになっていくかに『ハッスル』の命運がかかってると思います。だから僕は彼らの成長を見守ってます。

――次は海川ひとみの試合ですが……。

有田　良かったなぁ。「アイドルが女子プロレスラーよりかわいいってだけで、リングに上がられたら困るんだよ！」ってプロレスファンとして観てたんです。昔、あのビートたけしさんですらブーイングを買ったじゃないですか。

――TPG（たけしプロレス軍団）ですね。

有田　海川も去年の『マニア』でデビューしたときに『プロレスをナメてました』って言って、そのあとリング上で眞鍋かをりとしゃべってて、観客はみんな引いてたでしょ？　それがあったから今回の彼女の頑張りにはホントに涙が出ました。魂を見せないとプロレスって難しいんだなって思いましたね。

――本気が伝わらない限り、観客には響かないんですよね。

有田　新しいファンも昔のファンもそこは共通してあるんでしょうね。エンターテインメントというものはすべてそうかもしれないけど。「こうやればいいんでしょ」みたいな雰囲気でやられたら絶対に楽しめない。お笑いもそう。優秀な作家がいれば絶対におもしろいネタができるはずじゃないですか。でも芸人の気持ちが入ってないとおもしろくはならない。だから海川は魂が入ってたんじゃないですかね。何十年もプロレス観てきて勝敗なんてどうだっていいところまできてるのに、勝ったときはやっぱり嬉しいものなんですよね！（笑）。

――まさかアイドルの試合でそれを感じるとは思いませんでしたよね（笑）。次は第三ハッスルのウエポン・マッチです。

有田　最高でしたね。だって、元K－1 GP王者のマーク・ハントをあんなもったいない使い方してるんですから（笑）。しかも"フリ"が効いてますよね。ウエポン・マッチっていったら出てくるのはもう凶器、つまりモノ以外考えられない。でも、人が出た。しかも、それがマーク・ハント（笑）。おまけに二発殴っただけで終わり。そんな説得力のあることってありますか？　ハントがプロレスの試合をしたら説得力なくなりますよ（笑）。あれで大正解でしょ！　今回はプロレスを初めて観る人と観たんですよ。僕はプロレス観るときって基本的にそうしてるんです。ここはつまんなそうにしてるなとか、勝手に研究しながら（笑）。その人は『おもしれぇ！』って全部観てましたから。で、今回の『ハッスル』って初めて観る人でも全部引っかかりがあるんですよ。グレート・サスケは"岩手県議員の人"で知ってる。ケロロ軍曹、RG、曙、インリン、ボブ・サップ、小池の旦那もみんな知ってる。これも凄いことですよ。

――いろんなところに必ず引っかかるという（笑）。そのケロロ軍曹の試合はいかがでしたか？

有田　すごく実験的な試合でしたよね。ここも普通のプロレスじゃないところが好きなんですよ。吹き替えがあるプロレスはいままでにないですよね。しかもヒーローなのに負けちゃうんですから。現代におけるヒーローキャラというもののあり方を表わしてますよね。それと、ケロロ軍曹は今後の『ハッスル』を占う意味でも、大事な存在ですよ。子どもにアピールできるのは強いですから。

――試合コスチュームがあまりにかわいくなかったので、その修正が今後の命運を左右しそうな気がしますね（笑）。HG vsサップはいかがでしたか？

有田　普通にプロレスの試合として良かったですね。HGはいつの間にこんな安心感が出たんだろうと思いました（笑）。サップはやっぱり絵力がある。入場しただけで名場面ですからね。ノゲイラvsサップはホント名勝負だったと思うんですけど、サップがお茶の間にウケたのってむしろあの愛すべきキャラクターじゃないですか。毎日

11.22『ハッスル・ハウス』をお忍びで観戦。そのまま参戦表明して、誰と試合をするのかと思ったらウエポンだった。

有田哲平が語る

コツコツ練習して相手をぶちのめすことが好きな人じゃないんですよ。お笑いでも絡んだことありますけど、空気を読んでおもしろいことをやってくれる。だから『ハッスル』が一番合ってると思うんですよ。『ハッスル』を安住の地にしなよって言いたいですね。

——続いてはセミハッスルですが。有田さんはインリン様を絶賛してますよね？

有田　インリン様は天才ですよ。マイクで噛んだり、ミスったりすることもありますけど、素の顔は絶対に見せないでしょう。常にインリン様の状態を保ってる。それはなかなかできないですよ。お色気もやるけど絶対に下品にはならないし、やることに一本筋が通ってる。だから「子どもは観ちゃダメよ」って感じではないし、かっこいいんですよ。

——同性にも好感を持たれますよね。インリン様の息子モンスター・ボノはいかがですか？

有田　以前、あるお笑いの特番をやったときにゲストで来てくれたんですけど、そのあとに『笑っていいとも！』（フジテレビ系）のテレフォンショッキングで僕らを紹介してくれたことがあるんですよ。「僕のお笑いの師匠ですから」って。

——そうなんですか⁉（笑）。

有田　一度、競演しただけなんですけどね（笑）。でも、曙選手も根っからのエンターテイナーだと思いますよ。総合格闘技やK—1の試合で、何度やっても勝てないのもエンターテインメントの一つかもしれないと思いますからね（笑）。だってあの貴乃花親方とライバル関係だった人が、おしゃぶりを取ったか取らないかで豹変して、あんなファイターを演じられるんですよ。考えられます？（笑）。

ハッスル
破壊か？ 創造か？

——横綱時代からは想像もつきませんよね（笑）。天龍さんはどうですか？

有田　天龍選手をあんなふうに演出できる『ハッスル』は凄いんだと思う。僕は「あの天龍源一郎があそこまでやってるんだから応援しよう」って思う。でも天龍選手を初めて観る人は、天龍選手が『ハッスル』でやってることの凄さがわからない部分もあると思うんですよ。それはもったいないですよね。まあ、贅沢な話なんですけど。

——RGはいかがですか？

有田　あいつのダメなところを前面に出してるところがいいですよね。だから素直に観られる。あと、去年の『ハッスル・エイド』に参加したときに気づいたのは、バックステージでもみんなにかわいがられてるんですよ。お笑いの世界でもあそこまでイジられないですから（笑）。だから本当によかったなぁって。

——お笑いの世界より、『ハッスル』に適性があるのかもしれませんね（笑）。さて、いよいよメインですが……。

有田　何もかも素晴らしかったですね。単純に『トレーニング・モンタージュ』が流れた入場シーンがたまらないですね。僕も仕事で大一番が控えてるときは朝、あの曲をかけますから。あの曲には哀愁があるんですよ。

——人生が乗っかってる感じがありますよね。

有田　そう！　本当は行きたくないのに行ってる感じがするんです。これってさかのぼれば95年の髙田延彦vs武藤敬司ですよ。なんでメインでいままで背負ってきたUインターを、いまから武藤と闘って、しかも足4の字固めで負けてしまうのか。プロレスラー・髙田延彦の心中を想像すると、凄く嫌だったろうなぁって思いますよ。Uインターの借金のためなのか、もしくは若手を食わすためなのか、わかりませんけど、その試合に向かう花道での表情に葛藤がモロに出てるんですよ！　観客は凄く盛り上がってるんですけど、ホントの居場所はここじゃないんだよって顔をしてる。だから、悲しいんですよね（しみじみと）。

——その2年後の髙田延彦vsヒクソン・グレイシーの入場も悲壮感がありましたね。

有田　凄かったですよね！　ホントに髙田がヒクソンと試合をやりたかったのはわかります。ただ、ホントにそのとき勝てると思って花道を歩いてましたか？　充分な対策をして試合に臨んでますか？　といったら絶対違うはずなんです。プロレスを背負ってるから不安な顔を出しちゃいけない。その葛藤があの入場では出てる。二回目のヒクソン戦もそうでしたよ。

——コンディションも良くなかったみたいですからね。

有田　PRIDEで試合をしてた頃は、常に満身創痍でしたよね。髙田延彦という名前では観客を呼べるわけですし、みんな今度は勝つかもしれないと期待してる。勝つところを観たいんですよ。でも、髙田選手は常に意気揚々とは歩いていないんですよ。「ちょっとダメかもなぁ」って思って歩いてる。人間らしいじゃないですか！　そういうところが大好きなんですよ！

——それがモノマネにつながってるんです

『ハッスル』で「有田」コールが上がったときはお笑いでウケたときよりも感動しました

ね（笑）。でも、今回はエスペランサーですから、そういう感情は一切ない無表情でしたよね。

有田　試合もひたすらエスペランサーが攻めてる。あれだけ一方的な展開だと、「これは何かあるな？」と思いますよ。でも、エスペランサーは最強だから坂田が勝つわけないという目線で僕は観てました。そしたら小池（栄子）が出てきて、とうとう試合に絡んじゃいましたね。

——エスペランサーのレーザービターンを打ち返してしまいました（笑）。

有田　あそこで「いまこそハッスルするのよ！」と小池が叫んで力尽きたときには、僕も一気に「坂田、頑張れ～！」ってなりましたからね。なんでしょうね、あの童心に戻る感じは……。トラースキックでフォール勝ちしたときはホントに『うわー！』って思ったし。しかもそのあと、倒れた小池を心配して駆け寄ったところに『冬のソナタ』のテーマ曲ですよ。あれもね、「バカだな」という笑いもあるけど、振り切れすぎてるから感動しますよね。

——あの曲が流れたとき、観客は一瞬どっと笑ったんですけど、そのあとに視線がサーッとステージに集中しましたよね。

有田　見入ってましたね。なおかつ、坂田選手と小池は夫婦だという事実も乗っかる。「これからは妖精じゃなくて一人の女として俺を支えてくれ」という坂田選手の言葉はかっこいいなって思いましたね。締めも「いままで天下獲るとか言ってきたけど、ホントはみんなのおかげなんだ」っていう泣かせる言葉ね。プロ野球の選手も毎回ヒーローインタビューであれくらいのこと言えないのかな、と（笑）。「はい、一生懸命やりました。明日もまた頑張ります」とか淡々と言うだけじゃなくて、もっと感情が入れば全然違うのになぁと思いますよ。

——坂田選手の印象は変わりました？

有田　そもそもリングス時代には、控室で前田日明さんに蹴られた人ですよ。僕は個人的にお付き合いさせてもらってますけど、ホントに努力家で男気溢れる人なんです。『ハッスル・マニア』が終わったあとにもすぐ電話してきて『どうでした、今日？』って聞いてくるんですから。

——評価が気になるんですね。

有田　でも、今回は坂田選手もだいぶ不安だったみたいですね。

——観客の立場から観たらバッチリだなと思いますけど、意外と試合をする張本人は周囲の反応がわからないときってありますからね。

有田　お笑いの人とかも凄いウケたんだけど、何がウケたのか本人だけがわかってないということもありますからね。僕が『ハッスル』に出たときも、僕の中にはTPGのトラウマがあったから「俺は絶対に受け入れられないだろう」って思ってましたから。「有田」コールが上がったときは、どんなにお笑いでウケたときよりも感動しましたよ。受け入れられたんだ！　って。

——そんなテンションだったんですね。

有田　あれは夢のような時間でしたね。たまに落ち込んだらあのビデオ観ますもん。楽しかったなぁ……（遠い目で）。じつは『ハッスル・エイド』のときは有田総統と髙田総統のやりとりをするはずだったんです。でも、エスペランサーが出ることになったから、有田総統の出番がオープニングになったんです。「残念だな」って思ってたんですけど、今回の『マニア』のメイン後に髙田総統がすぐに出てきたのを観て「ひょっとしたら絡みは可能だったんじゃないの？」って（笑）。まあ、ハッスルも成長したということですね。

——ハハハ！　そうですね。大晦日という大きな舞台もありますけど、これは『ハッスル』にとってはステップアップの大きなチャンスでしょうね。

有田　大晦日に関しては『紅白歌合戦』や『Dynamite!!』の裏でやるということだけで大きな実績になりますから。あとは、なんとなく『ハッスル』を観てしまった人たちにアピールできる内容であってほしいと思います。

——プロデューサーの視点ですね（笑）。

有田　そりゃそうですよ！　プロレスが大晦日に地上波で放送されるのは初めてのことじゃないですか。ここは大きなチャンスだと思うし、業界をあげて応援したほうがいいと思うんです。プロレス冬の時代に大晦日の地上波放送をやるってことに100点満点をあげてますけどね。

——地上波放送の秘密兵器として有田総統再びっていうのはあるんでしょうか？

有田　僕も『ハッスル』のファンですし、まったく無関係ではないんで。「僕なんかでよかったら協力させてください」っていう気持ちですけどね。

——それがいつになるのかはわからないと？

有田　まあ、それをばっかりはいろんな事情をクリアしないといけないんで（笑）。でも、僕は気持ちだけはレギュラー参戦してますから。『ハッスル・マニア』を観たあと、坂田選手に「ケンコバと髙田vs越中を敢行したい！」って言いましたからね（キッパリ）。

——うおぉ！　それは凄く観たいですね！『ハッスル』本編には、今後どういった展開を期待しますか？

有田　僕みたいなプロレスマニアは黙ってても観るんです。そうじゃなくて、世間一般の「ハッスル？　はぁ？」って言ってる人を振り向かせてほしい。いま、それができるのは『ハッスル』だけだと思うんです。こないだの『ハッスル・マニア』みたいなことをやれば絶対に大丈夫ですよ。あれを観た人は絶対にまた観たいと思いますから。

——わかりました。本日はありがとうございました！

【07年12月7日／東京・目黒、ホテル プリンセス・ガーデンにて収録】

ありた・てっぺい■1971年2月13日、熊本県出身。くりぃむしちゅーとして相方・上田晋也とともに大活躍中のお笑い芸人。芸能界でも一、二を争うプロレスマニアとして知られており、髙田延彦や髙田総統のモノマネは他の追随を許さない完成度を誇る。

有田哲平が語る

kamipro SHOPPING

kamiproセレブの クリスマスプレゼントはこれで決まり!

うわ～ん、うわ～ん、今年も〝シングル〟だよ～ん!

聖夜はあのコにゴー・フォー・ブロック!!

マッスル スターウォーズ Tシャツ[☆]
[S・M・L・XL イエロー] ¥3,150(税込)

©mmsaito Co. Ltd. 2007 All Rights Reserved.

マサ斎藤Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック] ¥3,150(税込)

HUSTLE LOGO Tシャツ(ラメ)
[XS・S・M・L・XL ブラック] ¥3,990(税込)

T.J.シンTシャツ
[XS・S・M・L・XL ブラック] ¥4,200(税込)

LOVE&HUSTLE Tシャツ
[LADY's M,M,L,XL ブラック、ベージュ] ¥5,250(税込)

I編集長 "殺し" Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブルー] ¥3,990(税込)

KamiproマスクTシャツ[☆]
[S・M・L・XL ホワイト×レッド] ¥3,990(税込)

髙田総統MONSTER Tシャツ
[XS・S・M・L・XL ホワイト] ¥4,200(税込)

ニューリン様 "BERO" Tシャツ[☆]
[LADY'S M・M・L・XL ブラック] ¥3,990(税込)

ニューリン様 "SIGN" Tシャツ[☆]
[M・M・L・XL ブラック] ¥3,990(税込)

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

★全国どこでも送料一律500円です。(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合わせください)

★代引き手数料は315円です。(代引き金額によって異なります)

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00～19:00
(株)ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承ください)。
販売元/(株)ダブルクロス

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]

☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです

(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

身丈 袖丈 身巾

ケータイサイトはもちろん24時間受付OK!

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索!!

au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

SoftBank メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[QRコード]

※価格はすべて税込みです

言うちゃ悪いけど、
貴重すぎますよ!!

活字プロレスの哲人・井上義啓一周忌追善企画

麗しのI編集長写真館

290-42065

「オレらの子どもの頃はそんなもん
耳を噛むなんて
あたりまえだったんだから」

これまでベールに包まれていたＩ編集長のプライベート写真。どれをとっても、じつに極上のクオリティである。読売巨人軍のカレンダーとともに写った一枚は、「Ｇファンだったから（ナイショで）」という説明つきでご親族からご提供いただいた。

▲Ｉ編集長　▲母

「いろんな芸術家が集まるところだから
モンマルトルがどんなところか
一度、見てみたかった――」

「死ぬまでに一度だけフランスに行きたい」という希望をかなえ、7泊の旅に出たＩ編集長。当時はまだ週イチの『kamipro Hand』コラムをお願いしていたが、連載に穴を開けることなく、誰も気づかれずにフランスの地を巡っていたというからプロである！

身分證明書

現住所

氏名　井上力（義啓）

昭和九年七月二日生

右の者本社の社員たることを証明す

昭和　年　月　日

大阪市西区南堀江通一ノ三

注意

1. 記載事項に変更ありたると速に訂正を受くること。
2. 他人に貸与せざること。
3. 亡失したるときは理由書添付のうえ再交付を受くること。
4. 退職その他不要となりたるときは必ず返納すること。

0532923426

写真はＩ編集長の新大阪新聞社時代の社員証。「氏名」の欄に「井上力（義啓）」と書かれてあることからもわかるように、本名と思われていた「井上義啓」はじつはペンネームだった！　その事実に負けず劣らず、若かりしＩ編集長の証明写真も見応え充分である。

「朝から晩まで仕事しとったからね
だいたい帰るのが夜の9時か10時でね
休めたのは大晦日と元旦の二日だけ」

芸能人も多数訪れるという、このオシャレな美容室でなんとＩ編集長が散髪していた！　……というのは真っ赤なウソだが、大のＩ編集長ファンである美容師さんがゲットした貴重なサイン色紙が、この美容室の控室に袋に入れたまま飾られてあった。

「オレはあんまりいろいろ質問せんかった。じっと猪木の話を聞いとったんだよ」という言葉はＩ編集長のインタビューでたびたび聞かれたが、その静かな情熱が伝わってくるのがこの一枚。Ｉ編集長にとって、猪木は生涯をかけて追い続けたこの上ないヒーローだった。

ハッキリ言って、アンタ〝井上プロレス〟はまだまだ健在ですよ!!

『週刊ファイト』編集長退任後、なお魅力を増し続けたＩ編集長。「言うちゃ悪いけど！」節でお届けする多くの提言は、予見していたかのように次々と的中していった。

「オレが作ったプロレスとか、
オレのあとを受けた人が書くものとか、
じゃべるものとかいうものは残るからね」

大晦日へ一致団結！ 読プレも大連立!!

“夢の続き”はすぐそこ!! 大晦日まで待てんのか？

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定致します。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますので、ご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（商品は1月21日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦2008年に観たい試合は？（その理由）⑧参加したいレスラー&格闘家のイベントは？

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「8時だヨ！ 全員集合！」係まで

※締切は1月20日（日）当日消印有効

kamipro 118 応募券 うそだよ〜ん！

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

K-1

J.Z.カルバン “家族愛55” Tシャツ

1名様

ブラック／¥5,040（税込）

『HERO'S』王者もやれんのか！ 格闘大連立により大晦日はさいたまで青木真也と激突することが決定したJ.Z.カルバン。傑作“家族愛”Tシャツを再び1名様に提供！

“Tetsuo Hara×K-1” ポスター

1名様

¥5,040（税込）

「YOUはSHOCK!」と『北斗の拳』のテーマが聴こえてくる！ 漫画家・原哲夫先生が描いた“K-1 WORLD GP 2007 FINAL”のポスターをどうぞ。

ニンテンドーDS用ゲームソフト『K-1 WORLD GP 絶対王者育成計画』

2名様

¥5,040（税込）

ワールドGPが終わってもK-1は熱い！ 実名ファイターも20名以上登場。育成&格闘モードに加えワイヤレス通信での対戦プレイ機能も搭載したK-1ゲームの最高峰！

D3 PUBLISHER ■ http://www.d3p.co.jp

FEG ■ http://www.k-1.co.jp/

KOUBUDO

NTT Tシャツ

各2名様

ブラック／ホワイト／¥4,000（税込）

『やれんのか！』出陣決定の我らが青木真也！ 格闘技ショップ公武堂から青木も参加のグラップラー集団“NTT”（ニッポントップチーム）のTシャツが白黒2色で飛来！

公武堂 ■ http://www.koubudo.co.jp/

HUSTLE

髙田総統サイン入り『ハッスル・マニア2007』大会パンフレット

1名様 サイン入り

横浜アリーナが愛と感動の涙に包まれた『ハッスル・マニア2007』の大会パンフを、なんとハッスルの偉大なる支配者・髙田総統の貴重すぎる直筆サイン入りで1名様に！

ハッスルトートバッグ

ブラック／¥2,100（税込）

いつ何時もドゥ・ザ・ハッスル！ 黒地のシンプルなデザインにキラキラと光り輝くハッスルのロゴがプリントされた一品。ちょっとした外出にも便利なハッスルトートバッグ。

各1名様

ハッスル キラキラTシャツ

ブラック／¥3,990（税込）

『ハッスル・マニア』も大成功のうちに幕を閉じ、いよいよ『大みそかハッスル祭り』へまっしぐら！ キラキラ輝く新年の到来を祈って、新作のキラキラTシャツをプレゼント！

ザ・エスペランサーTシャツ

ブラック／¥3,990（税込）

昨年はセットを破壊！ 今年はテレビカメラマンを撃ち殺した（?）驚異のレーザービターンをフィーチャー！ アメコミタッチでインパクト充分のザ・エスペランサーTシャツを1名様に！

ハッスル ■ http://www.hustlehustle.com/

REVERSAL

TOKORO Tシャツ8

ホワイト×ブラック／¥5,040(税込)

3月の『HERO'S』名古屋大会で即日完売した伝説の所Tシャツが読プレに登場！ もはやreveresal shopでも販売していない幻の一品。これがラストチャンスだ！

各1名様

TOKORO Tシャツ9

ホワイト／¥5,040(税込)

メインに出場した所英男がキッチリ一本勝ちで『Dynamite!!』出場をアピールした11.23『ZST.15』。会場で販売されたTOKOROモデルの新作Tシャツをどうぞ！

reversal■http://www.rvddw.com/

UFC

UFC78 大会パンフレット

郷野は一本勝ちを収めるも、長南は判定負けを喫するなど日本人の明暗が分かれた『UFC 78』の大会パンフ。ヴァンダレイ・シウバとチャック・リデルの特集も必見！

各1名様

『ULTIMATE ULTIMATE KNOCKOUTS』

(輸入版)

UFCでも鳥肌立った！ チャック・リデル、アンデウソン・シウバらUFCを代表するスター選手たちによる究極のKOシーンのみを収録した、まさしくアルティメットな一本。

UFC■http://www.ufc.com/

ART JUNKIE

NU-WF Tシャツ

ホワイト×ブラック／¥3,990(税込)

本誌読プレでおなじみの格闘ブランドART JUNKIEと福岡天神の格闘ショップGROUNDCOBRAのコラボTシャツが登場！ 新日本とUWFイズムを融合させた驚異の一枚！

各1名様

J-METAL ラグランロンT

ホワイト×グリーン／¥5,040(税込)

ART JUNKIEは「つかんで極める」キャッチレスリングを全面バックアップ！ オリジナルキャラクター「J-METAL」のイラスト入りラグランロンTを人気のグリーンでご提供。

ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/

PANCRASE

佐藤光留 "龍虎の変" Tシャツ

ホワイト×イエロー／¥3,675(税込)

12.22有明大会では念願のジョシュ・バーネット戦に挑む佐藤光留。新作Tシャツは本人のアキバ系キャラとは正反対(?)の豪快な"龍虎"をモチーフにした一枚。

各1名様

D.J.taiki Tシャツ

ブラック／¥3,675(税込)

デフォルメされたD.J.taikiが拳を振り下ろす新新な新作Tシャツ。デザインを手がけたのは読プレでもおなじみ"Tシャツ界の悪童"ハードコアチョコレートだ！

PANCRASE■http://www.pancrase.co.jp/

DVD

各1名様

『鈴木秀明 キックボクシングアドバンス3 vsムエタイ編』
115分／¥5,880(税込)

『初見良昭 口伝 その十』
65分／¥5,040(税込)

『JWP激闘史 vol.2 ～PURE HEART PURE WRESTLIMG～』
236分／¥5,880(税込)

『山口剛史 剛柔流空手道 伝統技法(二)』
100分／¥5,880(税込)

QUEST■http://www.queststation.com/

BOOK

1名様

『七勝八敗で生きよ』

天龍源一郎(著)(東邦出版刊)／¥1,500(税込)

『ハッスル』でも大活躍の"ミスタープロレス"天龍源一郎が、ドラマチックな半生を振り返り、勝ち負けを超えた人生の味を語る。現代日本人への応援メッセージを込めた一冊！

東邦出版■http://www.toho-pub.com/

ALL JAPAN

3名様

全日本プロレス 2008年 カレンダー

¥2,100(税込)

西村修の電撃加入やバラエティに富んだメンバーの『世界最強タッグ』など今年も話題を振りまいた全日本プロレスの2008年カレンダーが到着！ 表紙はド迫力の武藤でキメ！

全日本プロレス■http://www.all-japan.co.jp/

kamipro 紙のプロレス

No.118

2008年1月3日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
八木賢太郎(正しい家族計画のため非番)

意味不明な行動
上杉公文書偽造

見習い続行!
すがさわくん

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登くん

編集次長(もう走れません)
松林 貴

デザイン大将
出田さん(TwoThree)

デザイン司令長官
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき(以上、TwoThree)

トメさん
はなえちゃん(以上、さおとめの事務所)

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

要注意季節到来
入江ヘパリーゼ(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本"最近は良好!?"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

編集チアマダム
廣橋久美子

広告営業
株式会社ビューポイント
(広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで)

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
(受付時間/土日祝祭日を除く 12:00~17:00)
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL:http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

時代を白く塗りかえろ!!
ダナからピュアへ!?

NEXT ISSUE

大晦日決戦徹底詳報やりますよ!!
kamipro Special 2008 SPRINGは
2008年1月11日(金)発売予定!!

ジジイとババアは引っ込んでろ!!
"真"のプロレス大賞を決定するNo.118は
2008年1月22日(火)発売予定!!

※ 地域によっては多少発売日が遅れます。